本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使い頂けるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
⊘	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 本書では、標準装備またはメーカーオプションのナビゲーションシステムを装着した車両のことを「メーカーオプションナビゲーションシステム装着車」と示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、別冊の取扱説明書をお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

取扱い方法をパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。右のQRコードを読み取るか、下のURLを直接入力すると電子取扱説明書、簡単早わかり動画が閲覧できます。

電子取扱説明書　簡単早わかり動画

https://www.nissan.co.jp/OPTIONAL-PARTS/NAVIOM/index_x-trail.html

目次

■ 外観フロント **.2**
■ 運転席まわり **.5**
■ 警告灯一覧 **.8**
■ 外観リヤ **.3**
■ インストルメントパネル **.6**
■ 表示灯一覧 **.9**
■ 車室内 **.4**
■ メーター **.7**

イラスト目次 P.2

■ 運転する前に **.12**
■ お子さまの安全のために **.37**
■ シートベルト **.19**
■ 盗難防止機能 **.51**
■ エアバッグ **.24**

安全なドライブのために P.11

■ 計器類 **.54**
■ メーターの明るさの調節 **.91**
■ 警告灯･表示灯 **.61**
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ **.65**

メーターの見かた P.53

■ キー **.94**
■ ハンドルの調節 **.158**
■ 燃料補給口の開閉 **.184**
■ ドアの施錠と解錠 **.103**
■ ミラーの調節 **.159**
■ エアコンの操作 **.187**
■ シートの調節 **.136**
■ 窓ガラスの開閉 **.175**
■ オーディオ **.200**

各部の操作 P.93

■ 始動する **.205**
■ 運転支援機能 **.256**
■ 運転する **.216**
■ カメラシステム **.407**
■ ランプをつける、ワイパーを使う **.238**

運転のしかた P.203

■ 室内灯 **.434**
■ 収納装備 **.440**
■ その他の室内装備 **.448**

室内装備 P.433

■ まずはじめに **.462**
■ 緊急時の対処方法 **.469**

トラブルがおきたときは P.461

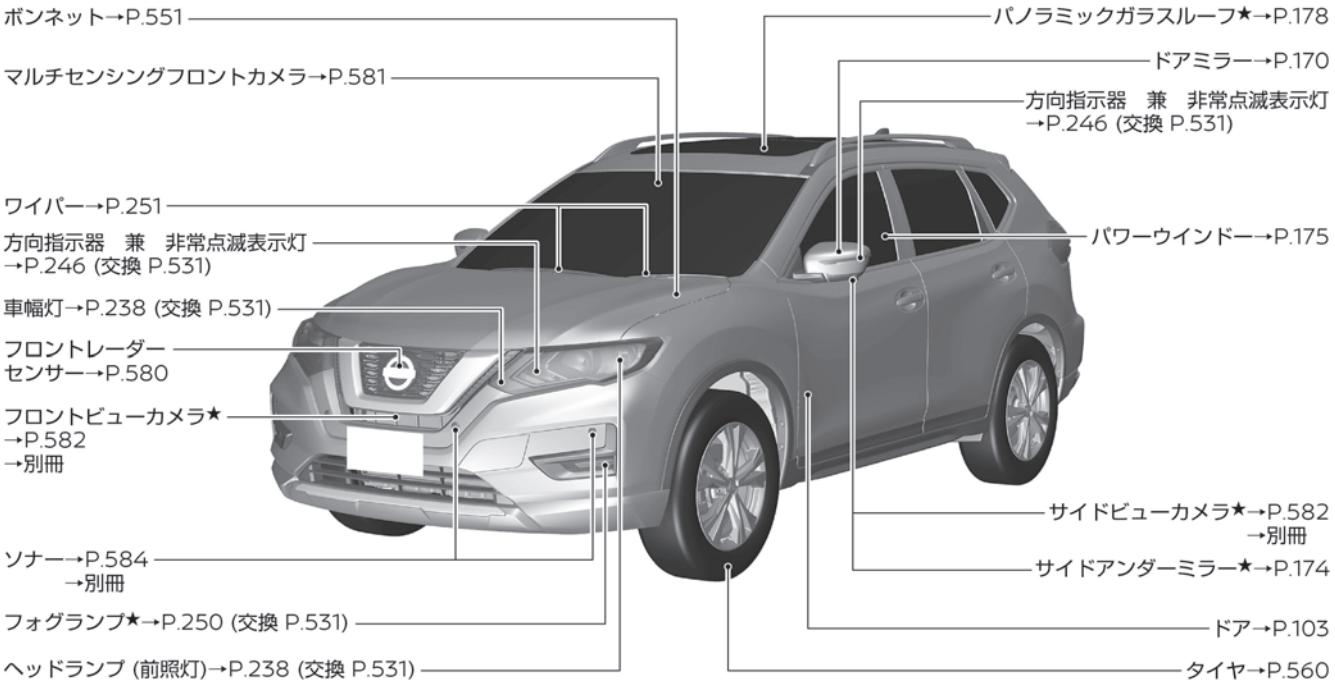
■ メンテナンスの前に **.548**
■ 清掃･お手入れ **.574**
■ 工具･ジャッキ･スペアタイヤ **.549**
■ サービスデータ **.589**
■ 点検と整備 **.550**

メンテナンス P.547

索引 P.597

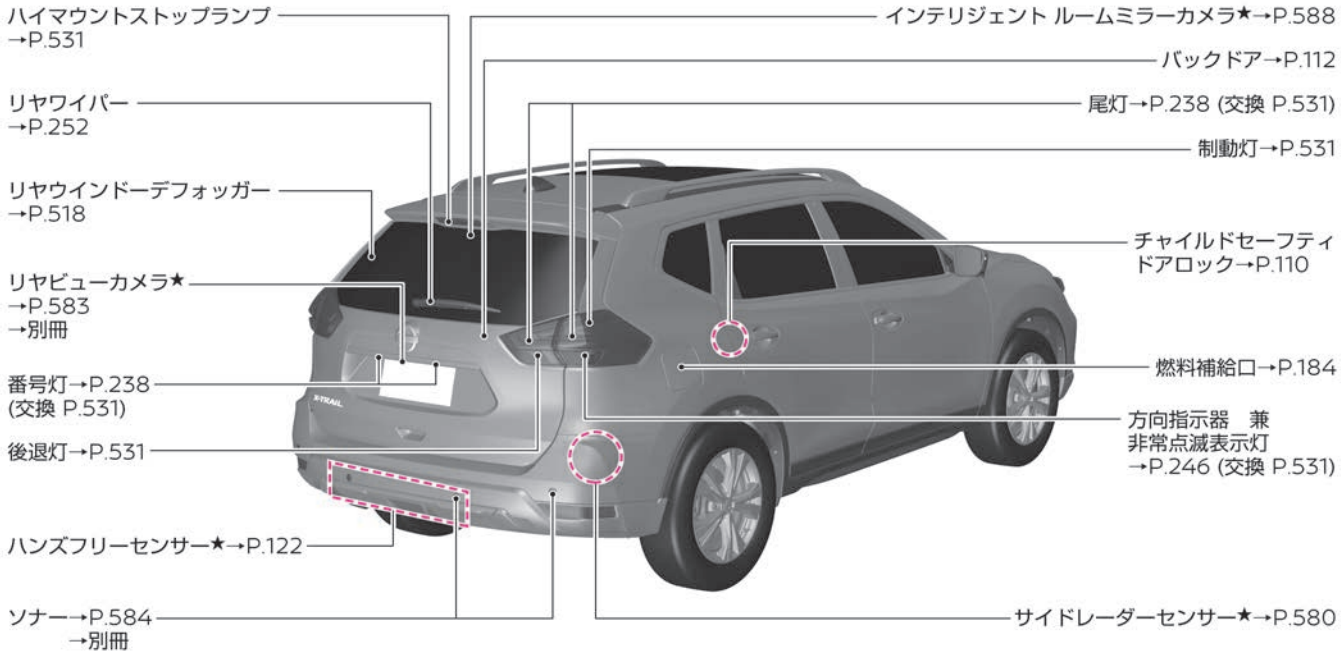
外観フロント

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



外観リヤ

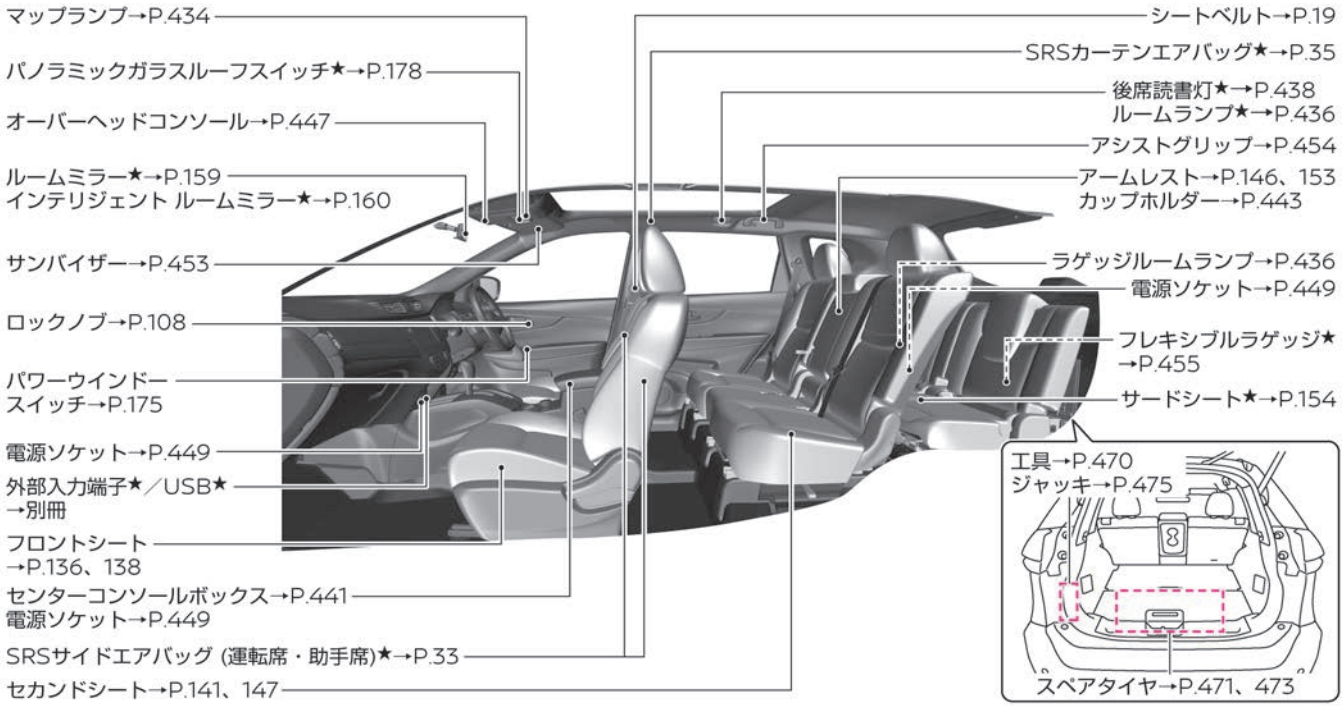
別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

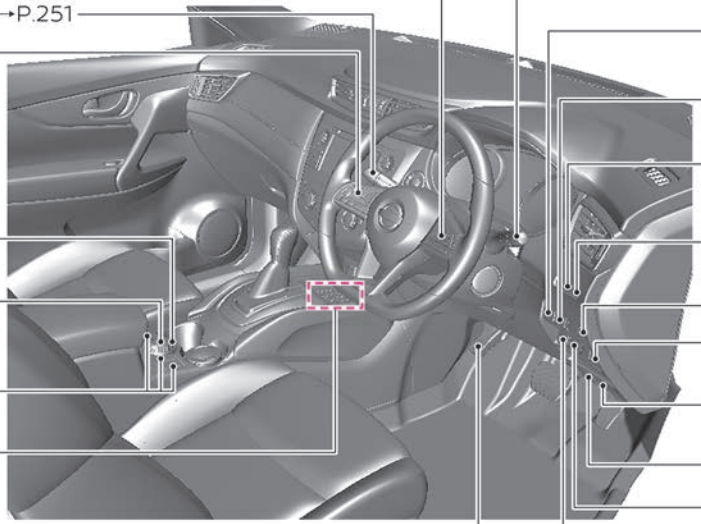
車室内

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



運転席まわり

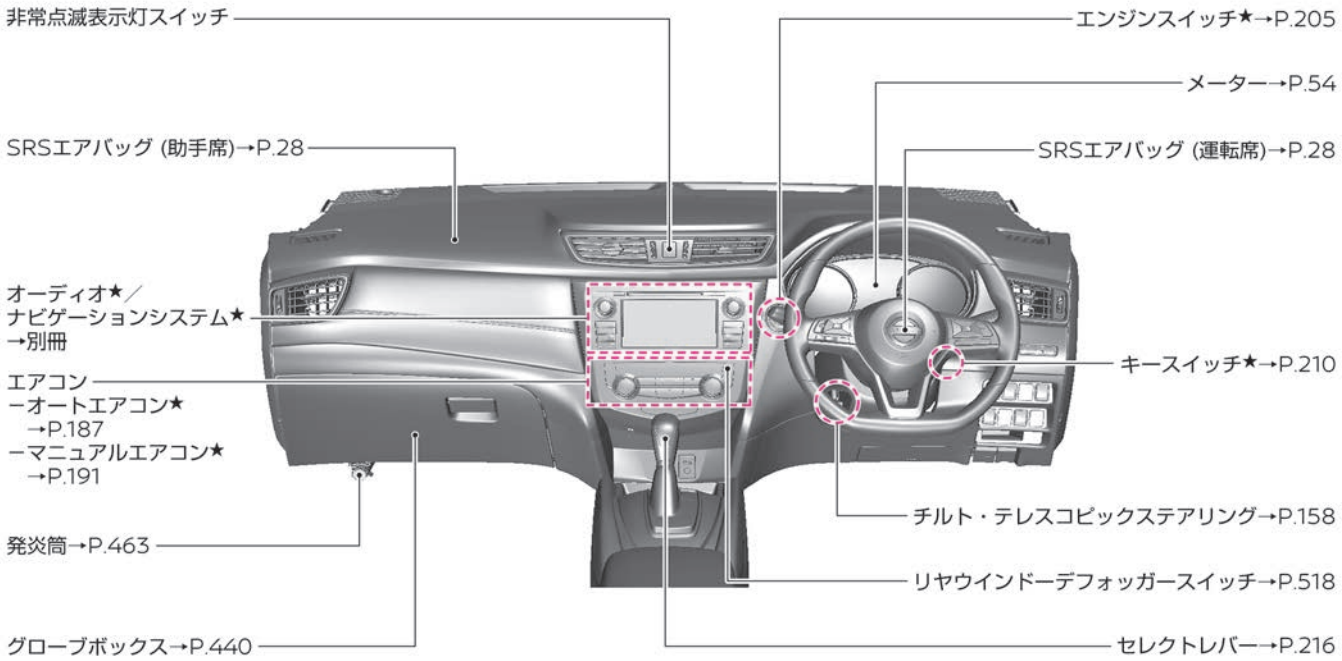
別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



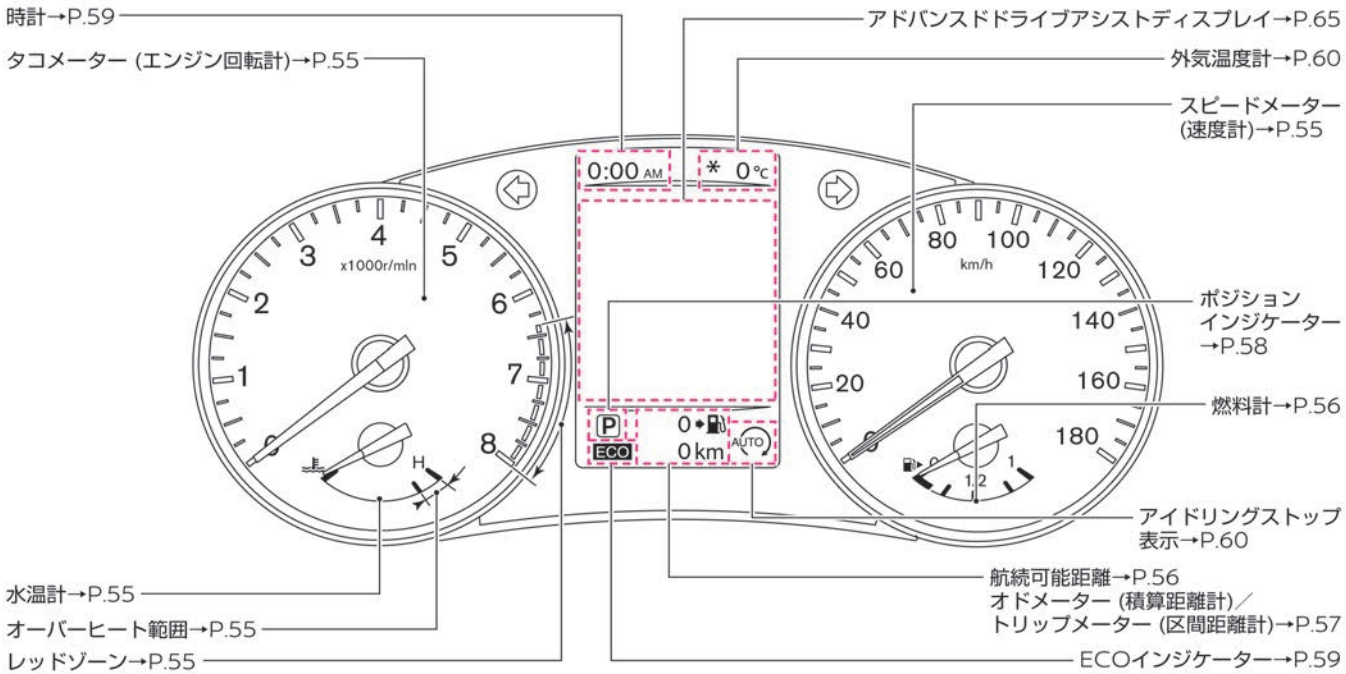
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル

別冊：ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

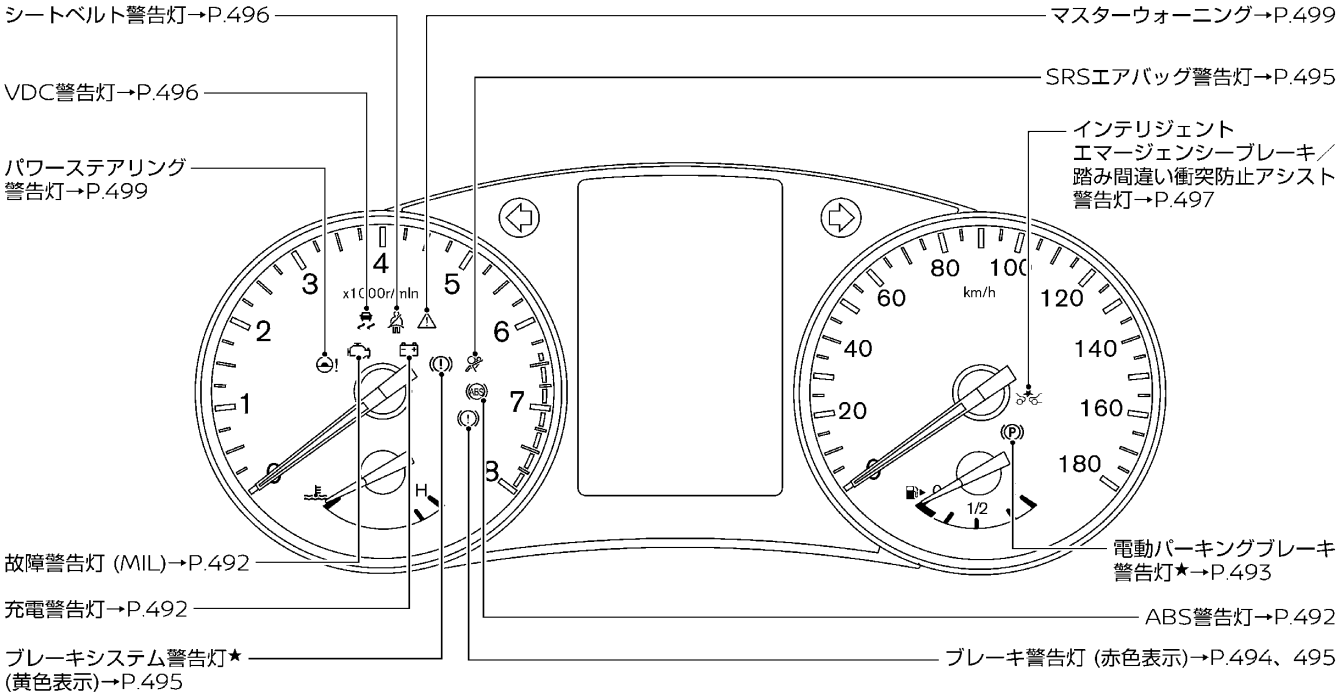


メーター

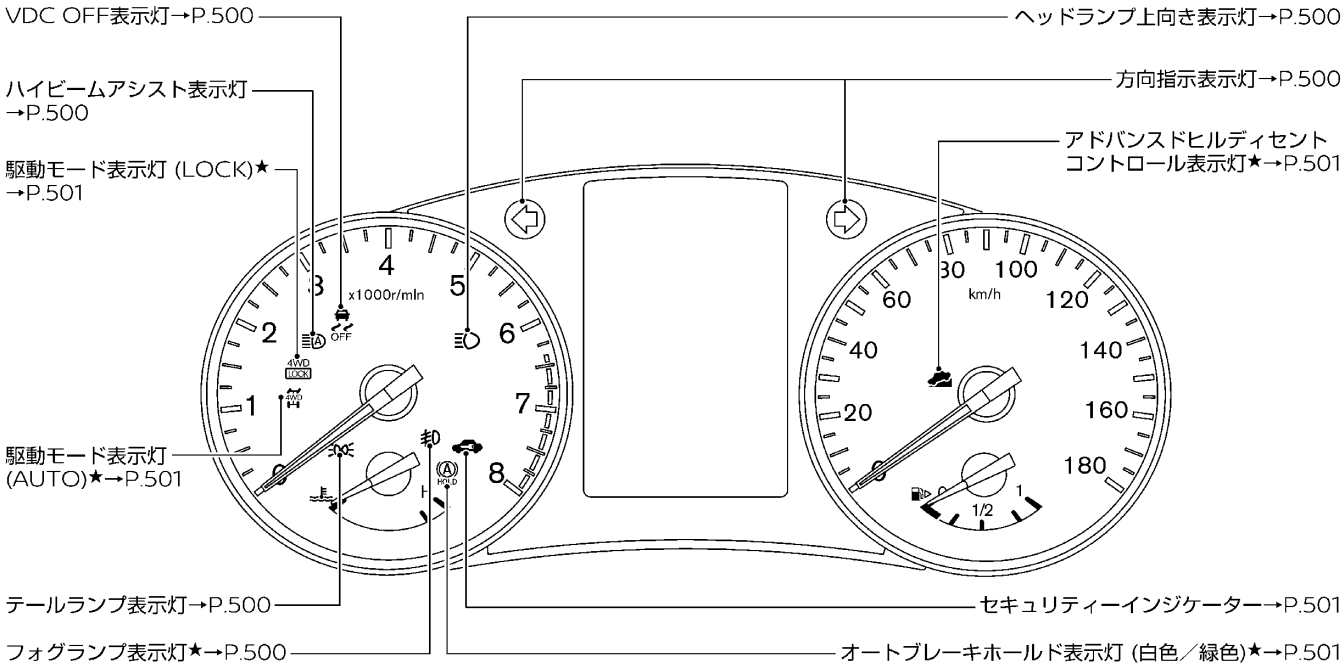


☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯一覧


シートベルト警告灯→P.496
VDC警告灯→P.496
パワーステアリング
警告灯→P.499
故障警告灯 (MIL)→P.492
充電警告灯→P.492
ブレーキシステム警告灯★
(黄色表示)→P.495
マスターウォーニング→P.499
SRSエアバッグ警告灯→P.495
インテリジェント
エマージェンシーブレーキ／
踏み間違い衝突防止アシスト
警告灯→P.497
電動パーキングブレーキ
警告灯★→P.493
ABS警告灯→P.492
ブレーキ警告灯 (赤色表示)→P.494、495
x1000r/min
km/h
1/2

表示灯一覧



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

運転する前に

運転前の準備 P.12
運転するときに注意すること P.14
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.18

シートベルト

3点式シートベルト P.19

エアバッグ

SRSエアバッグ P.24
SRSエアバッグ（運転席･助手席） P.28
SRSサイドエアバッグ（運転席･助手席）★ P.33
SRSカーテンエアバッグ★ P.35

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.37
チャイルドシート P.40

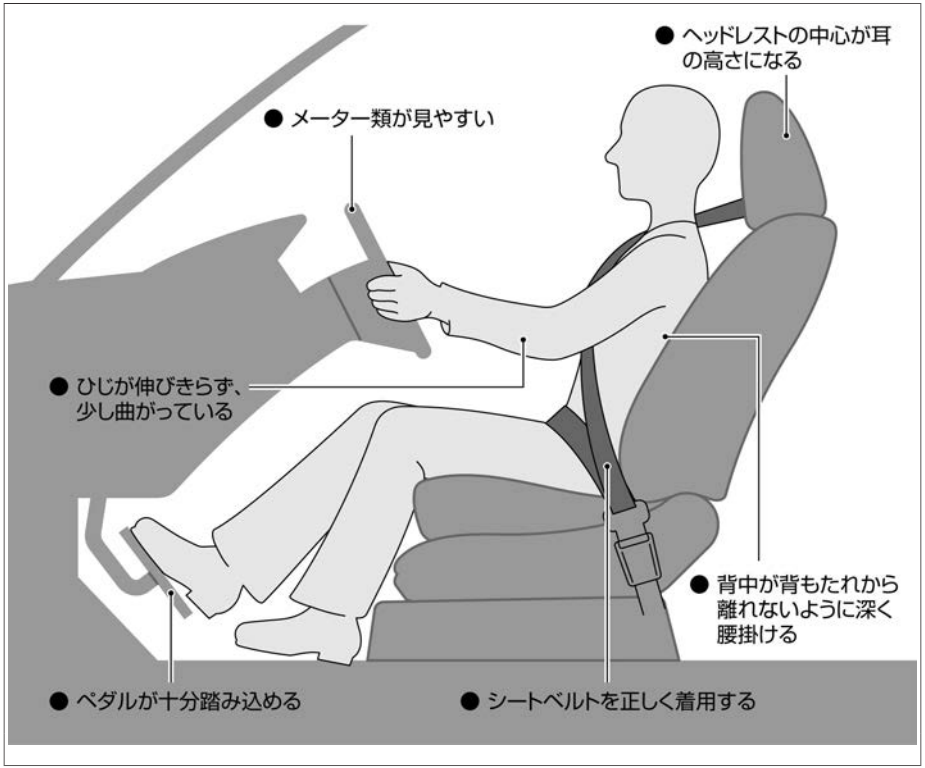
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.51

運転前の準備

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（➔P.158）、シート（➔P.138）、ミラー（➔P.159）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
  シートベルト (P.19)
- 小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
  チャイルドシート (P.40)

ミラーの調節

- シートおよびハンドルの調節が完了したら、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ドアミラーおよびルームミラー★を調節してください。
  ドアミラー (P.170)
  ルームミラー★ (P.159)

インテリジェント ルームミラー付車

インテリジェント ルームミラー付車は、インテリジェント ルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で確実に後方確認ができる位置に調節してください。

インテリジェント ルームミラー★ (P.160)

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **以下の状況では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
  - 雪が積もった場所に駐停車するとき
  - 降雪時に駐停車するとき
  - 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
  - 仮眠や長時間の駐車をするとき
  - 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
  - 他車の排気口が近くにあるとき
- **走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。**
  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。**
  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

⚠ 警告

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。バッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**
  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしない。**
  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。
- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**
  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。**
  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。
- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**
  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしない

- **無用な空ぶかしや、エンジンをかけたまま仮眠をしない。**

次ページに続く

⚠ 警告

万一、セレクトレバーがP以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

アクセサリーをウインドーに取り付けない

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**
  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**
  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- バッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域･電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

性能を十分に引き出すため、ならし運転を行う

- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。
  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。

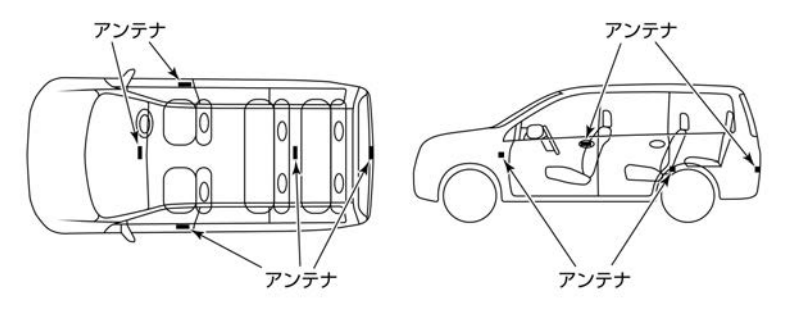
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

インテリジェントキーについて

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。(イラストは3列車です。)



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

3点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。
走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

- 身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

- 正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。
- 衝撃の強さなどによっては、SRSエアバッグ（運転席･助手席）と同時に作動する場合と、プリテンショナーのみ作動する場合があります。
  ➔ SRSエアバッグ (P.24)
- 運転席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使用してプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**
  誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- **メーター内のSRSエアバッグ警告灯 が点灯しているときは走行しない。**
  キースイッチ（電源ポジション）をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

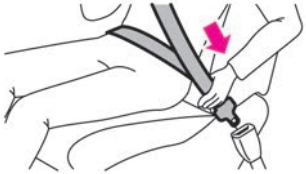
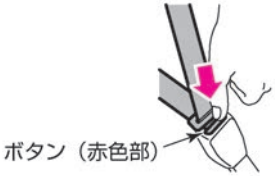
- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

次ページに続く

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの着用のしかた

1	正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
3	肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（フロントシートのみ） ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	
4	外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。	

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **セカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

次ページに続く

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  – 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  – 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  – ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  – 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  – 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  – クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**
  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認

⚠ 警告

してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.40)
- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**
  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

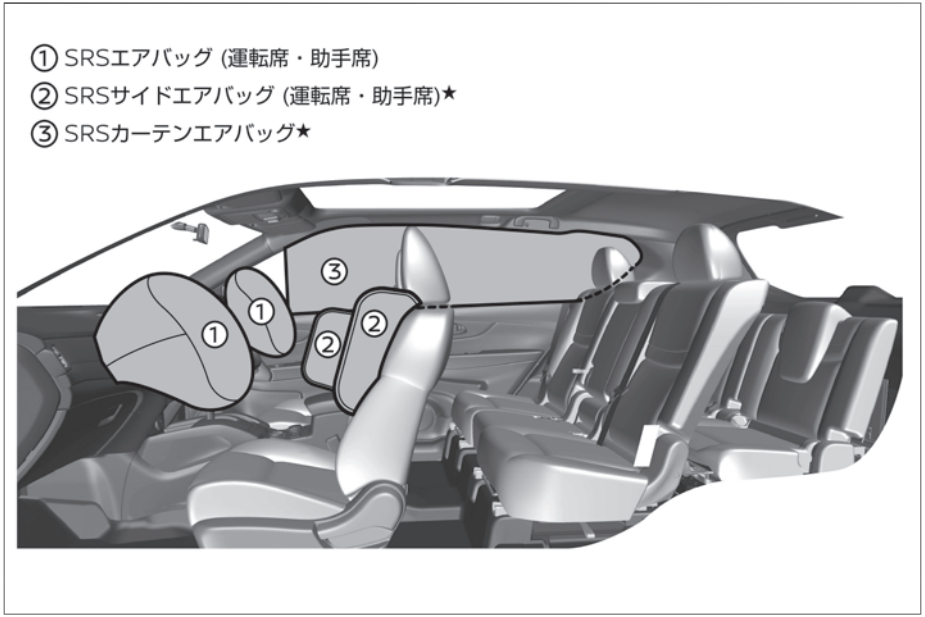
⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**
  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮しないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに膨らみ、乗員への衝撃を緩和します。
シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類



※イラストは7人乗り車です。

アドバイス

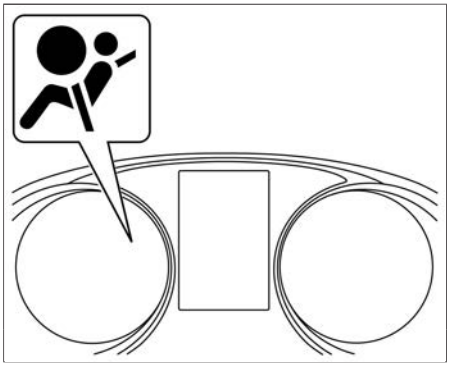
- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、キースイッチ（電源ポジション）がONのときに作動可能です。
キースイッチ（電源ポジション）をONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - キースイッチ（電源ポジション）をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき
  - SRSエアバッグ警告灯が点滅し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

知識

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグ★およびSRSカーテンエアバッグ★は、乗員がいなくても作動します。

次ページに続く

SRSエアバッグの注意事項

警告

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**
  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
  ➔ チャイルドシート (P.40)

- **必ず次のことを守る。**
  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  – SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエア

⚠ 警告

バッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
運転席･助手席SRSエアバッグの格納場所は（➔P.28）をお読みください。
運転席･助手席SRSサイドエアバッグ★の格納場所は（➔P.33）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグ★の格納場所は（➔P.35）をお読みください。

– SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
– 電気テスターを使用してSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
– エアロパーツなどを取り付けたり、サスペンションを改造したりするときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

● **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグにさわらない。**
高温になるため、やけどをするおそれがあります。

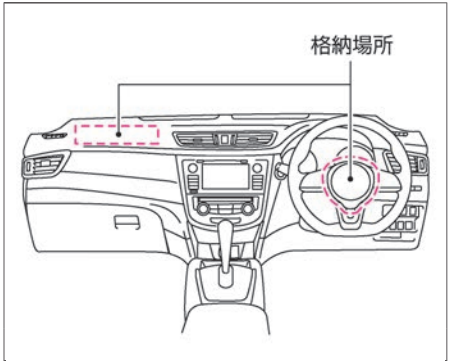
● **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRSエアバッグ（運転席・助手席）

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。



SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

アドバイス

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

エアバッグ展開連動ハザードランプ

- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

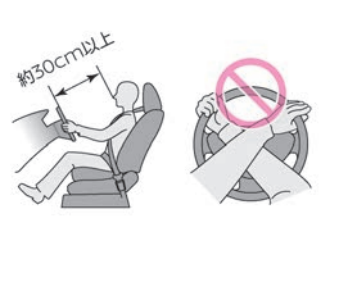
- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

次ページに続く

SRSエアバッグ（運転席・助手席）の注意事項

⚠ 警告

- **運転席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**
  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼らない。**
  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

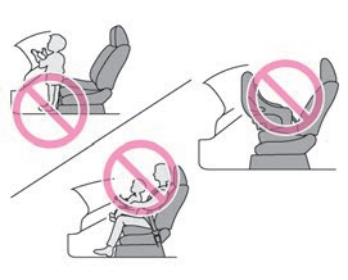
警告

- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **助手席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**
  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。
- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

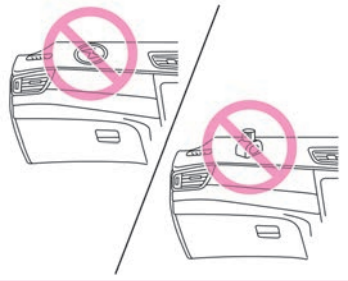
次ページに続く

⚠ 警告

固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。また、アクセサリーや芳香剤などを置かない。**
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRSサイドエアバッグ（運転席・助手席）★

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**
  ドアにもたれるなど、フロントシートの背もたれの側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、フロントシートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **フロントシートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、フロントシート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**
  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。

次ページに続く

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

知識

エアバッグ展開連動ハザードランプ

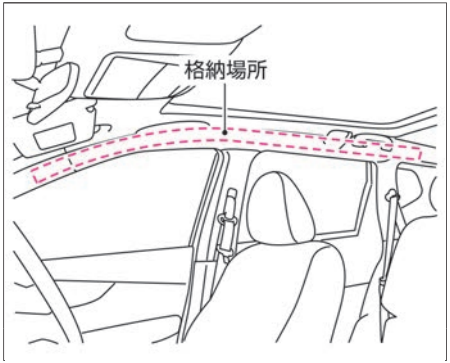
- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

SRSカーテンエアバッグ★

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。



⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**
  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

次ページに続く

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

知識

エアバッグ展開連動ハザードランプ

- エアバッグが作動したときは、自動で非常点滅表示灯が点滅します。

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ➔ シートベルトの着用のしかた (P.21)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
  ➔ チャイルドシート (P.40)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**
  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

次ページに続く

⚠ 警告

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**
  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**
  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。
  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**
  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.110）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.175）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

窓やパノラミックガラスルーフ★から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**
  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**
  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

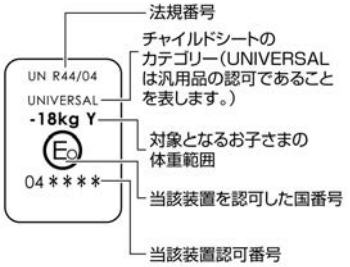
お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

知識

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。



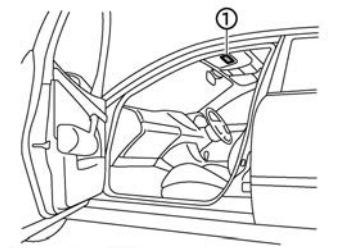
チャイルドシートの種類

UN R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により次のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kgまで
グループⅡ	15～25kgまで
グループⅢ	22～36kgまで

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。 やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

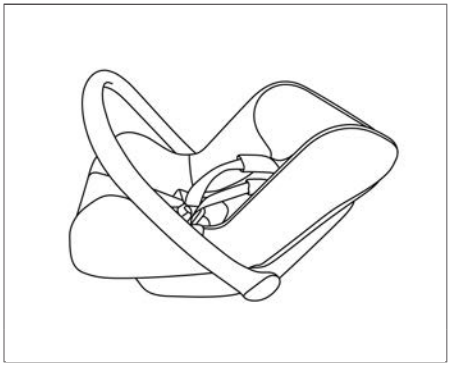


①エアバッグ警告ラベル

次ページに続く

乳児用チャイルドシート

UN R44 基準のグループ0、0^{+}に相当します。

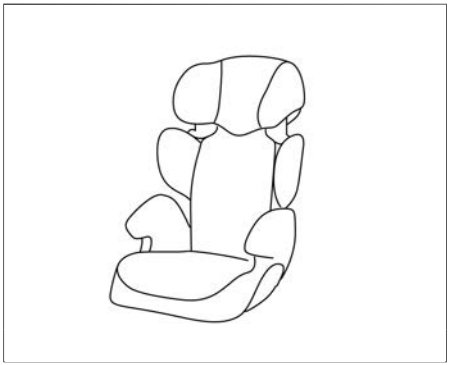


チャイルドシート

UN R44 基準のグループ0^{+}、Ⅰに相当します。

ジュニアチャイルドシート

UN R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。



チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。ISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けできます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

➔ 使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート (P.44)

■ ISO FIX対応チャイルドシート

セカンドシートに付属しているISO FIX対応チャイルドシート用アンカー（固定装置）で固定します。

➔ ISO FIX対応チャイルドシートについて (P.47)

次ページに続く

使用できるシートベルト固定タイプのチャイルドシート

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
選択の目安から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	チャイルドシート取り付け位置			
	フロントシート（助手席）	セカンドシート		サードシート
		左右	中央	
0 (10kgまで)	X	U	X	X
0^+ (13kgまで)	X	U	L	X
Ⅰ (9〜18kg)	L	U	UF	L
Ⅱ (15〜25kg)	L	U	UF	L
Ⅲ (22〜36kg)	L	U	UF	L

U：　この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。
UF：　この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分の前向きチャイルドシートに適合しています。
L：　次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
X：　チャイルドシートを取り付けることはできません。

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ 日産純正チャイルドシート

「選択の目安」で、チャイルドシート取り付け位置にLと記載されている場合は、日産純正チャイルドシートをご使用ください。

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>取り付け向き</th><th colspan="3">商品名</th></tr>
<tr><td>0
(10kgまで)</td><td>—</td><td colspan="3">—</td></tr>
<tr><td>0+
(13kgまで)</td><td>後向き</td><td rowspan="2">ISO FIX対応
チャイルド
セーフティシート
(E4 04443716)</td><td rowspan="2">チャイルド
セーフティシート※
(E4 04443812)</td><td>ISO FIX対応
ベビーシート
(E4 04443717)</td></tr>
<tr><td>Ⅰ
(9～18kgまで)</td><td>前向き</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
(15～25kgまで)</td><td>前向き</td><td colspan="3" rowspan="2">ジュニアセーフティシート
(E43 44R040006)</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
(22～36kgまで)</td><td>前向き</td></tr>
</table>

※　：サードシートには取り付けることができません。

次ページに続く

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

1	チャイルドシートを座席に置きます。 シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
2	チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。 チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。	

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

知識

- セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートを一番後ろの位置までスライドさせてください。（スライド機構付車）

ISO FIX対応チャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。
「選択の目安」から使用できるチャイルドシートを確認してください。

■ 選択の目安

質量グループ	サイズ等級	固定具	チャイルドシート取り付け位置	
			セカンドシート	
			(左右)	(中央)
キャリコット	F	ISO/L1	X	-
	G	ISO/L2	X	-
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	X	-
0^+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL	-
	D	ISO/R2	X	-
	C	ISO/R3	X	-
Ⅰ (9〜18kg)	D	ISO/R2	X	-
	C	ISO/R3	X	-
	B	ISO/F2	IUF	-
	B1	ISO/F2X	IUF	-
	A	ISO/F3	IUF	-
Ⅱ (15〜25kg)	-	(1)	X	-
Ⅲ (22〜36kg)	-	(1)	X	-

IUF： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。
IL： この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正ISO FIX対応チャイルドシート」に適合しています。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

X：　チャイルドシートを取り付けることはできません。
(1)：　サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

- 詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

■ 日産純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

「選択の目安」で、チャイルドシート取り付け位置にILと記載されている場合は、日産純正ISO FIX対応チャイルドシートをご使用ください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	ISO FIX対応ベビーシート（H8000-79923）	後向き	準汎用

知識

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

知識

- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

ISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

1

ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、セカンドシート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストをロックする位置まで上げて、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカーに固定します。
➔ ヘッドレストの調節のしかた (P.140)

2

テザーアンカーは、セカンドシート背もたれ裏側にあります。
クロスシート仕様車は、マークの下側にあります。
防水シート仕様車は、ふたを開けて使います。
テザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

⚠ 警告

- **ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートのヘッドレストをロックする位置まで上げる。**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**
  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識

- セカンドシートにチャイルドシートを

次ページに続く

知識

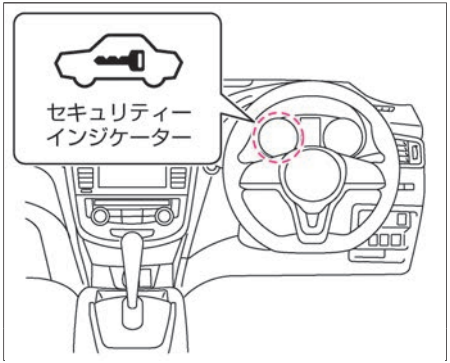
取り付けるときは、セカンドシートを一番後ろの位置までスライドさせてください。（スライド機構付車）

- ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー（固定装置）は、ロアアンカーとテザーアンカーの2種類があります。
  ロアアンカーは背もたれと座面のすき間にあり、テザーアンカーは背もたれ裏側にあります。
- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両盗難への防御性能を高めるため、あらかじめ登録されているキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（➔P.501）が点滅します。



アドバイス

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

MEMO

計器類

各部名称 P.54
メーター P.55

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.61
警告灯 P.62
表示灯の表示位置 P.63
表示灯 P.64

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

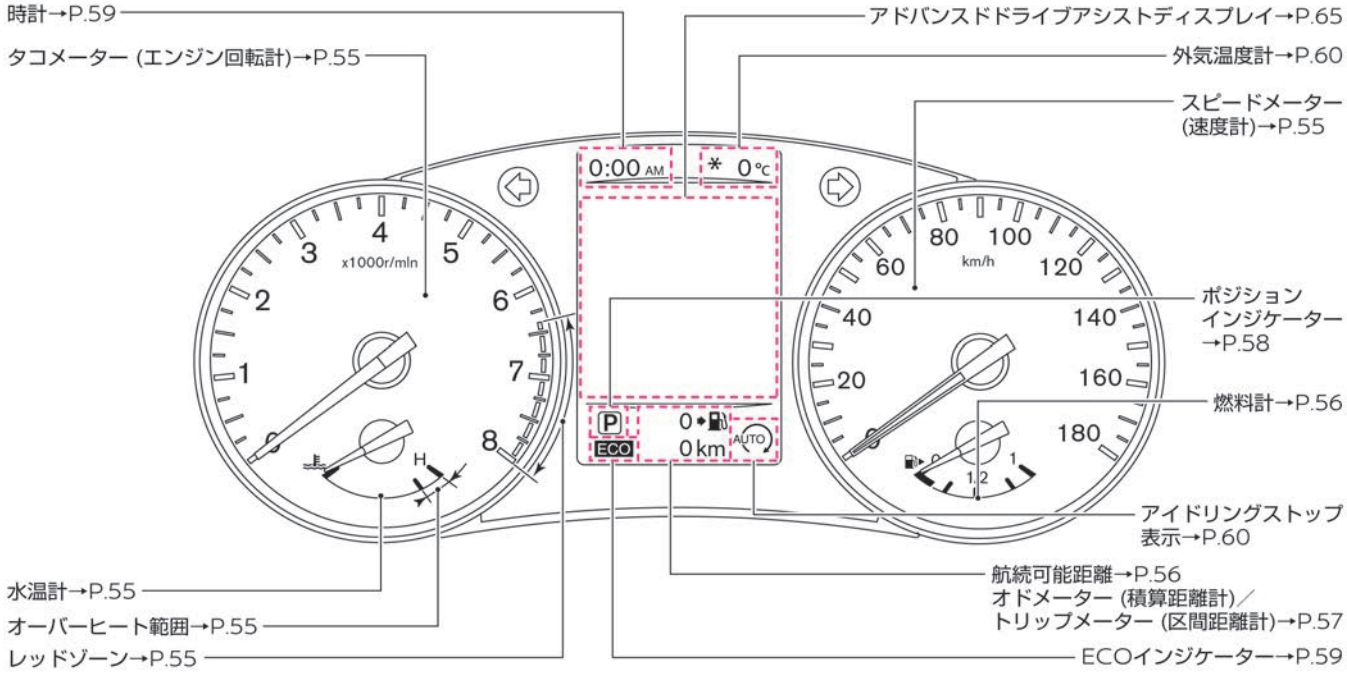
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは P.65
走行支援機能画面 P.67
車両情報画面 P.72
各種設定画面 P.77
警告メッセージ P.88
その他の表示機能 P.89

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.91

各部名称

キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、計器類が表示されます。
それぞれの計器の説明は、参照先のページをお読みください。



メーター

メーターには、スピードメーター（速度計）、タコメーター（エンジン回転計）、ポジションインジケーターなどがあります。
キースイッチ（電源ポジション）をON にすると表示します。

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

アドバイス

- レッドゾーン（赤色表示部）ではエンジンが過回転となり故障の原因になります。レッドゾーンに入らないように運転してください。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。

警告

- **オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
  詳しくは、オーバーヒートしたとき（➔P.519）をお読みください。

次ページに続く

燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料タンクの容量は約60ℓです。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。

航続可能距離

現在の燃料残量と平均燃費から航続可能な距離を表示します。

- 燃料残量警告（➔P.505）が表示されると、航続可能距離の距離表示が点滅します。
- 燃料残量警告表示後も燃料を補給しないと「---」と表示します。

知識

- 表示は約30秒ごとに算出します。

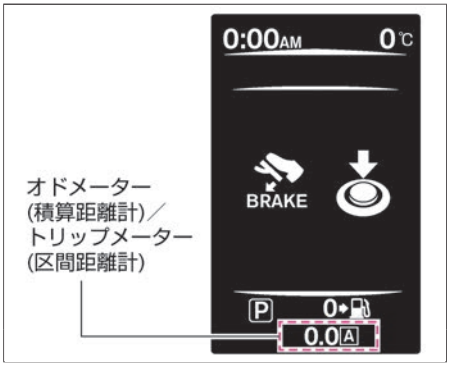
オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

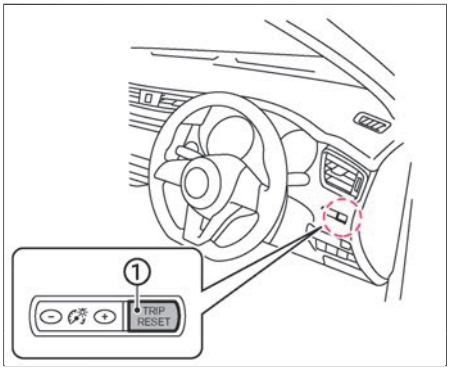
オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。Aと Bでそれぞれ使い分けることができます。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。





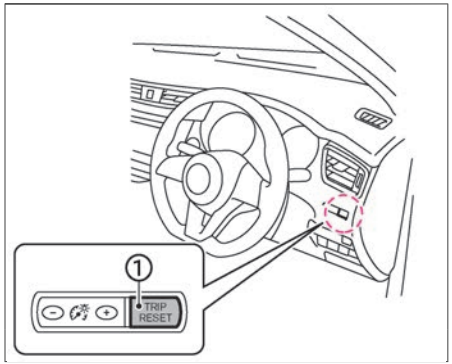
知識

- バッテリーを外したときは、トリップメーターのAと Bの記憶が消去され0に戻ります。

次ページに続く

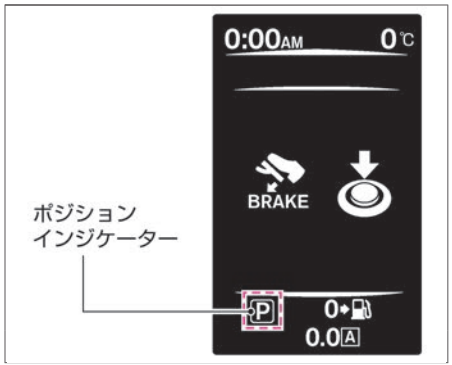
■ 表示の切り替えかた

- トリップ切り替えスイッチ①を押すと次の順で切り替わります。
  オドメーター→トリップ A →トリップ B →オドメーター



ポジションインジケーター

- セレクトレバーの位置を表示します。



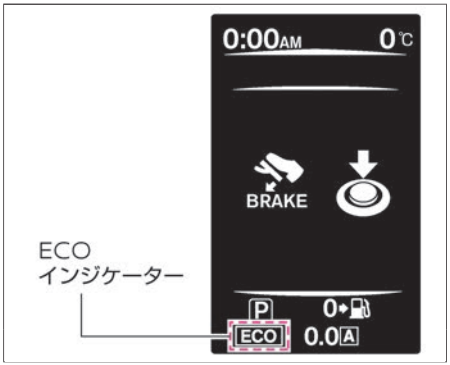
知識

- マニュアルモードのときに、セレクトレバーを操作しても希望するギヤに変速できない場合があります。そのときはポジションインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。
  ➔ マニュアルモードの使いかた (P.219)

ECOインジケーター

ECOモードスイッチをONにすると点灯します。

ECOモード (P.256)



時計

- 時刻を表示します。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。
- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、アドバンスドドライブアシストディスプレイで、「設定」⇒「時計」⇒「時計調整」を選択すると、時刻の調整ができます。

設定の詳細については、時計調整をお読みください。

画面の切り替えかた (P.66)
時計 (P.59)

知識

- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車の時計は、バッテリーを外すと記憶が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車の時計は、バッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

次ページに続く

外気温度計

- 外気温を表示します。

知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。
- 外気温が3°C以下になると、温度の左側に雪の結晶マーク が表示されます。

アイドリングストップ表示

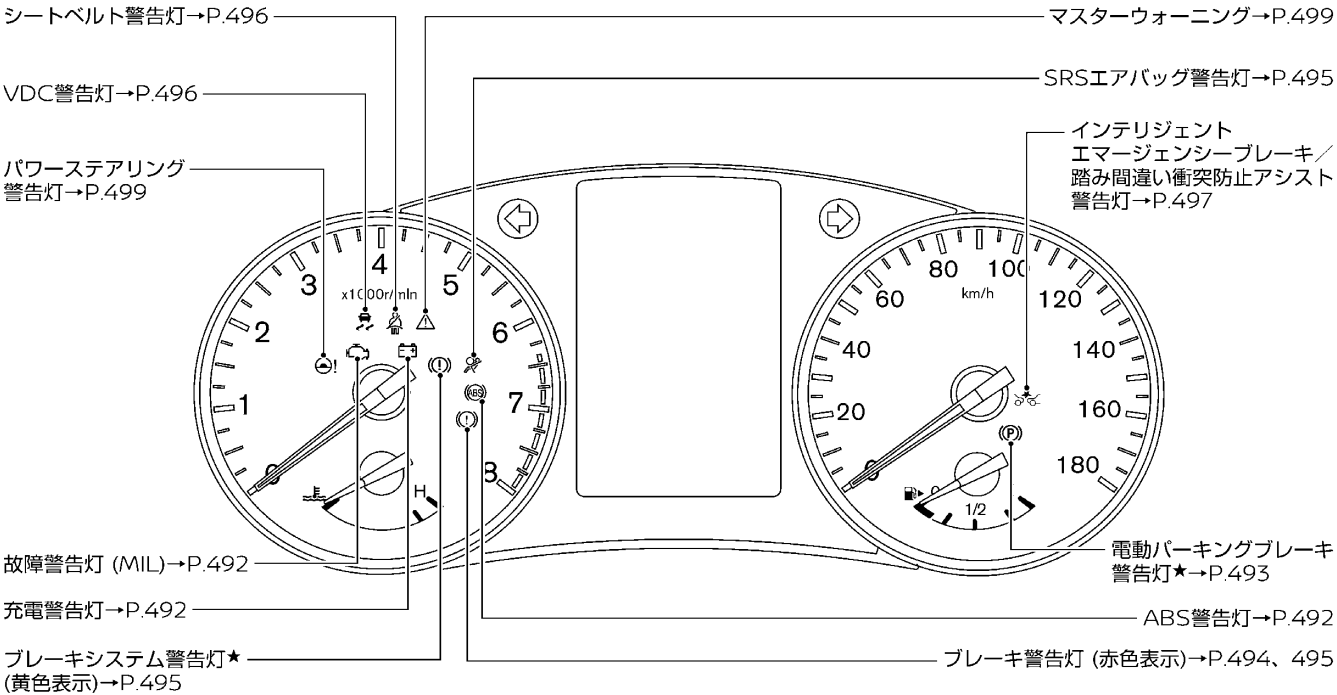
- アイドリングストップ表示は、次のように点灯します。

表示	詳細
AUTO	● アイドリングストップ中に緑色に点灯します。 ● アイドリングストップシステムに異常があると点滅します。
AUTO OFF	● アイドリングストップOFFスイッチをONにすると点灯します。
AUTO	● アイドリングストップ中にボンネットを開けると点灯します。

アイドリングストップについては、（➔P.260）をお読みください。

警告灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。
通常は警告すべき事象がおこったときに、該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



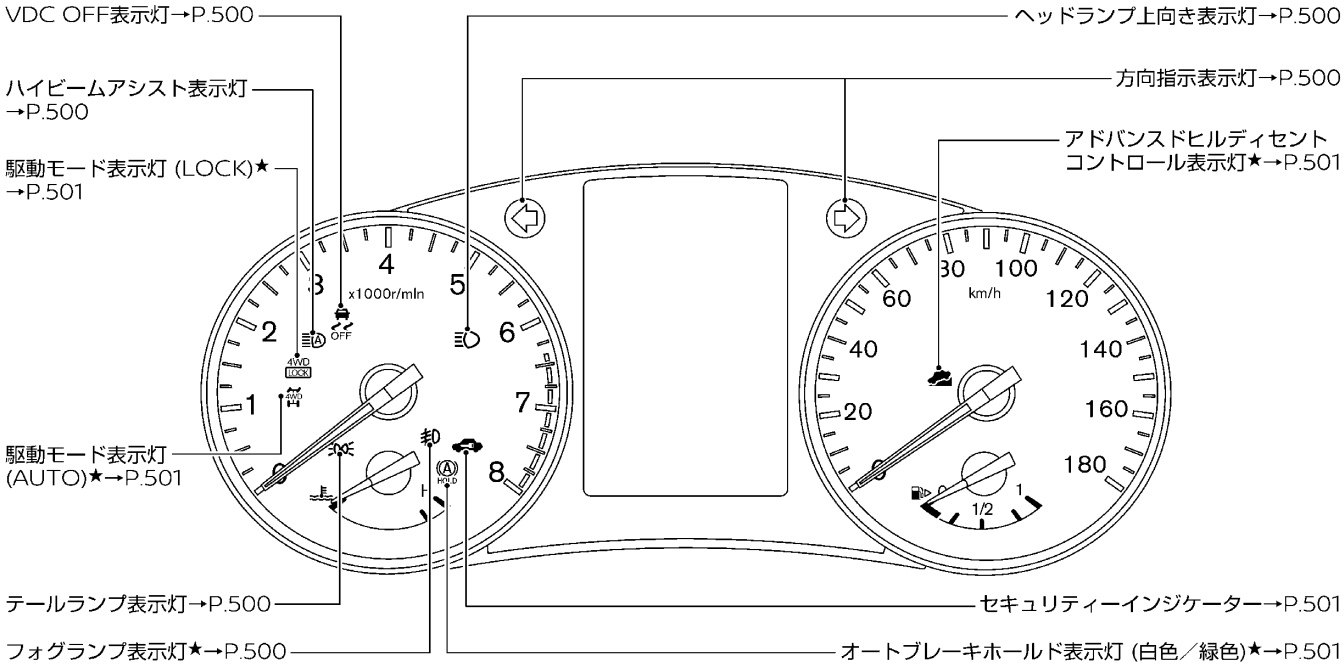
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯

警告灯	名称	警告灯	名称
	故障警告灯（MIL）（➔P.492）		充電警告灯（➔P.492）
	ABS警告灯（➔P.492）		電動パーキングブレーキ警告灯★（➔P.493）
電動パーキングブレーキ無車	ブレーキ警告灯（赤色表示）（➔P.494）	電動パーキングブレーキ付車	ブレーキ警告灯（赤色表示）（➔P.495）
	ブレーキシステム警告灯★（黄色表示）（➔P.495）		SRSエアバッグ警告灯（➔P.495）
	シートベルト警告灯（➔P.496）		VDC警告灯（➔P.496）
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯（➔P.497）		パワーステアリング警告灯（➔P.499）
	マスターウォーニング（➔P.499）		

表示灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。
通常は事象がおこったときに、該当の表示灯のみ点灯します。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯

表示灯	名称	表示灯	名称
	方向指示表示灯（➔P.500）		ヘッドランプ上向き表示灯（➔P.500）
	テールランプ表示灯（➔P.500）		フォグランプ表示灯★（➔P.500）
	ハイビームアシスト表示灯（➔P.500）		VDC OFF表示灯（➔P.500）
	セキュリティーインジケーター（➔P.501）		オートブレーキホールド表示灯（白色）★（➔P.501）
	オートブレーキホールド表示灯（緑色）★（➔P.501）		駆動モード表示灯（LOCK）★（➔P.501）
	駆動モード表示灯（AUTO）★（➔P.501）		アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯★（➔P.501）

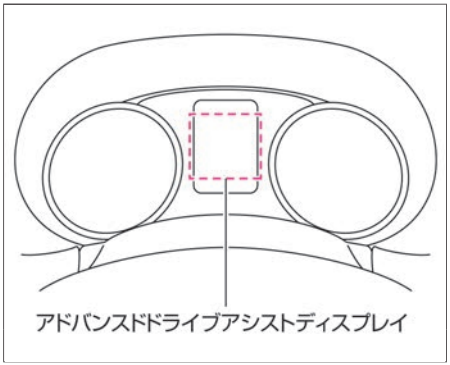
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定をしたりできます。

表示される内容

次の情報を表示します。

- 走行支援機能画面（➔P.67）
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示
  - LDW（車線逸脱警報）表示
  - インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示★
  - BSW（後側方車両検知警報）表示★
  - プロパイロット表示★
  - クルーズコントロール表示★
  - インテリジェント FCW
- 車両情報画面（➔P.72）
- 各種設定画面（➔P.77）
- 警告メッセージ（➔P.502）
- その他の表示機能★（➔P.89）
  - ソナー表示
  - 着信表示★
  - 音声操作表示★



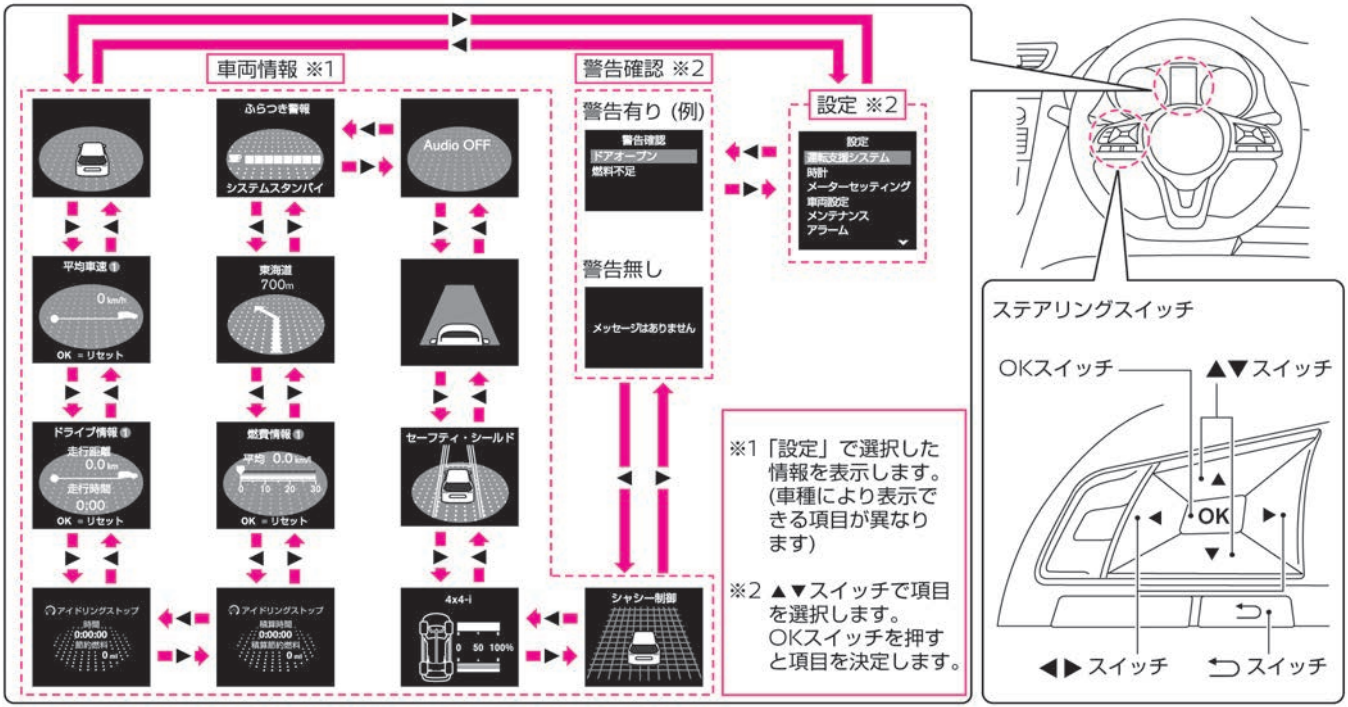
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

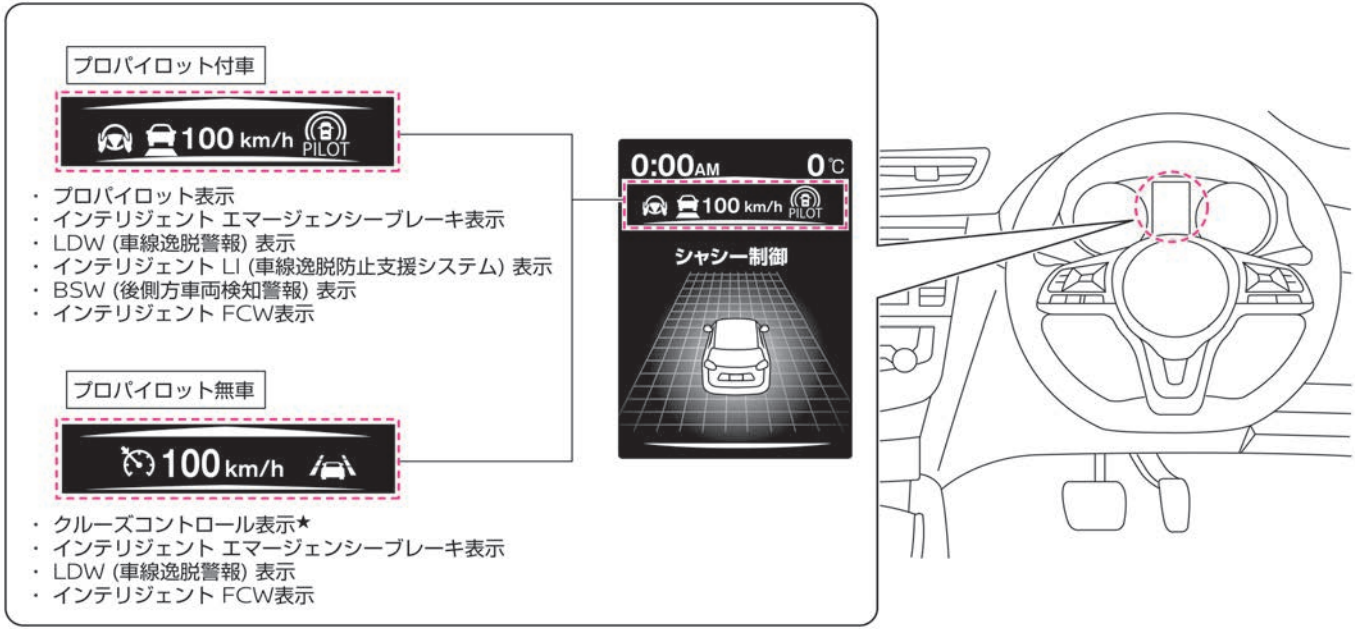
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ハンドル左側にある ◀▶ スイッチを押すと次の順で画面が切り替わります。
機能の詳細および表示項目については、車両情報画面（➔P.72）、警告メッセージ（➔P.502）、各種設定画面（➔P.77）をお読みください。

画面の切り替えかた



走行支援機能画面



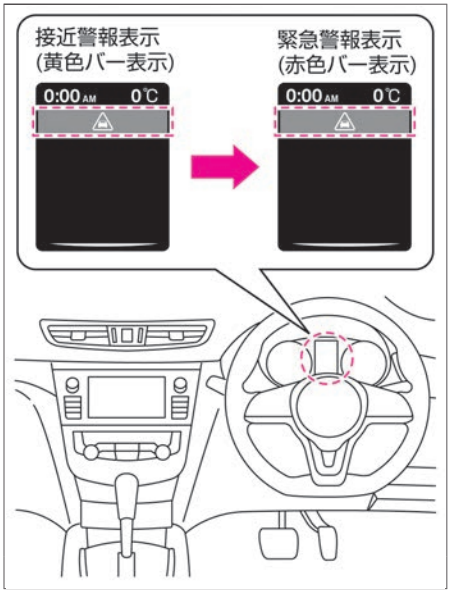
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示

- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）が黄色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。

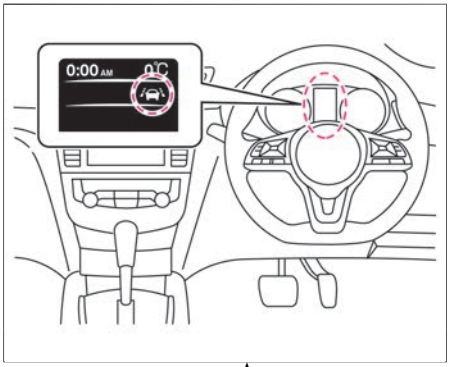
インテリジェント エマージェンシーブレーキについては、（➔P.332）をお読みください。



LDW（車線逸脱警報）表示

● 車両が右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、点滅します。

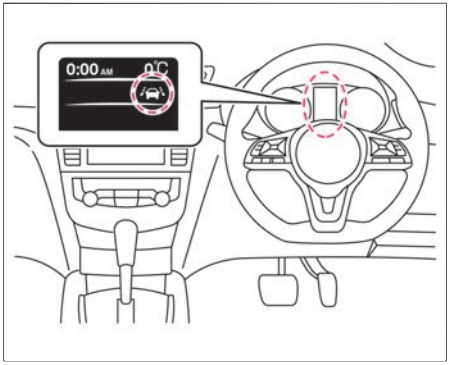
LDW（車線逸脱警報）については、（➔P.375）をお読みください。



インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示★

● 車両が右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、点滅します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）については、（➔P.375）をお読みください。



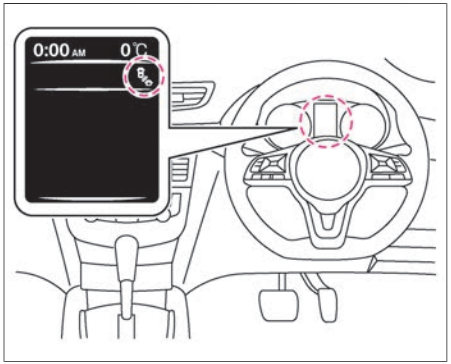
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

BSW（後側方車両検知警報）表示★

- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると点滅します。

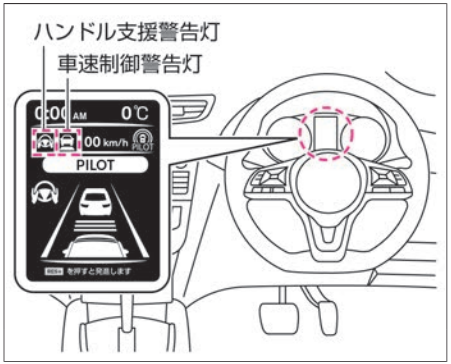
BSW（後側方車両検知警報）については、（➔P.365）をお読みください。



プロパイロット表示★

- プロパイロットスイッチ をONにすると表示します。
- プロパイロットの作動状態を表示します。
- プロパイロットに異常があると、ハンドル支援警告灯および車速制御警告灯がオレンジ色に点灯します。

プロパイロットについては、（➔P.294）をお読みください。



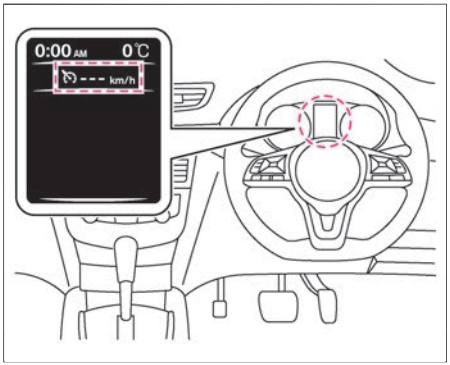
アドバイス

- 警告灯がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

クルーズコントロール表示★

- クルーズコントロールをONにすると表示します。
- クルーズコントロールシステムに異常があると、表示が点滅します。

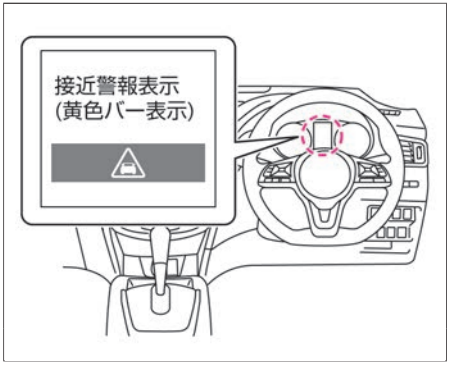
クルーズコントロールについては、（➔P.266）をお読みください。
※クルーズコントロール表示の位置は車種により異なります。



インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示

- 自車の回避操作が必要と判断すると、黄色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）については、（➔P.383）をお読みください。



車両情報画面

様々な車両情報を表示することができます。

車両情報（表示項目）

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを押すと画面が切り替わります。

画面表示	名称	概要	詳細説明
	ホーム	● 車のアイコンを表示します。	知識 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイで、「設定」⇒「メーターセッティング」⇒「ボディーカラー」を選択すると、表示する車のアイコン色を変更できます。 ➔ 設定例1（表示項目設定） (P.85)
	平均車速	● 平均車速①は、リセットしてからの平均車速を表示します。 平均車速②は、キースイッチ（電源ポジション）をONにしてからの平均車速を表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。その後「リセット」メニューから「平均車速」を選択し、再度ステアリングスイッチの OK スイッチを押すとリセットされます。スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。	知識 ● バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 数値は約30秒ごとに更新します。 ● リセットするとき、「All」を選択すると平均車速、ドライブ情報（走行距離、走行時間）、燃費情報（平均燃費）が同時にリセットされます。 ● 平均車速を表示しているとき、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチを押すと、平均車速①と②を切り替えることができます。

画面表示	名称	概要	詳細説明
	ドライブ情報	● ドライブ情報①は、リセットしてからの走行距離、走行時間を表示します。 ドライブ情報②は、キースイッチ（電源ポジション）をONにしてからの走行距離、走行時間を表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。その後「リセット」メニューから「走行距離」を選択し、再度ステアリングスイッチの OK スイッチを押すとリセットされます。スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。	知識 ● バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● リセットするとき、「All」を選択するとドライブ情報（走行距離、走行時間）、平均車速、燃費情報（平均燃費）が同時にリセットされます。 ● ドライブ情報を表示しているとき、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチを押すと、ドライブ情報①と②を切り替えることができます。
	アイドリングストップ（時間･節約燃料）	● エンジン始動時からの、アイドリングストップが作動した時間と、節約された燃料を表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを長押しします。スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。	知識 ● アイドリングストップについては、（➔P.260）をお読みください。
	アイドリングストップ（積算時間･積算節約燃料）	● 前回リセット時からの、アイドリングストップが作動した合計時間と、節約された合計燃料を表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを長押しします。スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。	知識 ● アイドリングストップについては、（➔P.260）をお読みください。

次ページに続く

画面表示	名称	概要	詳細説明
	燃費情報	● 燃費情報①は、リセットしてからの平均燃費や瞬間燃費、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減などを表示します。 燃費情報②は、キースイッチ（電源ポジション）をONにしてからの平均燃費や瞬間燃費、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減などを表示します。 リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押します。その後「リセット」メニューから「燃費情報」を選択し、再度ステアリングスイッチの OK スイッチを押すとリセットされます。スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。	● 平均燃費は、バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。 ● ECOモードがOFFのときは、平均燃費と瞬間燃費を表示します。 詳しくは、ECOモード（➔P.256）をお読みください。 知識 ● リセットするとき、「All」を選択すると燃費情報（平均燃費）、平均車速、ドライブ情報（走行距離、走行時間）が同時にリセットされます。 ● 燃費情報を表示しているとき、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチを押すと、燃費情報①と②を切り替えることができます。
	ナビゲーション★	● ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折点までの距離などを表示します。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。 ● 目的地を設定していないときは、コンパス（車両の進行方位）を表示します。
	ふらつき警報★	● 走行中、ハンドルの動きを検出して表示します。	● 車速約60km/h以上で走行中に作動します。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報）★ (P.398)

車両情報画面

画面表示	名称	概要	詳細説明
	オーディオ★	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、オーディオの種類が切り替わります。	● オーディオの取り扱いについては、➔オーディオ (P.200)または別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	プロパイロット★	● 走行支援システムの作動状態を表示します。 ● ステアリングスイッチのプロパイロットスイッチ PILOT を押すとプロパイロット画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面が表示されます。プロパイロットのメニュー画面でハンドル支援のON・OFFを設定できます。（➔P.77）をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 – ➔プロパイロット★ (P.294) – ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375) – ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332)
	セーフティ・シールド	● 走行支援システムのON・OFF状態を表示します。 この画面を表示中に、ステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、走行支援のメニュー画面が表示されます。走行支援のメニュー画面で各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは、運転支援システム（➔P.77）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 – ➔プロパイロット★ (P.294) – ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332) – ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375) – ➔BSW（後側方車両検知警報）★ (P.365)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	名称	概要	詳細説明
	4x4-i★	● 走行中の前後輪への伝達トルク配分比を表示します。	● 詳しくは、4WDトルク配分表示（➔P.275）をお読みください。
	シャシー制御	● 走行中、次のシステムの作動状態を表示します。 – インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） – インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム） – インテリジェント エンジンブレーキ – アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★ – ヒルスタートアシスト – オートブレーキホールド★	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 – ➔インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について (P.282) – ➔インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）について (P.284) – ➔インテリジェント エンジンブレーキについて (P.285) – ➔アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★ (P.287) – ➔ヒルスタートアシスト (P.290) – ➔オートブレーキホールド★ (P.228)

各種設定画面

運転支援システムのON･OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。
各種設定画面への切り替えかたは（➔P.66）をお読みください。

設定できる機能

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。
ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

➔ 設定例1（表示項目設定） (P.85)
➔ 設定例2（オイル/フィルター） (P.86)

■ 運転支援システム

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
走行支援	プロパイロット★	● ハンドル支援のON･OFFを設定します。 ➔ プロパイロット★ (P.294)
	エマージェンシーブレーキ	● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332) ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.343) ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.383)
	車線	● 「警告」は、LDW（車線逸脱警報）のON･OFFを設定します。 ● 「制御★」は、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON･OFFを設定します。 ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375)
	後側方車両検知警報★	● BSW（後側方車両検知警報）のON･OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.365)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目1	項目2	機能
ふらつき警報★		● インテリジェント DA（ふらつき警報）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント DA（ふらつき警報）★ (P.398)
進入禁止警報		● 進入禁止標識検知のON･OFFを設定します。 ➔ 進入禁止標識検知 (P.401)
駐車支援	移動物検知★	● 移動物 検知機能のON･OFFを設定します。 移動物 検知機能については（➔P.415）、または別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	クロストラフィック★	● RCTA（後退時車両検知警報）のON･OFFを設定します。 ➔ RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.389)
	フロントソナー	● フロントソナーのON･OFFを設定します。 ➔ ソナー表示 (P.89)
	リアソナー	● リアソナーのON･OFFを設定します。 ➔ ソナー表示 (P.89)
	表示割込み	● 障害物に近づいたときに、ナビゲーションシステムおよびアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示する、ソナー割り込み表示のON･OFFを設定します。 ➔ ソナー表示 (P.89)
	ソナー音量	● ソナーの音量を、高、中、低から設定します。 ➔ ソナー表示 (P.89)
	ソナー感度	● ソナーのセンサー感度を、遠、中、近から設定します。 障害物をより遠い状態から検知させたいときは、ソナーセンサーの感度を「遠」に設定します。 ➔ ソナー表示 (P.89)

項目1	項目2	機能
シャシー制御	コーナリングスタビリティアシスト	● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について (P.282)
	アクティブエンジンブレーキ	● インテリジェント エンジンブレーキON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント エンジンブレーキについて (P.285)

■ 時計

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車

項目	機能
時計調整	時計調整画面を表示します。 ① OK スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② ▲▼ スイッチを押して「時」を調整します。 ③ OK スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ ▲▼ スイッチを押して「分」を調整します。 ⑤ OK スイッチを押すと時刻が設定されます。 （ ⮌ を押すと設定前の画面に戻ります。）
12H/24H	● 12H、24H表示を切り替えます。

次ページに続く

メーカーオプションナビゲーションシステム装着車

機能
● 『ナビゲーション画面にて設定してください』と表示します。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

■ メーターセッティング

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
メインメニュー選択		● 車両情報としてメインメニューに表示する項目を設定します。 ➔ 車両情報（表示項目） (P.72)
ボディーカラー		● アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示する車両を、お好みのボディーカラーに変更します。
エコモード設定	エコインジケーター	● アンビエントランプのON･OFFを設定します。 OFFにすると、アンビエントランプが表示されなくなります。 ➔ ECOモード (P.256)
	エコメーター表示	● ペダル（ペダルガイド）と瞬間燃費を切り替えます。 ➔ ECOモード (P.256)
エコドライブレポート	表示	● エコマネージメントのON･OFFを設定します。 ➔ エコマネージメントについて (P.259)
	燃費履歴	● 履歴画面を表示します。（リセットを選択すると履歴を消去します。）

項目1	項目2	機能
プロパイロット画面★	画面自動切替え	● プロパイロット画面切替えのON･OFFを設定します。 ONにすると、プロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がプロパイロット画面に切り替わります。 ➔ プロパイロット★ (P.294)
メーター演出	スイープ演出	● スイープ演出のON･OFFを設定します。 知識 **スイープ演出** ● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最大値付近を指し、戻ります。
	ディスプレイ演出	● ディスプレイ演出のON･OFFを設定します。 OFFにすると、エンジン始動時のアニメーションが表示されなくなります。

■ 車両設定

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
ライト/照明	ウェルカムライト	● ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）のON･OFFを設定します。 リモートコントロールエントリーシステム付車（➔P.101） インテリジェントキー付車（➔P.95）
	自動室内灯	● キー連動室内照明のON･OFFを設定します。 ➔ 室内灯 (P.434)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目1	項目2	機能
	オートライト感度調整	● インテリジェント オートライト（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、より早い、早い、標準、遅いから選択します。 ➔ AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた (P.239)
方向指示器	コンフォートフラッシャー	● コンフォートフラッシャーのON･OFFを設定します。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.246)
ロック★	I-keyエントリー	● ドアハンドルのスイッチのON･OFFを設定します。 ➔ ドアスイッチでの施錠･解錠のしかた（インテリジェントキー付車）(P.103)
ワイパー	車速連動	● 車速連動のON･OFFを設定します。 ➔ フロントワイパーの使いかた (P.251)
	リバース連動	● リバース連動のON･OFFを設定します。 ➔ リヤワイパーの使いかた (P.252)
	ドリップ拭き取り	● ドリップ拭き取りのON･OFFを設定します。 ➔ ウォッシャーの使いかた (P.253)

■ メンテナンス

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目	機能
オイル/フィルター タイヤ ユーザー	● [メンテナンス]では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。(定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。) – ▲▼ スイッチで距離が切り替わり、OK スイッチを押すと決定します。（ ⮌ を押すと１つ前の画面に戻ります。） – 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 – 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。） – リセットを選択して OK スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ●機能を停止することができます。 – 停止する場合は、距離表示を「---」にあわせ OK スイッチを押し決定します。

■ アラーム

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目	機能
走行時間	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。 ▲▼ スイッチで時間が切り替わり、OK スイッチを押すと決定します。 – 最大6Hまで設定できます。 – 設定時間は0.5H単位で切り替わります。 – リセットを選択すると走行した時間をリセットできます。 （ ⮌ を押すと設定前の画面に戻ります。）
ナビゲーション★	● 走行中、次の右左折点に近接したとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイにポップアップでお知らせする機能のON･OFFを設定します。

次ページに続く

項目	機能
電話★	● 携帯電話をハンズフリー接続しているとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイに着信などの表示をする機能のON･OFFを設定します。 ➔ 着信表示★ (P.90)

■ 単位

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

項目	機能
燃費	● 燃費の表示単位を km, km/l または km, l/100km に切り替えます。
温度	● 温度の単位を °C または °F に切り替えます。

■ 言語

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

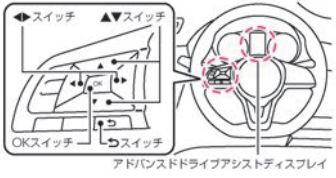
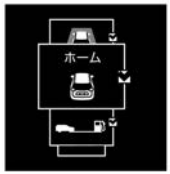
機能
● 表示言語を、日本語またはUS Englishに切り替えます。

■ 工場出荷設定

ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで項目を選び、 OK スイッチを押して決定します。
なお、走行中は操作できません。

機能
● 「はい」を選択すると、各種設定が初期化されます。

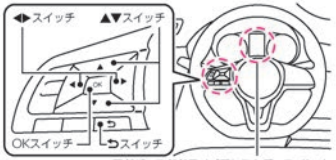
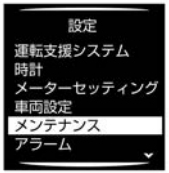
設定例1（表示項目設定）

1	ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、［設定］画面を表示します。	
2	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［メーターセッティング］を選択し、 OK スイッチを押して決定します。	
3	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［メインメニュー選択］を選択し、 OK スイッチを押して決定します。	
4	表示させたい項目を、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで選択し、 OK スイッチを押して☑にすると表示できるようになります。	

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

設定例2（オイル/フィルター）

1	ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、［設定］画面を表示します。	
2	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［メンテナンス］を選択し、OK スイッチを押して決定します。	
3	ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで、［オイル/フィルター］を選択し、OK スイッチを押して決定します。	
4	[オイル/フィルター]画面でステアリングスイッチの OK スイッチを押して、次回メンテナンスを行う距離の設定画面に進みます。(「---/---」の右側の表示） ※「---/---」の左側は、設定以降走行した距離を表示します。	

知識

- 手順4でリセットを選択してステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、走行した距離をリセットできます。(「---/---」の左側の表示）

5	次回メンテナンスを行う距離を設定できます。(手順4「---/---」右側の表示) ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチで距離を切り替え、 OK スイッチを押して決定します。 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押しすると1,000km単位で切り替わります。） ※機能を停止する場合は、距離表示を「---」にあわせ OK スイッチを押し決定します。	

警告 ⚠

警告について

- 異常を検知するとメーター内のマスターウォーニング ⚠ が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告メッセージの表示画面については、（➔P.502）をお読みください。

その他の表示機能

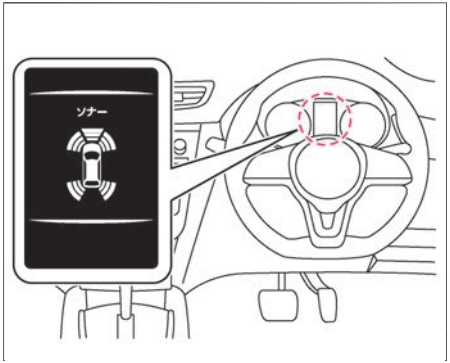
障害物に近づいたときや、ハンズフリーフォン★、音声操作★を使用したときは、
アドバンスドドライブアシストディスプレイに作動状態などを表示することができます。

ソナー表示

- 車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音（ブザー）
緑	ピッ、ピッ、ピッ･･･
黄	ピピピピピ･･･
赤	ピー

- 次の場合にソナー機能が作動します。
  - セレクトレバーを R にしたとき
  - セレクトレバーが D で障害物を検知したとき（10km/h以下）
- ソナー表示中にステアリングスイッチの OK スイッチを押すと、一時的にソナー機能を停止できます。
  ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
  - セレクトレバーを R 以外にしてから再度 R にしたとき
  - 車両を12km/h以上で走行させたとき
- ソナー表示の見かたについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ソナーの取り扱いについては、（➔P.584）をお読みください。



知識

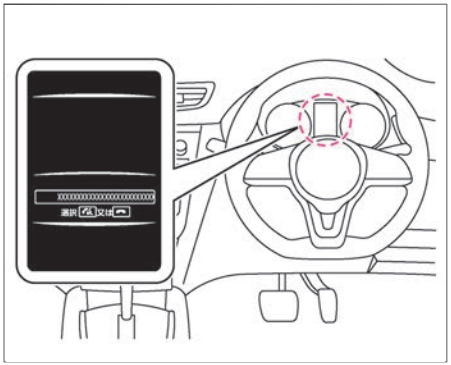
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「駐車支援」を選択すると、ソナー機能の各種設定ができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)
- ソナー表示の見かたについては（➔P.417）をお読みください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

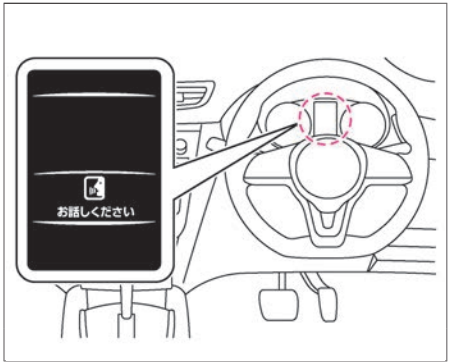
着信表示★

- 携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
  ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



音声操作表示★

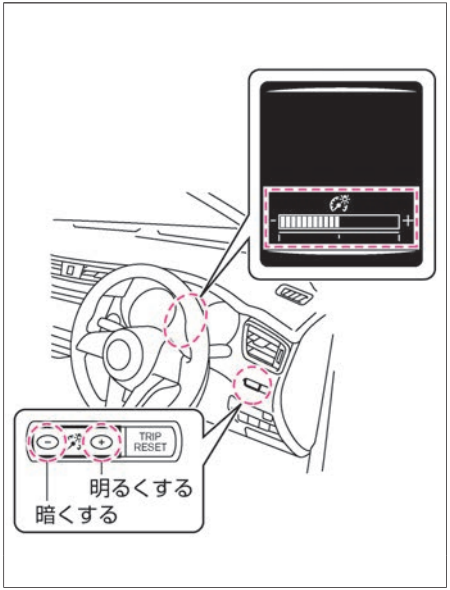
- ナビゲーションシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。
  音声操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



メーターの明るさの調節のしかた

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、車外の明るさに応じてメーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。



知識

- バッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。

MEMO

キー

キー（インテリジェントキー） P.94
キー（インテリジェントキー）に関する注意事項 P.97
キー（リモートコントロールエントリーシステム） P.100
キー（リモートコントロールエントリーシステム）に関する注意事項 P.102

ドアの施錠と解錠

ドア P.103
バックドア P.112
リモコンオートバックドア★ P.117

シートの調節

フロントシート P.136
セカンドシート（2列車） P.141
セカンドシート（3列車） P.147
サードシート★ P.154

ハンドルの調節

ハンドル P.158

ミラーの調節

ルームミラー★ P.159
インテリジェント ルームミラー★ P.160
ドアミラー P.170
サイドアンダーミラー★ P.174

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.175
パノラミックガラスルーフ★ P.178

燃料補給口の開閉

燃料補給口 P.184

エアコンの操作

オートエアコン★ P.187
マニュアルエアコン★ P.191
吹き出し口 P.195
エアコンを使うときに注意すること P.196

オーディオ

オーディオの使いかた★ P.200
ステアリングスイッチ P.202

キー（インテリジェントキー）

キーを携帯するだけでドアの施錠･解錠および始動操作ができます。
ドアの施錠･解錠のしかたは（➔P.103）、始動操作は（➔P.205）をお読みください。

各部名称と機能

① ドア施錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

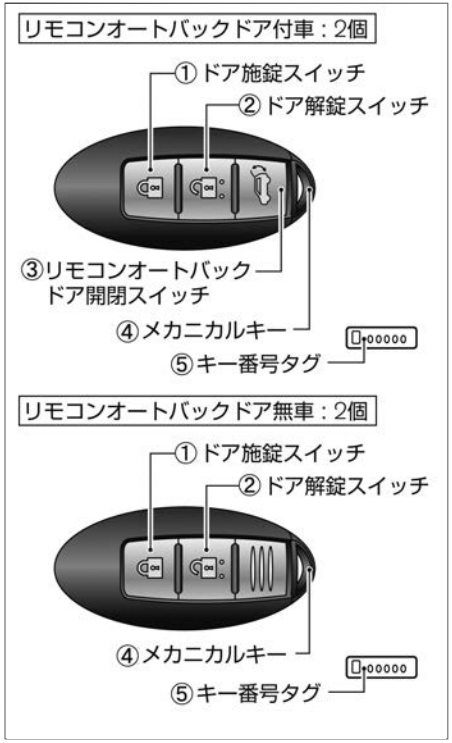
② ドア解錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

③ リモコンオートバックドア開閉スイッチ★
スイッチを約1秒以上押すと、バックドアが自動で開閉します。

④ 内蔵キー（メカニカルキー）
キーの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどにドアの施錠･解錠ができます。

➔ キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.484)

⑤ キー番号タグ
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。



知識

- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠･解錠やエンジンの始動を行うことができます。
  ➔ ドアが開かないときは (P.484)
  ➔ インテリジェントキー★で始動できないときは (P.486)

キー（インテリジェントキー）に関する機能について

アンサーバック機能

- ドアの施錠･解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
  アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が作動します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウェルカムライト」を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約15秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（➔P.434）をお読みください。

オートロック機能

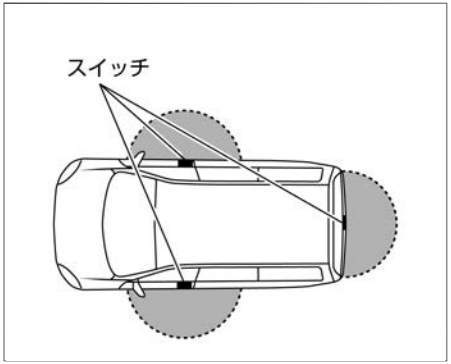
- 解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため全ドアが施錠されます。
  （施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

次ページに続く

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
キーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

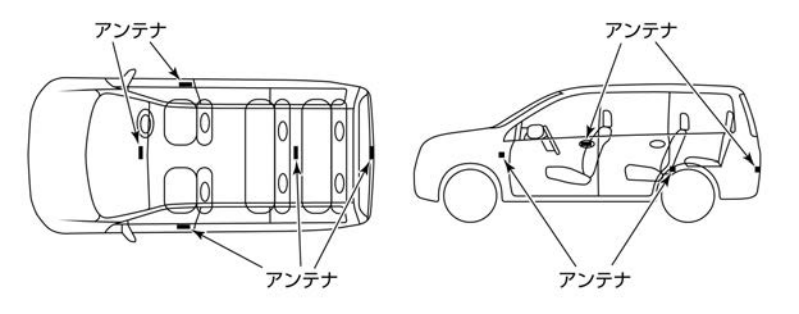
- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。



キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

⚠ 警告

- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**
  ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、エンジン始動時などにキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。（イラストは3列車です。）



- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**
  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**
  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

次ページに続く

キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する

キー（インテリジェントキー）に関する注意事項

アドバイス

- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
  ➔ キー（インテリジェントキー）★の電池交換 (P.569)
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水にぬらさない
  - 超音波洗浄器などにかけない
  - 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
  - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

キー（リモートコントロールエントリーシステム）

キーは離れたところ（約1m）から全ドアの施錠･解錠ができます。

各部名称と機能

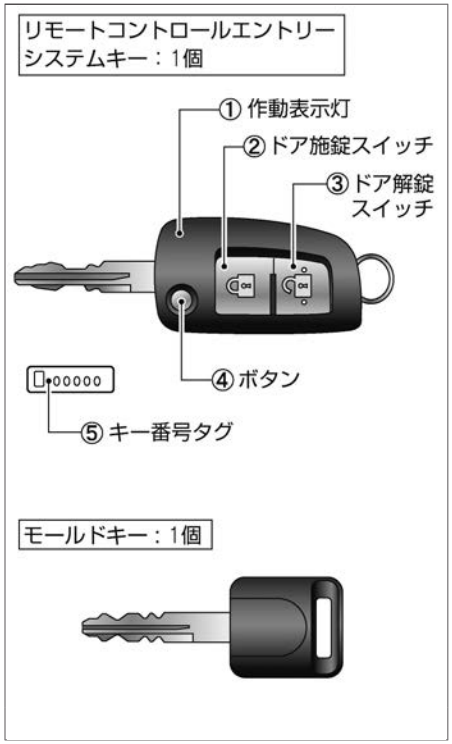
① 作動表示灯
スイッチを押すと点滅します。

② ドア施錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

③ ドア解錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

④ ボタン
ボタンを押して、キーを出します。元に戻すときは、ボタンを押しながらカチッと音がするまでキーを押し込みます。

⑤ キー番号タグ
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。



アドバイス

- キーを戻すときは、ボタンを押しながら戻してください。破損するおそれがあります。

知識

- リモコンは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。
➔ キー（リモートコントロールエントリーシステム）★の電池交換 (P.570)

キー（リモートコントロールエントリーシステム）に関する機能について

アンサーバック機能

- ドアの施錠･解錠時に、作動確認のための非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）

ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が作動します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウェルカムライト」を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約15秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（➔P.434）をお読みください。

オートロック機能

- 解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったとき、またはキースイッチにキーを差し込まなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
  （施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

キー（リモートコントロールエントリーシステム）に関する注意事項

警告

- **航空機内ではリモコンのスイッチを押さない。**
  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

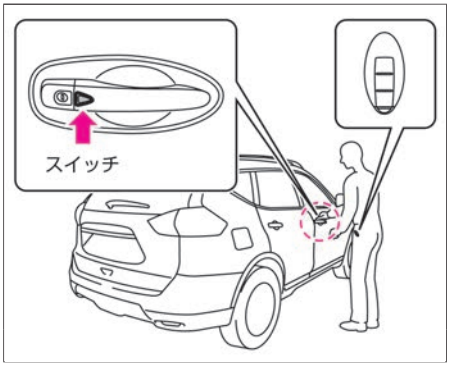
- 周囲の状況によっては、作動する距離が変わることがあります。確実に作動させるためには、車両から約1mまで近づいてください。
- 極端に気温が低いとき、電池の性能が低下するため、システムが作動しない場合があります。
- リモコンは精密電子機器です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水にぬらさない
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

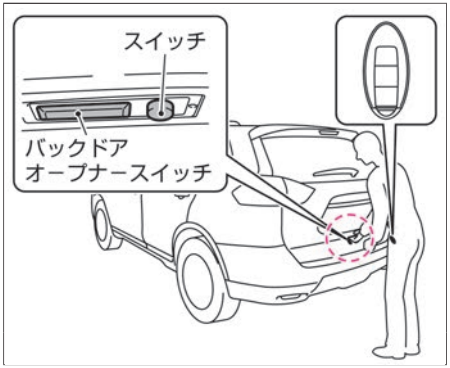
ドアハンドルのスイッチやキー（インテリジェントキー）のスイッチで施錠･解錠します。
施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

ドアスイッチでの施錠･解錠のしかた（インテリジェントキー付車）

- キーを携帯し、運転席、助手席ドアまたはバックドアにあるスイッチを押すと全ドアが施錠･解錠します。
- キーが各スイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠･解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅





アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれるため、施錠できないことがあります。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ロック」⇒「I-keyエントリー」を選択すると、ドアハンドルスイッチでの施錠･解錠機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)
- 次のような場合は、作動しません。
  – 電源ポジションがONのとき
  – ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  （解錠のみできます）
  – キーが施錠･解錠の作動範囲内にないとき

次ページに続く

知識

– 携帯しているキー以外に自車のキーが車室内にあるとき
（解錠のみできます）
– キーの電池が切れているとき

オートロック機能

- 盗難防止のため、施錠する機能です。ドアハンドルのスイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

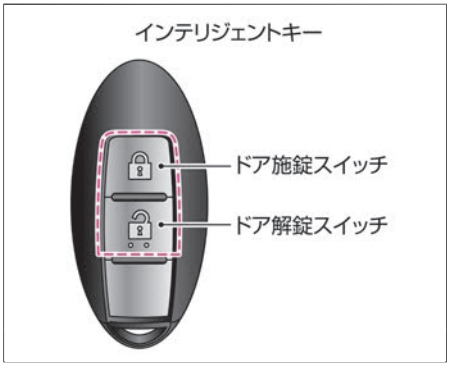
キーのスイッチでの施錠・解錠のしかた

- 全ドアを施錠するときは、ドア施錠スイッチ 🔒 を押します。
- 全ドアを解錠するときは、ドア解錠スイッチ 🔓 を押します。
- 作動範囲は、車両から約1mです。

インテリジェントキー付車

- 施錠・解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅



知識

- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
  ➔ キー（インテリジェントキー）★の電池交換 (P.569)
  ➔ キー（リモートコントロールエントリーシステム）★の電池交換 (P.570)
- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。（インテリジェントキー付車）
  ➔ キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.484)
- 次のような場合は、キーのスイッチを押しても作動しません。
  - 電源ポジションがONのとき（インテリジェントキー付車）
  - キーをキースイッチに差し込んでいるとき（リモートコントロールエントリーシステム付車）
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
    （解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき

次ページに続く

知識

– キーの電池が切れているとき

オートロック機能

- 盗難防止のため、施錠する機能です。ドア解錠スイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、ドアロックスイッチを施錠側 🔒 に押します。
- 解錠するときは、ドアロックスイッチを解錠側 🔓 に押します。

知識

- ドアロックスイッチを押すと、全ドアが施錠または解錠します。

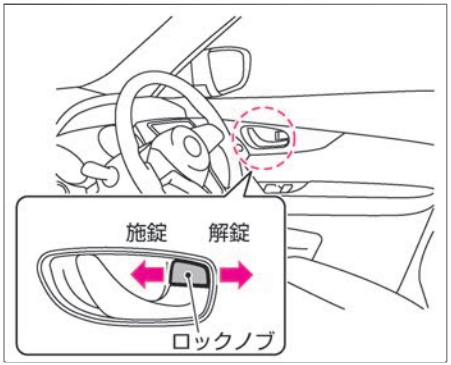
衝撃感知式ドアロック解除システム

- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、車両が前後方向から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが解錠されます。SRSサイドエアバッグ付車は側面からの強い衝撃でも解錠します。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてください。

次ページに続く

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。



知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。

キーを使用しない施錠のしかた

前席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

知識

次の場合は、運転席ロックノブまたはドアロックスイッチで施錠できません。

- 運転席ドアが開いていて、キースイッチにキーが差し込まれているとき（リモートコントロールエントリーシステム付車）
- 運転席ドアが開いていて、キーが車室内にあるとき（インテリジェントキー付車）

キー封じ込み防止機能（インテリジェントキー付車）

- キーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせし、全ドアを解錠します。

次ページに続く

チャイルドセーフティドアロック

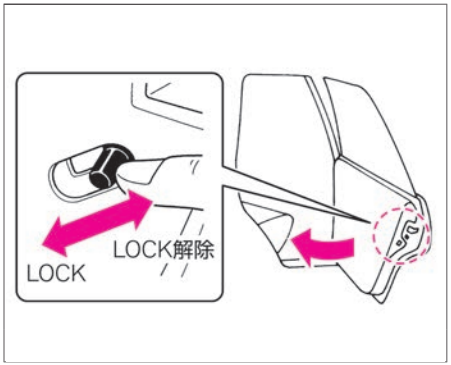
後席に乗せたお子さまなどが、誤って後席のドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

ドアを開けるには

- 解錠しているとき、車外からドアハンドルを引きます。



知識

- 車室内から開けるときは、ドアロックノブが解錠していることを確認し、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

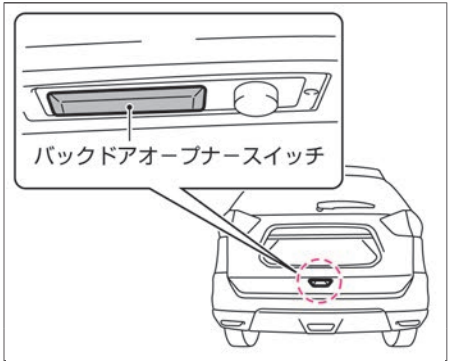
バックドアの開けかた

インテリジェントキー付車

- 解錠されているときは、バックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯してバックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）
- リモコンオートバックドア付車は、リモコンオートバックドアの使いかた（➔P.119）、バックドアオープナースイッチによる開けかた（➔P.121）を合わせてお読みください。

リモートコントロールエントリーシステム付車

- 解錠後、バックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。



アドバイス

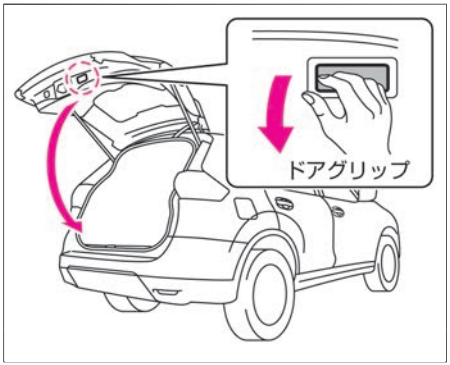
- バックドアオープナースイッチを押したまま、リモコンでドアを施錠･解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下している恐れがあります。お近くの日産販売会社にて、早めの点検を受けてください。

知識

- リモコンオートバックドア付車は、オート作動中にバックドアオープナースイッチを押すと、バックドアが途中で止まります。

バックドアの閉めかた

- ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。
- リモコンオートバックドア★については、（➔P.117）をお読みください。



アドバイス

- バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

次ページに続く

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **バックドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にバックドアを確実に閉める。**
  走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**
  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **走行前にバックドアが確実に閉まっていることを確認する。**
  バックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

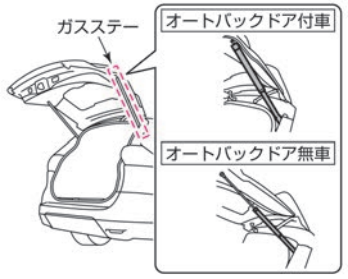
- **バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- **バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。
- **バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**
  重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。
- **バックドアを開けるときは、必ず全開にする。**
  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- **風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。**
  風にあおられ、急に閉まることがあります。
- **バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

<u>バックドアガスステーについて</u>

- **バックドアのガスステーは、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させない
- **ガスステーを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**
  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

次ページに続く

⚠ 注意



リモコンオートバックドア★

リモコンオートバックドアは、バックドアを自動的に開閉することができます。

リモコンオートバックドアの機能について

リモコンオートバックドアは、次の方法でバックドアを開閉することができます。

運転席スイッチ：
運転席スイッチでバックドアの開閉ができます。（➔P.120）

リモコンオートバックドア開閉スイッチ：
キー（インテリジェントキー）のスイッチでバックドアの開閉ができます。（➔P.121）

バックドアオープナースイッチ：
バックドアオープナースイッチでバックドアを開けることができます。（➔P.121）

ハンズフリーセンサー：
リヤバンパー下側に足先を出し入れするだけで、スイッチなどを押さずにバックドアの開閉ができます。（➔P.122）

バックドアインナースイッチ：
バックドアインナースイッチでバックドアを閉めることができます。（➔P.123）

また、リモコンオートバックドアには、次の機能があります。

挟み込み防止機構：
オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っかかりを検知すると、安全のため反対方向に作動します。（➔P.124）

オートクロージャー：
バックドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。（➔P.125）

ガレージモード：
オート作動時にバックドアを途中までしか開かなくすることができます。屋根の低い場所で開閉するときなどに、天井にバックドアがぶつからないように設定できます。（➔P.127）

知識

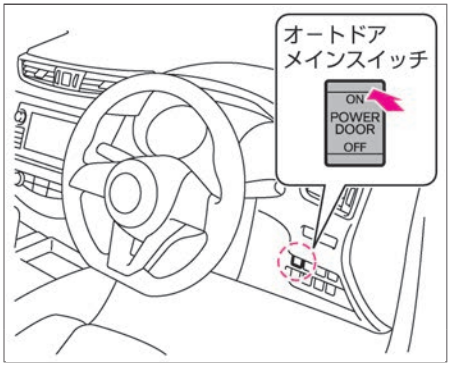
- オート作動でバックドアが閉まるときは、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。（➔P.125）
- オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。
- オートドアメインスイッチがONのとき、バックドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはバックドアを閉めると鳴り止みます。）

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リモコンオートバックドアの作動について

- オート作動は、以下の条件が満たされたときに作動させることができます。
  - オートドアメインスイッチがONのとき
  - 車両が停止しているとき



アドバイス

- オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。
- セレクトレバーが P に入っていないと運転席スイッチによる開操作は行えません。

知識

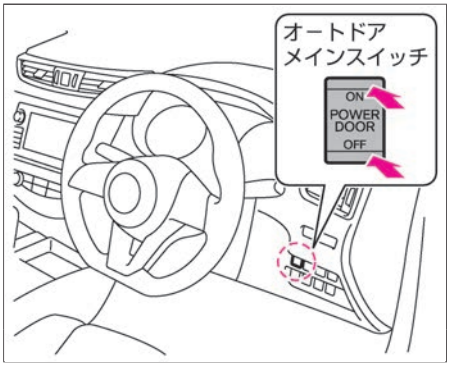
- バッテリーが弱ってる（電圧が11V未満）ときは作動しません。

リモコンオートバックドア★

リモコンオートバックドアの使いかた

オートドアメインスイッチで自動開閉機能のON･OFFを切り替えることができます。

- スイッチのON側を押すと、リモコンオートバックドアがONになります。
- スイッチのOFF側を押すと、リモコンオートバックドアがOFFになります。



知識

- オートドアメインスイッチをOFFにしてもオートクロージャーは作動します。
- オート作動中にオートドアメインスイッチをOFFにすると、バックドアが途中で止まります。

■ オートドアメインスイッチの作動

スイッチ表示	運転席スイッチによる開閉操作	リモコンによる開閉操作	バックドアオープナースイッチによる開操作	ハンズフリーセンサーによる開閉操作	バックドアインナースイッチによる閉操作
ON	**作動**	**作動※**	**作動**	**作動**	**作動**
OFF	非作動	非作動	非作動	非作動	非作動

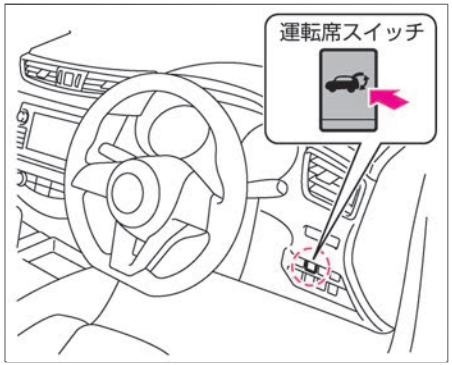
※：電源ポジションがONのときは作動しません。

次ページに続く

運転席スイッチによる開けかた・閉めかた

開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を確認してください。

- バックドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、バックドアが自動的に開きます。
  バックドアが施錠されているときは、解錠され自動的に開きます。
- バックドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。



知識

- 運転席スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

リモコンオートバックドア★

リモコンによる開けかた・閉めかた

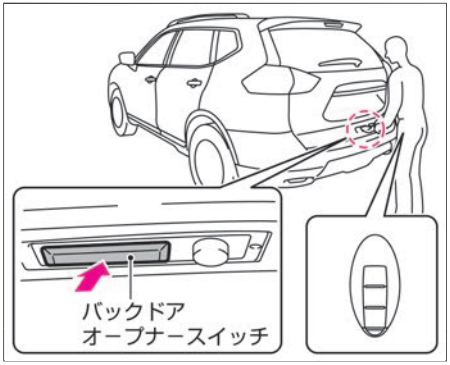
- 車に近づき、リモコンオートバックドア開閉スイッチを約1秒以上押します。
- オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒以上押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

知識

- バックドアが施錠されていても作動します。
- 電源ポジションがONのときはリモコンオートバックドア開閉スイッチでの開閉はできません。

バックドアオープナースイッチによる開けかた

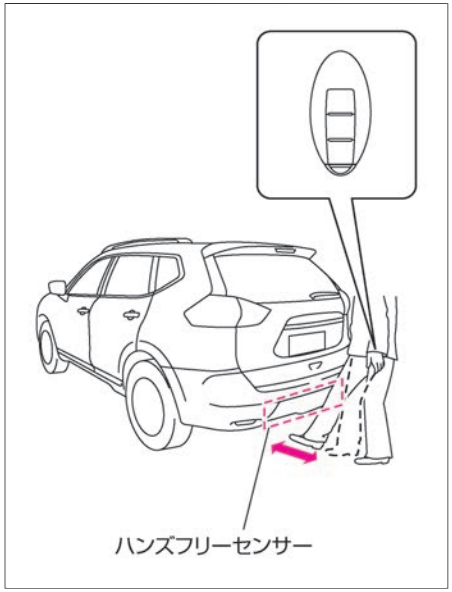
- バックドアが施錠時にキー（インテリジェントキー）を携帯し、バックドアオープナースイッチを押すとバックドアが自動的に開きます。
- バックドアが施錠されていないときは、キーを携帯していなくてもバックドアオープナースイッチを押すとバックドアが自動的に開きます。
- オート開作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全閉して停止します。



次ページに続く

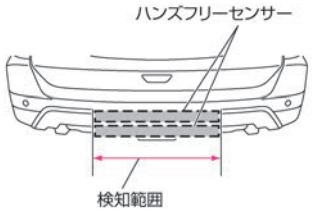
ハンズフリーセンサーによる開けかた

- リヤバンパー下部のセンサーによって足の動きを感知し、バックドアの開閉を自動的に行います。
- キー（インテリジェントキー）を携帯し、リヤバンパー下側に足先を入れてすぐに引くと自動的に開閉します。
（リヤバンパーの下に足を入れたままにしていると作動しません。）
- 施錠時は全ドアが同時に解錠し、バックドアが自動で全開します。
- オート作動中に、足先を入れて引く動作を行うと、その位置でオート作動を停止します。再度、足先を入れて引く動作を行うと、作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。



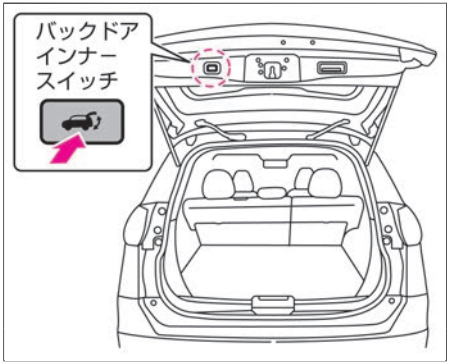
知識

- 施錠時にハンズフリーセンサーを使用すると、全ドアが解錠します。
- ハンズフリーセンサー周辺が汚れている場合は作動しない場合があります。きれいな布で拭いてください。
➔ リモコンオートバックドアに関する注意事項 (P.132)
- センサー周辺に水をかけると誤作動するおそれがあります。
- ハンズフリーセンサーは、センサー中心から左右に約400mmずつの範囲を検知します。



バックドアインナースイッチによる閉めかた

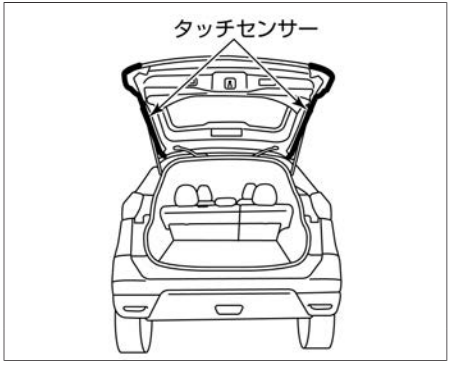
- バックドアが開いているとき、スイッチを押すと自動的に全閉します。
- オート閉作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全開して停止します。



次ページに続く

挟み込み防止機構について

- バックドアがオート作動中に、挟み込み、引っ掛かりなどを感知すると、バックドアが反対方向に動き、全開または全閉して停止します。
- バックドアがオート閉作動中にバックドア左右端部のタッチセンサーに触れると、バックドアが反対方向に動き、全開位置で停止します。



⚠ 注意

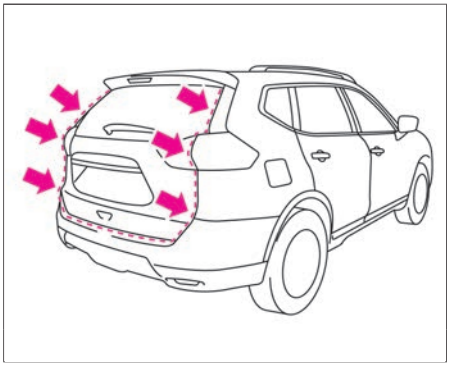
- **手などを挟まないように十分注意する。**
  挟まれる物や挟まれかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

アドバイス

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷つけないでください。
  タッチセンサーが切断されると、オート（自動開閉）機能は作動しなくなります。
- タッチセンサーが切断されたときは、安全のためにすみやかに日産販売会社に連絡をしてください。
- 全開位置付近で挟み込みを感知すると、バックドアは反転せずに停止することがあります。
- 挟み込み防止機構が2回連続で作動すると、バックドアが停止します。その場合は、バックドアを手動で閉めてください。
- バックドアオート作動時に乗り降りなどで車両が揺れると、バックドアが反転することがあります。

オートクロージャーについて

オートクロージャーは、自動的にバックドアを全閉させる機能です。
閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。



⚠ 注意

- **バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握らない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**
  手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押して閉めてください。

アドバイス

- 次のような場合はオートクロージャーが作動しません。アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されているときは、バックドアを一旦開け再度閉め直してください。
  - バックドアを開けて0.5秒以内に閉めたとき
  - バックドアオープナースイッチを押したあと、バックドアを開けなかったとき
- バッテリーが弱っているとオートクロージャーが作動しないことがあり

次ページに続く

アドバイス

ます。その場合は、手で強く閉めるかエンジンをかけてから閉め直してください。

- オートクロージャーの故障によりバックドアが閉まりきらないときは、バックドアを一旦開け、再度手で閉めてください。
- 荷物の積みすぎなどによりオートクロージャーで閉めきれない状態を繰り返すと、オートクロージャーが作動しなくなります。そのときは日産販売会社で点検を受けてください。

ガレージモードについて

バックドアを自動で開くとき、お好みの高さでバックドアを止める機能です。

次ページに続く

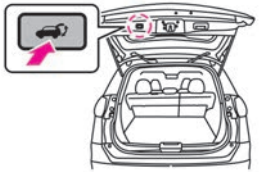
ガレージモードの設定のしかた

1	セレクトレバーを P に入れます。	
2	設定したい高さの位置までバックドアを開け、バックドアインナースイッチを約3秒押し続けます。	
3	ブザーが2回鳴れば設定完了です。 オートで開くと、バックドアが設定した高さで停止します。	

⚠ 注意

- **バックドアの止まる位置を1/3以下の高さに設定しない。**
  バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

ガレージモードの解除のしかた

1	セレクトレバーを P に入れます。	
2	全開位置までバックドアを手動で開けて、バックドアインナースイッチを約3秒押し続けます。	
3	ブザーが2回鳴れば解除完了です。	

次ページに続く

正常に作動しないとき

バックドアがオートで動かないときは、次の内容を確認してください。

- 連続作動後に動かないときは、バックドアを約5分間以上作動させずに放置した後、作動させます。
- バックドアが開いた状態のときは、一度手動で閉めてから作動させます。
- バッテリーが弱っている（電圧が11V未満）と、バックドアがオート開閉できないことがあります。その場合は、エンジンをかけてから作動させます。
- 運転席側面にあるヒューズボックスを確認します。
  ヒューズの交換のしかた（➔P.525）
  ヒューズを交換した後も、リモコンオートバックドアのヒューズが切れるときは、日産販売会社にご相談ください。
- オートドアメインスイッチがONになっていることを確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、キー（インテリジェントキー）を携帯しているか確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、センサー位置および足の動かしかたが正しいか確認してください。
  ➔ ハンズフリーセンサーによる開けかた (P.122)
- ハンズフリー機能を使うときは、リヤバンパーに足が接触しないようにしてください。センサーが正しく機能しない場合があります。
- ハンズフリー機能は電波塔付近などの電波環境下では正常に作動しないことがあります。その場合はバックドアオープナースイッチ、またはバックドアインナースイッチを押して開閉してください。
- ハンズフリーセンサーが作動しないときは、次の操作を確認します。
  – バックドアオープナースイッチが作動することを確認します。
  – 再度ハンズフリーセンサーの作動を確認します。
  – 作動しないときは、一度バッテリーのマイナス端子を外してリセットし、再度確認します。
  上記操作を行っても作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

- I-keyエントリー機能をOFFにすると、バックドアオープナースイッチによる解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
  ➔ バックドアオープナースイッチによる開けかた (P.121)
  ➔ ハンズフリーセンサーによる開けかた (P.122)

次ページに続く

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- **確実に停車している状態で開閉操作をする。**
- **開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。**
  バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷するおそれがあります。
- **車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。**
- **オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。**
  反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをするおそれがあります。

<u>ハンズフリーセンサーについて</u>

- **足以外でも、キー（インテリジェントキー）を携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、バックドアが開閉することがあるので注意する。**
  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、オートドアメインスイッチをOFFにする。**
  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- **バックドア付近にキー（インテリジェントキー）を携帯した人がいた場合、キーを携帯していない人がハンズフリーセンサーを使用して、バックドアを開閉できる場合があるので注意する。**
  思わぬケガをするおそれがあります。
- **マフラー付近で足を出し入れする場合は、やけどしないように注意する。**
  マフラー付近は排気の熱で熱くなっている場合があります。

⚠ 注意

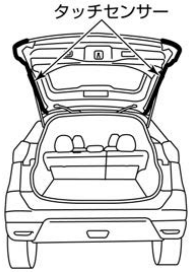
- **坂道や未舗装路、凍結した路面などで足を出し入れするときは注意する。**
  転んで思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- エンジン停止時に何回も作動させないでください。バッテリーがあがりエンジンの始動ができなくなります。
- オート作動中はエンジンを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。
- 車を発進させるときは、バックドアが全閉していることを確認してください。閉作動中に発進すると、反転して開き出すおそれがあります。
- 次の場合は、オートドアメインスイッチをOFFにしてください。
  - バックドアが故障したとき
  - バックドアを長時間開けたままにするとき
  - 洗車や整備を行うとき
  - 手動で使用するとき
- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷つけないようにしてください。センサーが切断されるとオートで作動しなくなります。また、オート閉作動中に切断されると、ドアが作動停止します。その後のオート閉作動もしません。

次ページに続く

アドバイス



- バッテリーあがりなどでリモコンオートバックドアへの電源供給が断たれたときや、オート作動中に反転作動（挟み込み防止機構を含む）を連続して作動させたときは、正常に作動しなくなることがあります。その場合は、一旦手動でバックドアを完全に閉めてください。

ハンズフリーセンサーについて

- 次のような使用環境では、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - ゴム長靴など、電気を通しにくい物を履いているとき
- 次のような足の動かしかたでは、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。
  - 検知範囲内に足を入れたままにしているとき
  - 足を左右に動かしたとき
  - 足の動かしかたが早過ぎたとき

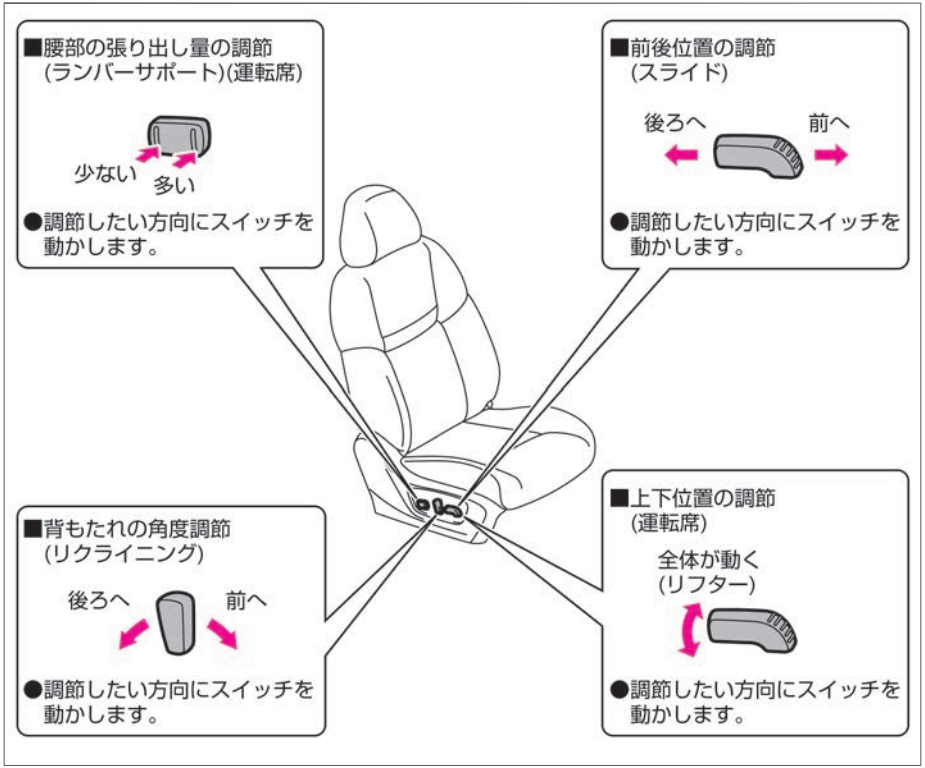
アドバイス

- ハンズフリーセンサー付近に、メッキ部品や金属部品などを貼ったり組み付けたりしないでください。ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 連続で開閉動作を行うと、安全装置が働き一定時間自動開閉できなくなることがあります。その場合は、少し時間をおいてから再度開閉してください。

知識

- 閉作動時、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。
  ➔ オートクロージャーについて (P.125)
- オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。
- オートドアメインスイッチがONのとき、バックドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはバックドアを閉めると鳴り止みます。）

シートの調節のしかた（パワーシート）



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

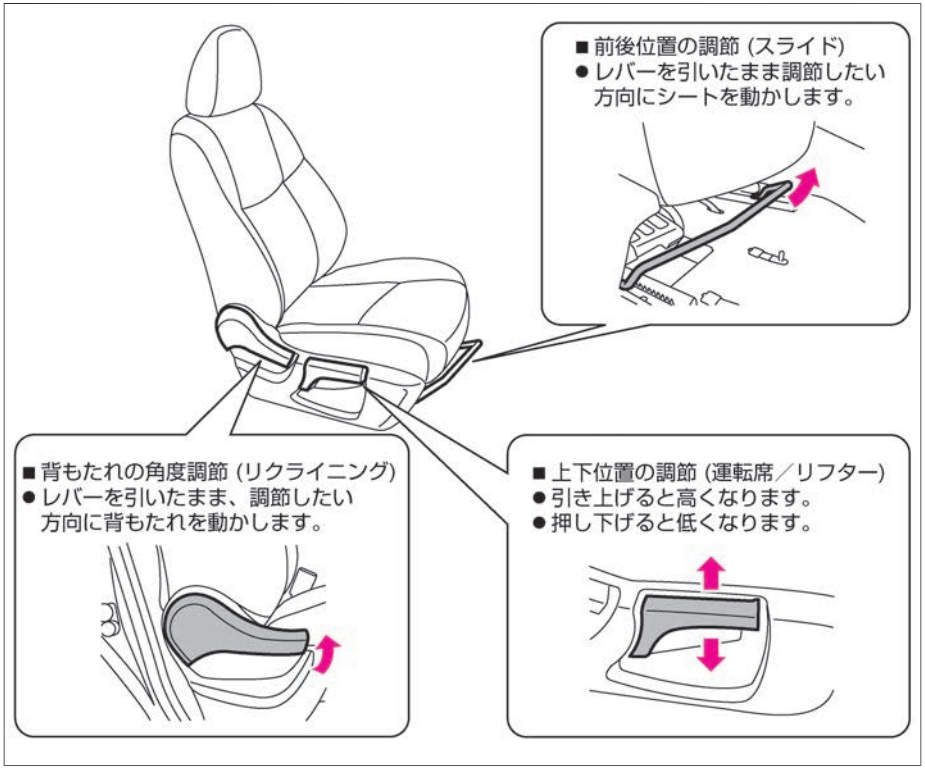
- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に

⚠ 注意

落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

次ページに続く

シートの調節のしかた（マニュアルシート）



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**

⚠ 注意

顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。

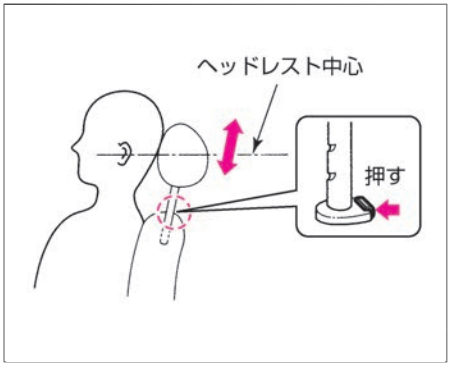
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

次ページに続く

ヘッドレストの調節のしかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**
  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

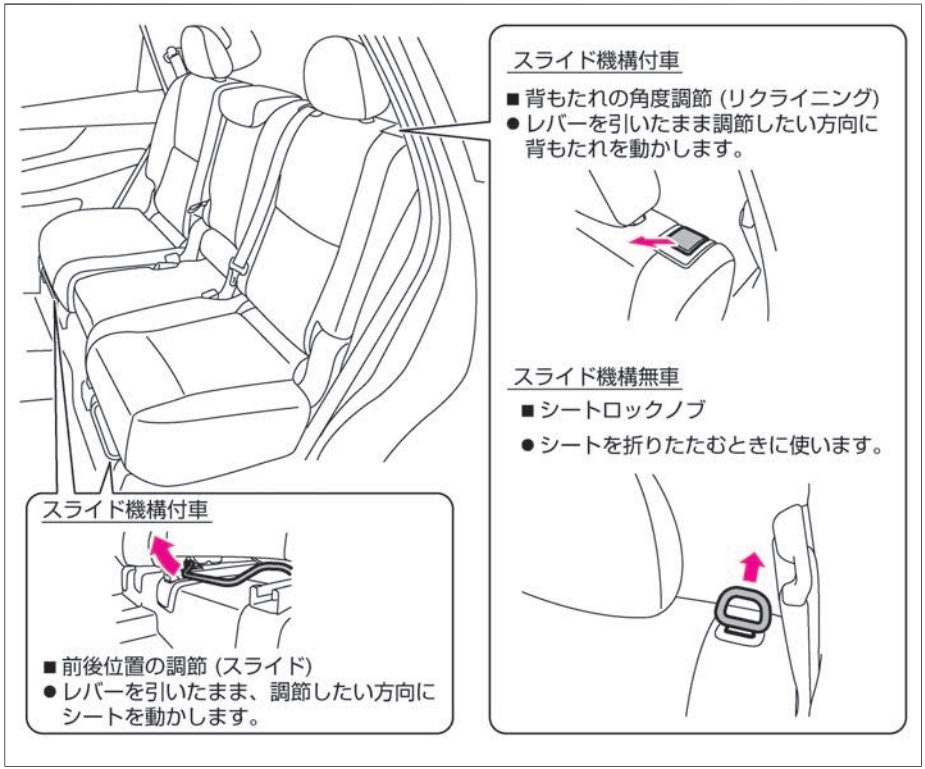
⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。（スライド機構付車）**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。（スライド機構付車）**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。（スライド機構付車）**
  車室内を清掃するときやシートの下に

次ページに続く

セカンドシート（2列車）

⚠ 注意

落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

シートの折りたたみかた

1	**スライド機構付車** リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前に倒します。 **スライド機構無車** シートロックノブを引きながら、背もたれを前に倒します。	スライド機構付車 スライド機構無車
2	元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。	

⚠ 警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

⚠ 注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがります。
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 物や飲み物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷をつけないように注意してください。
- フロントシートに当たりシートが折

次ページに続く

アドバイス

りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、フロントシートの前後位置を調節してください。

ヘッドレストの使いかた

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
  - 上げるときは、ボタンを押しながら引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

セカンドシート中央席

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。
  ➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.140)

アドバイス

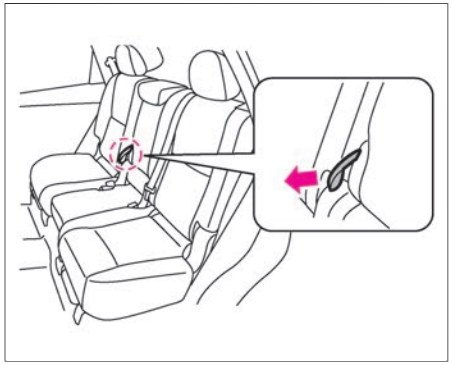
- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。
  ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

次ページに続く

アームレストの使いかた

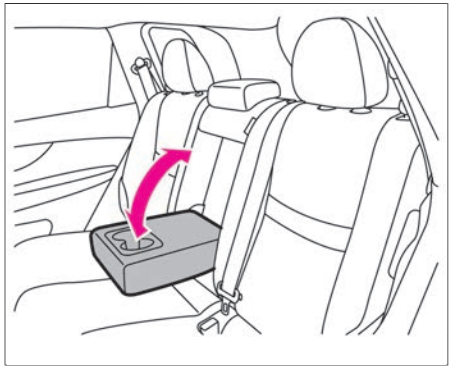
スライド機構付車

- 中央席にあるストラップを引いて、アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

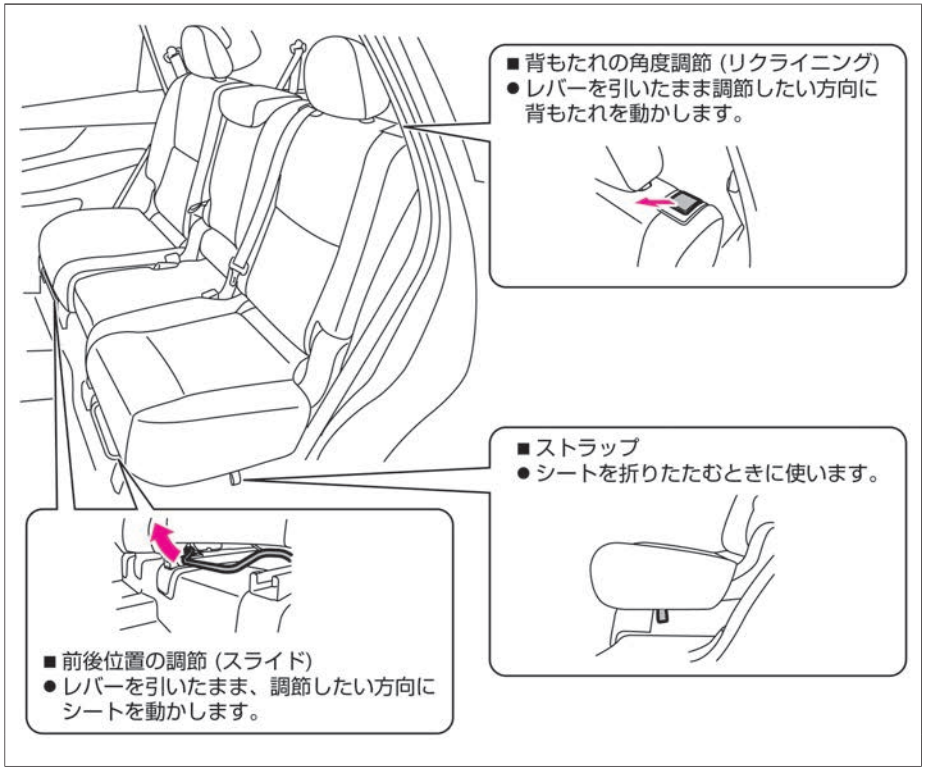


スライド機構無車

- アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に

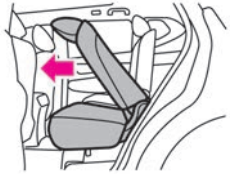
次ページに続く

セカンドシート（3列車）

⚠ 注意

落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームにあたり、ケガをするおそれがあります。

サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）

1	リクライニングレバーを引いて、背もたれが止まるところまで傾けます。	
2	シートを前方にスライドさせます。	
3	戻すときは、シートを後方にスライドさせたあと、背もたれを起こして固定します。	

⚠ 注意

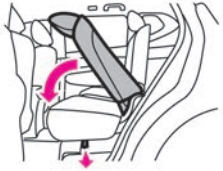
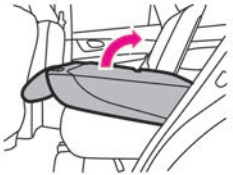
- **ウォークイン機構を作動させるときは背もたれを手で押さえ、ゆっくり作動させる。**
  急に背もたれが倒れたりシートがスライドすると、顔や身体などに当たったり、手や足を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- シートを倒すときは十分に注意してください。物や飲み物などを置いたままウォークイン機構を作動させないでください。物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。

次ページに続く

シートの折りたたみかた

1	リクライニングレバーを引いて、背もたれが止まるところまで傾けます。	
2	ストラップを横に引いて、さらに背もたれを倒します。	
3	元に戻すときは、背もたれを起こします。	

⚠ 警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- フロントシートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、シートの前後位置を調節してください。
- 物や飲み物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室

アドバイス

内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。

次ページに続く

ヘッドレストの使いかた

セカンドシート左右席

- ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。耳の高さにならない場合は、1段上のロックする位置まで上げて使います。
  - 上げるときは、ボタンを押しながら引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

セカンドシート中央席

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

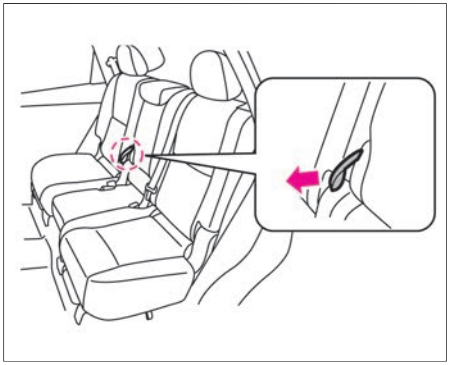
- 脱着のしかたは、フロントシートと同じです。
  ➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.140)

⚠ 注意

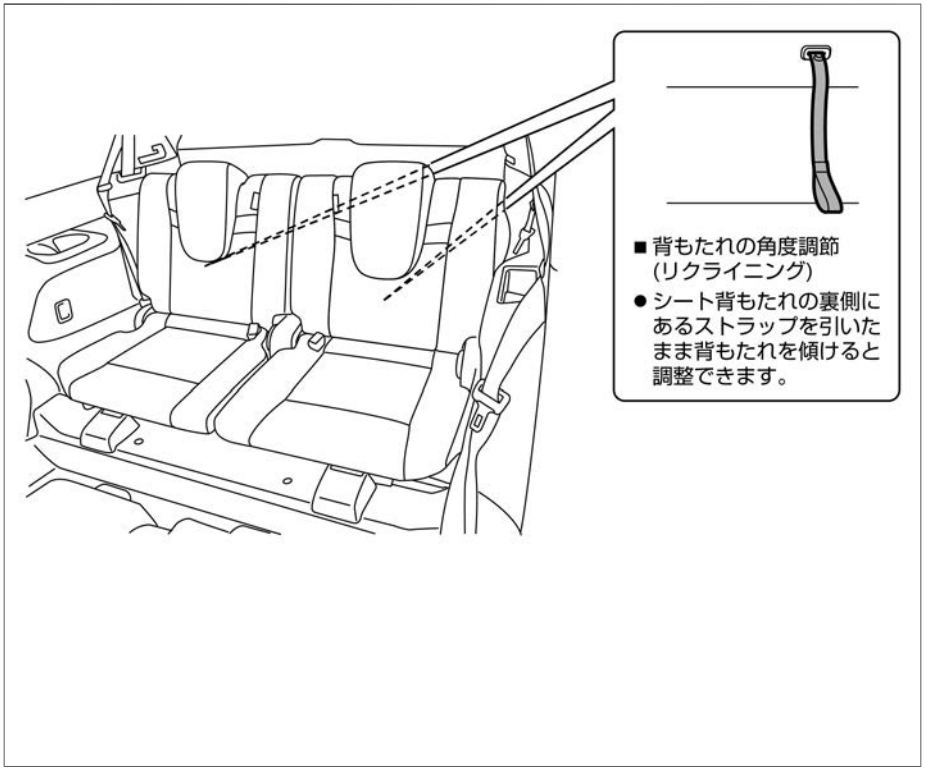
- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **セカンドシート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**
  格納状態では機能が十分に発揮できません。

アームレストの使いかた

- セカンドシート中央席にあるストラップを引いて、アームレストを前に倒します
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

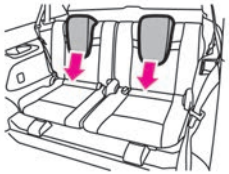
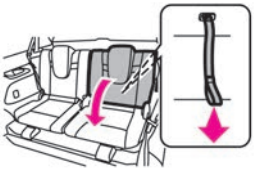
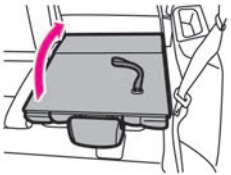
- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- サードシートに乗車するときは、セカンドシートのスライド位置を一番後ろから1段以上前の位置にしてください。

次ページに続く

シートの折りたたみかた

1	ヘッドレストを一番下に下げます。 ➔ ヘッドレストの使いかた (P.157)	
2	ストラップを引いたまま、背もたれを前に倒します。	
3	元に戻すときは、背もたれをロックする位置まで戻してから、ストラップを引いて背もたれの角度を調節します。	

⚠ 警告

- **シートを元の位置に戻したときは、確実に固定されたことを確認する。**

⚠ 注意

- **シートを倒すときは十分に注意する。**
  シートに人が乗っていたり、物や飲み物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。特にストラップで背もたれを倒すときは、シートで前方が見えにくいので注意してください。

知識

- ラゲッジルームから背もたれを元に戻すときは、ストラップを引いて起こすこともできます。

ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- ヘッドレストの脱着のしかたは、フロントシートと同じです。
  ➔ ヘッドレストの外しかた、付けかた (P.140)

⚠ 注意

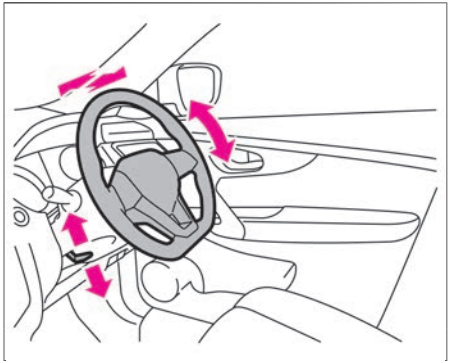
- **ヘッドレストはロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用する。**
  格納状態では機能が十分に発揮できません。

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

- ハンドル下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後･上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。

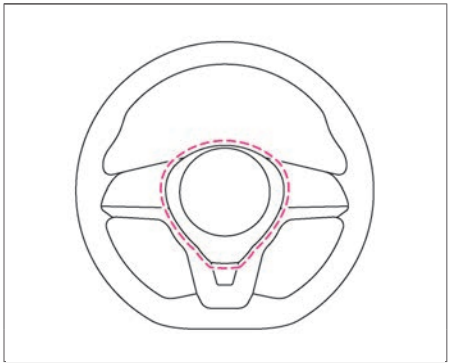


警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ホーンの鳴らしかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。



ルームミラー★

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節します。

ルームミラーの調節のしかた

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
- 昼間など通常走行時は、防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。

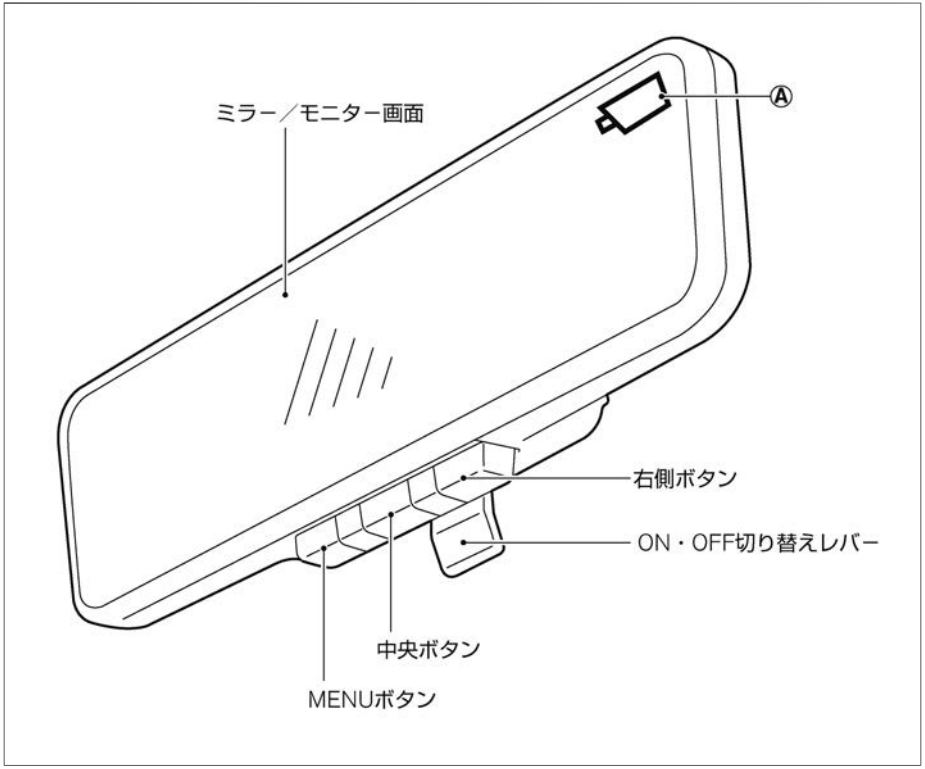
警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**
  走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

インテリジェント ルームミラー★

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況にかかわらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON･OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェント アラウンドビューモニター（➔P.407）を表示させることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



⚠ 注意

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**
  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

知識

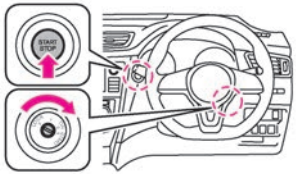
ルームミラーモード

- ミラーとして使用します。

インテリジェント ルームミラーモード

- モニターとして使用します。
  （インテリジェント ルームミラーモードのときは、Ⓐが表示されます。）

インテリジェント ルームミラー★

1	キースイッチ（電源ポジション）をONにします。	
2	インテリジェント ルームミラーのON･OFF切り替えレバーを手前に引きます。	
3	インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。 インテリジェント ルームミラーのON･OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。	

知識

- 周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。
- キースイッチ（電源ポジション）がONのときに中央ボタンを押すと、インテリジェント アラウンドビューモニター画面が表示されます。（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）
  ➔ インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ (P.407)

次ページに続く

インテリジェント ルームミラーの画質調節

インテリジェント ルームミラーモードのときに、MENUボタンを押すと、モニター画像の各種調節ができます。MENUボタンを押すごとに調節項目が切り替わります。

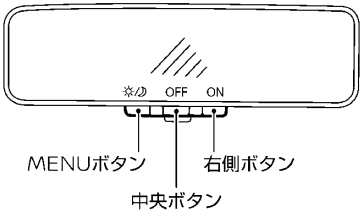
調節項目の切り替わりかた

MENU（通常画面）⇒ ☼ / ☽ （常時昼モード切り替え）（車幅灯またはヘッドランプ点灯時）⇒BRIGHTNESS（明るさ）⇒DOWN/UP（上下）⇒LEFT/RIGHT（左右）⇒ROTATION（回転）⇒INDICATION（モニター文字表示、非表示の切り替え）⇒CAMERA WINDOW（インテリジェント アラウンドビューモニター画面の表示位置切り替え）（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）⇒PLS（Point Light Sourceモード切り替え）⇒MENU（通常画面）

■ 常時昼モードのON･OFFのしかた（車幅灯またはヘッドランプ点灯時）

車幅灯またはヘッドランプを点灯させると、自動でモニターが夜モード ☽ になります。夜モード ☽ ではモニター画面の明るさを弱め、眩しさを軽減します。
日中や薄暮時、ヘッドランプを点灯させたときでも、夜モード ☽ にしたくないときは、設定をONにすると昼モード ☼ になります。
MENUボタンを押して、 ☼ / ☽ （常時昼モード切り替え）モードにします。

- 中央ボタンを押すと、OFF（夜モード ☽ ）になります。
- 右側ボタンを押すと、ON（昼モード ☼ ）になります。



知識

- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェント アラウンドビューモニター画面が表示されていないときに調節できます。
- MENUボタンで画質調節の項目を切り替えるときは、前の項目で調節したあと、5秒以内にボタンを押して切り替えてください。

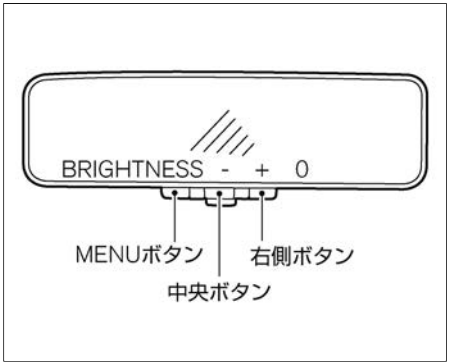
知識

- PLSモードがONのときは、この項目は表示されません。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにするたびに、設定はOFFになります。

■ 明るさ調節のしかた

MENUボタンを押して、明るさ調節（BRIGHTNESS）モードにします。

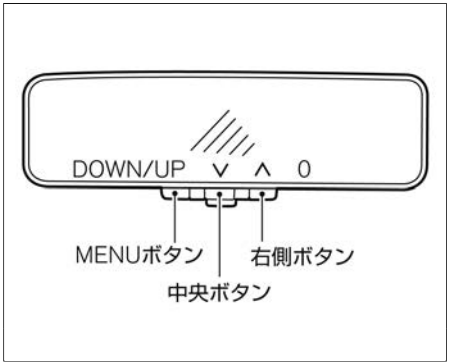
- 中央ボタンを押すと、画面が暗くなります。
- 右側ボタンを押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-6（暗い）～+6（明るい）



■ 画面の上下位置調節のしかた

MENUボタンを押して、画像位置の上下調節（DOWN/UP）モードにします。

- 中央ボタンを押すと、画像が下に移動します。
- 右側ボタンを押すと上に移動します。
- 調節幅：-4（下方向）～+4（上方向）

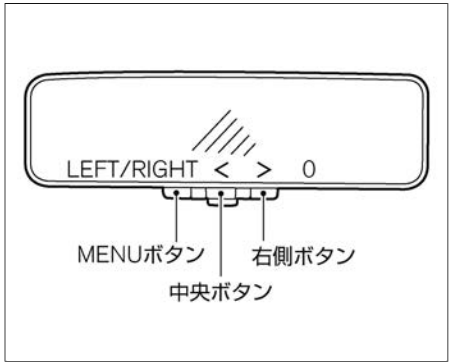


次ページに続く

■ 画面の左右位置調節のしかた

MENUボタンを押して、画像位置の左右調節（LEFT/RIGHT）モードにします。

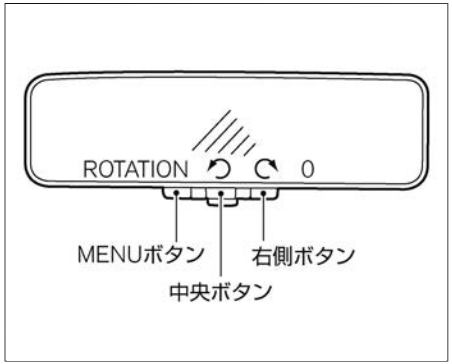
- 中央ボタンを押すと、画像が左に移動します。
- 右側ボタンを押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-4（左）～+4（右）



■ 画面の回転位置調節のしかた

MENUボタンを押して、画像位置の回転調節（ROTATION）モードにします。

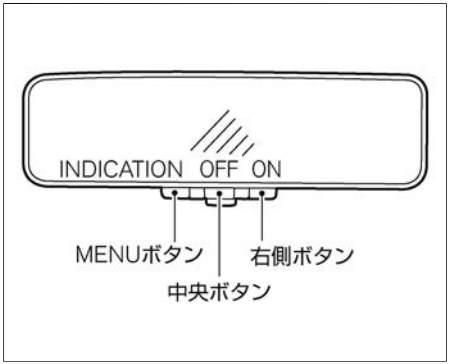
- 中央ボタンを押すと、画像が左に回転します。
- 右側ボタンを押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）



■ モニター文字表示のON･OFFのしかた

MENUボタンを押して、モニター文字表示、非表示を切り替える（INDICATION）モードにします。

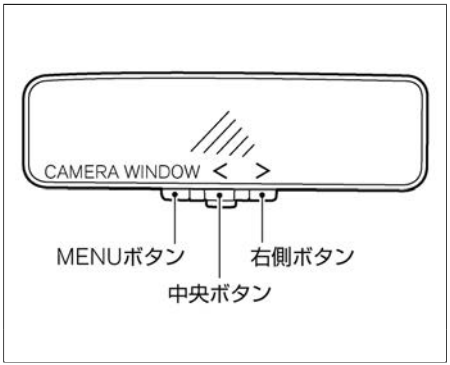
- 中央ボタンを押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- 右側ボタンを押すと、モニター文字表示が表示されます。



■ インテリジェント アラウンドビューモニター画面位置の切り替えかた（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

MENUボタンを押して、インテリジェントアラウンドビューモニター画面の表示位置を切り替える（CAMERA WINDOW）モードにします。

- 中央ボタンを押すと、インテリジェントアラウンドビューモニター画面がミラーの左側表示になります。
- 右側ボタンを押すと、インテリジェントアラウンドビューモニター画面がミラーの右側表示になります。



次ページに続く

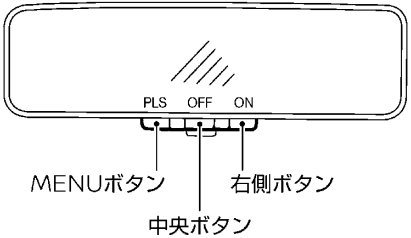
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ PLSモードのON･OFFのしかた

MENUボタンを押して、PLS（Point Light Sourceモード切り替え）モードにします。

- 中央ボタンを押すと、OFFになります。
- 右側ボタンを押すと、ONになります。

PLSモードは、後方の車両のヘッドランプがまぶしいときなどに使用するとヘッドランプを認識しやすくなります。

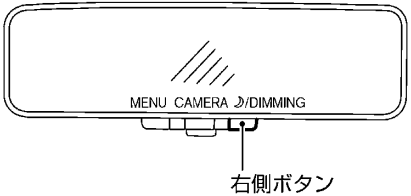


知識

- PLSモードがONのときは、画面右上に「PLS」と表示されます。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにするたびに、設定はOFFになります。

■ DIMMINGモードの切り替えかた（車幅灯またはヘッドランプ点灯時）

夜モード ☽ 時の画面が明るいと感じたときに右側ボタンを押すと、モニター画面の明るさを弱め、眩しさを軽減します。（DIMMINGモード）
もう一度右側ボタンを押すと、夜モード ☽ に切り替わります。
※メーカーオプションナビゲーションシステム装着車には「CAMERA」は表記されません。



知識

- DIMMINGモード時は、画面右上に「DIMMING」と表示されます。
- PLSモードがONのときは、この項目は表示されません。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにするたびに、設定は夜モード ☽ になります。

インテリジェント ルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**
  インテリジェント ルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**
  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。
- **走行中に操作しない。**
  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**
  破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- **インテリジェント ルームミラーが故障したときは、すぐにルームミラーモードに戻す。**
- **モニターを凝視しない。**
  - 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- **太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェント ルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

次ページに続く

アドバイス

- エンジンが停止している間にインテリジェント ルームミラーを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。
- 無線機のアンテナをインテリジェント ルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、インテリジェント ルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障に原因になります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを90度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障するおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 素早い動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- 夕暮れ時やトンネル、立体駐車場などではヘッドランプを点灯してください。ヘッドランプを点灯すると、モニターおよびカメラシステムが夜モードになり、眩惑を防ぎます。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェント ルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心掛けてください。

アドバイス

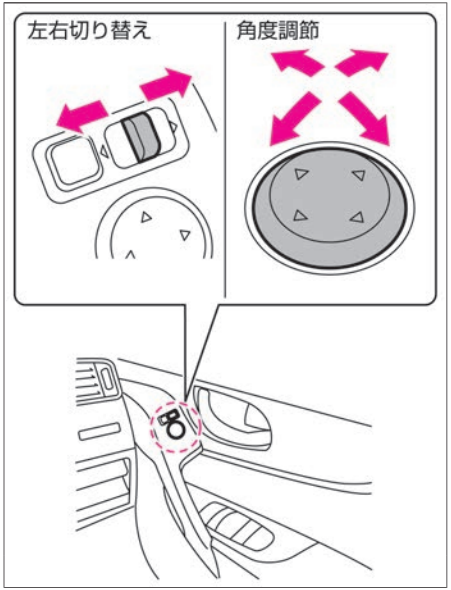
- モニターの明るさを明るく調節し過ぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェント ルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。
  ➔ 外観リヤ (P.3)
  ➔ インテリジェント ルームミラーのお手入れ★ (P.588)
- バックドアガラスがくもった場合は、リヤウインドーデフォッガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまでルームミラーモードで使用してください。
- インテリジェント ルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- インテリジェント ルームミラーのお手入れについては（➔P.588）をお読みください。

ドアミラー

キースイッチ（電源ポジション）がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。
ACC状態については、オートACC機能（➔P.215）をお読みください。

ドアミラーの角度調節のしかた

- 左右切り替えスイッチを、調節したいミラーの方に動かします。
- 角度調節スイッチを前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

ドアミラーの格納のしかた

- スイッチを押すと、左右のミラーが格納します。
- スイッチをもう一度押すと、元の位置に戻ります。

⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**
  手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**
  後方確認ができないため危険です。

アドバイス

- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 次の条件のとき、手動で開閉すると開閉スイッチの位置によりミラーが動き出すことがあります。

次ページに続く

知識

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたとき
- リモコン（インテリジェントキー）機能で解錠したとき
- 運転席ドアを開けたとき

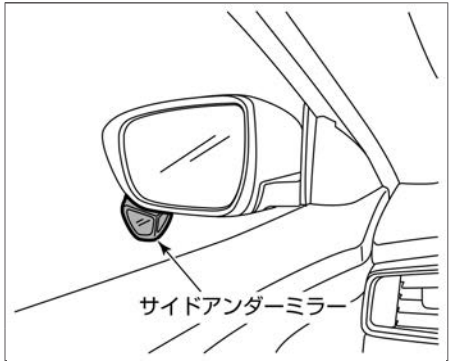
ドアミラーヒーターの使いかた

- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.518）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

サイドアンダーミラー★

サイドアンダーミラーについて

- 発進時や停車時に、車両の左側すぐ下の状況を確認するために使います。
  ※インテリジェント アラウンドビューモニター付車には付きません。



⚠ 注意

- **発進時や停車時にはサイドアンダーミラーだけでなく、直接目視で周囲の安全を確認する。**
- **走行中に後方を確認するときは、ルームミラーまたはドアミラーで確認する。**
  サイドアンダーミラーは車の近くを確認するため、角度が下向きにセットされています。

アドバイス

- サイドアンダーミラーは固定式です。破損するおそれがあるため無理に動かさないでください。

パワーウインドー

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき操作できます。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

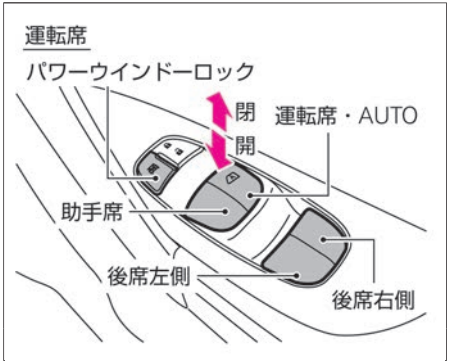
運転席の窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

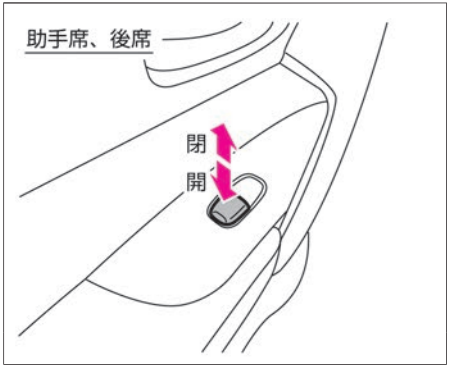
- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- パワーウインドーロックスイッチを押し込むと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すとロックが解除されます。





⚠ 警告

- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、パワーウインドーロックスイッチを押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときはキースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、

次ページに続く

警告

キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 運転席の窓ガラスをワンタッチで閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

運転席窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① エンジンを始動します。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認し、正常に作動しないときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

パノラミックガラスルーフ★

電源ポジションがONのときに操作できます。

パノラミックガラスルーフについて

- パノラミックガラスルーフには、下記の機能があります。
  - サンシェードの開閉（➔P.178）
  - ガラスルーフのチルトアップ（➔P.180）
  - ガラスルーフの前後開閉（➔P.181）

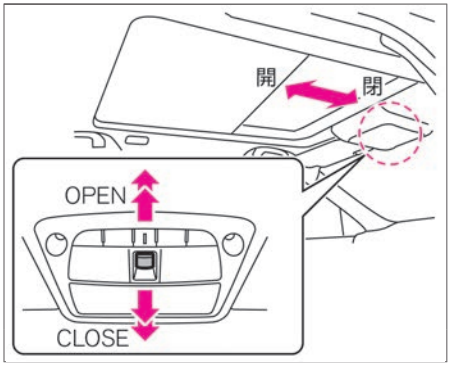
サンシェードの開けかた、閉めかた

開けるには

- スイッチをOPEN側に軽く押すと、サンシェードが自動で全開します。

閉めるには

- スイッチをCLOSE側に軽く押すと、サンシェードが全閉します。
- ガラスルーフが開いているときは、スイッチをCLOSE側に強く押します。（ガラスルーフが連動して閉まります。）
- 途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。



⚠ 警告

- **乗員の操作を含めガラスルーフ開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は手や顔、物などを車外に出さないでください。走行時に車外のものに当たる、また急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります
  - ガラスルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意してください。また、お子さまには操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 車から離れるときはキースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、キーとお子さまを車内に残さない

⚠ 警告

でください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

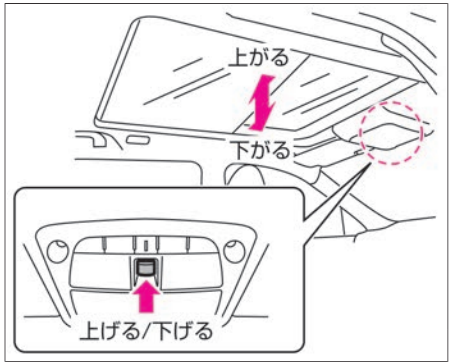
ガラスルーフのチルトアップのしかた

チルトアップするには

- スイッチを上に押すと、ガラスルーフの後部が上がります。
  （サンシェードが閉じているときは連動して開きます。）

閉めるには

- もう一度スイッチを上に押すか、CLOSE側に軽く押すとガラスルーフの後部が下がります。
- スイッチをCLOSE側に強く押すとサンシェードも連動して閉まります。



知識

- チルトアップしたまま、ガラスルーフの前後開閉はできません。

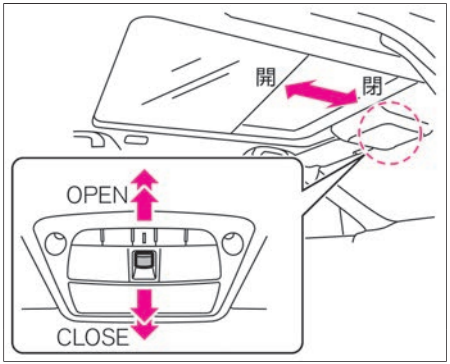
ガラスルーフの開けかた、閉めかた

開けるには

- スイッチをOPEN側に強く押すと、自動でコンフォートモード位置まで開きます。（サンシェードが開いているときは軽く押しても開きます。）
- コンフォートモード位置から、さらにスイッチをOPEN側に押すと全開します。

閉めるには

- スイッチをCLOSE側に強く押すと、自動で全閉します。（サンシェードも連動して閉まります。）
- 途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。



知識

コンフォートモード

- パノラミックガラスルーフを開けたまま走行するときの位置です。
  パノラミックガラスルーフを全開にして走行すると、風切音が大きくなる場合があります。走行するときは、コンフォートモードの位置でご使用ください。

次ページに続く

挟み込み防止機構

自動でガラスルーフを閉めるときに、車体とガラスルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、ガラスルーフが停止し、自動で開き始めます。

注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  ガラスルーフを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ガラスルーフを自動で閉めることができないときは、ガラスルーフスイッチを閉方向に繰り返し押して閉めてください。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がガラスルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パノラミックガラスルーフの注意事項

⚠ 警告

- **走行中は顔や腕、物などを車外に出さない。**
  車外の物に当たる、または急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ガラスルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意する。また、お子さまには操作させない。**
  重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **運転中はパノラミックガラスルーフの開閉操作を行わない。**
  前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- **ルーフに水や雪などがあるときは開けない。**
  突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せるなど、大きな力をかけないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためパノラミックガラスルーフを必ず閉めてください。
- 正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

燃料補給口

燃料補給口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

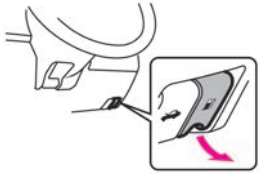
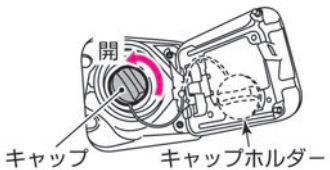
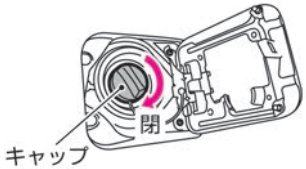
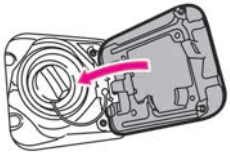
燃料タンクの容量は、約60ℓです。

エンジン型式	指定燃料
MR20DD	無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。

開けかた、閉めかた

1	運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。	
2	キャップを左にゆっくり回して開けます。 補給時、キャップはリッドの裏側にあるキャップホルダーに置きます。	
3	閉めるときは、キャップを“カチッ、カチッ”と、2回以上音がするまで右に回して閉めます。	
4	リッドを閉めます。	

⚠ 警告

- **キャップは確実に閉める。**
  閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- **日産純正品以外のキャップは使用しない。**

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

燃料補給時の注意事項

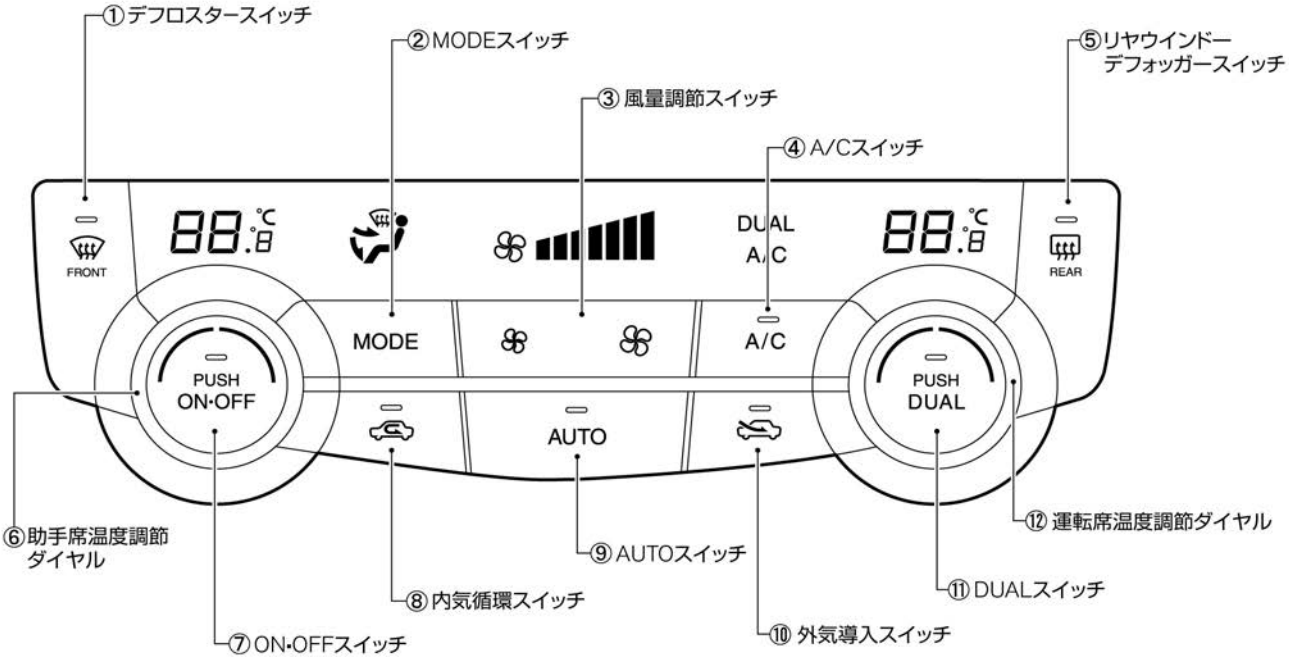
⚠ 警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - エンジンを止める
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない
  - 気化した燃料を吸わない
- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**
  放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。
- **補給作業はひとりで行う。**
  作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- **キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外す。**
  急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**
  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**
  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

オートエアコン★

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。
また内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで自動制御に切り替えます。

各スイッチの名称と機能



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オートエアコン★

① **デフロスタースイッチ（➔P.517）**
フロントガラスのくもりを取ります。

② **MODEスイッチ（➔P.195）**
吹き出し口を切り替えます。

③ **風量調節スイッチ**
風量を切り替えます。

④ **A/Cスイッチ**
冷房･除湿機能のON･OFF を切り替えます。

⑤ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.518）**
バックドアガラスのくもりを取ります。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

⑥ **助手席温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して助手席の設定温度を切り替えます。（18°C～ 32°C）

⑦ **ON･OFFスイッチ**
オートエアコンのON･OFFを切り替えます。

⑧ **内気循環スイッチ**
トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときに使います。

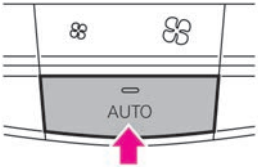
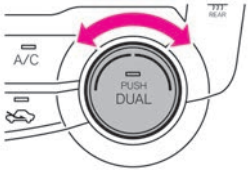
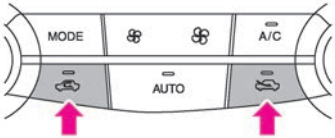
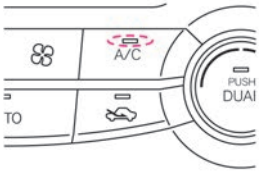
⑨ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑩ **外気導入スイッチ**
外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。

⑪ **DUALスイッチ**
スイッチを押すごとに左右独立モードのON･OFFが切り替わります。

⑫ **運転席温度調節ダイヤル**
左右独立モード（DUALスイッチ）がONのとき、ダイヤルを左右に回すと運転席の設定温度が切り替わります。
左右独立モード（DUALスイッチ）がOFFのとき、ダイヤルを左右に回すと運転席･助手席の設定温度が切り替わります。

オートでの使いかた

1	AUTOスイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
2	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右回し： 設定温度を上げる 左回し： 設定温度を下げる	
3	内気循環スイッチもしくは外気導入スイッチで点灯している方のスイッチを約2秒間押し続けます。 スイッチの表示灯が2回点滅すると自動制御モードに切り替わります。	
4	A/Cスイッチの表示灯が消灯しているときは、A/Cスイッチを押します。 (スイッチの表示灯が点灯) A/Cスイッチ点灯時：冷房･除湿機能ON	

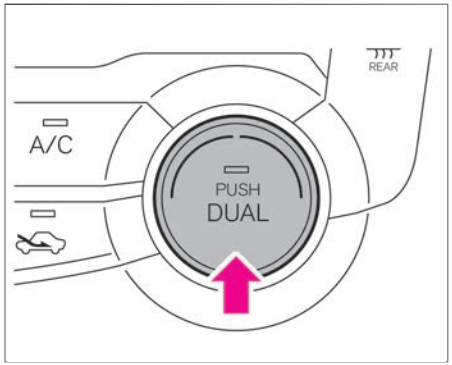
知識

- オートで使用中に風量の調整または吹き出し口の切り替えを行うとAUTOスイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。 また内気循環／外気導入が自動制御モード中に内気循環スイッチもしくは外気導入スイッチを押すと、押したスイッチの表示灯が点灯しマニュアルモードに切り替わります。
- キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、再度キースイッチ（電源ポジション）をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

次ページに続く

運転席と助手席それぞれの温度調節のしかた

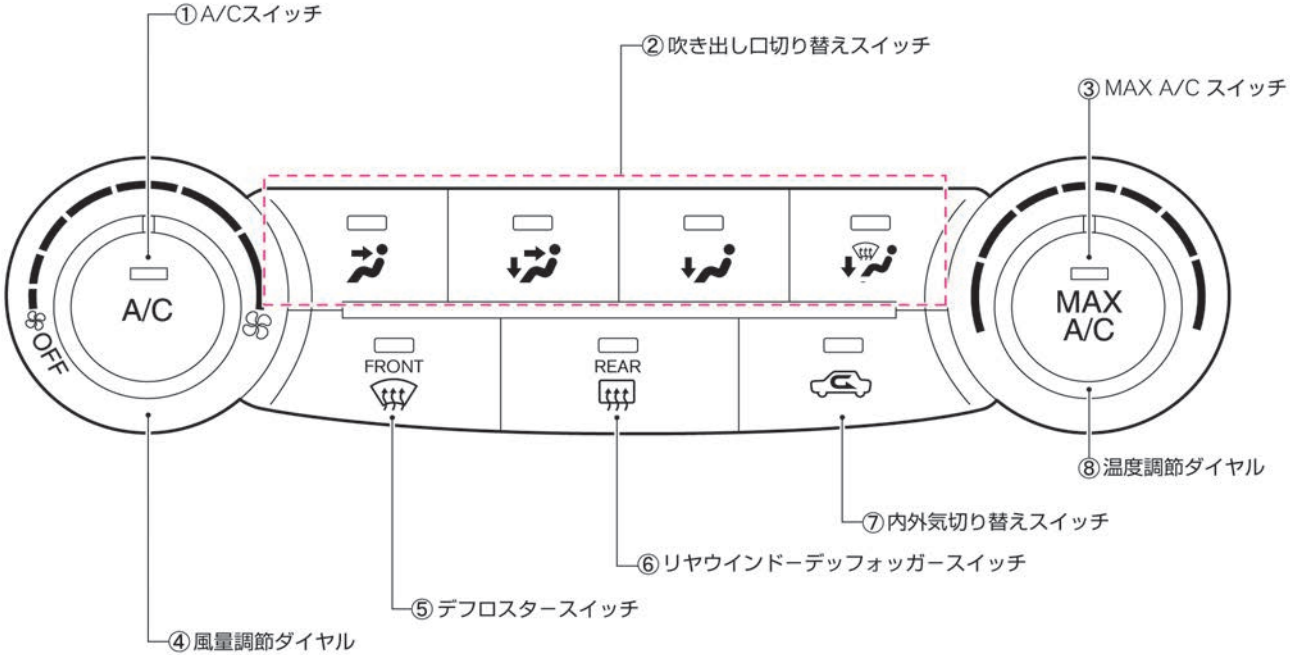
- DUALスイッチを押す、または助手席の温度調節ダイヤルで希望の設定温度に調節すると、運転席と助手席を別々の設定温度に調節できます。
- 解除するときは、DUALスイッチを押します。



知識

- デフロスタースイッチの表示灯が点灯しているときは、運転席と助手席を別々の設定温度に調節することができません。

各スイッチの名称と機能



次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **A/Cスイッチ**
冷房･除湿機能のON･OFFを切り替えます。

② **吹き出し口切り替えスイッチ（➔P.195）**
吹き出し口を切り替えます。

③ **MAX A/Cスイッチ**
スイッチを押すと、A/CがON、内外気切り替えスイッチが内気循環、吹き出し口が に切り替わります。（ の表示灯は点灯しません。）

④ **風量調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風量を切り替えます。

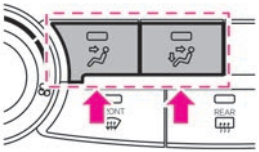
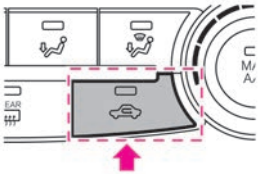
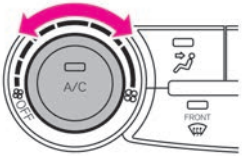
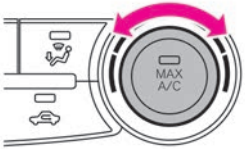
⑤ **デフロスタースイッチ（➔P.517）**
フロントガラスのくもりを取ります。

⑥ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.518）**
バックドアガラスのくもりを取ります。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

⑦ **内外気切り替えスイッチ**
内気循環／外気導入を切り替えます。
内気循環（表示灯が点灯）：トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときに使います。
外気導入（表示灯が消灯）：外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。

⑧ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風の温度を調節します。

マニュアルエアコンの使用例（冷房）

1	吹き出し口を切り替えます。	
2	内外気切り替えスイッチで、内気循環･外気導入を切り替えます。	
3	風量調節ダイヤルを回します。 右回し： 風量を上げる 左回し： 風量を下げる	
4	温度調節ダイヤルを回します。 右回し： 設定温度を上げる 左回し： 設定温度を下げる	

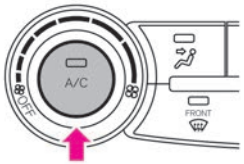
知識

- 外気温が0°C近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコン（冷房･除湿機能）が作動しないことがあります。

内外気切り替えスイッチについて

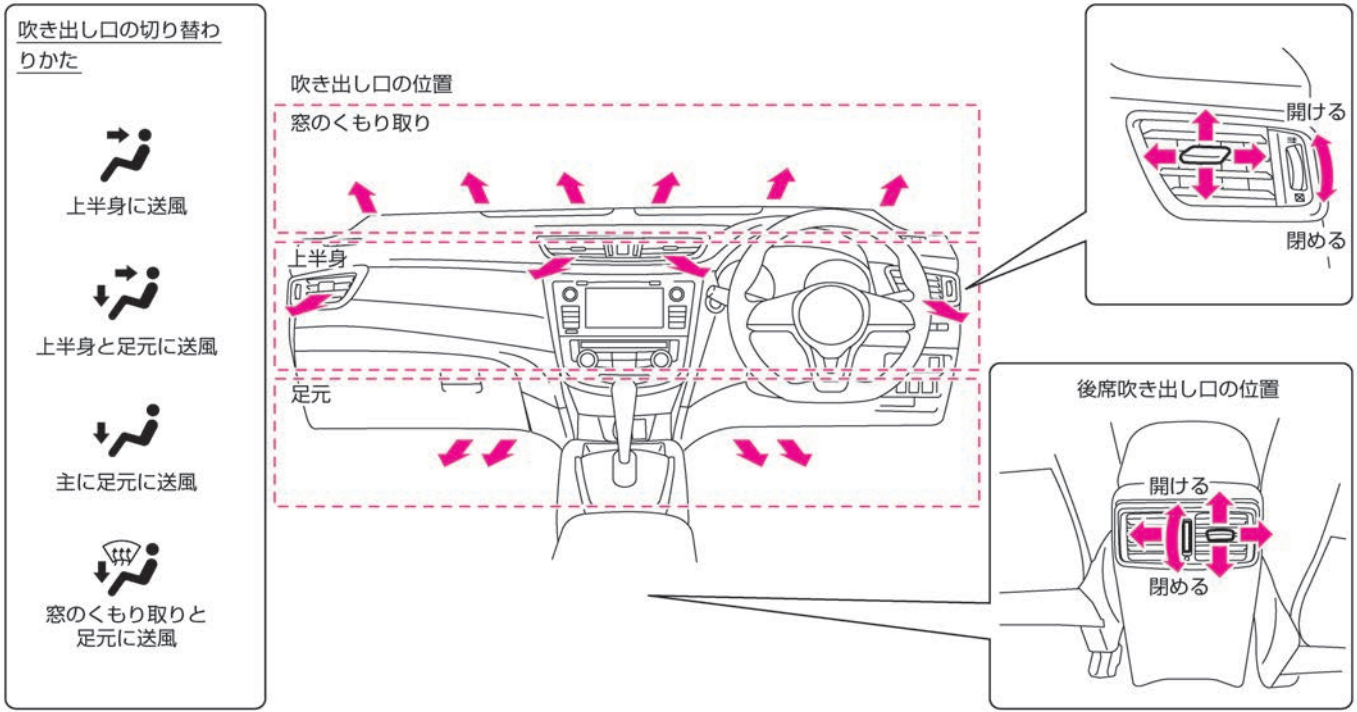
- 外気導入（消灯）：外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。（通常はこの位置で使います）
- 内気循環（点灯）：トンネル内や渋滞などで外気が汚いときや、早く冷房を効かせたいときに使います。

次ページに続く

5	A/Cスイッチを押します。 冷房･除湿機能ON：表示灯が点灯 冷房･除湿機能OFF：表示灯が消灯	

吹き出し口

オートエアコン付車は、MODEスイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。
マニュアルエアコン付車は、吹き出し口切り替えスイッチを押すと吹き出し口が切り替わります。



エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

- **内気循環で長時間使用しない。**
  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険ですので、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

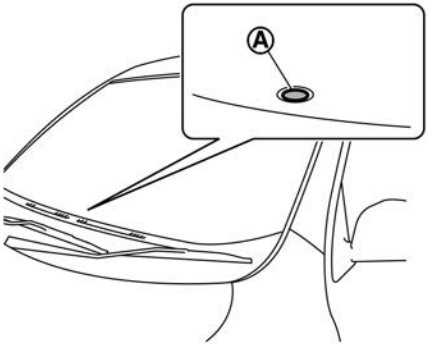
- **吹き出し風を長時間連続して身体にあてない。**
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間あたらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- **デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

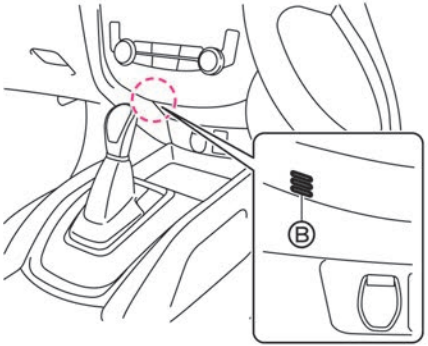
アドバイス

- オートエアコン付車の自動温度調節は、日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

エアコンを使うときに注意すること

アドバイス





次ページに続く

エアコンを使うときに注意すること

アドバイス

- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンフィルターは定期的に交換してください。
  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと
- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどきA/CスイッチをONにしてください。なお、外気温が0°C近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ずHFC134a（R134a）を入れてください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。
- この車両では、エアコンのシステムに特殊なオイルを使用しています。エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。

エアコンを使うときに注意すること

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0°C近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、“カチカチ”、“シュー”、“コツン”などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターへの風量が多くなります。

エアコンのにおいについて

- エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた★

安全運転のために

- 運転中は車外の音がきこえる程度の音量でお聞きください。

警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
  前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**
  大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

ラジオの受信について

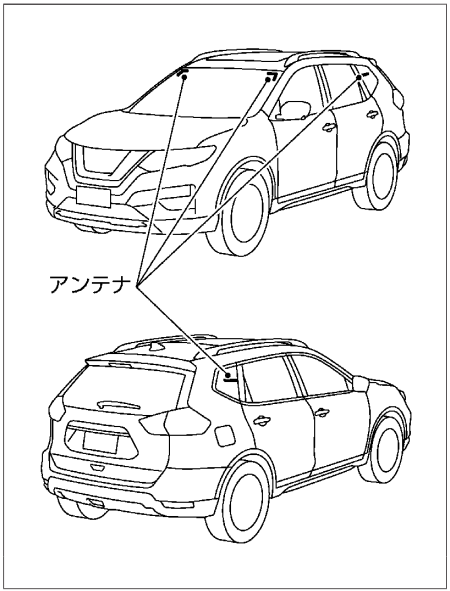
- ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。

知識

- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

ガラスアンテナについて

- アンテナ線はフロントガラス、リヤサイドガラスの内側にあります。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車にはフロントガラスのガラスアンテナはありません。



アドバイス

- フロントガラス、リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- フロントガラス、リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。
  ➔ ガラスの汚れ取り (P.587)
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ステアリングスイッチ

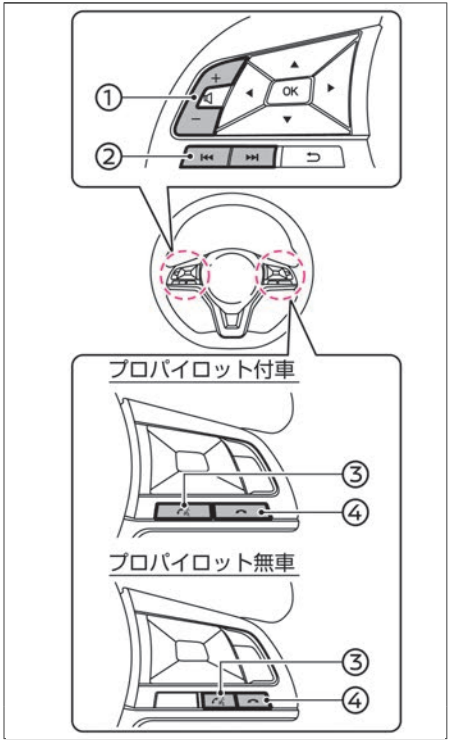
メーカーオプションナビゲーションシステム、または日産オリジナルナビゲーションシステムを操作することができます。

① **音量スイッチ**
音量を調節できます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **通話開始スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。

④ **通話終了スイッチ**
通話中に押すと電話を切ります。



知識

- 取り扱いについては、ナビゲーションシステム取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
- 日産純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

始動する

エンジンスイッチ（インテリジェントキー付車） P.205
キースイッチ（リモートコントロールエントリーシステム付車） P.210
オートACC機能 P.215

運転する

セレクトレバー P.216
パーキングブレーキ★ P.222
電動パーキングブレーキ★ P.223
オートブレーキホールド★ P.228
発進 P.233
停車･駐車 P.236

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.238
ヘッドランプレベライザースイッチ P.248
フォグランプスイッチ★ P.250
ワイパー･ウォッシャースイッチ P.251

運転支援機能

ECOモード P.256
アイドリングストップ P.260
クルーズコントロール★ P.266
4WD（4輪駆動）車の扱いかた★ P.271
インテリジェント 4×4★ P.274
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.278
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.279
シャシー制御 P.282
アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★ P.287
ヒルスタートアシスト P.290
走行支援システム P.292
プロパイロット★ P.294
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.332
踏み間違い衝突防止アシスト P.343
BSW（後側方車両検知警報）★ P.365
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ P.375
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.383
RCTA（後退時車両検知警報）★ P.389
インテリジェント DA（ふらつき警報）★ P.398
進入禁止標識検知 P.401

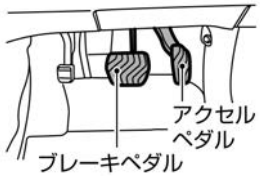
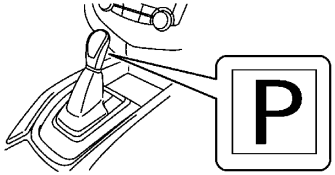
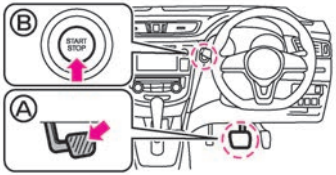
（次のページに続く）

カメラシステム

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ P.407

インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項★ P.422

エンジン始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.12）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。	
2	パーキングブレーキがかかっていることと、セレクトレバーがPに入っていることを確認します。	
3	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、エンジンスイッチⒷを1回押します。	

⚠ 警告

- **エンジンを始動する前にペダルの位置を確認する。**
  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **エンジンを始動するときは、必ず運転席に座る。**
  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **セレクトレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**
  スターターモーターが回転中にセレ

次ページに続く

警告

クトレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン始動前のブレーキ操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ブレーキペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、エンジンが始動しません。ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
- エンジンの始動を連続して行うと保護機能が作動し、エンジンがかからなくなることがあります。その場合は、3分以上待ってから再度エンジンスイッチを押して始動してください。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

エンジンがかかりにくいときは

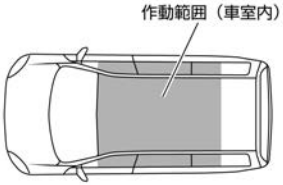
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチを一度押してください。

知識

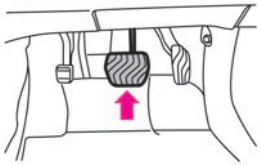
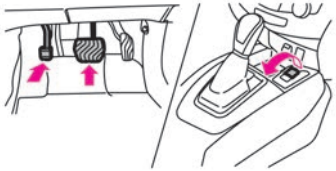
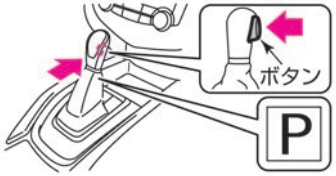
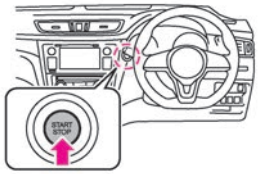
ブレーキペダル、アクセルペダルは離さず、約5秒後にもう一度エンジンスイッチを押してください。その後、再度手順3の操作をしてください。

エンジンが暖まっているときの始動

- 高速走行後や登坂走行後などエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを少し（踏み込み量の約1/5）踏み込んだ状態でエンジンを始動し、エンジンがかかったら、アクセルペダルをエンジン回転数の上昇に合わせて徐々に戻します。
- キーによるエンジン始動の作動範囲は車室内です。（ラゲッジルーム内は除きます。）



エンジン停止のしかた

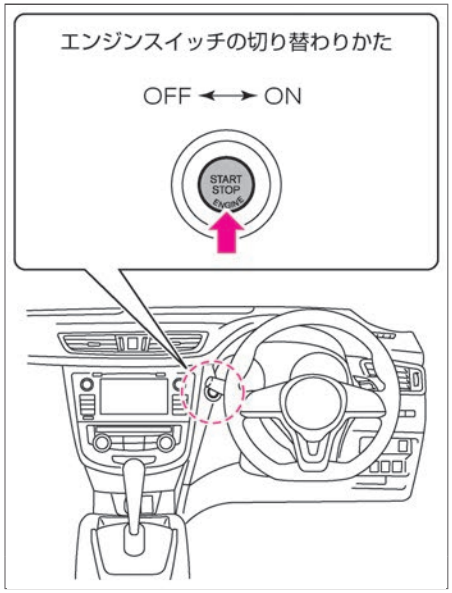
1	ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。	
2	ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。 ➔ パーキングブレーキのかけかた (P.222) ➔ 電動パーキングブレーキのかけかた (P.223)	
3	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクトレバーを P に入れます。 ➔ セレクトレバーの操作 (P.216)	
4	エンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。	

次ページに続く

電源ポジションの切り替えかた

電源ポジション	働き
OFF	● オーディオ★、ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● エンジンを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

● キーを携帯しているときに、次の作動をします。
  – ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。
  – ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。
  – エンジン回転中にエンジンスイッチを押すと、エンジンが停止します。



アドバイス

● バッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はエンジンをかけた状態でご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

● 電源ポジションがOFFのとき、いずれかのドアを開けるか、または閉めるとハンドルロック（ステアリングロック）が作動します。
➔ ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは (P.487)
● 電源ポジションがOFFの位置でも、ACC状態のときはオーディオ、ドアミラーなどの電装品を使うことができます。
ACC状態については、オートACC機能（➔P.215）をお読みください。

非常停止のしかた

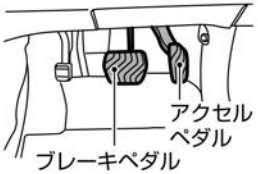
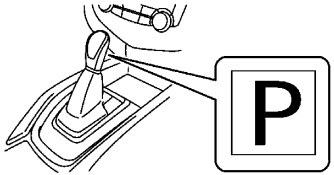
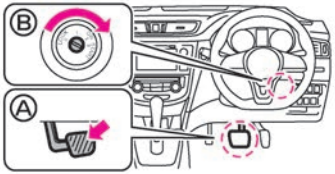
緊急時など、走行中に強制的にエンジンを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- エンジンスイッチをすばやく3回押す。
- エンジンスイッチを2秒以上押し続ける。

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

エンジン始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.12）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。	
2	パーキングブレーキがかかっていることと、セレクトレバーがPに入っていることを確認します。	
3	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、キースイッチⒷをSTARTまで回します。	

⚠ 警告

- **エンジンを始動する前にペダルの位置を確認する。**
  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- **換気の悪い場所では、暖機運転をしたりエンジンをかけたままにしたりしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **エンジンを始動するときは、必ず運転席に座る。**
  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **セレクトレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**
  スターターモーターが回転中にセレ

警告

クトレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

エンジンがかかりにくいときは

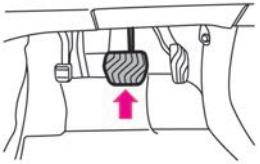
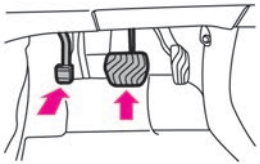
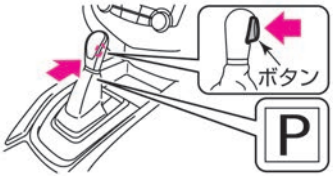
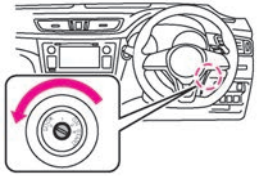
- ブレーキペダルを踏みながら、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでキースイッチをSTARTの位置まで約5秒間回し続けてください。その後、再度手順3の操作をしてください。

エンジンが暖まっているときの始動

- 高速走行後や登坂走行後などエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを少し（踏み込み量の約1/5）踏み込んだ状態でエンジンを始動し、エンジンがかかったら、アクセルペダルをエンジン回転数の上昇に合わせて徐々に戻します。

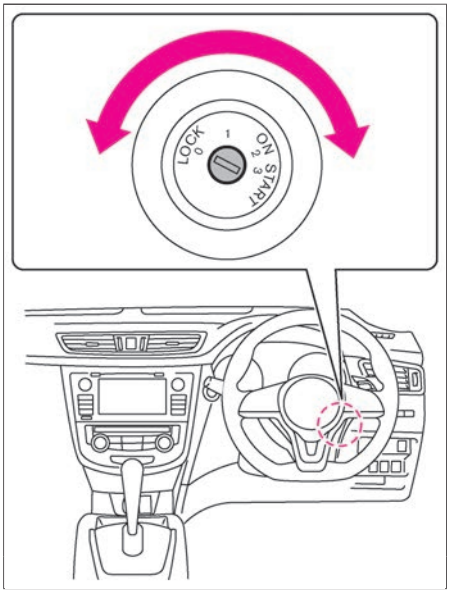
次ページに続く

エンジン停止のしかた

1	ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。	
2	ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。 ➔ パーキングブレーキのかけかた (P.222)	
3	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクトレバーをPに入れます。 ➔ セレクトレバーの操作 (P.216)	
4	キースイッチを左側に回すと、エンジンが停止します。	

キースイッチの位置について

キースイッチ位置	働き
LOCK（OFF）(0)	● オーディオ★、ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● キーを抜き差しできる位置（ハンドルがロックされる位置）
（OFF）(1)	● オーディオ、ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● エンジンを停止する位置
ON (2)	● すべての電装品が使える位置
START (3)	● エンジンを始動する位置（手を離すと自動的にONの位置に戻ります）



⚠ 注意

● **変形したキーを使用したり、純正品以外を使用しない。**
始動時にキーがSTART位置から戻らなくなり、車両故障やモーターの過熱による火災につながるおそれがあります。

アドバイス

● バッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はエンジンをかけた状態でご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

● キースイッチがOFFの場合でも、ACC状態のときにオーディオ、ドアミラーなどの電装品を使うことができます。ACC状態については、オートACC機能（➔P.215）をお読みください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キースイッチの使いかた

- キーをキースイッチに差し込み回します。
- キーを抜くときは、セレクトレバーを P に入れてからLOCKまで回します。

アドバイス

- セレクトレバーを P に入れないでキーを回すと（1）の位置で止まります。その場合は、セレクトレバーを P に入れたあと、キーをON方向に少し回し、再度LOCKまで回してください。

知識

- キーが回りにくいときは、ハンドルロック（ステアリングロック）がかかっている場合があります。ハンドルロック（ステアリングロック）を解除するときは、ハンドルを左右に軽く回しながらキーを回してください。
➔ ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは (P.487)
- エンジンを止め、キーを差したまま運転席ドアを開けるとキー抜き忘れ警報が鳴ります。（キースイッチがONのときは鳴りません。）

オートACC機能

キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときでも、特定の条件で、ナビゲーションシステム★、ドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。
エンジンの停止後や、キースイッチ（電源ポジション）をONにする前でも、ナビゲーションシステム、ドアミラーなどが使用できます。

オートACC機能について

- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
  - リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを解錠したとき
  - エンジンを停止したとき

ACC状態を停止するには

- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
  - メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、ACC状態のまま約13分間経過したとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、ACC状態のままオーディオ★およびナビゲーションの操作を行わずに13分間経過したとき
  - エンジン停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから3分間経過したとき

メーカーオプションナビゲーションシステム装着車

- オーディオおよびナビゲーションシステムは、エンジン停止後も作動し続けます。エンジン停止後の作動をさせたくないときは、日産販売会社にご相談ください。
- キースイッチ（電源ポジション）OFF後、オーディオおよびナビゲーションの操作をしないと10分間でオーディオおよびナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。
- 画面が消灯する前にオーディオおよびナビゲーションの操作を行った場合は、操作から10分間オートACC機能が延長されます。
- 画面が消灯しても2分以内に ⏻ を押すと再度オーディオおよびナビゲーションシステムを使用することができます。
- 運転席ドアを開くとオーディオおよびナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。画面が消灯しても2分以内に ⏻ を押すと再度オーディオおよびナビゲーションシステムを使用することができます。

アドバイス

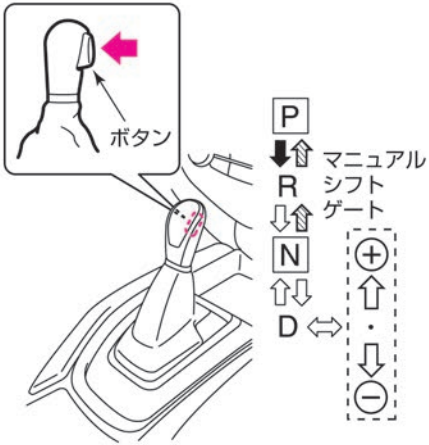
- バッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はエンジンをかけた状態でご使用ください。エンジンを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。

知識

- ディーラーオプションのナビゲーションシステムを取り付けた場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにするとオーディオおよびナビゲーションシステムもOFFになります。
- オーディオおよびナビゲーションシステムの操作によりオートACCは最大で30分まで延長することができます。延長された場合はドアミラーなどの電装品も使用することができます。（オーディオおよびナビゲーションシステム以外の電装品では、オートACC機能を延長することができません。）

セレクトレバーの操作

- セレクトレバー位置は目で確認し、メーター内のポジションインジケーターも合わせて確認してください。
  ➔ ポジションインジケーター (P.58)
- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、すべてのセレクトレバー位置に操作することができます。



セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだまま ボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま 操作します。
⇨	ボタンを押して操作します。

⚠ 警告

- **次のような操作は、絶対に行わない。**
  トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  – 車が完全に停止する前にPに入れる
  – 車を前進させているときにRに入れる
  – 車を後退させているときにD、マニュアルシフトゲートに入れる
- **セレクトレバーの操作は必ずエンジンが始動したことを確認してから行う。**
  スターターモーターが回転中にセレクトレバーを操作すると、エンジン始動が中止され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、Rに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セ

アドバイス

レクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

知識

- セレクトレバーを R に入れるとブザーが鳴ります。
- 万一バッテリーあがりなどでセレクトレバーを P から動かせないときは、➔ セレクトレバーが動かないときは (P.521)をお読みください。

次ページに続く

各セレクトレバー位置の働き

セレクトレバー位置	役割
P	**駐車およびエンジンを始動する** ● インテリジェントキー付車は、電源ポジションをOFFにすることができます。 ● リモートコントロールエントリーシステム付車は、キースイッチをOFFまたはLOCKにすることができます。 （P 以外ではキースイッチをLOCKにできません。）
R	**後退する** 車室内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません）
N	**動力が伝わらない状態** （N でもエンジンの始動ができますが、安全のため P で始動してください。）
D	**通常走行する** 速度に応じて無段階に自動変速します。また走行状況によってアダプティブシフトコントロール（➔P.219）が働き、より適切に変速します。
マニュアルシフトゲート	**マニュアルモード走行する** 走行中に手動でシフトポジションを切り替えることができます。

アダプティブシフトコントロールについて

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

エンジンブレーキを併用させることで、フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティな走行での制御

アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れるとマニュアルモードになります。
（ポジションインジケーターに、シフトポジションを表示します。）

アドバイス

- トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合には必要に応じてセレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、シフトダウンしてください。

知識

- 安全や走行性能を確保するために、セレクトレバーを操作しても希望するギヤに変速しなかったり、シフトポジションが切り替わる場合があります。
- 車両が停止すると、1速へシフトダウンします。

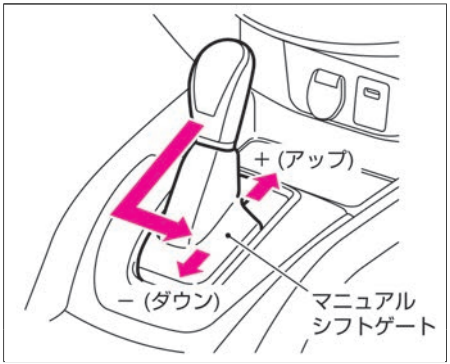
次ページに続く

■ 各シフトポジションの働き

シフトポジション	働き
1	1速に固定されます。より強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
2	2速に固定されます。強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
3	3速に固定されます。エンジンブレーキが必要なときに使います。
4	4速に固定されます。下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときなどに使います。
5	5速に固定されます。
6	6速に固定されます。
7	7速に固定されます。

■ 切り替えかた

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、前後に操作します。
  - シフトポジションアップ:
    セレクトレバーを+（アップ）側に動かします。
  - シフトポジションダウン:
    セレクトレバーを-（ダウン）側に動かします。



知識

- セレクトレバーを操作しても希望するギヤに変速できない場合があります。そのときはポジションインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。
  ➔ ポジションインジケーター (P.58)

■ 解除のしかた

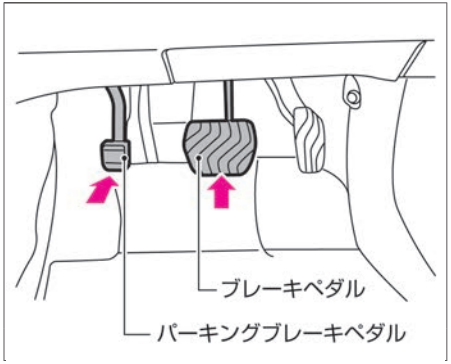
セレクトレバーをマニュアルシフトゲートから D に戻します。

パーキングブレーキ★

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。パーキングブレーキペダルで操作します。

パーキングブレーキのかけかた

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



パーキングブレーキの解除のしかた

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

警告

- **パーキングブレーキをかけたまま走行しない。**
  ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

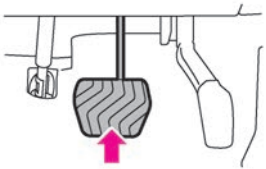
アドバイス

- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

電動パーキングブレーキ★

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。電動パーキングブレーキスイッチで操作します。

電動パーキングブレーキのかけかた

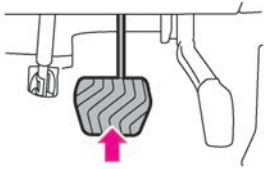
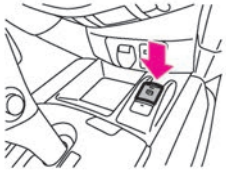
1	ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。	
2	電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。 スイッチを引き上げると、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯とメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯（赤色）Ⓟが、約2秒後に点灯します。	

知識

- オートブレーキホールドが作動しているときにセレクトレバーをPにすると、パーキングブレーキがかかります。
  その他、オートブレーキホールドについては（➔P.228）をお読みください。

次ページに続く

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1	ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。	
2	電動パーキングブレーキスイッチを押し下げます。 スイッチを押し下げると、電動パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯とメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯（赤色） Ⓟ が消灯します。	

⚠ 警告

- **電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
  ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。

知識

- 電動パーキングブレーキは、電源ポジションがONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

電動パーキングブレーキスイッチを操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。
渋滞や上り坂での発進に便利です。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でセレクトレバーをDまたはRにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
  パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、以下の条件を満たしている必要があります。
  – 運転席シートベルトを着用している※1
  – エンジンがかかっている
  – セレクトレバーがP、N以外のとき
  ※1： セレクトレバーをDまたはRに入れてから5秒以内に発進した場合、運転席シートベルト未着用でもパーキングブレーキは自動解除されますが、走行するときは、必ずシートベルトを着用してください。

次ページに続く

電動パーキングブレーキに関する注意事項

警告

- **車両を離れるときは、セレクトレバーをP位置にしたあと電動パーキングブレーキをかける。**
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにセレクトレバーをP位置に入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキがバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

知識

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
- 電動パーキングブレーキは、電源ポジションがONのときのみ解除できます。
- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。ブザーが鳴り、電動パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。

知識

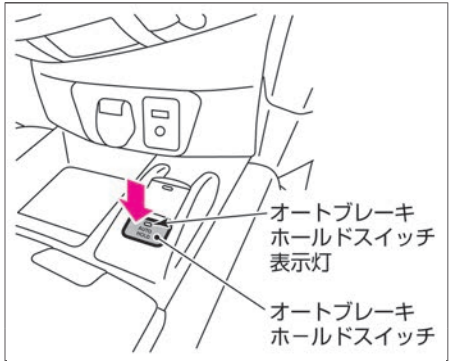
- 電源ポジションがOFFまたはACC状態のときに、電動パーキングブレーキスイッチを引くと、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。
  ACC状態については、オートACC機能（➔P.215）をお読みください。

オートブレーキホールド★

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどで停車中にブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について

- オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
  ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイをシャシー制御に切り替えると、オートブレーキホールドの作動を画面で確認することができます。詳しくは、（➔P.501）をお読みください。



オートブレーキホールド機能の作動について

オートブレーキホールド機能をONにする

- 電源ポジションをONにし、オートブレーキホールドスイッチを押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が点灯します。
- オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、メーター内のオートブレーキホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔P.501）
  - 運転席シートベルトを着用している
  - 電動パーキングブレーキが解除されている
  - セレクトレバーがP以外の位置にある

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、オートブレーキホールドスイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。
停車中にオートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで、オートブレーキホールドスイッチを押します。

⚠ 注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、電源ポジションをOFFにしても、その設定が維持されます。
- オートブレーキホールド機能が必要ないときは、設定をOFFにしておくことをおすすめします。

次ページに続く

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（メーター内のオートブレーキホールド表示灯が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。
ブレーキ力が保持されているときは、メーター内のオートブレーキホールド表示灯が緑色に点灯します。（➔P.501）

■ 発進する

セレクトレバーがPまたはN以外の位置にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。
ブレーキ力の保持が解除されると、メーター内のオートブレーキホールド表示灯が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

知識

- 急な坂道やアイドリングストップ機能の作動状態によっては、オートブレーキホールドが作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**
  オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。
- **オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**
  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。
  警告メッセージ（➔P.504）
- **次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。**
  – 洗車機を使用するとき
  – 車両にけん引されるとき
- **次の場合はセレクトレバーをP位置にしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**
  – 駐車するとき
  – 人が乗降するとき
  – 荷物の積み下ろしをするとき
  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
- **メーター内のVDC警告灯（➔P.496）、ブレーキシステム警告灯（黄色表示）（➔P.495）、電動パーキングブレーキ警告灯（➔P.493）、またはメーター内のマスターウォーニング（➔P.499）が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御表示」の警告メッセージ（➔P.505）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**
- **ブレーキ力を保持しているときは、車両の停車状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。**

次ページに続く

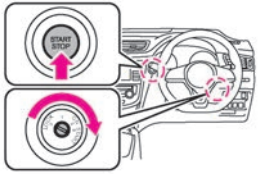
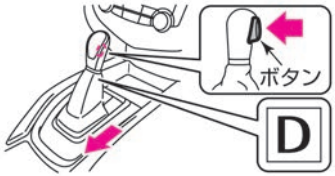
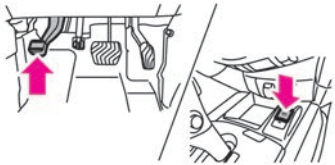
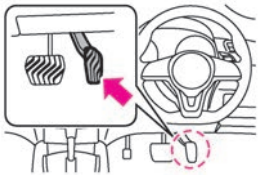
アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。
  - アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
  - オートブレーキホールドスイッチを押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

知識

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。
  - オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が３分以上継続されたとき
  - 運転席シートベルトを外したとき
  - 電源ポジションをOFFにしたとき
  - オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき
  - セレクトレバーをP位置にしたとき

発進のしかた

1	ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンを始動します。 インテリジェントキー付車（➔P.205） リモートコントロールエントリーシステム付車（➔P.210）	
2	ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクトレバーをDに入れます。	
3	パーキングブレーキを解除します。	
4	ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。	

⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**
  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- **停車中、セレクトレバーがP、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。（電動パーキングブレーキ付車）

知識

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（➔P.290）が作動します。

次ページに続く

走行のしかた

- セレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲートに入れたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏み加減と走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーがDのときにブレーキペダルを踏むと坂の勾配に応じてシフトダウンし、エンジンブレーキが効きやすい状態にします。
  また、坂の勾配に応じてマニュアルシフトゲートに入れます。強いエンジンブレーキが必要な場合は、マニュアルモードの2速または1速にします。
  勾配のゆるい下り坂では、マニュアルモードの4速または3速にすると、軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- **下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用する。**
  セレクトレバーがDのときは、低速ギヤを保持してエンジンブレーキが効きやすい状態に制御しますが、スピードが出すぎるときは坂の勾配に応じてマニュアルモードを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。
- **低速ギヤを保持しない場合は、坂の勾配に応じてマニュアルモードを低速ギヤに入れる。**
  走行開始直後でトランスミッションの油温が暖まっていないときや、アクセルペダルを深く踏み込んだ高負荷な状態で長く走り続けると低速ギヤを保持しない場合があります。その場合には、坂の勾配に応じてマニュアルモードを低速ギヤに入れてください。
- **滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせない。**
  タイヤがスリップするおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- **走行中はセレクトレバーをNに切り替えない。**
  エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。

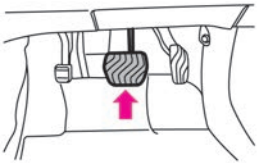
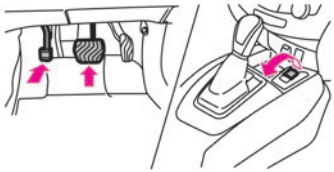
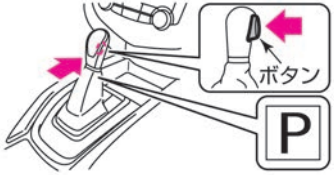
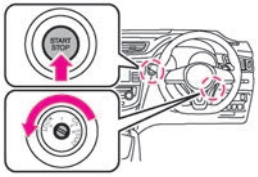
アドバイス

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂でセレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲートに入れたまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。トランスミッションが故障するおそれがあります。

アドバイス

- 極端に低車速で走行すると、車速がわずかに変化する場合がありますが、システム特有の動きで異常ではありません。

停車・駐車のしかた

1	停車するときは、セレクトレバーはDのままブレーキペダルをしっかりと踏みます。	
2	そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。	
3	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押してセレクトレバーをPに入れます。	
4	キースイッチを左側に回す、またはエンジンスイッチを1回押すと、エンジンが停止します。	

⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**
  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。
- **停車中の空ぶかしはしない。**
  万一、セレクトレバーがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後に再発進するときは、セレクトレバーの位置を目で確認してください。
- **換気の悪い場所では、エンジンをかけたままにしない。**
  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPにして、エンジンを停止する。**

⚠ 警告

エンジンがかかったままで、セレクトレバーがP、N以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐・停車しない。**
  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

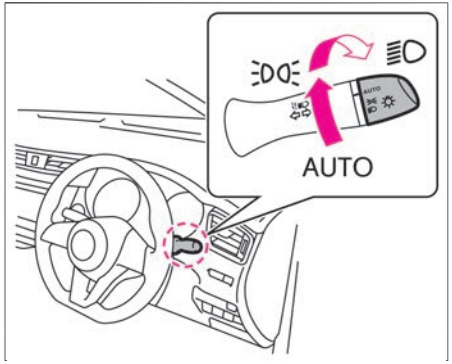
アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた

スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。ランプが点灯しているときはメーター内のテールランプ表示灯 が点灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
AUTO	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯･消灯
	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯 ヘッドランプが自動点灯･消灯
	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯



アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ライトスイッチがAUTOの位置で、パーキングブレーキをかけている場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFからONにしてもランプは点灯しません。
- 通常時はAUTOの位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したままキースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、リモコンまたはドアハンドルのスイッチで施錠するとバッテリーあがりを防止するためライトが消灯します。
- 次回、次の操作を行うとライトが再点灯します。
  - インテリジェントキー付車は、電源ポジションをONにする
  - リモートコントロールエントリーシステム付車は、キーシリンダーにキーを差し込む

AUTO（自動点灯･消灯）の使いかた

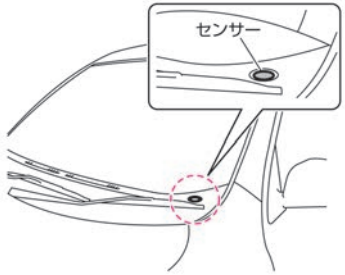
- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、スイッチ位置をAUTOの位置にすると、車外の明るさに応じてヘッドランプや車幅灯などを点灯、消灯させます。
- キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときは消灯します。
- ライトスイッチがAUTOの位置で、パーキングブレーキをかけている場合は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFからONにしてもランプは点灯しません。
- パーキングブレーキを解除して走行した後、ランプが点灯している場合、パーキングブレーキをかけても消灯しません。

フロントワイパー連動、薄暮れ感知機能

- 歩行者事故が多く発生している、夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「オートライト感度調整」を選択すると、インテリジェント オートライト（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度調整ができます。設定の詳細については、車両設定をお読みください。

次ページに続く

ライトスイッチ

知識
画面の切り替えかた (P.66) 車両設定 (P.81)

（ヘッドランプ自動点灯･消灯）の使いかた

- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、スイッチ位置を の位置にすると、車外の明るさに応じてヘッドランプを点灯･消灯させます。
- 以下の場合はヘッドランプが消灯し、車幅灯などが点灯します。
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき
  - セレクトレバーがPのとき
  - 車両が停止している状態で、パーキングブレーキをかけているとき
  - フォグランプ★が点灯しているときに、スイッチ位置をAUTOから 、または から にしたとき

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

ヘッドランプの消灯方法

- ライトスイッチを の位置にし、セレクトレバーをPにする、またはパーキングブレーキをかけると、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

- ライトスイッチをAUTOの位置にし、セレクトレバーをPまたはNに入れ、パーキングブレーキをかけてキースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。その後、ブレーキペダルをしっかり踏みながら、キースイッチ（電源ポジション）をOFFからONにすると、すべてのランプが消灯状態を保ちます。

知識

- 自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

次ページに続く

ハイビームアシストについて

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。
約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

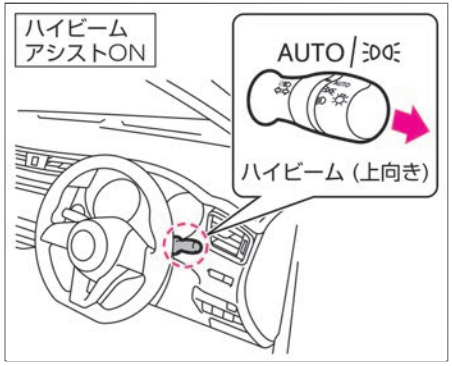
ハイビームアシストをONにする方法

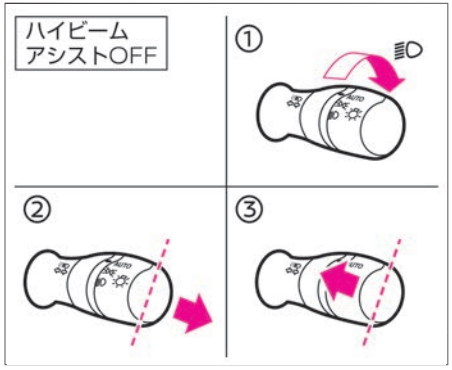
- ライトスイッチがAUTOまたは の位置でレバーを車両前方に押すと、ハイビームアシストがONになります。
（メーター内のハイビームアシスト表示灯 が点灯）

ハイビームアシストをOFFにする方法

次のいずれかの操作をすると、ハイビームアシストがOFFになります。

- ハイビームのとき
— ライトスイッチを 位置にする…①
— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②
— ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）…③
- ロービームのとき
— ライトスイッチを 位置にする…①
— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②





警告

- **システムを過信しない。**
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- **次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）
  - 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドランプが汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき

警告

- トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
- 対向車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯 が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。
  ハイビームアシスト表示灯（➔P.500）

知識

- ハイビームアシストがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。（ハイビームアシストはONを維持）
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

知識

- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - 対向車または先行車が二輪車
  - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - 乗車している人数や荷物の量

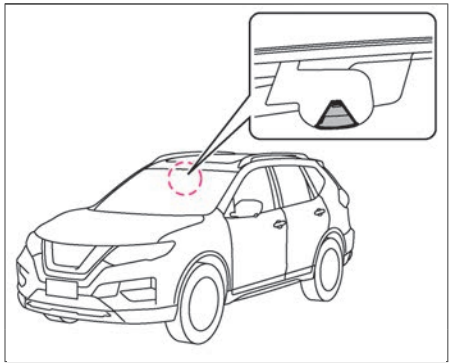
次ページに続く

■ マルチセンシングフロントカメラについて

フロントガラス上部に周囲の状況を感知するためのカメラがあります。
ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- カメラのレンズには触れないでください。
- カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.581)



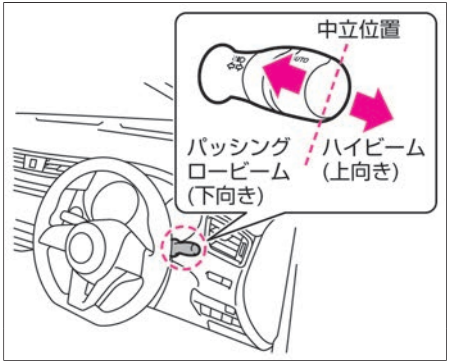
ハイビーム（上向き）への切り替えかた

ライトスイッチが 位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチがAUTOまたは 位置のとき

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に2回押すとハイビームに切り替わります。（1回押すとハイビームアシスト（➔P.242）がONになります。）
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

知識

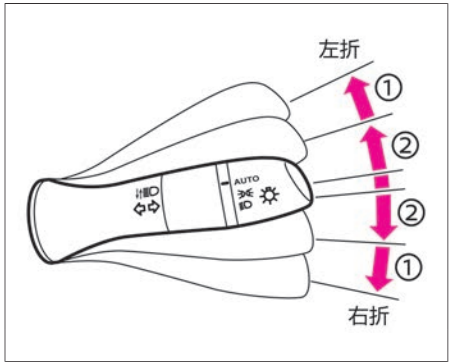
- ハイビームに切り替えているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯 が点灯します。
- ハイビームアシストがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

次ページに続く

方向指示器の使いかた

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使えます。

- 右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
  また、スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯 ⇦⇨ の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。
  ➔ 電球（バルブ）が切れたときは (P.531)

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「方向指示器」⇒「コンフォートフラッシャー」を選択すると、コンフォートフラッシャー機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

その他の機能について

■ フレンドリーライティング作動

- 夜間など周囲が暗い場所で車から降りるときに、以下の操作を行うとヘッドランプが周囲を照らします。
  - キースイッチ（電源ポジション）がON以外のとき、ライトスイッチを手前に1回引くと、ヘッドランプが約30秒間点灯したあと、消灯します。
  - 点灯中、ライトスイッチを手前に引くたびに点灯時間が約30秒間延長され、最大約2分間まで延長することができます。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が作動します。
  リモートコントロールエントリーシステム付車（➔P.101）
  インテリジェントキー付車（➔P.95）

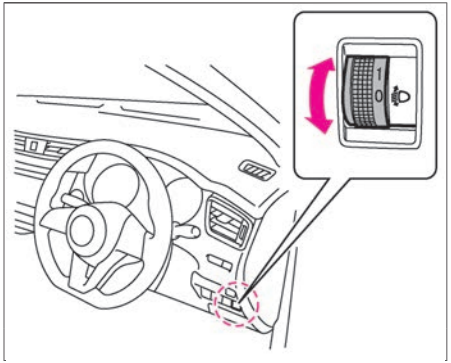
ヘッドランプレベライザースイッチ

ヘッドランプの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドランプレベライザースイッチの使いかた

ヘッドランプが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。



アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

2列車

乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置
運転席のみ	積載なし	0
フロントシート2名		0
5名		1
	満載	2
運転席のみ		3

3列車

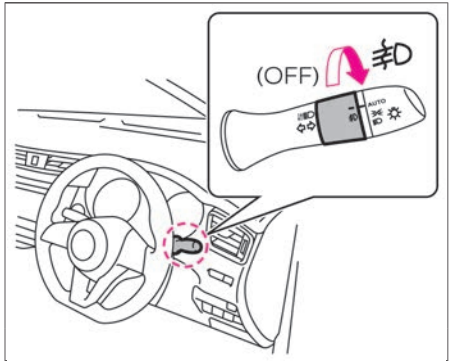
乗員	ラゲッジルームの積載状況	スイッチ位置
運転席のみ	積載なし	0
フロントシート2名		0
フロントシート2名+サードシート2名		1
7名		2
	満載	2
運転席のみ		3

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプの補助として使用します。

フォグランプの使いかた

- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。
- スイッチを回して を ━ の位置に合わせて使用します。
- フォグランプが点灯しているときは、メーター内のフォグランプ表示灯 が点灯します。



知識

- 濃霧時にヘッドランプを消灯して走行したい場合は、以下の操作を行うと車幅灯とフォグランプの点灯で走行することができます。
  - フォグランプが点灯しているときに、スイッチ位置をAUTOから 、または から にする

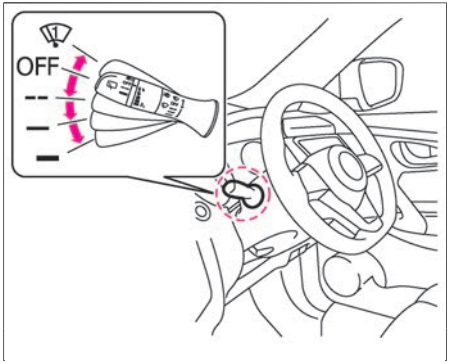
ワイパー・ウォッシャースイッチ

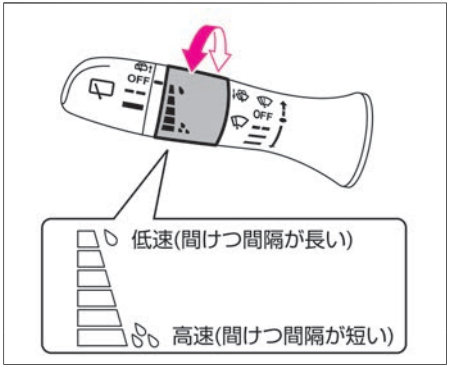
キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

スイッチを動かすと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
	レバーを上げている間作動します。 手を離すとOFFに戻ります。
OFF	停止します。
	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
	低速で連続して作動します。
	高速で連続して作動します。





知識

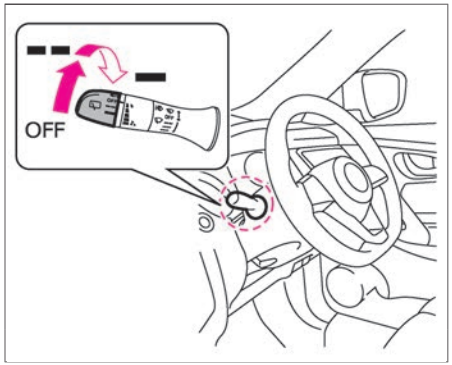
- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- ライトスイッチがAUTO位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくランプが点灯します。
  ➔ AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.239)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「車速連動」を選択すると、車速連動機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

次ページに続く

リヤワイパーの使いかた

スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
OFF	停止します。
▬▬	間けつで作動します。
▬	低速で連続して作動します。



知識

リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れると、リヤワイパーが間けつで作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「リバース連動」を選択すると、リバース連動機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

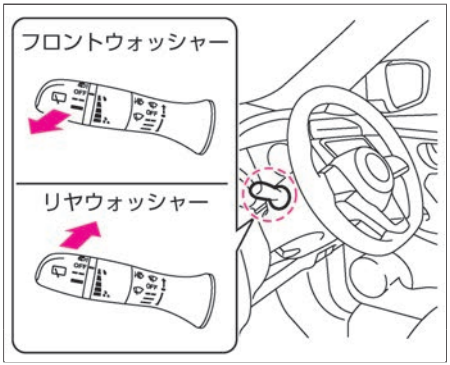
ウォッシャーの使いかた

フロントウォッシャー

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

リヤウォッシャー

- スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

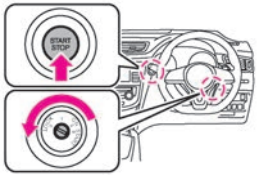
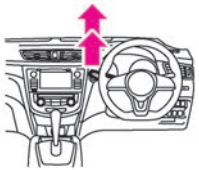


知識

- ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。（ドリップ拭き取り機能）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「ドリップ拭き取り」を選択すると、ドリップ拭き取り機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

次ページに続く

ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能の使いかた）

1	キースイッチ（電源ポジション）をONからOFFにします。	
2	OFFにしてから1分以内にスイッチを2回連続で素早く(0.5秒以内)上（ 位置）に動かします。	
3	ワイパーアームの作動が途中で止まった後、ワイパーアームを起こします。	
4	元に戻すときは、ワイパーアームを倒してから、キースイッチ（電源ポジション）をONにし、ワイパーを1回作動します。	

⚠ 注意

- **キースイッチ（電源ポジション）がONのときに、ライズアップ機能を使いワイパーアームを起こすときは、思わぬ事故やケガをしないように次のことを守る。**
  - セレクトレバーが P に入っていることを確認する
  - 同乗者が誤ってスイッチ操作しないように注意する

アドバイス

- ワイパーアームを起こした状態でワイパーを作動させると、破損するおそれがあります。

知識

- **ライズアップ機能**
  ワイパーアームを起こすために、ワイパーの作動を途中で止める機能です。寒冷時の駐車やワイパー交換などのときに起こします。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**
  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

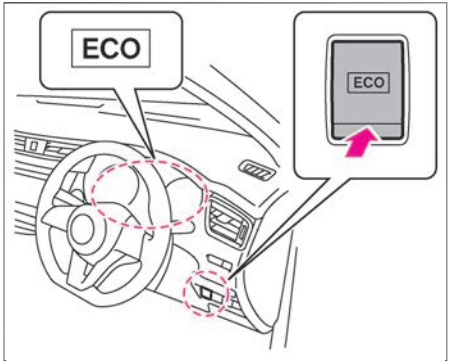
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

ECOモード

ECOモードは、エンジンとCVTの作動を自動制御して、急加速を抑えることで燃費の向上をサポートするシステムです。

ECOモードの使いかた

- キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ECOモードスイッチを押すごとにON･OFFが切り替わります。（ONのときはECOインジケーター ECO が点灯）
➔ ECOインジケーター (P.59)
- システムに異常が発生したときは、ECOモードが解除されます。



知識

- ECOモードのON･OFF設定は、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしても、再度設定変更するまで、その状態が維持されます。
- ECOモードを解除するときは、スイッチを操作したあと、一旦アクセルペダルから足を離してください。
- 次のような加速が必要な場合は、必要に応じてECOモードをOFFにしてください。
  - 乗車人員や荷物量が多いとき
  - 急勾配を登坂走行するとき

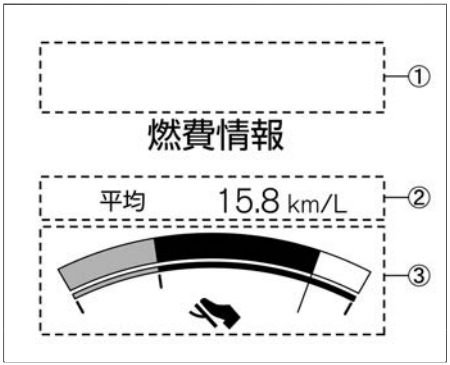
エコドライブナビゲーターについて

ECOモードがONのとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイを「燃費情報」に切り替えると表示します。
詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。

① **アンビエントランプ**
エコレベルが増えるほど点灯範囲が大きくなります。

② **平均燃費**
リセットしてからの平均燃費を表示します。

③ **ペダルガイド**
走行中に、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減を表示します。エコ運転領域内になるように調整することで、エコドライブにつながります。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「メーターセッティング」⇒「エコモード設定」⇒「エコインジケーター」を選択すると、アンビエントランプの表示･非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、メーターセッティングをお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)
➔ メーターセッティング (P.80)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「メーターセッティング」⇒「エコモード設定」⇒「エコメーター表示」を選択すると、ペダルガイド表示と瞬間燃費表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、メーターセッティングをお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)
➔ メーターセッティング (P.80)

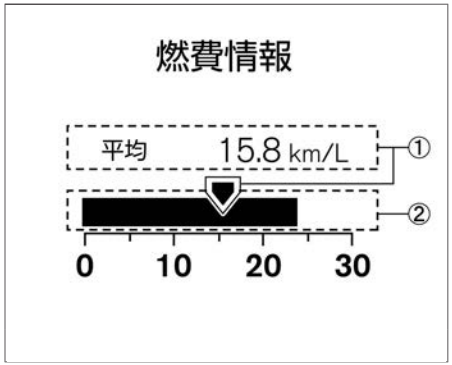
次ページに続く

瞬間燃費計について

ECOモードがOFFのとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイを「燃費情報」に切り替えると表示します。
詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。

① **平均燃費**
リセットしてからの平均燃費を表示します。

② **瞬間燃費**
走行中の瞬間燃費を表示します。



エコマネージメントについて

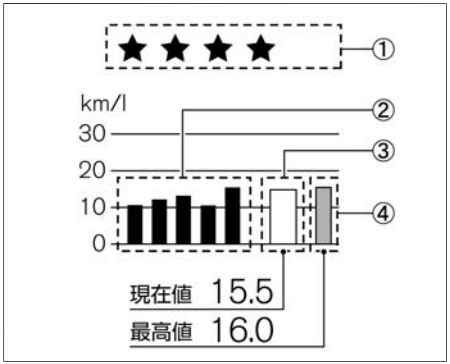
キースイッチ（電源ポジション）をOFFにするとエコマネージメント画面を表示します。
エコ運転評価の結果表示は、ECOモードで約10分以上走行したときに表示します。

① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。
★は1～5段階で表示されます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「メーターセッティング」⇒「エコドライブレポート」⇒「表示」を選択すると、エコマネージメント表示のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細についてはメーターセッティングをお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)
➔ メーターセッティング (P.80)
- 現在値が最高値を上回ると、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしたときに、「ベスト燃費を更新しますか？」と表示します。
更新したいときは、ステアリングスイッチの ▲▼ スイッチを押して［更新］を選択し、 OK スイッチを押して決定します。
［取消］を選択すると、最高値は更新されず、エコマネージメント画面に戻ります。
スイッチの位置については（➔P.66）をお読みください。

アイドリングストップ

アイドリングストップは、車両が停車したときにエンジンを停止させ、発進するときにエンジンを始動することで、アイドリングによる排気ガスの発生や騒音を抑制するとともに燃費を向上させるシステムです。

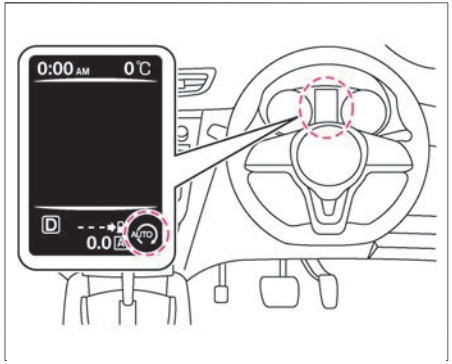
アイドリングストップの使いかた

アイドリングストップ中は、メーター内のディスプレイにあるアイドリングストップ表示が点灯します。

- 次のときに、エンジンが停止します。
  - セレクトレバーがDまたはマニュアルシフトゲートのときに、ブレーキペダルを踏んで停車したとき
  - セレクトレバーをNにしてブレーキペダルを踏み停車しているとき
  - セレクトレバーがPのとき
    （セレクトレバーがPのときは、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが停止します。）
- ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
  （オートブレーキホールド機能★作動時、またはセレクトレバーがPでアイドリングストップしているときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。）

アイドリングストップ警告ブザー

- アイドリングストップ中にボンネットが開いたときにブザーが鳴ります。



警告

- **アイドリングストップ中に車両が動き出したときは、すみやかにブレーキペダルを踏む。**
  アイドリングストップによるエンジン停止中に車両が動き出した場合（約2km/h以上）は、エンジンが再始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

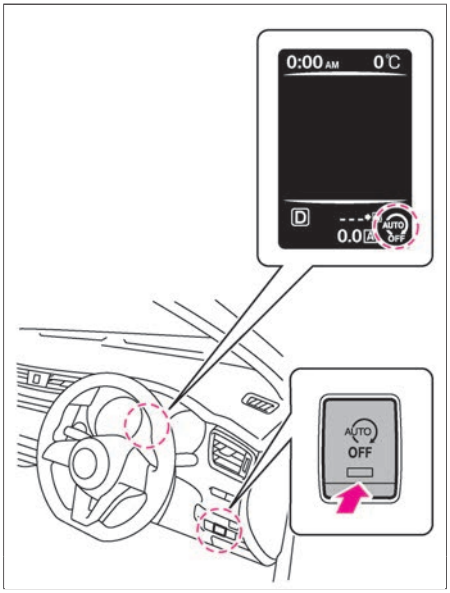
知識

- メーター内にあるアイドリングストップ表示で、アイドリングストップの状態をお知らせします。
  ➔ アイドリングストップ表示 (P.60)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイでアイドリングストップの積算時間と節約した燃料の量などを確認できます。
  車両情報画面（➔P.73）
- アイドリングストップ警告ブザーが鳴ったときは、ボンネットが開いていないか確認してください。ボンネットが開いていると、通常のエンジン停止状態となるため、エンジンをかけ直してください。

アイドリングストップの作動停止のしかた

アイドリングストップの作動を停止（OFF）するには、アイドリングストップOFFスイッチを押します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押すと、アイドリングストップの作動が停止します。
  （スイッチの表示灯と、メーター内のディスプレイにアイドリングストップOFF表示が点灯します。）
- 再度、アイドリングストップを使用（ON）するときは、もう一度アイドリングストップOFFスイッチを押します。
  （スイッチの表示灯と、メーター内のディスプレイのアイドリングストップOFF表示が消灯し、アイドリングストップがONになります。）



知識

- アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンは再始動します。
- アイドリングストップのON･OFFを切り替えると、アドバンスドドライブアシストディスプレイにお知らせが表示されます。
- キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、エンジンを再始動すると、アイドリングストップは作動します。（スイッチの表示灯が消灯）

次ページに続く

アイドリングストップを使うときの注意事項

アドバイス

- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用のバッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーはお客さまの車に適合した日産純正部品をおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

知識

- 次のような場合は、アイドリングストップしません。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、アイドリングストップしない場合があります。）
  - エンジンを始動して、一度も走行しないでアイドリングを続けているとき
  - エンジン冷却水の温度が低いとき
  - バッテリーの容量が低いとき
  - バッテリーの温度が低いとき
  - 車両が動いているとき
  - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
  - エンジン回転中にボンネットを開けたとき
  - ボンネットを開けた状態でエンジンを始動させたとき
  - 運転席のシートベルトが着用されていないとき
  - 運転席ドアが開いているとき
  - ハンドル操作をしているとき
  - アイドリングストップ表示が点滅しているとき

知識

- アクセルペダルを踏んでいるとき
- セレクトレバーがRのとき
- 室内の温度が約20°C以下のとき(オートエアコン付車)
- 室内の温度が約30°C以上のとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップします）(オートエアコン付車)
- エアコンの風量が最大のとき(オートエアコン付車)
- デフロスタースイッチ（➔P.191）または（➔P.187）がONのとき（外気温によってはアイドリングストップする場合があります）
- アイドリングストップOFFスイッチがONのとき
- パワーステアリング警告灯、VDC警告灯が点灯しているとき
- ブレーキペダルの踏み込みが弱いとき
- 急勾配の坂道で停車したとき
- 消費電力が大きいとき
- 標高約2000m以上の高地のとき

● 次のような場合は、システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。
- バッテリーが放電しているとき
- 外気温が低いまたは高いとき
- バッテリー交換したあとや、長期間 バッテリー端子を外したあと

● このシステムは、信号待ちなどのときに使用し、長時間の停車などの場合はエンジンを停止してください。

● アイドリングストップ中にボンネットを開けると、ブザーが鳴るとともに通常のエンジン停止状態となります。その場合は、エンジンをかけ直してください。

次ページに続く

知識

- アイドリングストップ中は、エアコン（冷房･暖房･除湿機能）がOFFになり、送風になります。
- 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離しても、エンジンが再始動をしません。（下記の再始動条件で再始動する場合があります。）
  - セレクトレバーがPのとき
  - オートブレーキホールド機能★（➔P.228）が作動しているとき
  - プロパイロット★（➔P.294）が作動しているとき
- 次のような場合は、アイドリングストップ中にブレーキから足を離さなくても、エンジンが再始動をします。（室内外の温度やエアコンの作動状況によっては下記の条件以外でも、エンジンが再始動する場合があります。）
  - アイドリングストップしてから、3分以上経過したとき
  - アイドリングストップOFFスイッチを押したとき
  - プロパイロット★（➔P.294）をセットしたとき（ブレーキペダルの踏み込み量によってはエンジンが再始動しない場合があります。）
  - プロパイロット★（➔P.294）で停車中に発進操作したとき
  - プロパイロット★（➔P.294）で停車中に先行車が発進したとき
  - 室内の温度が約20°C以下になったとき(オートエアコン付車)
  - 室内の温度が約30°C以上になったとき（エアコンがOFFのときはアイドリングストップし続けます）(オートエアコン付車)
  - エアコンスイッチ、AUTOスイッチ（➔P.187）を押したとき(オートエアコン付車)
  - デフロスタースイッチ（➔P.191）または（➔P.187）をONにしたとき（外気温によってはエンジンが再始動しない場合があります）
  - アクセルペダルを踏んだとき

知識

- ハンドル操作をしたとき（ハンドルの操作力が重く感じることがありますが、異常ではありません）
- バッテリーの容量が低くなったとき
- 消費電力が大きいとき
- 坂道でブレーキを緩め、車両が動き出したとき
- セレクトレバーをRに入れたとき
- セレクトレバーがマニュアルシフトゲート、DまたはNのときにブレーキペダルを緩めたとき
- セレクトレバーをNまたはPからマニュアルシフトゲートまたはDに入れたとき
- ブレーキペダルを数回踏みなおすなどして、ブレーキ装置の負圧が不足したとき
- 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき

車両後退抑制機能

- 坂道でアイドリングストップ中から発進するときに、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を軽減するシステムです。
- この装置はVDC（➔P.279）のブレーキ制御を利用しているため、VDC警告灯（➔P.496）が点灯したときは作動しません。

クルーズコントロール★

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度（約40km/h以上）で走行できるシステムです。
プロパイロット付車には、クルーズコントロールと同様の機能である定速制御機能（➔P.326）があります。

各部名称と機能

車両情報ディスプレイ

① **クルーズコントロール表示**
- クルーズコントロールをONにすると点灯します。セットすると設定した速度を表示します。

ステアリングスイッチ

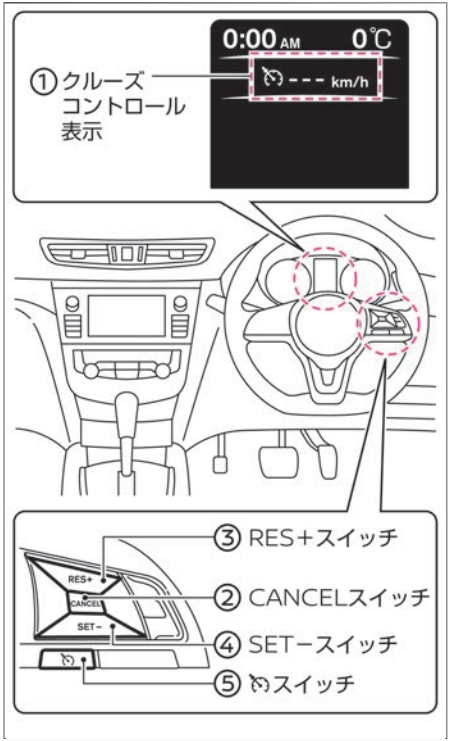
② **CANCELスイッチ**
- クルーズコントロールを解除します。

③ **RES+スイッチ**
- 設定速度を上げます。
- クルーズコントロールを解除後、解除前の設定速度に再度セットします。

④ **SET-スイッチ**
- 設定速度を下げます。
- クルーズコントロールをセットします。

⑤ **スイッチ**
- クルーズコントロールのON･OFFができます。

※クルーズコントロール表示の位置は車種により異なります。



警告

- **クルーズコントロールを使用するときは、十分な車間距離をとる。**
  車間制御は行わないため、ブレーキ操作制御や警報は行われません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- **次の状況では、クルーズコントロールを使用しない。**
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂
- **クルーズコントロールを使用しないときは、 スイッチを必ずOFFにする。**
  誤ってセットされると事故につながるおそれがあります。

アドバイス

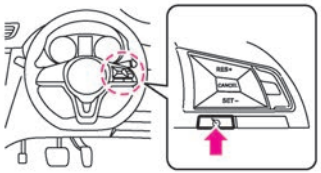
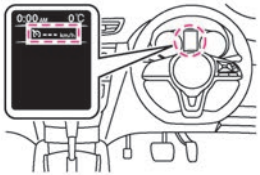
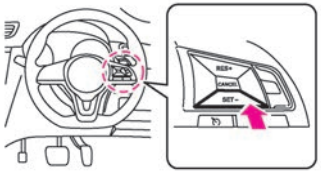
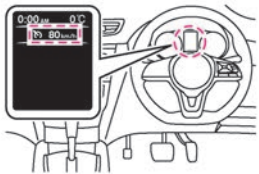
- クルーズコントロール表示が点滅したときは、安全な場所に停車して、キースイッチ（電源ポジション）を一旦OFFに

アドバイス

し、再始動してから再度クルーズコントロールをセットしてください。点滅が続いたり、セットできないときは日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

定速走行のしかた

1	ハンドルにある スイッチを押し、クルーズコントロールをONにします。	
2	メーター内のクルーズコントロール表示が点灯していることを確認します。 ※クルーズコントロール表示の位置は車種により異なります。	
3	設定したい速度まで加速または減速し、SET-スイッチを押します。	
4	スイッチを離すと、メーターに表示された速度で定速走行がセットされます。	

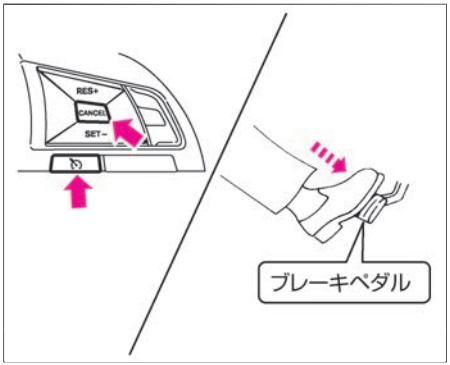
知識

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む



アドバイス

- CANCELスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。もう一度、定速走行にする場合は、再度SET-スイッチを押します。（メーター内にあるディスプレイにクルーズコントロール表示が再点灯）
- 次の場合は、解除されます。
  - 速度が30km/h以下になったとき
  - 設定速度より約13km/h以上速度が低下したとき
  - VDCが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - セレクトレバーをNに入れたとき
  - システムに異常があるとき

次ページに続く

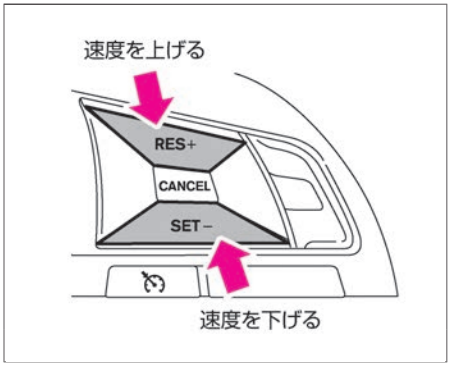
設定速度の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中にRES+スイッチを押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

- 定速走行中にSET-スイッチを押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。



知識

- アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作でも設定速度を調節できます。アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で速度を調節し、設定したい速度でSET-スイッチを押します。

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。
4WD車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 河川などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、後輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転に心がけてください。

知識

- 砂地･渡河などのオフロード走行や脱輪時の無理な操作などにより、前後輪間の回転数差が大きい（車輪が空転する）状態が続くと、駆動系部品の油温が上昇します。この場合、駆動系部品の保護のため、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し2WDモードに切り替わりますが、アイドリング状態でしばらく停車し、点滅しなくなるとAUTOモードに復帰します。
  警告メッセージ（➔P.506）
- 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。
  冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。
  タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

4WD車の特性

■ タイトコーナーブレーキング現象

乾燥した舗装路をLOCKモードで走行中、ハンドルをいっぱいに切って旋回するとブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。
この現象は旋回するとき前後輪に回転差が生じるために起きる4WD車特有の現象で異常ではありません。この現象が発生したときはハンドルの操作力が重くなります。

■ LOCKモード時は急旋回しない

乾燥舗装路をLOCKモードで急旋回するとタイトコーナーブレーキング現象が起きてハンドルの操作力が重くなり運転しにくくなります。乾燥舗装路ではLOCKモードで走行しないでください。

アドバイス

- タイトコーナーブレーキング現象が起きると、タイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

走行のしかた

■ 乾燥した舗装路を走行するとき

4WD MODEスイッチ（➔P.275）を2WDモードまたはAUTOモードにして走行します。

■ 雪道など舗装路以外を走行するとき

- 4WD MODEスイッチをAUTOモードまたはLOCKモードに切り替えます。
- 路面の状態に合わせ慎重に走行します。

アドバイス

- 乾燥した舗装路をLOCKモードで走行しないでください。 駆動系に無理がかかり重大な故障の原因となりますので、絶対避けてください。また、タイヤの早期摩耗や燃費低下にもつながります。

⚠ 警告

- **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**
  タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インテリジェント 4×4★

インテリジェント 4×4は、走行状況に応じて駆動モードを選択できる4WDシステムです。

駆動モードについて

駆動モード	駆動状態	路面状況
2WD	前輪駆動	乾いた舗装路を経済的に走行したいとき。
AUTO	前輪駆動から4輪駆動まで自動調節	舗装路や滑りやすい路面を通常に走行するとき。
LOCK	直結4輪駆動（低車速時）※1、2	ラフロードを走行するとき。

※1： 車速が上がった状態で走行を続けた場合は、LOCKモードが解除され、AUTOモードに切り替わります。
※2： キースイッチ（電源ポジション）をOFFにすると、LOCKモードは解除されます。

警告

- **4WD車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。**
  - 渡河などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

アドバイス

- エンジン暖機中はエンジンアイドル回転数が高くなっています。AUTOで滑りやすい路面などを発進または走行するときは十分注意してください。
- 車速が約40km/h以上になると駆動モード表示灯（LOCK）が消灯します。

知識

- AUTOモードにしておくと、路面状態に応じて前後輪へのトルク配分を変更し、雪道や滑りやすい路面での走行性能が高まります。

各部名称と機能

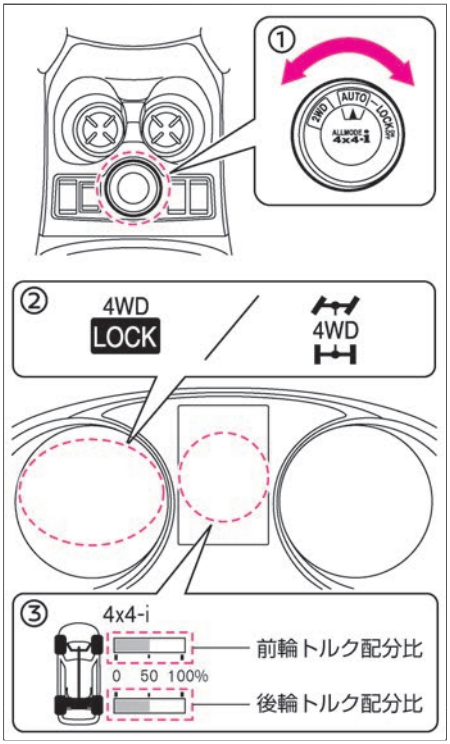
① **4WD MODEスイッチ**
エンジン回転中にAUTO、2WD、LOCKの位置に回して駆動モードを切り替えます。

② **駆動モード表示灯**
キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
エンジン回転中に4WD MODEスイッチで選択した位置を表示します。

駆動モード	駆動モード表示灯
2WD	消灯
AUTO	4WD
LOCK	4WD / 4WD LOCK

③ **4WDトルク配分表示**
アドバンスドドライブアシストディスプレイを「4×4-i」に切り替えると、走行中の前後輪への伝達トルク配分比を確認することができます。

車両情報画面（➔P.76）



⚠ 警告

- **運転中は画面を注視しない。**
  画面に気をとられて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **雪道などで前輪を空転させたまま4WD MODEスイッチを操作しない。**
  車両が思わぬ方向へ飛び出すおそれがあります。

アドバイス

- 乾燥した舗装路をLOCKモードで走行しないでください。駆動系に無理がかかり、重大な故障の原因になりますので、絶対に避けてください。また、タイヤの早期摩耗や燃費低下にもつながります。
- 4WD MODEスイッチは、車両が直進状態のとき操作してください。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに、「4WDシステム異常」および「4WDシステム高油温」と警告を表示したときは、駆動モード表示灯は消灯します。
  表示灯（➔P.501）

次ページに続く

知識

警告メッセージ（➔P.505）

- トルク配分の変化が少ないときは、4WDトルク配分表示が変化しない場合がありますが、異常ではありません。
- 旋回時および加減速時に4WD MODEスイッチを操作したときや、AUTOモードまたはLOCKモードでキースイッチ（電源ポジション）をOFFにしたときは、ショックが発生することがありますが、故障ではありません。

駆動モードの切り替えかた

エンジン回転中に切り替えることができます。

AUTOモードにしたいとき

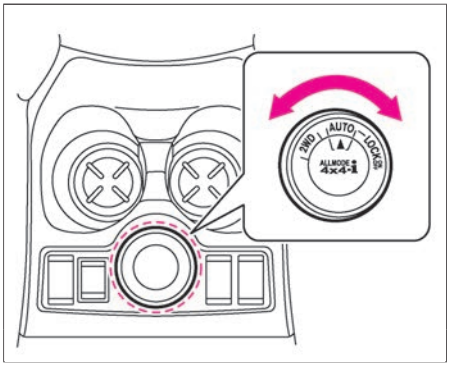
- 矢印の位置にAUTOの表示が来るようにスイッチを回します。（駆動モード表示灯（AUTO）が点灯）

2WDモードにしたいとき

- 矢印の位置に2WDの表示が来るようにスイッチを回します。

LOCKモードにしたいとき

- 停車状態または約10km/h以下のとき、矢印の位置にLOCKの表示が来るようにスイッチを回します。（駆動モード表示灯（LOCK）が点灯）　スイッチから手を離すと、AUTO位置に戻ります。
  LOCKモードをOFFにしたいときは、もう一度スイッチをLOCK位置に回します。（駆動モード表示灯（LOCK）が消灯）



ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**
  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。
- **でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**
  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控え、車間距離を十分にとって運転してください。
- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**
  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、エンジンの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（➔P.278）

⚠ 警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**
  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- **次の場合、メーター内のVDC警告灯 が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキ、ステアリング、エンジン関係部品などを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

知識

- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

次ページに続く

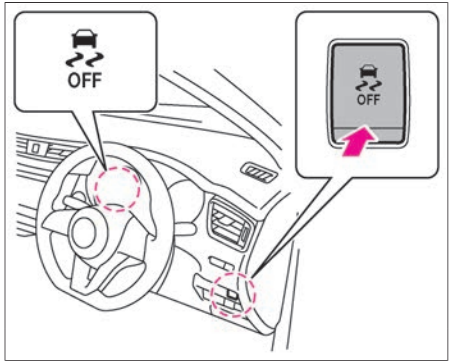
VDCの作動について

- VDCの作動と警告灯
  - VDCが作動しているときは、メーター内のVDC警告灯 が点滅します。
  - トラクションコントロール機能（TCS）のみが作動しているときもVDC警告灯 が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- 次の場合、VDC警告灯 が点灯することがあります。一度キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、再度エンジンを始動するとVDC警告灯は消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき。
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき。

VDCの停止のしかた

VDCの作動を停止（OFF）するにはVDC OFFスイッチを押します。

- VDC OFFスイッチを押すと、VDCが停止し、VDC　OFF表示灯 が点灯します。
- 再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度VDC OFFスイッチを押します。VDC　OFF表示灯 が消灯し、VDCがONになります。



アドバイス

- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはVDC　OFFスイッチを押してVDCを停止してください。
- VDC　OFFスイッチを押すと、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。(ABS機能およびブレーキLSD機能を除く)

アドバイス

- インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）（➔P.282）
- インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）（➔P.284）
- プロパイロット★（➔P.294）
- インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.332）
- 踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.343）
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.383）
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★（➔P.375）

知識

- キースイッチ（電源ポジション）をONにするたびに、VDCはONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときや、エンジン始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

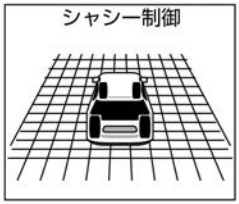
シャシー制御

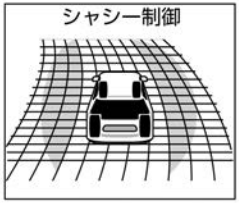
シャシー制御には、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）、インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）、インテリジェント エンジンブレーキがあります。

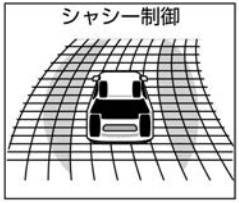
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキを制御して、車両の挙動を滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「シャシー制御」に切り替えると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の作動を画面で確認することができます。画面はハンドル操作に合わせた表示を行います。
  詳しくは、画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。







警告

- **インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**
  インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御システム故障」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告メッセージ（P.505）

知識

- ハンドル操作(方向)に合わせていずれかの画面が表示されます。
- インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上シ

知識

ステム）をOFFにしていても、急ハンドル時などには作動する場合があります。

- VDCをOFFにすると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。
（VDCをOFFにしたときは、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）が完全に停止します。）
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「シャシー制御」⇒「コーナリングスタビリティアシスト」を選択すると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)

知識

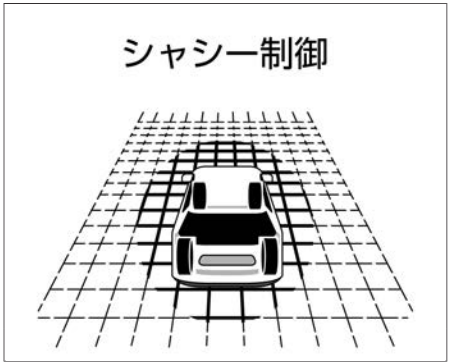
➔ 運転支援システム (P.77)

次ページに続く

インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）について

段差や凹凸のある道の走行時などに、小さな振動はエンジントルクの制御により、大きな振動はブレーキ制御を追加することで乗り心地を向上します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「シャシー制御」に切り替えると、インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）の作動を画面で確認することができます。
  詳しくは、画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。



アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御システム故障」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告メッセージ（P.505）

知識

- VDCをOFFにすると、インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム）もOFFになります。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。

インテリジェント エンジンブレーキについて

カーブを曲がるときや減速するとき、エンジンブレーキの強弱を制御することで、ブレーキペダルの踏み加減の調節やペダル踏み替え操作の頻度を減らし、運転者の負担を軽減します。

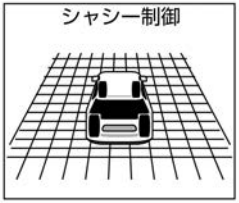
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「シャシー制御」に切り替えると、インテリジェント エンジンブレーキの作動を画面で確認することができます。
  詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。

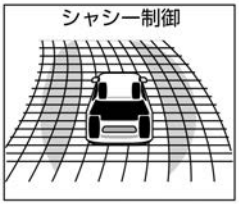
カーブを曲がるときのアシスト

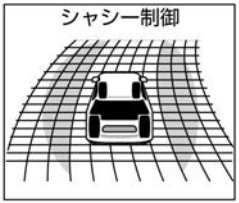
- カーブを曲がっているときなどの旋回中は、ペダルの踏み替え操作の頻度を減らすため、ハンドル操作に応じてエンジンブレーキを制御します。

減速するときのアシスト

- 減速しているときは、ブレーキの効き感を向上させるため、運転者のブレーキ操作に応じてエンジンブレーキを制御します。







⚠ 警告

- **インテリジェント エンジンブレーキの機能を過信しない。**
  インテリジェント エンジンブレーキは、特定の状況で運転者の負荷を軽減するための機能で、事故を防止するための機能ではありません。また、路面の状況などにより作動しないことがあります。インテリジェント エンジンブレーキを過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御システム故障」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告メッセージ（➔P.505）

知識

- システムが作動すると、エンジンブ

次ページに続く

知識

レーキ音が大きく聞こえたり、タコメーターの針の動きが変化することがありますが、異常ではありません。

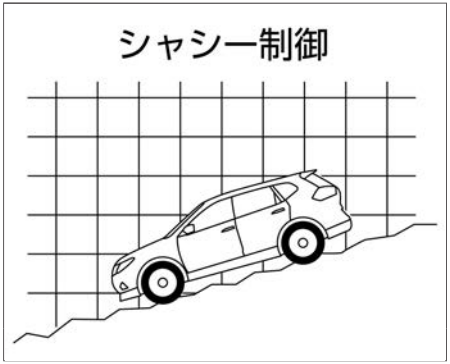
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「シャシー制御」⇒「アクティブエンジンブレーキ」を選択すると、インテリジェント エンジンブレーキのON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は、急な下り坂や滑りやすい路面を下るときの走行を補助するシステムです。

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の機能について

- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は、エンジンブレーキだけでは十分な減速ができないような急な下り坂や、オフロードのような滑りやすい路面を下るとき、一定の低車速を保ち、下り坂での走行を補助するシステムです。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「シャシー制御」に切り替えると、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の作動を画面で確認することができます。
  詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66) をお読みください。



⚠ 警告

- **アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の機能を過信しない。**
  極端に急な下り坂、凍結路、泥状の下り坂では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の速度を保持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- システムが作動しているとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

次ページに続く

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の作動について

- 4WD MODEスイッチがLOCKのときに作動します。➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は、次の条件が満たされたときのみ作動することができます。
  - アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチを押してONにしている
  - セレクトレバーがPまたはN以外に入っている
  - 4WD MODEスイッチがLOCKになっている➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
  - 車速が約25km/h以下
  - アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき

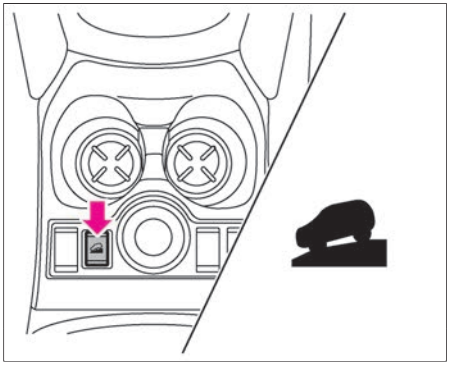
アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）をONにしていても、条件が満たされていないときはアドバンスドヒルディセントコントロール表示灯（➔P.501）が点滅し、システムが作動しません。

アドバイス

- 長時間連続使用するとシステム温度が上昇し、一時的に作動が停止します。このとき、アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯が点滅します。
- VDC警告灯が点灯しているときは、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は作動しません。

アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）の使いかた

- スイッチを押すとアドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）がONになり、アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯が点灯または点滅します。
- アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯が点滅しているときは、作動条件を満たしていないためアドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）が作動しません。
- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）で走行しているときは、アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で車速を変更することができます。
- アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）をOFFにするときは、もう一度スイッチを押します。



アドバイス

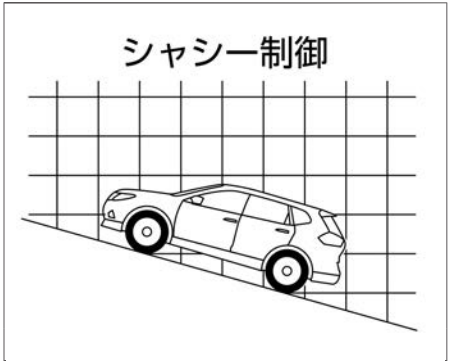
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）は作動を停止します。ペダルから足を離すとシステムが再び作動するので、車速を調節することができます。
- アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチをONにしても表示灯が点滅または点灯しないときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- セレクトレバーがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「シャシー制御」に切り替えると、ヒルスタートアシストの作動を画面で確認することができます。
  ブレーキペダルを踏んで停止しているときに、ヒルスタートアシストが作動する条件を満たすと、シャシー制御の画面が右図のように切り替わります。
  ブレーキペダルから足を離し、ヒルスタートアシストが作動すると、タイヤ部分が点滅します。
  詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66) をお読みください。



⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**
  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転に心がけてください。
- **坂道での駐停車にヒルスタートアシストを使用しない。**
  思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **停車するときは、ブレーキペダルを踏み続ける。**
  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にセレクトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

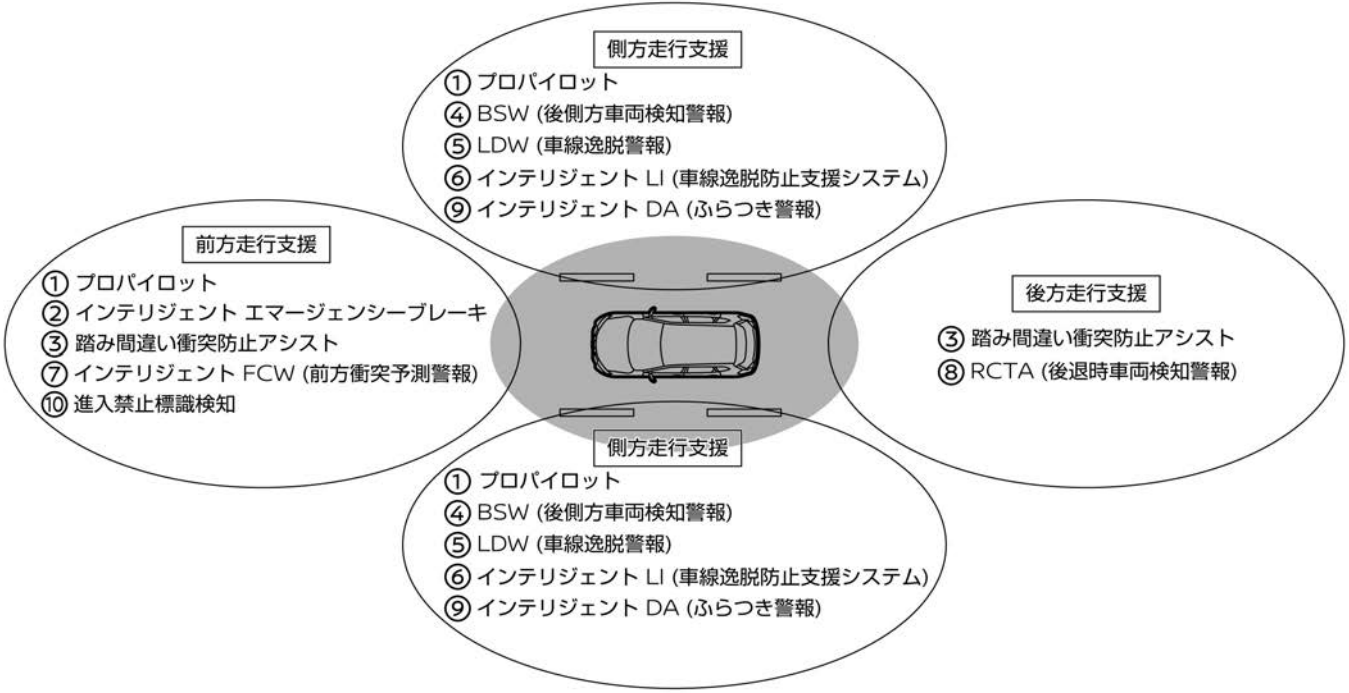
アドバイス

- セレクトレバーを操作した直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。セレクトレバーをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。

知識

- VDC警告灯（➔P.496）が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。
- 緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動しない場合があります。

走行支援システムについて



① **プロパイロット★**
走行中、前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.294）

② **インテリジェント エマージェンシーブレーキ**
前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.332）

③ **踏み間違い衝突防止アシスト**
進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.343）

④ **BSW（後側方車両検知警報）★**
車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合には警報によって運転者に注意を促します。（➔P.365）

⑤ **LDW（車線逸脱警報）**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（➔P.375）

⑥ **インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。（➔P.375）

⑦ **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）**
前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。（➔P.383）

⑧ **RCTA（後退時車両検知警報）★**
後退時に、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報によって注意を促します。（➔P.389）

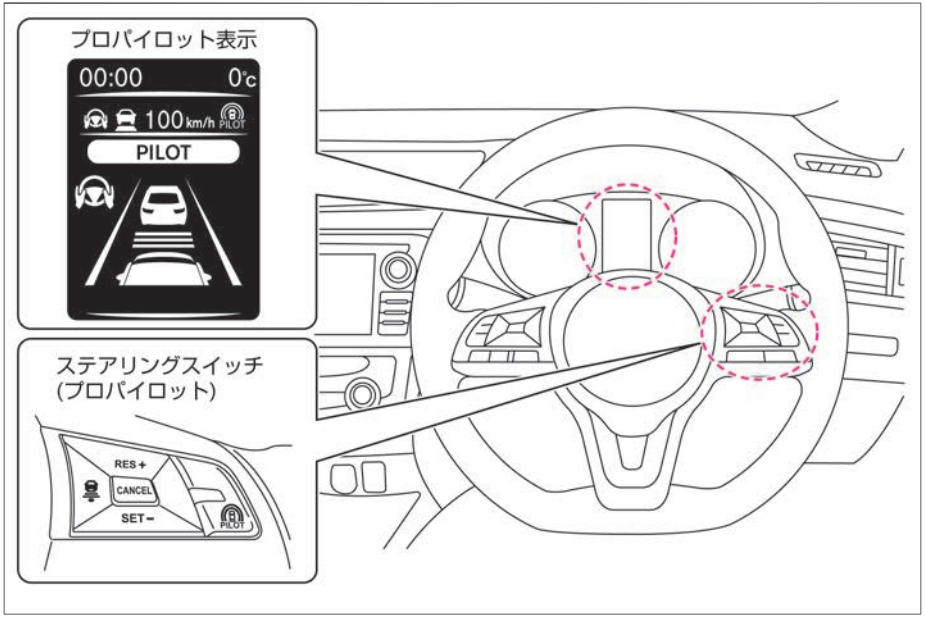
⑨ **インテリジェント DA（ふらつき警報）★**
ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.398）

⑩ **進入禁止標識検知**
運転者に車両進入禁止標識があることを知らせ、車両進入禁止区域を走行しないように注意を促します。（➔P.401）

プロパイロット★

プロパイロットは、運転者が設定した車速を上限に先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



警告

- **高速道路や自動車専用道路で使用する。**
  プロパイロットは、高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。
- **プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転に心がける。**
  自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づくことがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。
- **手放し運転を行うことはできない。**

⚠ 警告

運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

- **停止中の車両には反応しない。**
  料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては減速しません。十分注意してください。

次ページに続く

プロパイロットについて

- プロパイロットのシステムには次の機能があります。

インテリジェント クルーズコントロール

- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速(約30km/h以上)を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。
- 先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
- 先行車が発進したときは、ステアリングスイッチのRES+スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態を解除し、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。
- 先行車を検出していない場合は運転者がセットした車速で定速走行します。（約30km/h以下では前方に車両がいない場合使用できません。）
➔ インテリジェント クルーズコントロールの作動 (P.301)

ハンドル支援

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。（約50km/h以下では前方に車両がいる場合に作動できます。）
➔ ハンドル支援の作動 (P.313)

知識

- アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができる定速制御機能については、➔ 定速制御機能について (P.326)をお読みください。

ステアリングスイッチ

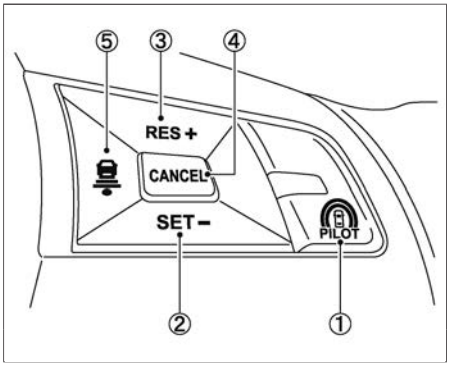
① **プロパイロットスイッチ**
— プロパイロットのON･OFFができます。

② **SET-スイッチ**
— SET-スイッチを押したときの車速でプロパイロットを開始できます。
— 設定速度を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
— プロパイロットを解除後、解除前の設定速度で再び開始することができます。
— 設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
— プロパイロットの解除ができます。

⑤ **車間設定スイッチ**
— 車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。



知識

- プロパイロットをONにすると、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）も同時にONになります。詳しくは、➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375)をお読みください。

次ページに続く

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

① **ハンドル支援作動灯／警告灯**
— ハンドル支援中は緑色に点灯

② **車速制御作動灯／警告灯**
— 定車間制御中（先行車検出有）：緑色に点灯
— 定速制御中（先行車検出無）：緑色（線画）に点灯

③ **設定車速表示**
— 設定車速を表示

④ **プロパイロット作動表示**
— プロパイロット作動中は青色に点灯

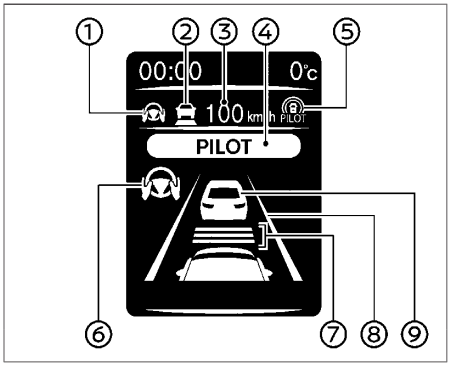
⑤ **プロパイロット作動灯**
— プロパイロットON：白色に点灯
— プロパイロット作動開始：青色に点灯

⑥ **ハンドル支援作動表示**
— ハンドル支援中は緑色に点灯

⑦ **車間設定表示**
— 車間距離の設定状況を表示

⑧ **車線検出表示**
— 車線検出有り：緑色に点灯
— 車線検出無し：灰色に点灯

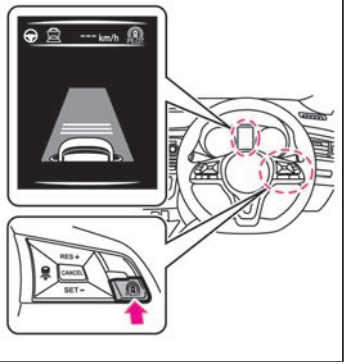
⑨ **先行車検出表示**
— 先行車検出有り：表示
— 先行車検出無し：非表示



アドバイス

- プロパイロットに異常があると、①ハンドル支援警告灯および②車速制御警告灯がオレンジ色に点灯します。

プロパイロットの使いかた

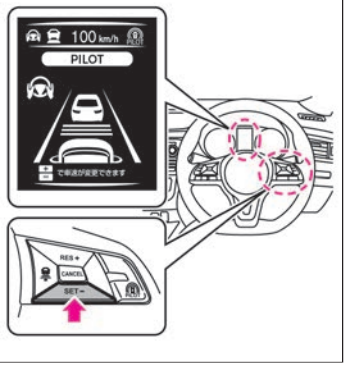
1	プロパイロットスイッチ を押します。 ・プロパイロットがONになります。 ・アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。	
2	設定したい速度まで加速または減速します。	

アドバイス

- プロパイロットには次の機能があります。
  ➔ インテリジェント クルーズコントロールの作動 (P.301)
  ➔ ハンドル支援の作動 (P.313)
- 次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します。）

  – 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
  – 運転席シートベルトを着用していないとき
  – 車速が約30km/hを下回っていて、先行車両を検出していないとき
  – セレクトレバーが D またはマニュアルシフトゲート以外のとき
  – 電動パーキングブレーキが作動しているとき
  – ブレーキを踏んでいるとき

次ページに続く

3	SET-スイッチを押します。 ･スイッチを押したときの速度が設定速度になり、プロパイロットの制御が開始します。 （車速30km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定速度は30km/hになります。） プロパイロット作動灯、プロパイロット作動表示が青色で点灯します。	

知識

- プロパイロットスイッチ を約1.5秒押し続けると、定速制御機能に切り替わります。
  ➔ 定速制御機能について (P.326)
- 車間設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- エンジンを止めるとプロパイロットはOFFになります。
- プロパイロットには次の機能があります。
  ➔ インテリジェント クルーズコントロールの作動 (P.301)
  ➔ ハンドル支援の作動 (P.313)
- 次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します。）

  – インテリジェント パーキングアシスト（駐車支援システム）★が作動しているとき
  – VDCをOFFにしたとき
  – VDC/TCSが作動したとき
  – タイヤが空転したとき

インテリジェント クルーズコントロールの作動

先行車を検出しているとき

- 運転者がセットした車速(約30km/h以上)を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車検出表示が点灯し、車速制御作動灯が定車間表示（緑）で点灯します。

先行車が停止したとき

- インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、「RES+を押すと発進します」と表示されます）

先行車が発進したとき

- インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、RES+スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。

追従走行時

車両停止保持時

知識

- インテリジェント クルーズコントロールで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。
- 車間設定スイッチ により、車間を設定することができます。
  ➔ 車間距離設定の変更のしかた (P.306)
- インテリジェント クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。
- 車両停止保持状態のときに、RES+スイッチを押すと、約3秒間は発進待機状態になります。（車両停止保持状態が解除されます）
- インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止した後、約3分を経過すると、解除音とともに電動パーキングブレーキが作動し、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。
- インテリジェント クルーズコント

次ページに続く

知識

ロールにより自車が停止中に、先行車が発進するとアイドリングストップが解除されエンジンが再始動します。

先行車を検出していないとき

- 運転者が設定した速度で、定速走行します。先行車検出表示が消灯し、車速制御作動灯が定速表示（緑）で点灯します。

知識

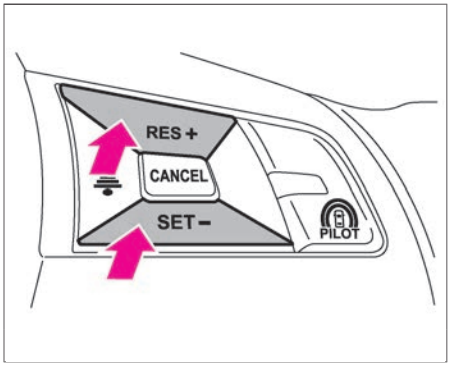
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。

次ページに続く

設定車速の変更のしかた

設定車速が5km/hきざみで変更できます。

- 設定車速を上げたいときは、RES+スイッチを押します。
- 設定車速を下げたいときは、SET-スイッチを押します。



知識

- 車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+スイッチを押して、設定車速を上げても加速しません。このとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はアドバンスドドライブアシストディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

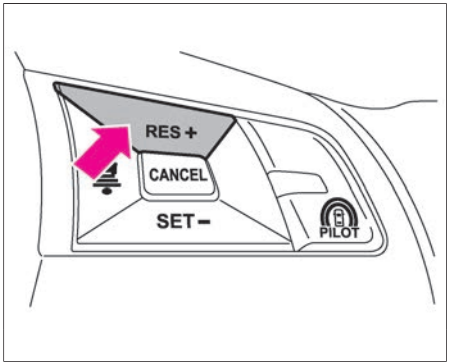
一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- アクセルペダルを踏むと、加速します。
- アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。
- 解除前の設定速度で再びセットしたいときは、RES+スイッチを押します。



知識

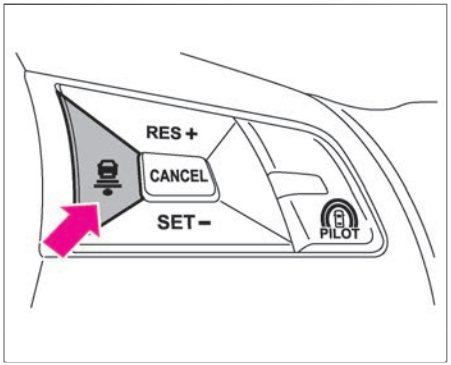
- アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェントクルーズコントロールによるブレーキ制御も接近警報も行いません。
- 通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。
- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-スイッチで設定速度を下げた場合などで設定速度より実際の速度の方が高くなったときは、設定速度表示が点滅します。

次ページに続く

車間距離設定の変更のしかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。インテリジェント クルーズコントロール制御中またはセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。

- 車間設定スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。

車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

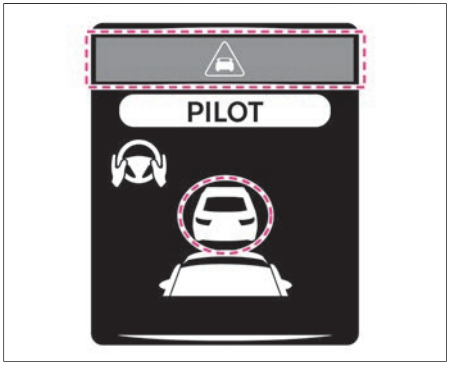
- 車間設定は、エンジンを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

割り込み検知

- 自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン"という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

- 車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。 この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。
- 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。



知識

- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、インテリジェント クルーズコントロールを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては接近警報は作動しません。

次ページに続く

追い越し時加速機能

- 設定車速が70km/h以上でインテリジェント クルーズコントロール制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。
- 運転者がステアリングを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者がセットした車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者がセットした車速で定速走行します。

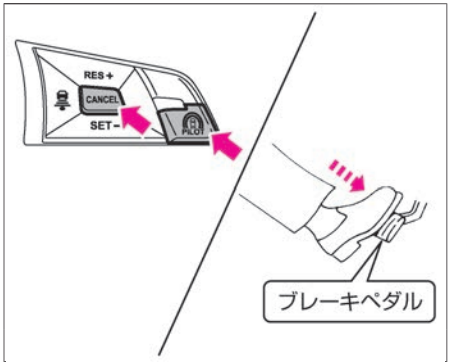
知識

- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ブレーキを踏んだとき
  - CANCELスイッチを押したとき

インテリジェント クルーズコントロールの解除のしかた

次のいずれかの操作でインテリジェント クルーズコントロールが解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- プロパイロットスイッチ を押す
- ブレーキペダルを踏む
  （インテリジェント クルーズコントロールにより、自車が停止状態を保持しているときを除く）



警告

- **車から離れるときは、必ずプロパイロットスイッチ を押して、プロパイロットをOFFにし、セレクトレバーを P に入れ、エンジンを停止する。**

インテリジェント クルーズコントロールの自動解除

- 次の場合は、解除音とともにインテリジェント クルーズコントロールが解除されます。
  - 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
  - 運転席のシートベルトを解除したとき
  - 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
  - インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止後、約3分が経過したとき
  - セレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲート以外に入れたとき
  - 電動パーキングブレーキをかけたとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - VDC/TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - インテリジェント パーキングアシスト（駐車支援システム）★の制御を開始したとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
- 次の場合は「フロントレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と表示され、作動が停止します。
  - センサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき
    システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れるとシステムは作動を再開します。

アドバイス

- インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止状態を保持中に運転席ドアを開けたとき、電動パーキングブレーキが正常に作動しなかった場合は「停車を維持できません ブレーキを踏んでください」と警告メッセージが表示されます。

知識

- インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止状態を保持しているとき、 次の条件により、インテリジェント クルーズコントロールが解除されると電動パーキングブレーキが作動します。
  - 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
  - 運転席のシートベルトを解除したとき
  - インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止後、約3分が経過したとき
  - セレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲート以外に入れたとき
  - VDCをOFFにしたとき

次ページに続く

知識

- インテリジェント クルーズコントロールに異常があるとき
- CANCELスイッチを押したとき
- プロパイロットスイッチ を押したとき

インテリジェント クルーズコントロールの故障について

- システムに異常があると、警告音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイ内に車速制御警告灯（オレンジ）が点灯し、警告が表示され、システムが停止します。
  車速制御警告灯（➔P.298）

アドバイス

- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

プロパイロット（インテリジェント クルーズコントロール）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。 表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● VDC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき ● VDCをOFFにしたとき	● VDC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではインテリジェント クルーズコントロールは使用できません。 ● VDCがOFFの場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
⚠ 警告 停車を維持できません ブレーキを 踏んでください	● インテリジェント クルーズコントロールにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。

ハンドル支援の作動

車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。

- ハンドル支援は、次の条件を満たすとき作動することができます。
  - インテリジェント　クルーズコントロールの制御が開始しているとき
  - 両側のレーンマーカーを検出しているとき
    レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
  - 先行車を検出しているとき（車速が約50km/hを下回っている場合のみ）
  - 運転者がハンドルを持っているとき
  - 車線の中央を走行しているとき
  - 方向指示器が作動していないとき
  - ワイパーが高速で作動していないとき
- ハンドル支援が作動すると、ブザーが鳴るとともにハンドル支援表示灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が緑色になります。

次ページに続く

ハンドル支援のON･OFFのしかた

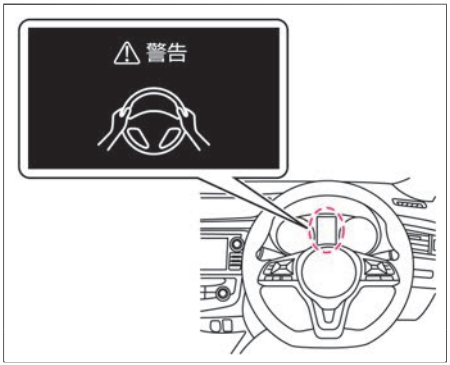
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「プロパイロット」⇒「ハンドル支援」を選択すると、ハンドル支援のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

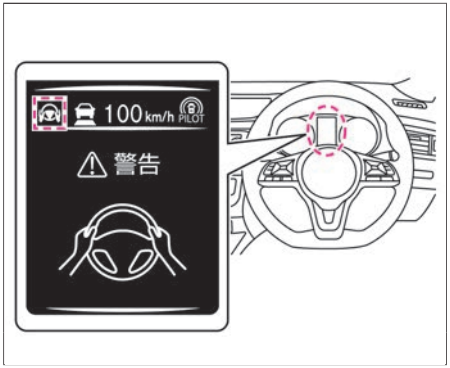
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの車両情報画面がプロパイロット画面のときは、ステアリングにある OK スイッチを押すとプロパイロットの設定画面が表示されます。
- ハンドル支援のON･OFF設定はエンジンを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

手放し警告について

- 運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに手放し警告が表示されます。



- 手放し警告が表示がされているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともにハンドル支援警告灯が赤色に点滅し、ハンドル支援機能は一時待機状態となります。



警告

- **手放し運転を行うことはできません。**
  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

アドバイス

- ハンドルに手を軽く添えて運転をしている場合など、ハンドル操作を検出できず、手放し警告が表示されることがあります。

知識

- 手放し警告によりハンドル支援が一時待機状態となった後、再び運転者がハンドル操作すると手放し警告は消灯し、ハンドル支援機能が復帰します。

次ページに続く

ハンドル支援の一時待機について

運転操作による一時待機

- 方向指示器を作動させたときは、ハンドル支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
- ハンドル支援表示灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が灰色になります。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ（➔P.318）

システムによる一時待機

- 次の場合は、ブザーとともに警告メッセージが表示され、ハンドル支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
  - 両側の車線を検出しなくなったとき
  - 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき
- ハンドル支援表示灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が灰色になります。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ（➔P.318）

ハンドル支援の自動解除

- 次の場合は、警告メッセージが表示され、ハンドル支援機能が解除されます。
  - ワイパーを高速で作動させたとき
  - 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき　（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ（➔P.318）

知識

- ハンドル支援によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によりいつでも修正することができます。

ハンドル支援機能の故障について

- システムに異常があると、警告音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに車速制御警告灯（オレンジ）、およびハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、警告が表示され、システムが停止します。
  車速制御警告灯（➔P.298）
  ハンドル支援警告灯（➔P.298）

アドバイス

- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
ハンドル支援は 一時的に作動できません	● 両側の車線を検出しなくなったとき ● 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき	● 作動条件を再度満たすとハンドル支援機能は再開されます。
⚠警告	● ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がないとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、ハンドル支援機能が復帰します。
レーンを認識できません ハンドル支援を 解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再びハンドル支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを解除し、再度セットしてください。
悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速作動を解除して再度セットしてください。
カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、プロパイロット（ハンドル支援）を使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとプロパイロット（ハンドル支援）を使用することができます。

次ページに続く

プロパイロットに関する注意事項

警告

- **プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**
  先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転に心がけてください。
- **プロパイロットの性能には限界があります。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、プロパイロットを使用しないでください。**
  - 急カーブや曲がりくねった道
    プロパイロットは直線路や緩やかなカーブ路での使用を想定して設計しているため、車線中央付近を維持できなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 急勾配の坂道
    停止状態を保持できず、車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 急な下り坂
    設定車速を超えてしまうおそれがあります。また先行車がいる場合は、ブレーキが過熱して十分な減速ができなくなるおそれがあります。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況
    ブレーキ作動が遅れて車間距離が短くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、レーンマーカーが極端に近い道
    道路構造物に接近し思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- **次のような状況では先行車との車間距離が正確に検出できない、またはレーンマーカーが検出できない場合があり、適切に制御できず、思わぬ事故につながるおそれがありますのでプロパイロットを使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行するとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
- **次のような状況ではプロパイロットは正しく機能しません。プロパイロットを使用しないでください。**
  - タイヤの空気圧が適正ではないとき

次ページに続く

⚠ 警告

- 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- 極端に重い荷物を積んでいるとき
- けん引しているとき

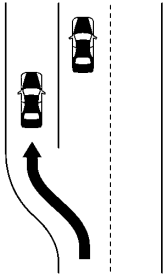
● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

知識

- プロパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびその周辺のお手入れを行ってください。
➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.581)
➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.580)

インテリジェント クルーズコントロールについて

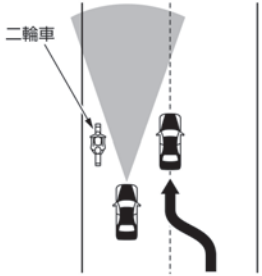
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でインテリジェント クルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。

次ページに続く

知識



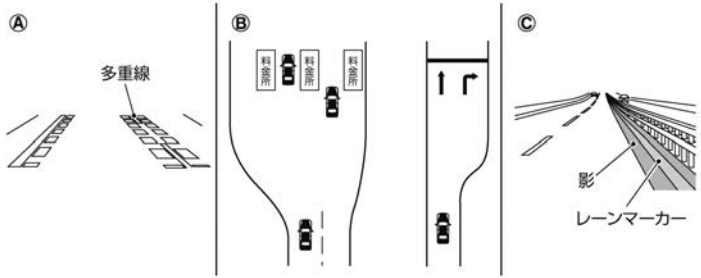
- センサーの汚れを判定する機能を備えておりますが万全ではありません。
  状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
  なお、汚れを判定した場合は、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。
  また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

ハンドル支援機能について

- 次のような状況ではレーンマーカーを正しく検出できず、適切なハンドル制御が行えない場合があります。
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき

知識

- レーンマーカーが多重に描かれているとき Ⓐ
- 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
- 料金所や交差点手前などでレーンマーカーがない、またはレーンマーカーが大きく変化しているとき Ⓑ
- 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 停止禁止部分または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
- 濡れている、または水たまりがある路面を走行しているとき
- 工事などで車線内に複数のレーンマーカーがある道を走行しているとき
- 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき Ⓒ
- 合流、分岐路を走行しているとき



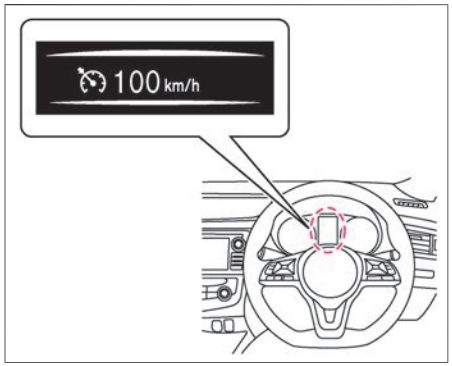
次ページに続く

定速制御機能について

定速制御機能を使用すると、セレクトレバーがDのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。　（ハンドル支援や車間制御は行いません。）
約40km/h以上で任意の速度にセットできます。

■ 定速制御機能表示

- プロパイロットスイッチ をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。
  - 白色：
    プロパイロットスイッチ を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。
  - 緑色：
    車速を設定すると表示します。
  - オレンジ色（警告灯）：
    システムが故障すると表示します。



⚠ 警告

- **定速制御機能を使用するときは、十分な車間距離をとる。**
  定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- **次の状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使用しない。**
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂

アドバイス

- 定速制御機能表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車して、電源ポジションをOFFにし、再始動してから再度定速制御機能をセットして

アドバイス

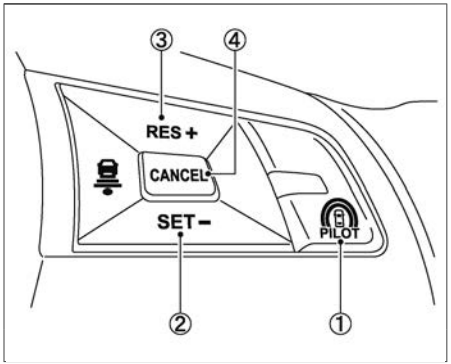
ください。エンジン再始動後もセットできない、または定速制御機能表示がオレンジ色に点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- 定速制御機能使用時は、ハンドル支援を行いません。

次ページに続く

■ ステアリングスイッチ（定速制御機能）



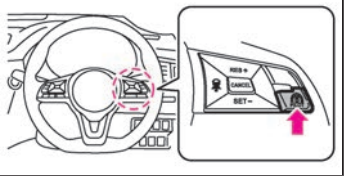
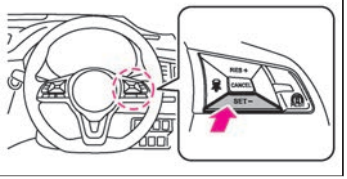
① **メインスイッチ** PILOT
— 定速制御機能のON･OFFができます。

② **SET-スイッチ**
— スイッチを押したときの車速で定速制御機能をセットできます。
— 設定車速を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
— 定速制御機能を解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
— 設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
— 定速制御機能の解除ができます。

定速走行のしかた

1	ハンドルにあるプロパイロットスイッチ PILOT を1.5秒以上押して定速制御機能をON（待機状態）にします。 アドバンスドドライブアシストディスプレイに定速制御機能表示が点灯します。	
2	設定したい速度まで加速または減速します。	
3	SET-スイッチを押します。 SET-スイッチを押したときの車速で定速走行を開始します。	

知識

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

次ページに続く

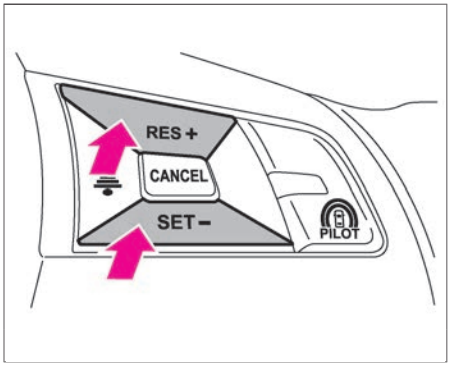
設定車速の変更のしかた

速度を上げる

- 定速走行中にRES+スイッチを押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

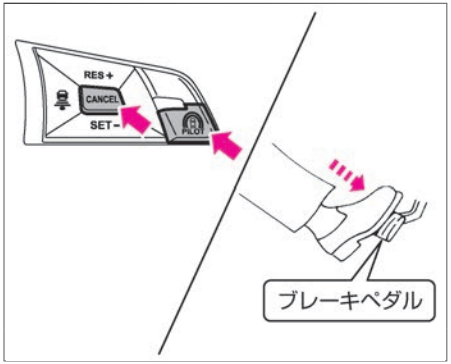
- 定速走行中にSET-スイッチを押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。



定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

- CANCELスイッチを押す
- プロパイロットスイッチ を押す
- ブレーキペダルを踏む



アドバイス

- CANCELスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+スイッチを押します。
  （車速が約40km/h以上のとき戻せます。）
- 次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
  – 速度が約30km/h以下になったとき

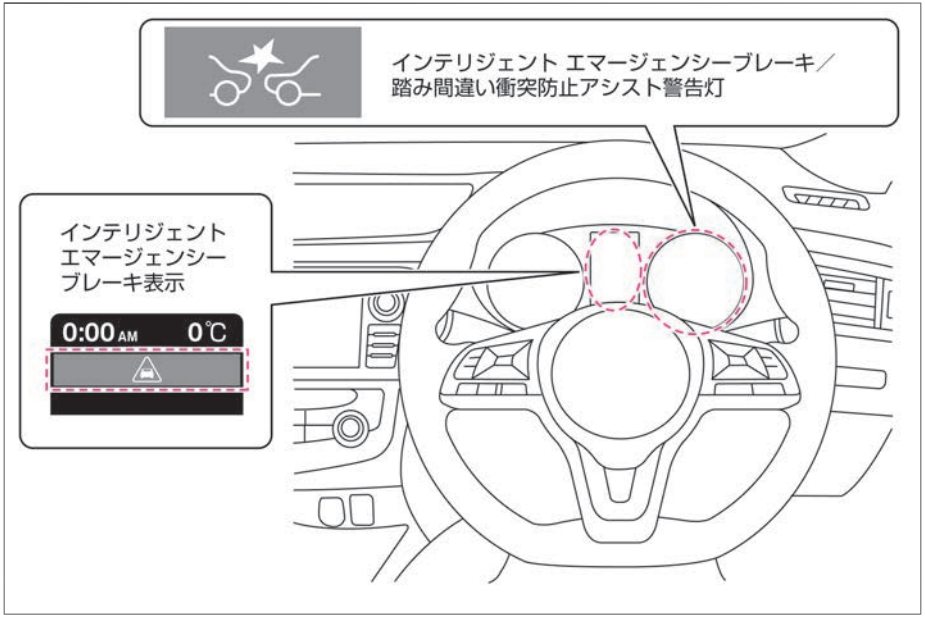
アドバイス

- 設定速度より約13km/h以上速度が低下したとき
- VDC/TCSが作動したとき
- タイヤが空転したとき
- セレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲート以外に入れたとき
- システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

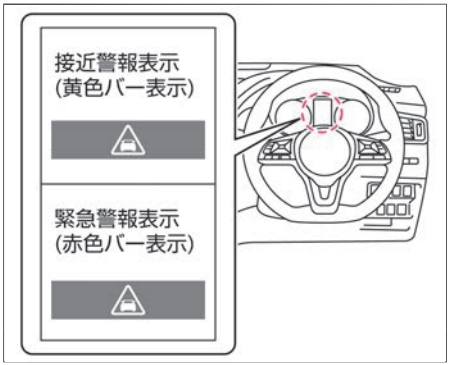


警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。
  必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキについて

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより、前方の車両や歩行者を検知します。
- 車速約10～80km/hの範囲で作動します。
  （車速約60km/h以上では、歩行者に対しては作動しません。）
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）が黄色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。



知識

- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、または素早くきったとき
  - 前方の車両や歩行者との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、インテリジェント　エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときには作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「セーフティ·シールド」および「プロパイロット★」に切り替えると、インテリジェント　エマー

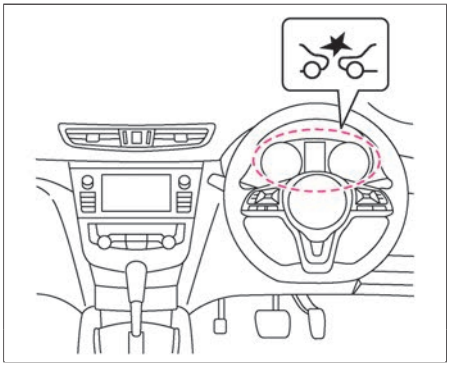
次ページに続く

知識

ジェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイで確認することができます。
詳しくは、画面の切り替えかた(P.66)をお読みください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「エマージェンシーブレーキ」を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキ機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で機能をOFFにしても、エンジンを再始動するとONに切り替わります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキと、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON･OFF切り替えは連動しています。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）もOFFになります。
  ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.343)
  ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.383)

次ページに続く

インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

知識

- 次のような障害物は検知しません。
  - 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - 対向車両
  - 道路構造物(ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物)
- システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

知識

- カーブを走行しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合(自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など)
- 始動してから約15秒間
- カメラの視界がさえぎられているとき(フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード)
- カメラの向きがずれているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

● 以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
- 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
- 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。

次ページに続く

知識

- 歩行者の移動速度が速いとき
- 対向して接近する歩行者
- 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているときなど）により、歩行していると特定できないとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- 車高の低い車両
- 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
- 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- 四輪車以外の車両（二輪車など）
- 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- ショッピングカートやベビーカーなどを押しているとき

● 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
- 滑りやすい路面を走行しているとき

知識

- 勾配のある路面を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき(後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき)

● 路面または壁面の影や模様･ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ･位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

● 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。

● 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。

● 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。

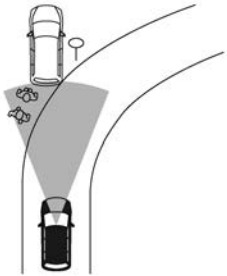
● 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。

● 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。

次ページに続く

知識

– 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



– 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
– 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
– 駐車場内にある物（梁など）
– 走行路にある物（近接する樹木など）

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
    停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。
- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点滅し、システムが一時的に作動しなくなります。
  - フロントガラスの汚れなどにより、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 前方からの強い光により、 カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
    （室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告灯（➔P.497）
  警告メッセージ（➔P.507）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスおよびフロントレーダーセンサー周辺部をいつもきれいにしておいてください。
  ➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.581)
  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.580)
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（➔P.497）

次ページに続く

- 次の場合、メーター内のインテリジェントエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯するとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
  - 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
    上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、エンジンを再始動してください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき
    （例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
    上記の状況から離れるとシステムは作動を再開します。

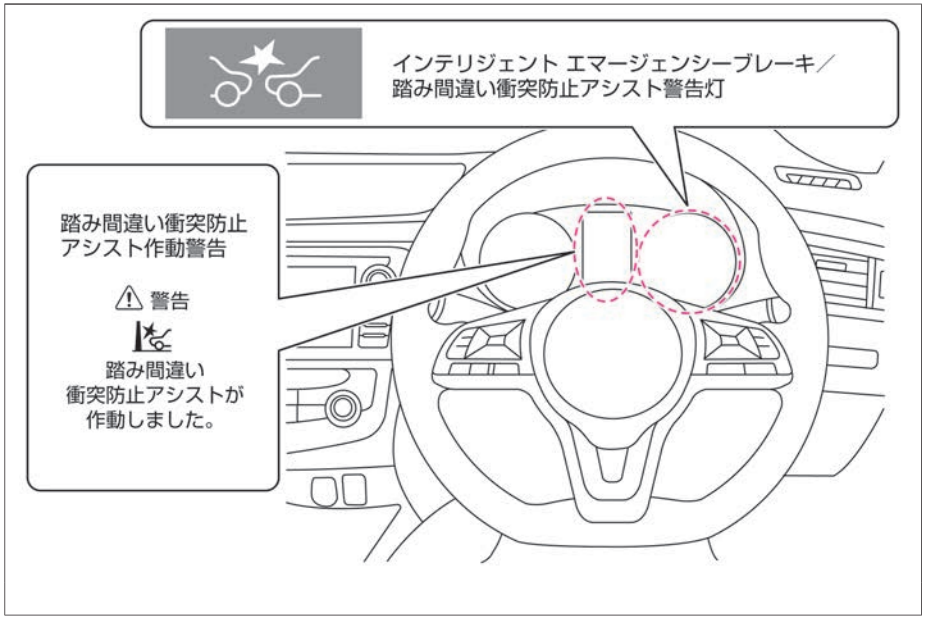
知識

- VDCをOFFにしたときは、メーターの表示と警報音（ブザー）のみ作動します。
- 夜間、ライトをつけずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、インテリジェントエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点滅する場合があります。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。
さらにエンジン出力やブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示



警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えることにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

次ページに続く

踏み間違い衝突防止アシストについて

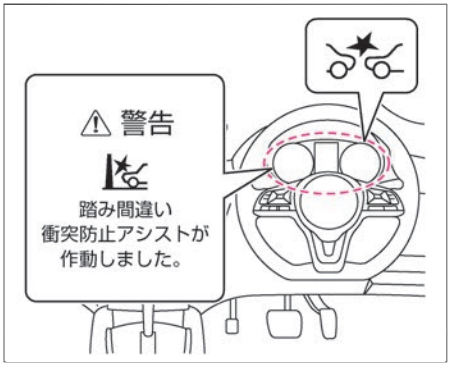
前進時

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

後退時

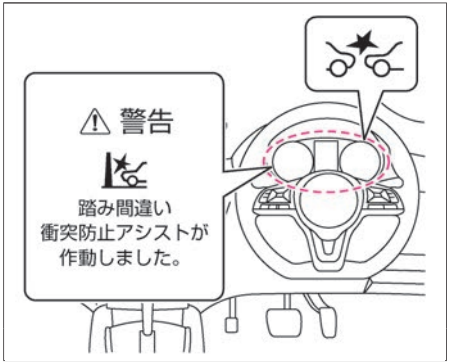
- リヤバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

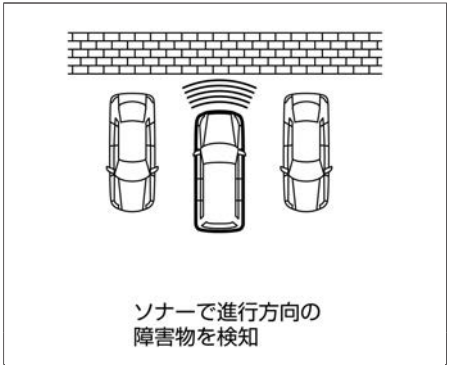
踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。次ページ以降をお読みください。



低速加速抑制機能

- 前進時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 後退時（停車時含む）、進行方向に壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h の範囲で作動します。
- 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/hの範囲で作動します。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と警告灯の点滅、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.497）
  警告メッセージ（➔P.506）





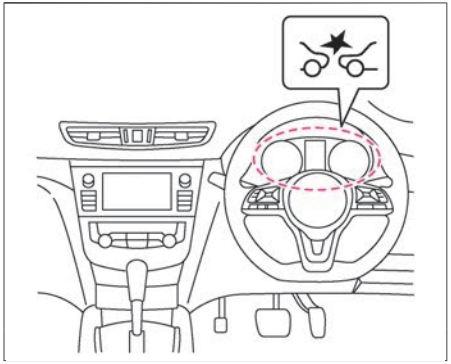
⚠ 警告

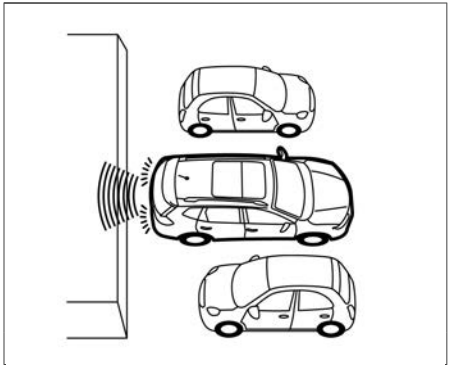
- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**
  低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。故意にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

低速衝突軽減ブレーキ機能

- 前進、または後退時、進行方向の障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、エンジン出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約2～15km/h の範囲で作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と警告灯の点滅によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.497）





知識

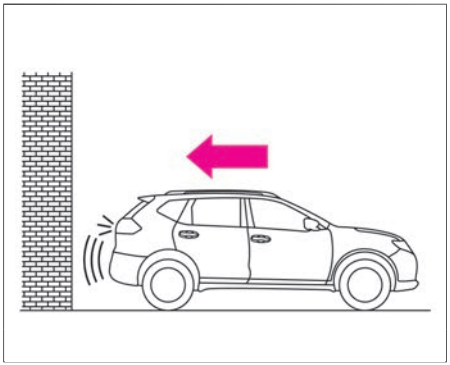
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき･しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と警告灯が点滅し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

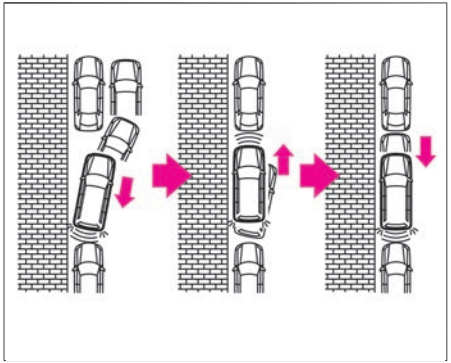
- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- システムは、ブレーキペダルを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。
  アクセルペダルを踏んで前進･後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。



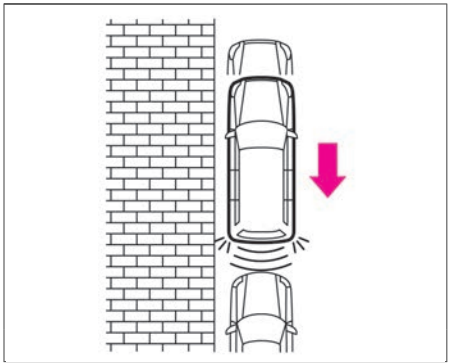
次ページに続く

縦列駐車をするとき

セレクトレバーを D から R、または R から D に切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

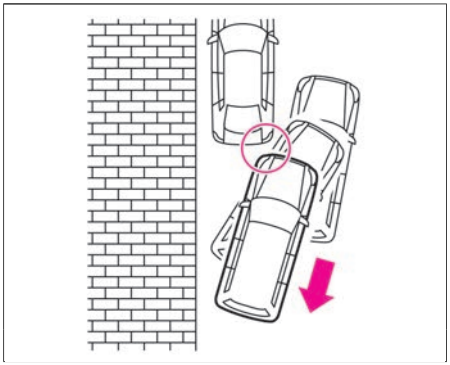


- ブレーキ制御が作動したあと、セレクトレバーを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退した場合、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。

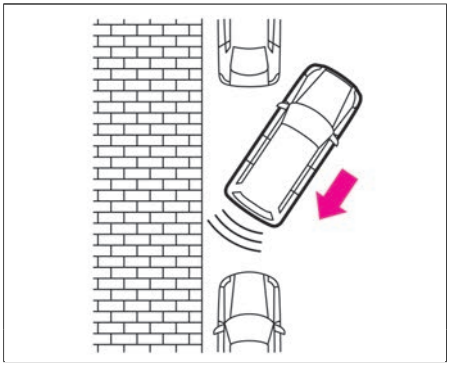


踏み間違い衝突防止アシスト

- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対して作動しません。

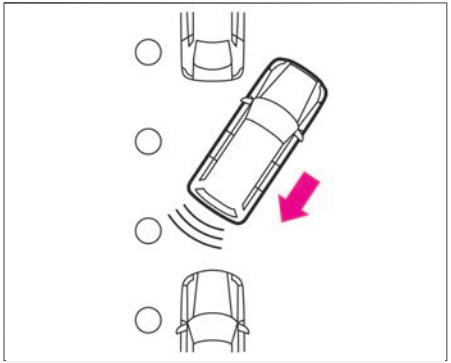


- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。

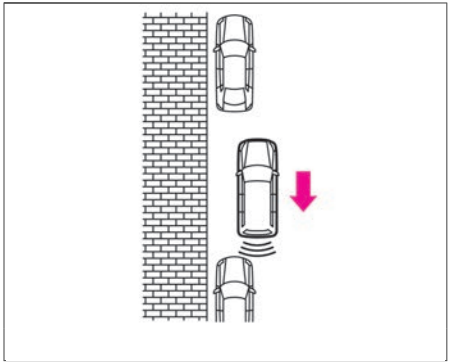


次ページに続く

- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。

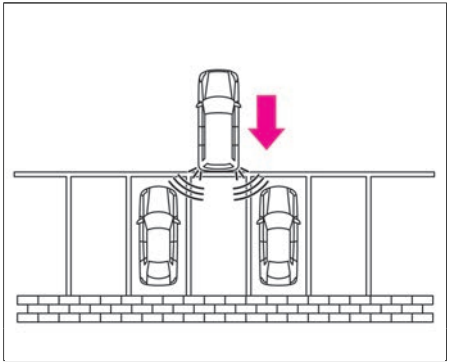


- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

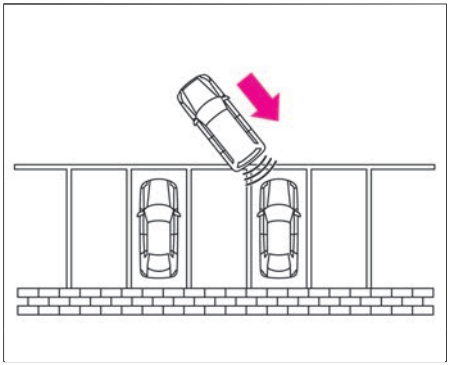


並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。

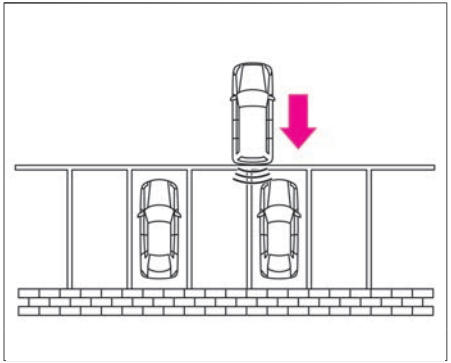


- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。

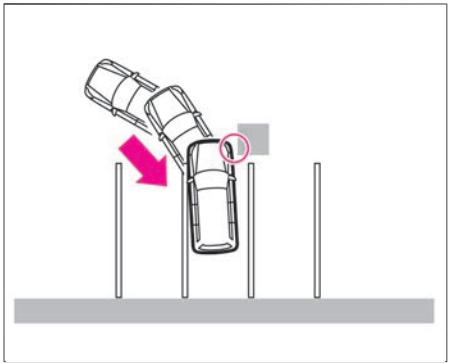


次ページに続く

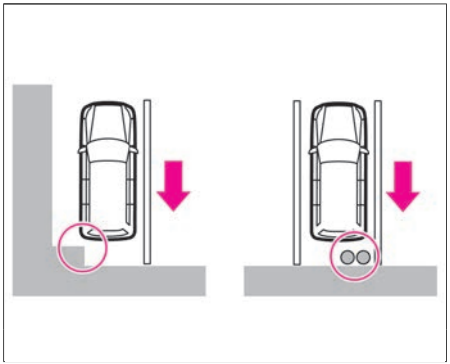
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。



- 後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。



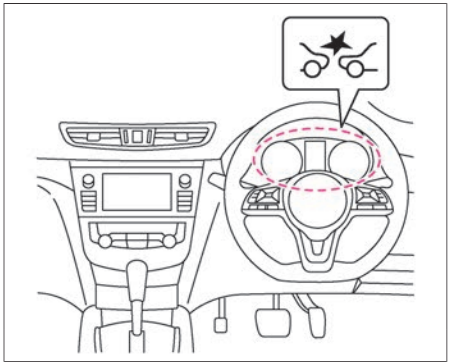
- 壁から突き出している柱や配管などに対しては作動しません。



次ページに続く

踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「エマージェンシーブレーキ」を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。
  （インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）



知識

- 踏み間違い衝突防止アシストの設定は、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）の設定と連動しています。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で機能をOFFにしても、エンジンを再始動するとONに切り替わります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。**
  - けん引するとき
  - トレーラーなどに積載するとき
  - 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
    （車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
- **ソナーは次のような障害物は検知しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - バンパーに非常に近い障害物
  - 急に進行方向に現れた障害物
- **ソナーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しないことがあります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき

次ページに続く

警告

- 周囲に超音波を発するものがあるとき
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

● **ソナーは次のような場合は検知することがあります。**

- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発生するものが付近にいたとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 背が高く上部が張り出しているものがあるとき

● **マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物は検知しません。**

- 子供などの背の低い人、動物、自転車
- 対向車両
- 道路構造物(ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物)

● **マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**

- バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
- 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
- 前方を横切って通過する車両
- 斜めもしくは前向きに止まっている車両

⚠ 警告

- **マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
  - 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
  - 対象物の位置や動きが大きく変化した場合(自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など)
  - 始動してから約15秒間
  - カメラの視界がさえぎられているとき(フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード)
  - カメラの向きがずれているとき

次ページに続く

⚠ 警告

- **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
  - 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
  - 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
  - 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
  - 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- **以下の対象物にはマルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - 車高の低い車両
  - 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
  - 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
  - 後端面積が小さい車両(空荷のトラックなど)
  - リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - 四輪車以外の車両(二輪車など)
  - 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**
  - 複数の対象物同士が近接している場合

⚠ 警告

– 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**
- **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**
  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**
  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。
- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

次ページに続く

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両が傾いているとき(後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき)
- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

知識

低速加速抑制機能について

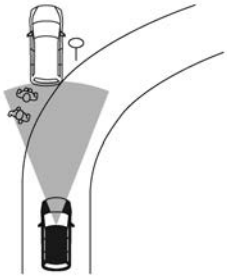
- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約15km/h以上のとき（前方の車両、歩行者に対しては約25km/h以上）
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - セレクトレバーが D、マニュアルシフトゲートまたは R 以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様･ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車

次ページに続く

知識

両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ･位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。

- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約2km/h未満、または約15km/h以上のとき

知識

– セレクトレバーが D、マニュアルシフトゲートまたは R 以外のとき

● 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

次ページに続く

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
- インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できなくなったときは、インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点滅し、踏み間違い衝突防止アシストも一時的に作動しなくなります。
  詳しくは、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.341)をお読みください。
- システムに異常があると、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯し、システムが停止します。
  警告灯（P.497）

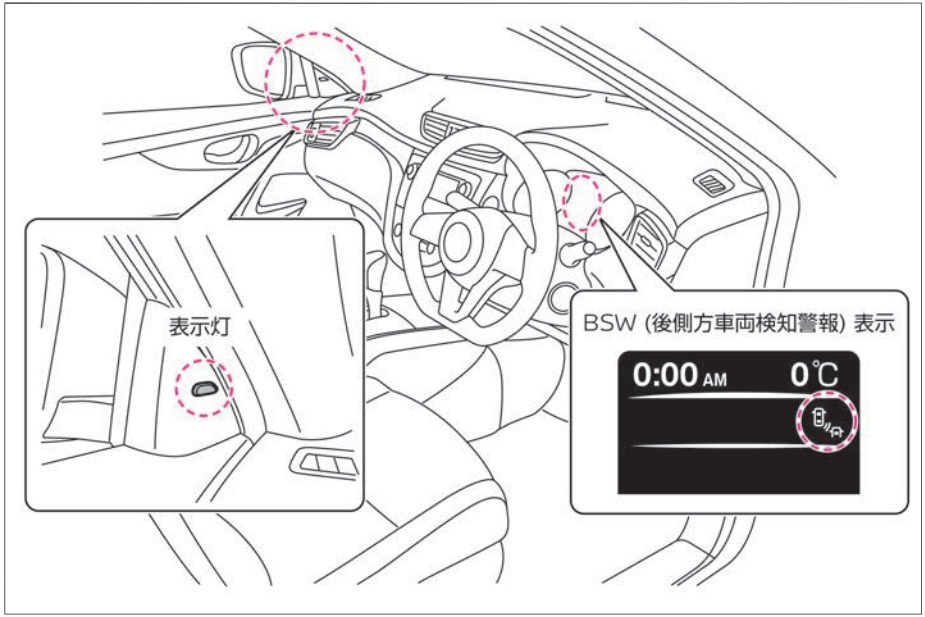
アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（P.584）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（P.497）

BSW（後側方車両検知警報）★

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合には警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示



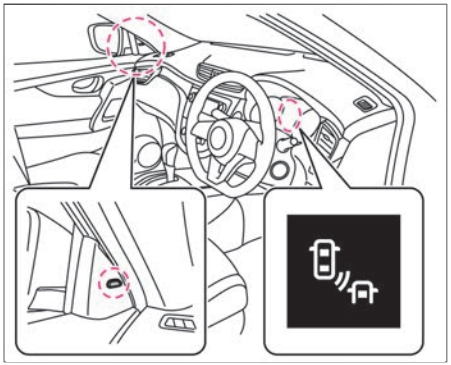
⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  BSW（後側方車両検知警報)は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

次ページに続く

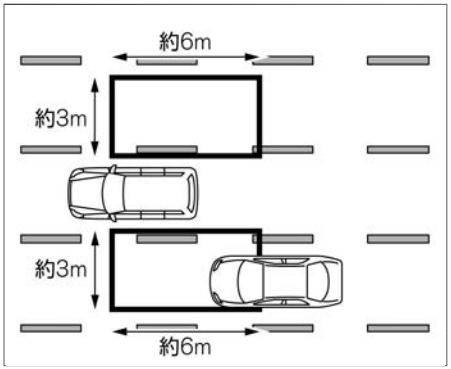
BSW（後側方車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある範囲内に車両の前端部があるとき、車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。



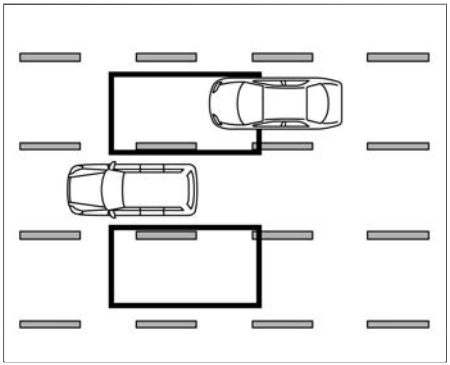
知識

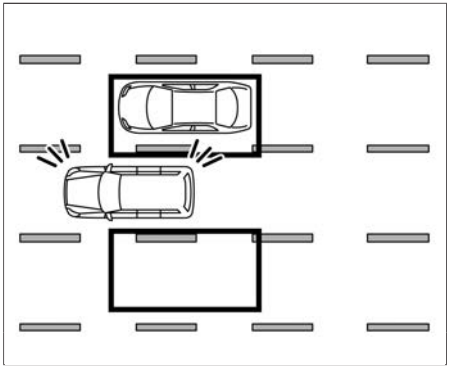
- ドアミラー付近の表示灯は電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー付近の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「セーフティ·シールド」に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報)の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイで確認することができます。
  詳しくは、画面の切り替えかた(P.66)をお読みください。

作動するとき･しないとき

後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。





⚠ 注意

- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**
  自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

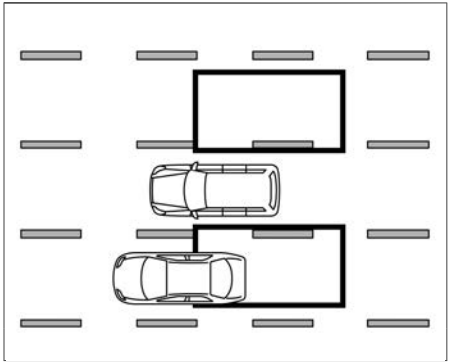
知識

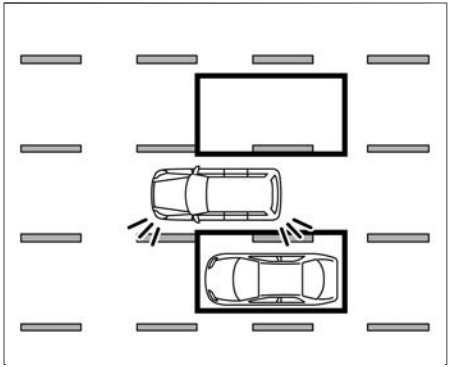
- 方向指示器を作動した後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

次ページに続く

他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。



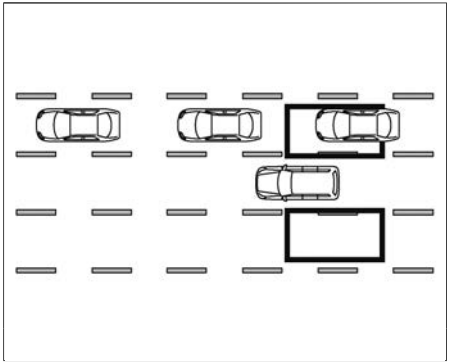


知識

- 速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。

他の車両に追い越されるとき

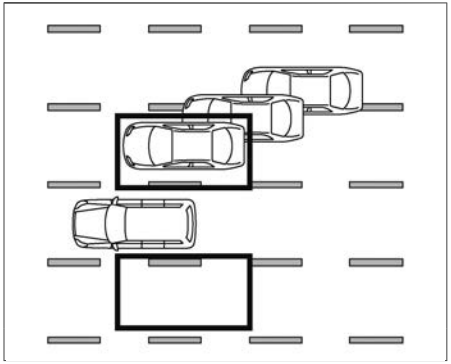
- 複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

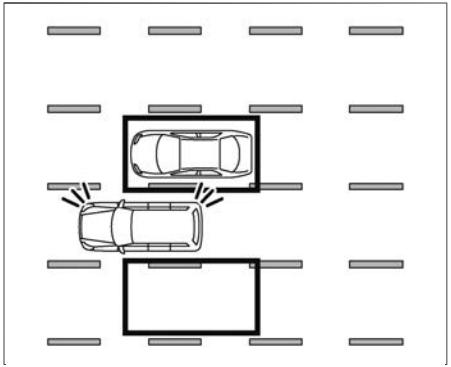


次ページに続く

他の車線から車両が接近してきたとき

- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、ドアミラー付近の表示灯が点滅します。





知識

- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

BSW（後側方車両検知警報）の使いかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「後側方車両検知警報」を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

次ページに続く

BSW（後側方車両検知警報）に関する注意事項

警告

- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車両が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**
  - 強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

⚠ 注意

- **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 対向車

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

知識

- 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線にいる車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

次ページに続く

作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - レーダーセンサーが汚れているとき
  - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.507）

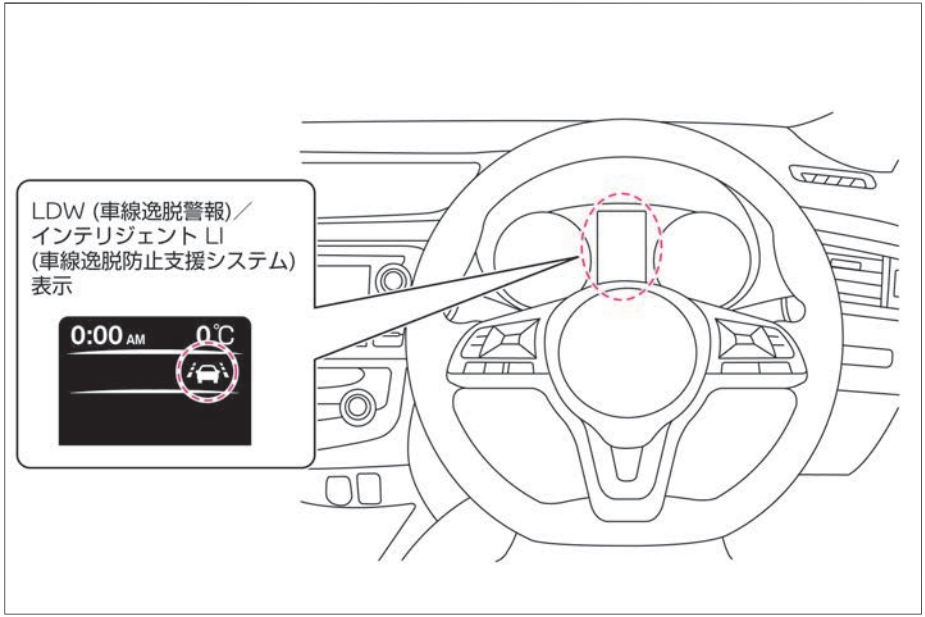
アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからエンジンを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.580）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示



警告

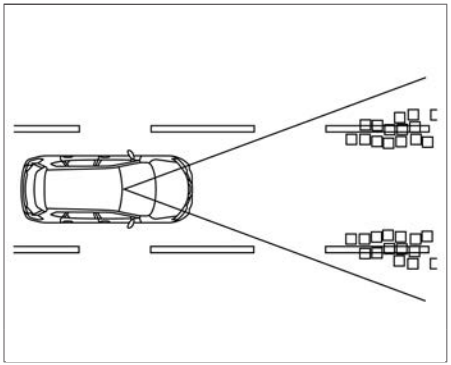
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- **カメラには限界があるため、機能を過信しない。**
  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

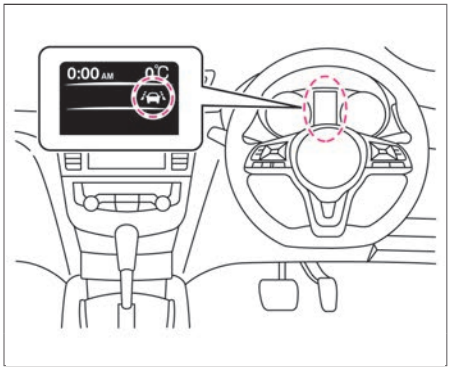
次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW(車線逸脱警報)表示が点滅します。

  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



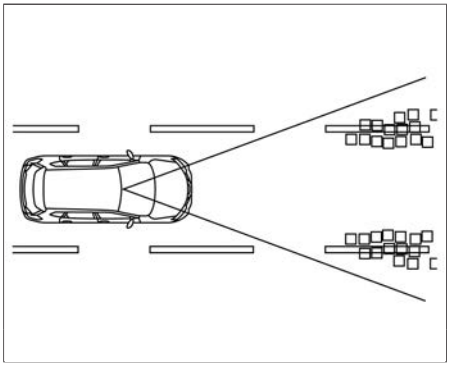


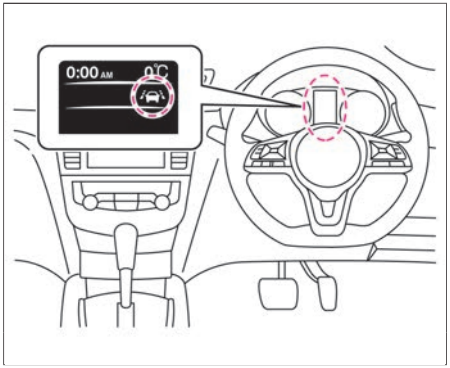
知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「セーフティ･シールド」に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイで確認することができます。
  詳しくは、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示が点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報もブレーキ制御も行いません。
  （方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「セーフティ·シールド」に切り替えると、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイで確認することができます。
  詳しくは、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

次ページに続く

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）の使いかた

LDW（車線逸脱警報）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「車線」⇒「警告」を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「車線」⇒「制御」をONにしているとき、プロパイロットスイッチ PILOT を押すとシステムがONになります。
  その際、セーフティ･シールドの設定状態が「セーフティ･シールドが支援モードになりました」と表示されます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。
- エンジンを停止するとインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
  - 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき

次ページに続く

警告

- 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲がさえぎられるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「カメラが高温のため現在使用できません」と警告が表示され、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.507）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.581）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき

  システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度プロパイロットスイッチ をOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「カメラが高温のため現在使用できません」と警告が表示され、一時的に作動が停止します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（P.507）

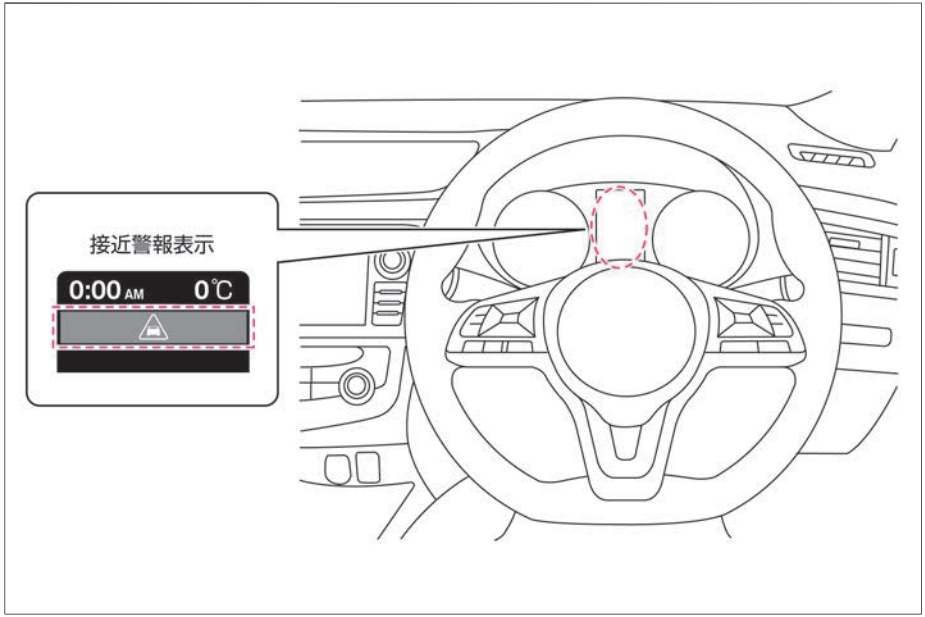
アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.581）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、
自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示



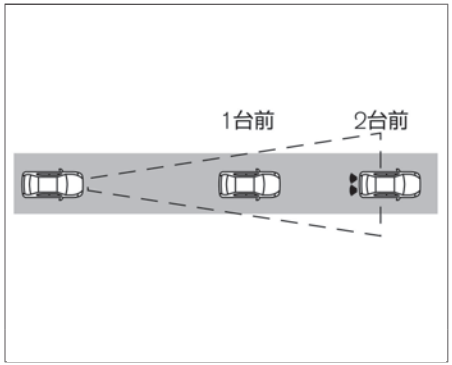
⚠ 警告

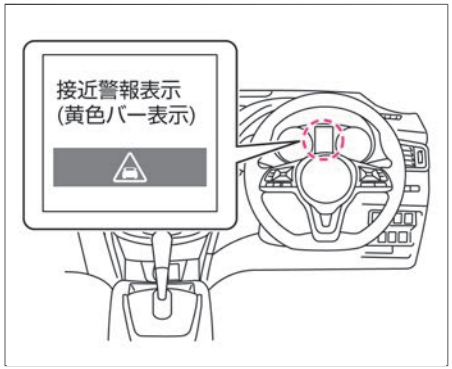
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する２台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**
  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次ページに続く

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について

- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。
- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示が黄色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。





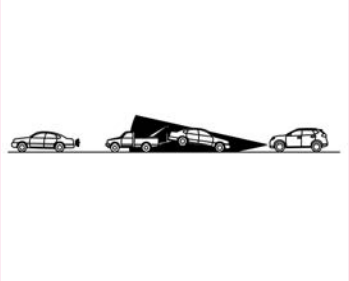
知識

- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON･OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシストも連動してON･OFFされます。
➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332)
➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.343)

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

警告

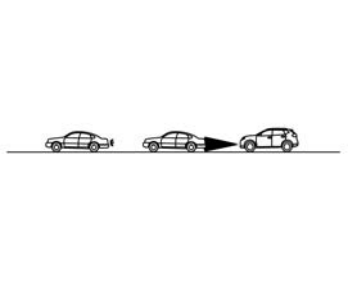
- **次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車両
  - 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の２台前の車両を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両がけん引を行っているとき



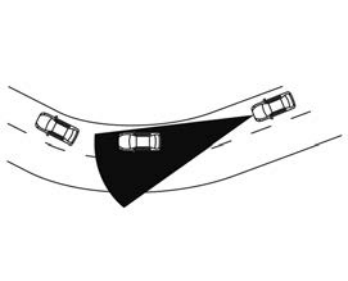
  - 前方の車両との距離が極端に近いとき

次ページに続く

警告

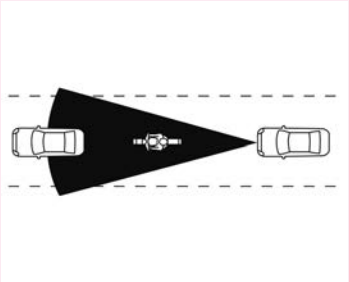


– 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）により警報を行わないことがあります。**

⚠ 警告



● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

次ページに続く

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき

  停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯するとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
  - 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 が点灯するとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障」と警告が表示され、システムが停止します。
  - インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に異常があるとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。

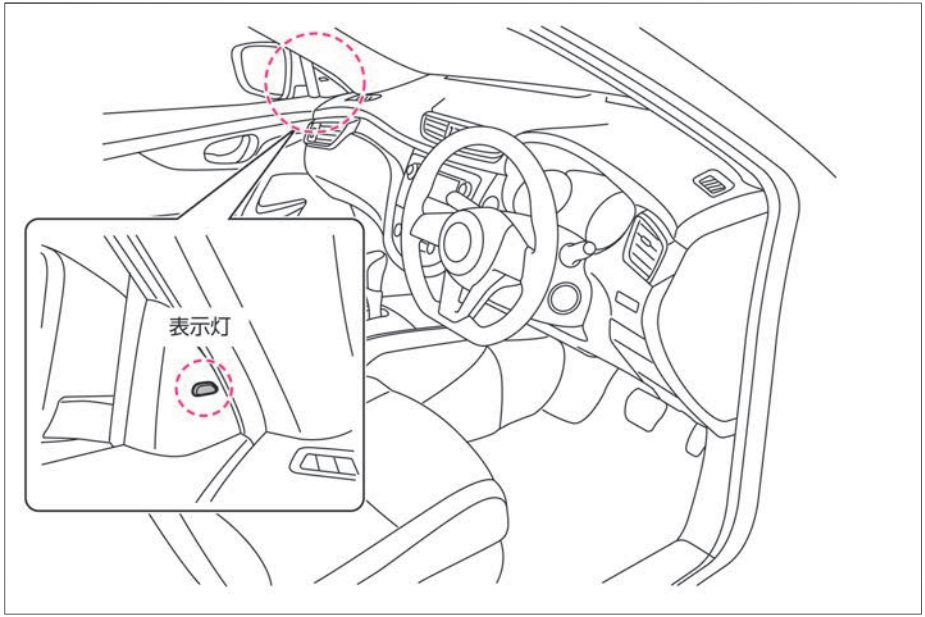
アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  警告灯（➔P.497）
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからエンジンを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.580）をお読みください。

RCTA（後退時車両検知警報）★

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報によって注意を促します。

システムに関連する表示



警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

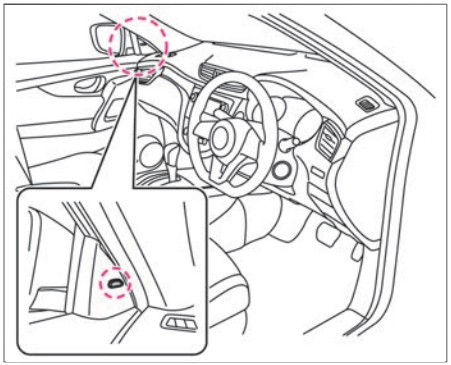
次ページに続く

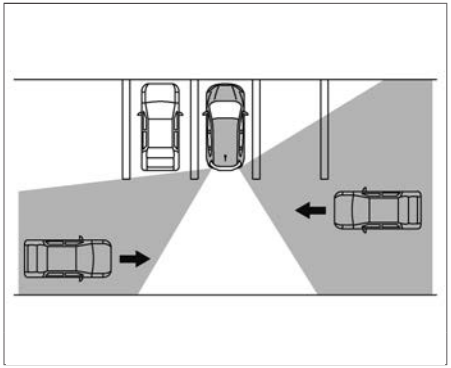
RCTA（後退時車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。
- セレクトレバーがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。
- レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

検知範囲について

- レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。





知識

- ドアミラー付近の表示灯は電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー付近の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「駐車支援」⇒「クロストラフィック」を選択すると、RCTA（後退時車両検知警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

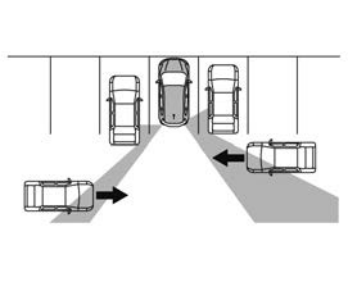
- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

次ページに続く

RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

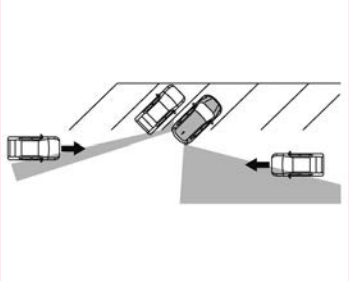
⚠ 警告

- **後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。**
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 約30km/h以上の速度で通過する車両
  - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**
  - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき

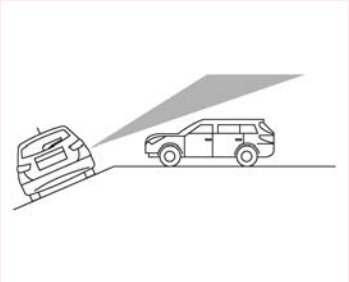


  - 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

警告



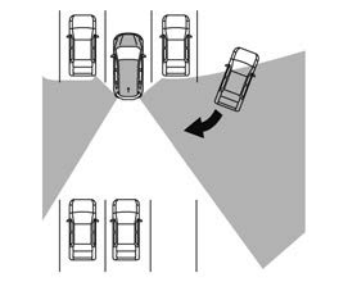
– 傾斜した地面に駐車しているとき



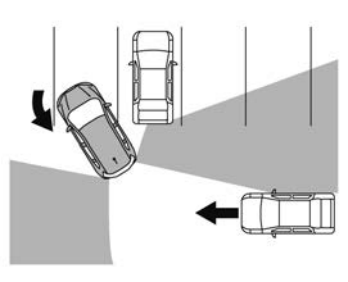
– 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき

次ページに続く

警告



– 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき



● **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。**
– 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
– 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
– 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき

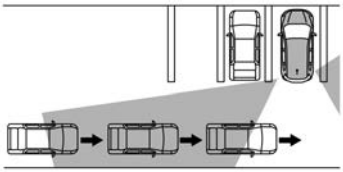
RCTA（後退時車両検知警報）★

警告

- **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

知識

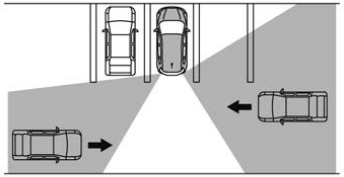
- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。



次ページに続く

RCTA（後退時車両検知警報）★

知識



RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - レーダーセンサーが汚れているとき
  - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.507）

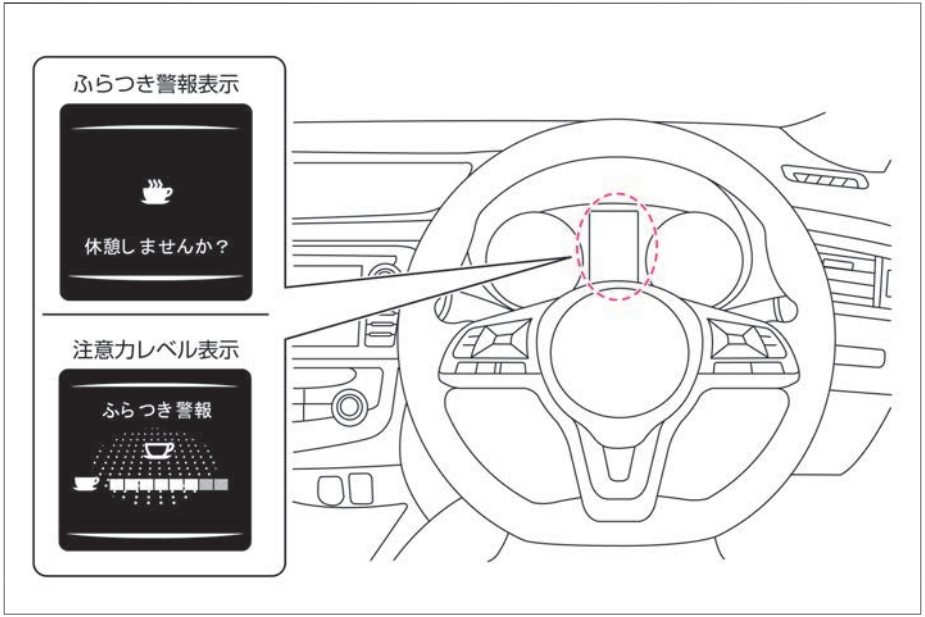
アドバイス

- レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからエンジンを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.580）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント DA（ふらつき警報）★

インテリジェント DA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

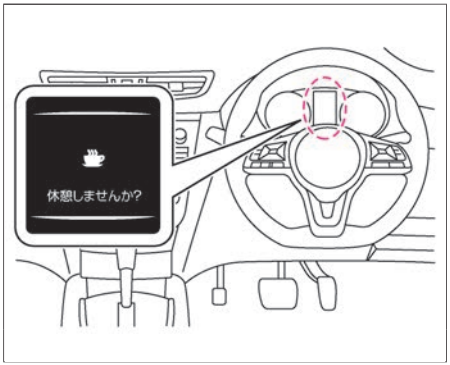


警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
  このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故に至る危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。

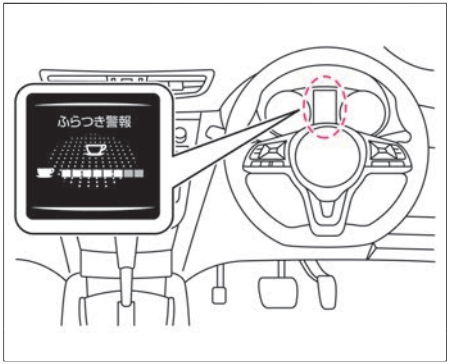
インテリジェント DA（ふらつき警報）について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「休憩しませんか？」と警告メッセージを表示します。
  警告メッセージ（➔P.508）



注意力レベル表示

- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「ふらつき警報」に切り替えると、システムが判断した注意力レベルを表示することができます。
  詳しくは、➔ 画面の切り替えかた (P.66)をお読みください。



知識

- 注意力レベルは８段階で表示されます。
- エンジンを停止したときは、リセットされます。

次ページに続く

インテリジェント DA（ふらつき警報）の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「ふらつき警報」を選択すると、インテリジェント DA（ふらつき警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。
- プロパイロット★作動中は、インテリジェント DA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。
  ➔ プロパイロット★ (P.294)

インテリジェント DA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
  警告メッセージ（➔P.507）

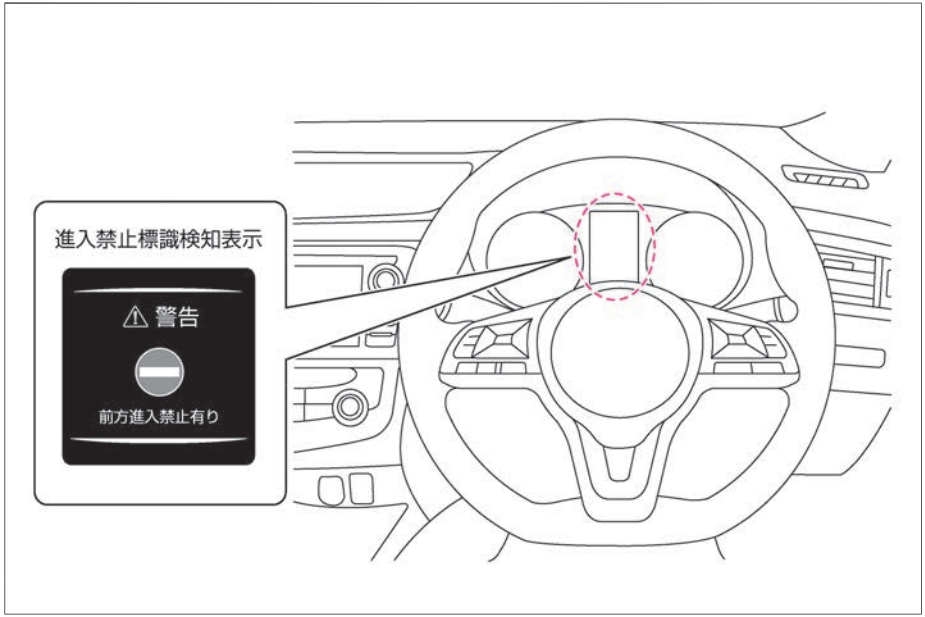
アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
  通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

進入禁止標識検知

進入禁止標識検知は、運転者に車両進入禁止標識があることを知らせます。

システムに関連する表示



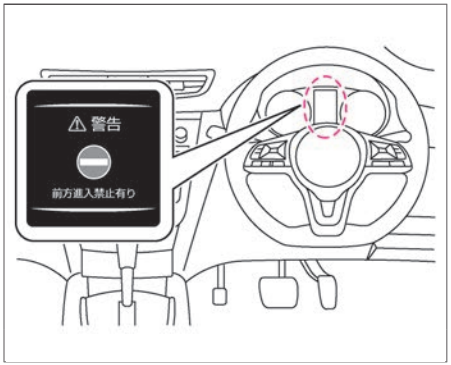
警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**
  進入禁止標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。
  進入禁止標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

次ページに続く

進入禁止標識検知について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより、前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。
- 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警報音（ブザー）が鳴ります。



警告

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

注意

- **次のような場合は、車両進入禁止標識の検知が遅れたり、検知できないことがあります。**
  - 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
  - 標識が折り曲がっているなど形状が変わってしまっているとき
  - 車両進入禁止標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 速い速度で走行しているとき

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.581）をお読みください。

進入禁止標識検知

知識

- 車両の状態、走行状況、交通環境、天候、標識の状態などによっては、標識を検知できない場合があります。

次ページに続く

進入禁止標識検知の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「進入禁止警報」を選択すると、進入禁止警報検知機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 運転支援システム (P.77)

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

進入禁止標識検知機能に関する注意事項

⚠ 注意

- **進入禁止標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。**
  進入禁止標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。
  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。
- **次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できないことがあります。**
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
  - カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 隣を走る車で視界がさえぎられているとき
  - 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
  - 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
  - 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき

次ページに続く

⚠ 注意

- 標識が色あせたり、折れ曲がっているとき
- 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません

● **検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）は標識の検知が適正に行なえず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。**

アドバイス

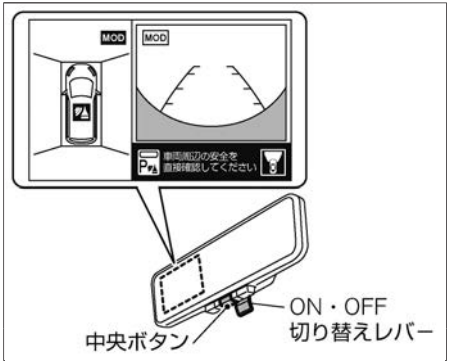
● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★

インテリジェント アラウンドビューモニターは自車両を上から見ているかの映像を映し出すことで、駐車時の運転操作を支援します。
メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インテリジェント アラウンドビューモニターについて

- インテリジェント アラウンドビューモニターは、インテリジェント ルームミラーに表示されます。
- キースイッチ（電源ポジション）がONのときに、インテリジェント ルームミラーのON･OFF切り替えレバーを手前に引き、中央ボタンを押すか、セレクトレバーをRにすると表示します。



警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターの機能を過信しない。**
  インテリジェント アラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。
- **実際の距離感を間違えないように注意する。**
  インテリジェント アラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

知識

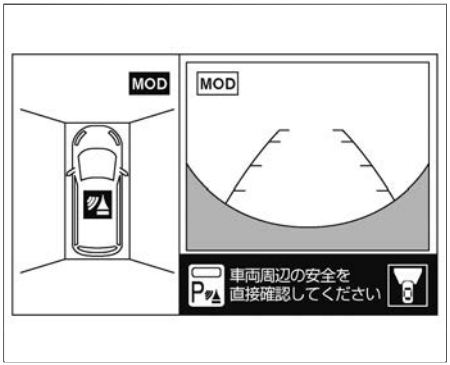
- インテリジェント ルームミラーの設定で、インテリジェント アラウンドビューモニターの画面位置を切り替えることができます。

次ページに続く

知識
インテリジェント ルームミラーの画質調節 (P.162)

インテリジェント アラウンドビューモニターの使いかた

- インテリジェント ルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードのときに使用できます。
➔ インテリジェント ルームミラー★ (P.160)
- セレクトレバーを R にするとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。セレクトレバーを R から他の位置にすると、インテリジェント アラウンドビューモニターがOFFになります。
- セレクトレバーが D またはマニュアルシフトゲートのときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。
- インテリジェント ルームミラーの中央ボタンを押すとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。



⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**
適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

知識

- インテリジェント ルームミラーのON･OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、インテリジェント アラウンドビューモニターがOFFになります。
- 中央ボタンを押すことで左側画面を切り替えることができます。トップビュー→サイドブラインドビュー→インテリジェント アラウンドビューモニターOFF
- 右側画面にフロントビューが表示されているときにセレクトレバーを R にすると、リヤビューに切り替わります。セレクトレバーを R から他の位置にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

3分タイマー機能

次ページに続く

知識

- インテリジェント ルームミラーの中央ボタンを押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させてから、約3分後にインテリジェント アラウンドビューモニターの表示が消える機能です。セレクトレバーが R 以外のときに作動します。（ただし、タイマー機能作動中に中央ボタンを押すとタイマーがリセットされます。）

画面の見かた

①左側画面

- トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- 移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを青色で表示します。
  - MOD ：移動物 検知機能が作動します
  - MOD ：移動物 検知機能が作動しません

③右側画面

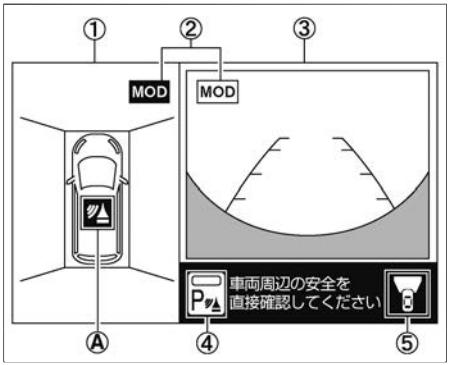
- セレクトレバーが R のときはリヤビューを、R 以外のときはフロントビューを表示します。

④ソナーインジケーター

- ソナー機能のONまたはOFFを表します。
  ソナー機能がONのときはソナーインジケーターが点灯し、OFFのときは消灯します。

⑤方向指示アイコン

- 右側画面の映し出している方向を表します。
  - ：リヤビュー表示
  - ：フロントビュー表示



知識

- キースイッチ（電源ポジション）をONにしてから初めてインテリジェント アラウンドビューモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
  - 赤色に点滅：ソナーON
  - 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します。）
- 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

次ページに続く

画面表示の種類について

■ フロントビュー／リヤビュー

- 車両の前方／後方の映像をインテリジェント アラウンドビューモニター右側画面に表示します。

距離目安ライン

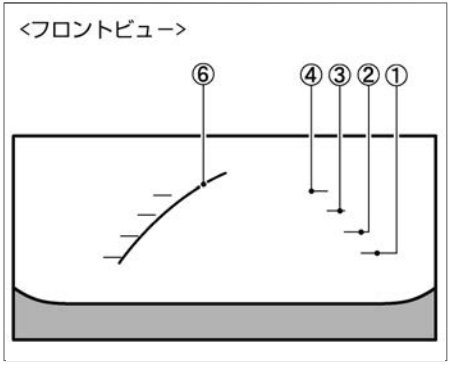
- 車体からの距離の目安を表示します。
  - ①赤色：約0.5m
  - ②黄色：約1m
  - ③緑色：約2m
  - ④緑色：約3m

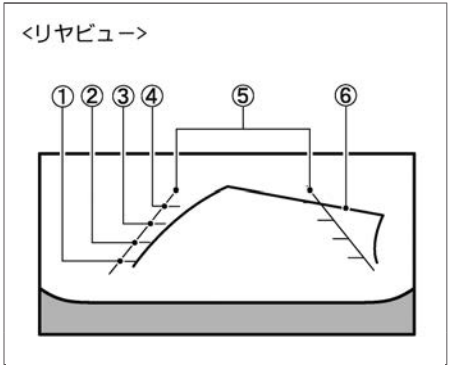
⑤車幅目安ライン

- 車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

- 運転操作時に予想進路を示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。
- フロントビューは、車速が10km/hを超えると表示されなくなります。





⚠ 警告

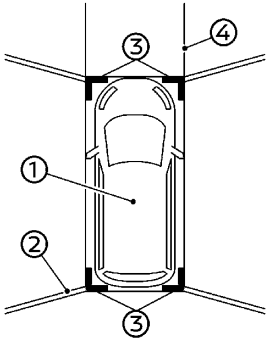
- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**

アドバイス

- フロントビューが表示されているときに中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

■ トップビュー

- 自車位置や駐車スペースへの進入コースを分かりやすく、車両を上から見たようにインテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。
- 車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。カメラでは撮影できない領域トップビュー境目②は、黒色で表示されます。
- キースイッチ（電源ポジション）をONにし、トップビューを表示すると、トップビュー境目②と撮影されないコーナー部分③は、約4秒間黄色で強調表示されます。ソナーがOFFのとき、撮影されないコーナー部分③は赤色で表示されます。
- 予想進路線④は、運転操作時に予測進路を示します。
  予想進路線は、ハンドルを切った角度に応じて移動します。



① 自車
② トップビュー境目
③ コーナー部分
④ 予想進路線

⚠ 警告

- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されないことがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

次ページに続く

■ サイドブラインドビュー

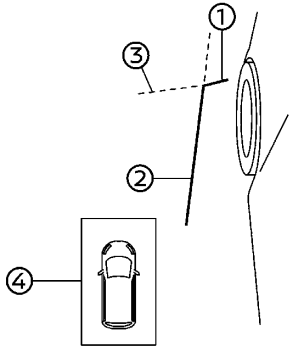
● 車両の左側前輪付近から前方を、インテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

● モニターには車幅と車両の前輪を示す目安ラインが表示されます。
  – ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
  – ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
  – ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、緑色の破線で表示します。

ソナー表示

● ④ソナー表示はサイドブラインドビューを表示させると、表示されます。



① 前端目安ライン
② 側方目安ライン
③ 前端目安ラインと側方目安ラインの延長線
④ ソナー表示

アドバイス

● 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。

移動物 検知機能について

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップビューに MOD 表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- 移動物 検知機能は以下の条件のとき、 MOD が表示されている画面で作動します。
  - セレクトレバーが P または N で停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - セレクトレバーが D で車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
  - セレクトレバーが R で車速約8km/h以下のときに、リヤビューで作動します。

⚠ 注意

- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

知識

- サイドブラインドビューには移動物検知機能はないため、 MOD アイコンを表示しません。

次ページに続く

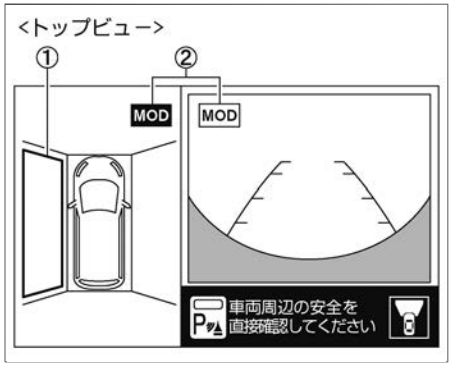
画面の見かた

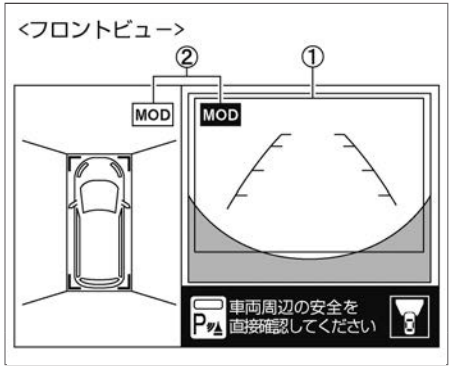
①移動物 検知表示

- 移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- 移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを青色で表示します。
  - MOD ：移動物 検知機能が作動します
  - MOD ：移動物 検知機能が作動しません



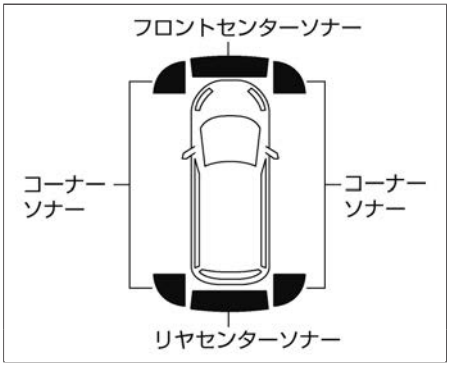


知識

- 以下の場合には移動物 検知機能は作動しません。
  - 車速やセレクトレバーの位置が移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
  - トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合
- トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

- インテリジェント ルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物　検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップビューまたはサイドブラインドビュー画面に表示されます。
- 障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。



⚠ 警告

- **バンパーに凹みなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **純正以外の部品を取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - 背の低い障害物
  - 幅の狭い障害物
  - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ソナーに非常に近い障害物

次ページに続く

⚠ 注意

- 急に進行方向に現れた障害物

- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに壁があるとき
  - 路面上に段差や突起物があるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸に形状を成している場合）
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があってもソナーが検知しないことがあります。**
  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（➔P.584）をお読みください。

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～60cm	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

次ページに続く

■ ソナー表示色

- ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
- フロントソナーが検知したときは低音、リヤソナーが検知したときは高音でお知らせします。
- 車速約10km/h以下で走行中にコーナーソナーが検知したとき、障害物との距離が3秒間変わらない場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。

■ ソナー機能OFF

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「運転支援システム」⇒「駐車支援」を選択すると、各ソナー機能のON･OFFを設定できます。

■ ソナーによるカメラ画面の自動表示機能

- セレクトレバーが D かつ車速約10km/h以下でカメラが表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はインテリジェント アラウンドビューモニター画面を自動で表示します。
- 障害物がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。
- インテリジェント ルームミラーの中央ボタンを操作した場合には戻りません。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
  ソナーシステム異常警告（➔P.508）

インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項★

警告

- カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。
- サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。
- 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。
- フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。

インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項★

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。
  フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い (P.582)
  リヤビューカメラ★の取り扱い (P.583)
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

知識

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。
- セレクトレバーがR以外のとき、インテリジェント ルームミラーの中央ボタンを押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させたあと、約3分間操作を行わないでいると、インテリジェント アラウンドビューモニター表示が消えます（3分間タイマー機能）。
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェント アラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。

次ページに続く

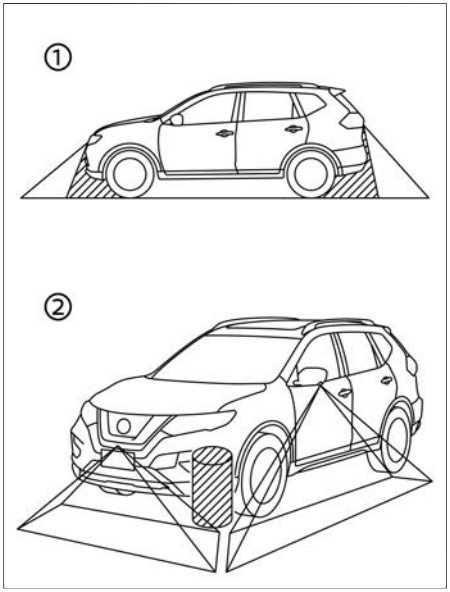
インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項★

知識

- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- インテリジェント アラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗い所や、夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - 立体物が倒れこんで見える
  - 路面よりも高い位置にある車両などが実際よりも遠くに見える
  - 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示させる
  - 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲

- 特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。



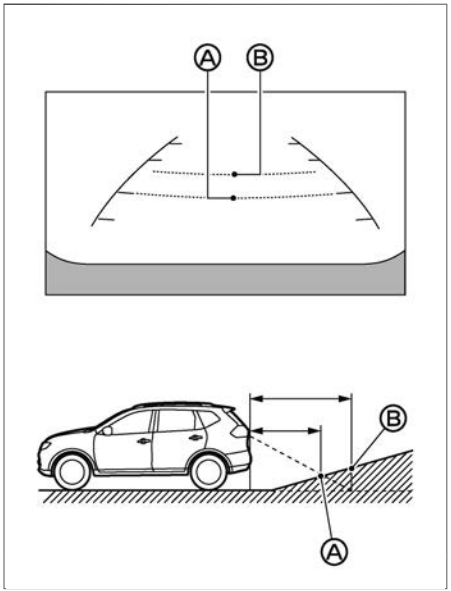
次ページに続く

映像と実際の路面との誤差

- フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

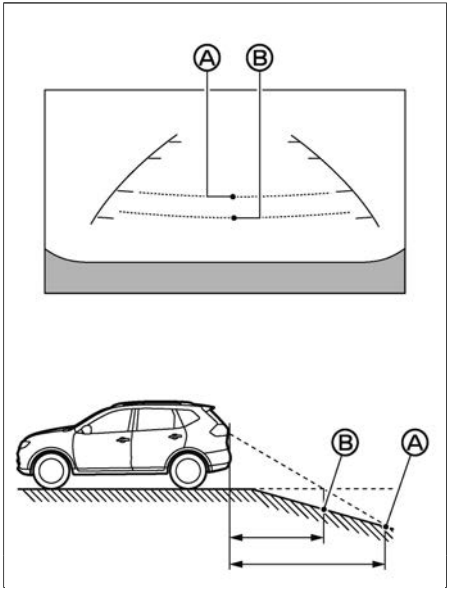
急な上り坂が後方にあるとき

- 距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り 坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。



急な下り坂が後方にあるとき

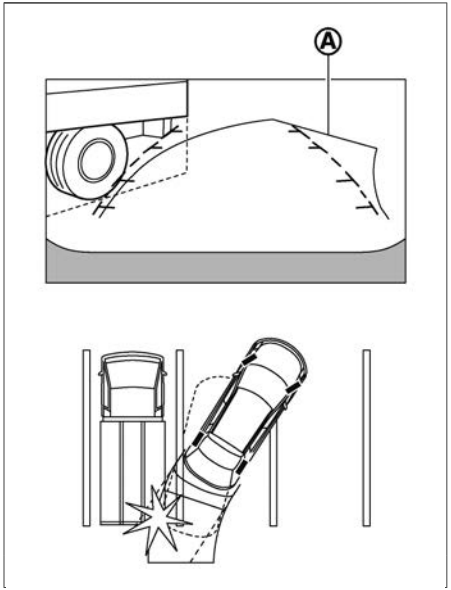
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り 坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。



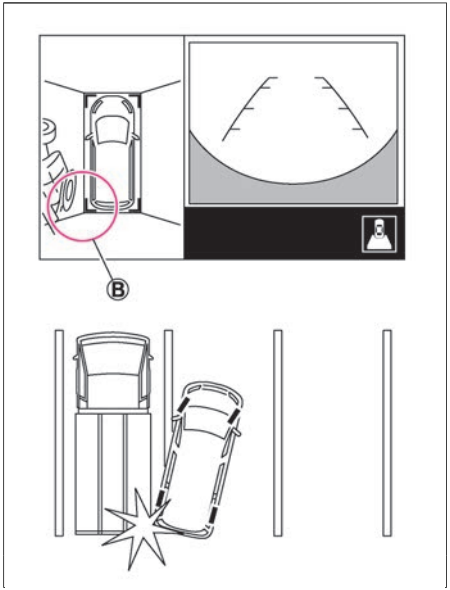
次ページに続く

立体物が近くにあるとき

- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例1:予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



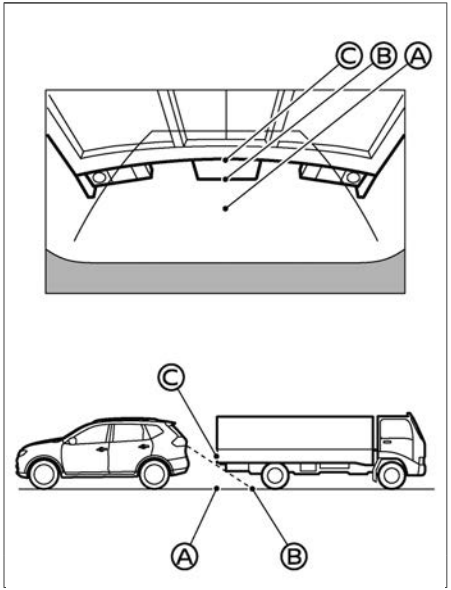
- 例2:表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。



次ページに続く

立体物に接近するとき

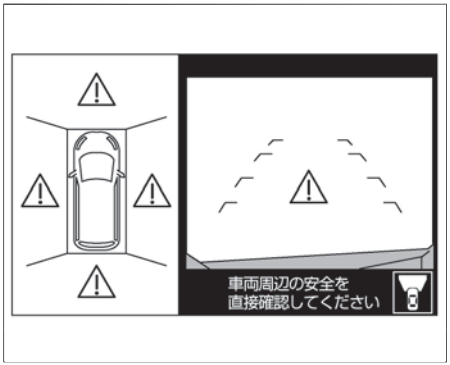
- Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶ の位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出し ている場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

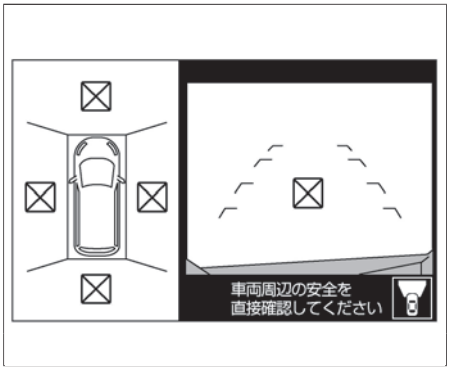


画面のエラー表示について

⚠ アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェント アラウンドビューモニターの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

⊠ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。





MEMO

室内灯

マップランプ／ルームランプ★／後席読書灯★ P.434

収納装備

グローブボックス P.440
センターコンソールボックス P.441
カップホルダー★／ボトルホルダー P.442
オーバーヘッドコンソール P.447

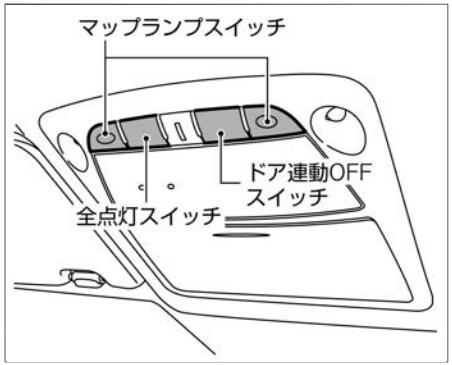
その他の室内装備

ヒーターシート★ P.448
電源ソケット P.449
フロアカーペット P.451
サンバイザー／バニティミラー（照明付き★） P.453
アシストグリップ／コートハンガー P.454
フレキシブルラゲッジ★ P.455
ラゲッジアンダースペース P.459
ラゲッジフック P.460

マップランプの使いかた

- マップランプは、フロントシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯･消灯します。

スイッチ	点灯･消灯のしかた
全点灯スイッチ	スイッチを押すと、マップランプ、後席読書灯★またはルームランプ★が常時点灯します。もう一度押すと消灯します。
ドア連動OFFスイッチ	スイッチを押すと、常時消灯します。（スイッチが押し込まれていないとき、ドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。）
マップランプスイッチ	スイッチを押した方のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- ドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - キーをキースイッチから抜き取ってから約15秒間（リモートコントロールエントリーシステム付車）
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間（インテリジェントキー付車）
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約15秒間
  - ドア（バックドアを除く）が開いているとき
- アドバンスドドライブアシストディ

知識

スプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システム機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)
➔ 車両設定 (P.81)

バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると、消灯します。

次ページに続く

ルームランプ★の使いかた／ラゲッジルームランプについて

ルームランプの使いかた

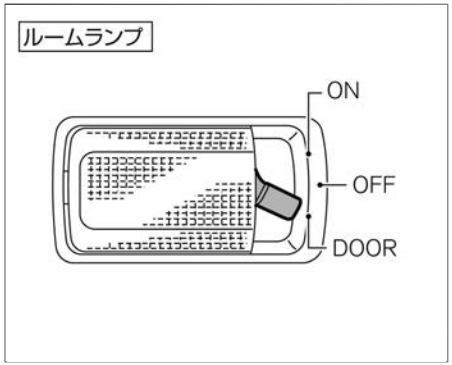
- ルームランプは、セカンドシート天井部の中央にあります。
- 次のように点灯･消灯します。

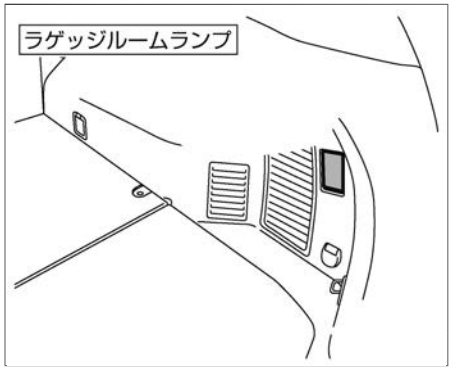
スイッチ	点灯･消灯のしかた
ON	常時点灯します。
OFF	常時消灯します。
DOOR	ドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。

ラゲッジルームランプについて

ラゲッジルームランプはラゲッジルームの右側にあります。

- バックドアを開けると自動で点灯し、バックドアを閉めると消灯します。





アドバイス

- キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときは、ルームランプおよびラゲッジルームランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- マップランプのドア連動OFFスイッチが押し込まれていないとき、ルームランプのスイッチがDOOR位置にあると、次の条件で点灯します。
  - キーをキースイッチから抜き取ってから約15秒間（リモートコントロールエントリーシステム付車）
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間（インテリジェントキー付車）
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約15秒間

知識

– ドア（バックドアを除く）が開いているとき

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システム機能のON･OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.66)
  ➔ 車両設定 (P.81)

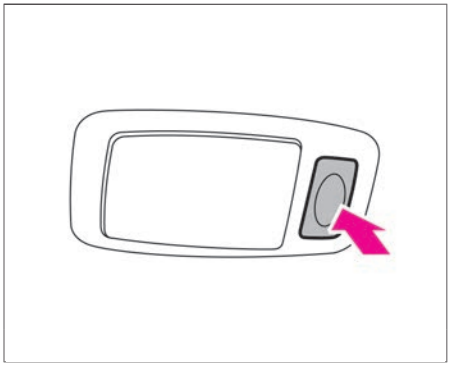
バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、ルームランプ、ラゲッジルームランプは10分以上点灯し続けると、消灯します。

次ページに続く

後席読書灯★の使いかた

- 後席読書灯は、セカンドシート天井部の左右にあります。
- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- キースイッチ（電源ポジション）がOFFのときは、後席読書灯を長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- マップランプのドア連動OFFスイッチが押し込まれていないとき、次の条件で点灯します。
  - キーをキースイッチから抜き取ってから約15秒間（リモートコントロールエントリーシステム付車）
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間（インテリジェントキー付車）
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - キースイッチ（電源ポジション）がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約15秒間
  - ドア（バックドアを除く）が開いているとき
- アドバンスドドライブアシストディ

知識

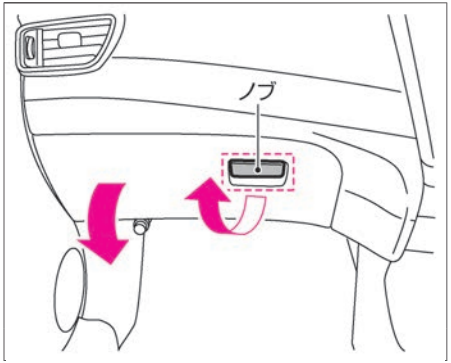
スプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「自動室内灯」を選択すると、キー連動室内照明システム機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
➔ 画面の切り替えかた (P.66)
➔ 車両設定 (P.81)

バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、後席読書灯は10分以上点灯し続けると、消灯します。

グローブボックスの使いかた

- 開けるときは、ノブを手前に引きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

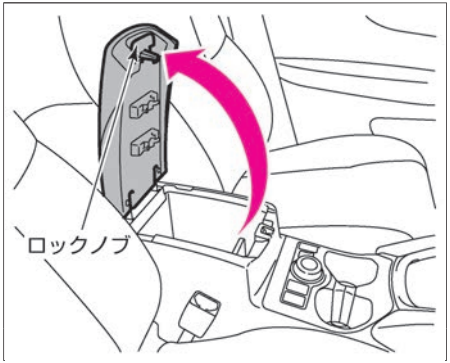
- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**
  走行中に収納したものが飛び出したり、開いたふたが身体に当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

アドバイス

- グローブボックスを閉めるときは、ケーブルなどを挟み込まないでください。ふたが変形するおそれがあります。

センターコンソールボックスの使いかた

- 開けるときは、ロックノブを引き上げながら、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

- **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**
  開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

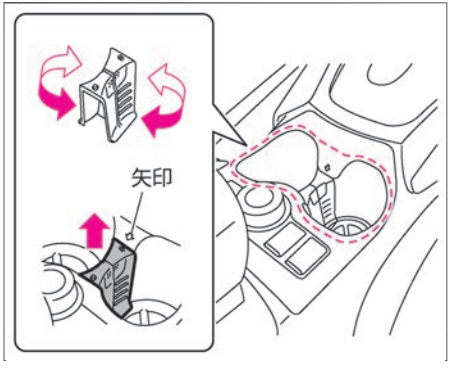
知識

- コンソールボックス内には、電源ソケットがあります。
  ➔ 電源ソケット (P.449)

カップホルダー★／ボトルホルダー

フロントシート用カップホルダー（保温保冷機能付）について

- エアコンの温風、冷風により飲み物の保温･保冷ができます。
- 飲み物を保温または保冷するときは、エアコンの吹き出し口を または に設定し、シャッターを上側に取り外して、 マークを矢印に合わせて取り付けます。
- 保温保冷機能を使用しないときは、シャッターを取り外し、 ☒ マークを矢印に合わせて取り付けます。



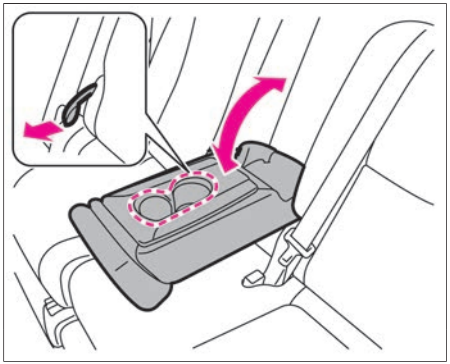
アドバイス

- カップホルダー内の温度はエアコン吹き出し風温度と同じになります。極端に冷やしたり温めたりすることはできません。

セカンドシート用カップホルダーについて

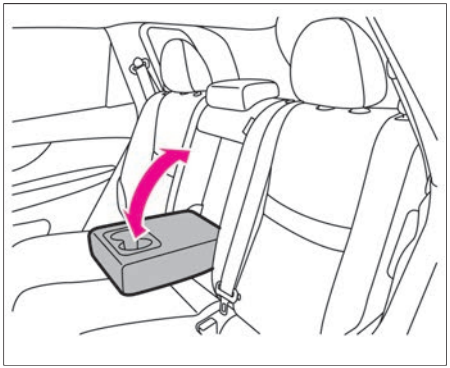
スライド機構付車

- ストラップを引いてアームレストを前に倒して使います。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。



スライド機構無車

- アームレストを前に倒して使います。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

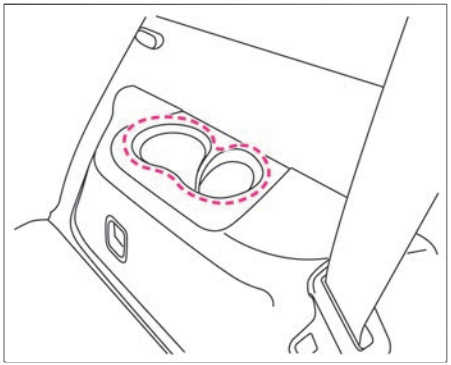


次ページに続く

カップホルダー★／ボトルホルダー

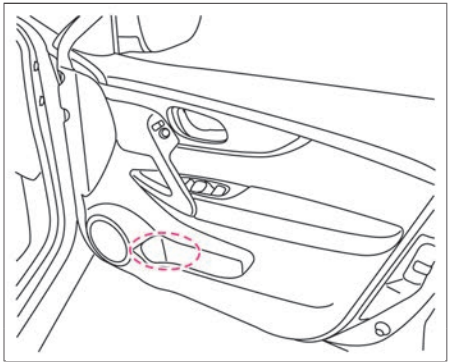
サードシート用カップホルダー★について

- サードシート用カップホルダーは、サードシート右側にあります。



ボトルホルダーについて

- ボトルホルダーは、フロントシートおよびセカンドシートのドアポケットにあります。



カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **走行中に飲み物を出し入れしない。**
  走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲み物を出し入れしてください。
- **ビンなどの硬いものは入れない。**
  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲み物を置かない。**
  熱い飲み物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- **飲み物をこぼさないように注意する。**
  飲み物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

次ページに続く

カップホルダー★／ボトルホルダー

アドバイス

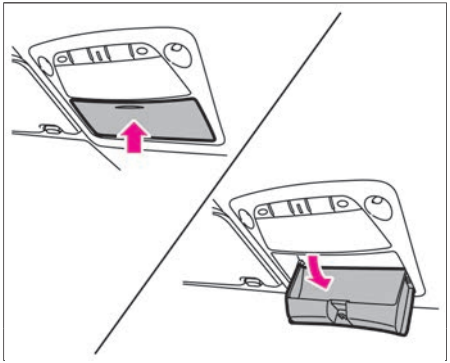
- 飲み物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。いっぱいに満たされた容器を置かないでください。

オーバーヘッドコンソール

サングラスなどを収納できます。

オーバーヘッドコンソールの使いかた

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。



⚠ 警告

- **炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。**
  炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

- **オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。**
  収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

ヒーターシート★

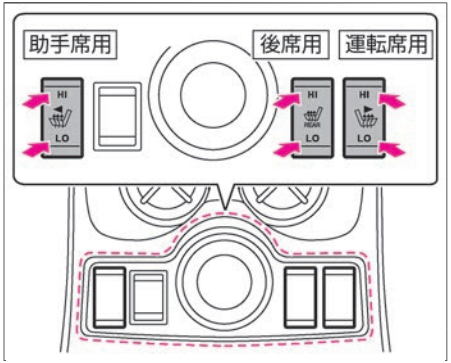
フロントシートおよび後席（セカンドシート）を温めます。
キースイッチ（電源ポジション）がONのときに使えます。

ヒーターシートの使いかた

- スイッチのHI側またはLO側を押すと作動します。
（スイッチの表示灯が点灯）

スイッチ	働き
HI	早く温めたいとき
LO	保温したいとき

- 止めるときは、スイッチを中立の位置に戻します。
（スイッチの表示灯が消灯）



⚠ 注意

- **長時間の連続使用はしない。**
低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

アドバイス

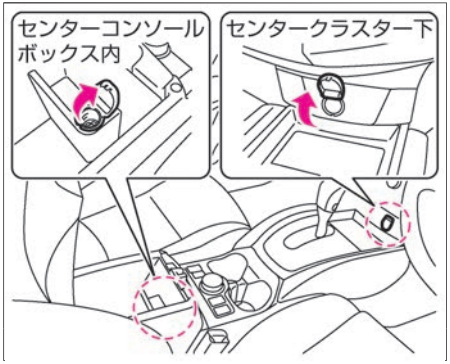
- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用しないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- バッテリーあがりを防止するため、エンジンをかけた状態でご使用ください。また、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

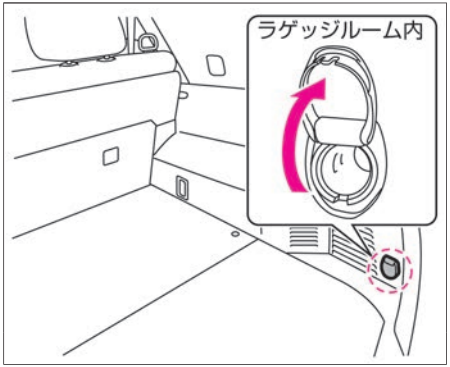
電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。キースイッチ（電源ポジション）がONまたはOFF（ACC状態）のとき使えます。
ACC状態については、オートACC機能（➔P.215）をお読みください。

電源ソケットの使いかた

- 電源ソケットは以下の場所にあります。
  - センタークラスター下
  - センターコンソールボックス内
  - ラゲッジルーム内
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにしてください。





⚠ 警告

- **電源ソケットを使うときは、次のことを守る。**
  電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。
  - 2マタソケットなどでタコ足配線をしない
  - 消費電力120W以下のものを使用する
  - 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入する
  - 使用中や使用後はソケットやプラグに注意する
  - シガーライターをソケットに差し込まない
  - ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、エンジンをかけた状態で使用してください。また、長時間使用したり、

次ページに続く

アドバイス

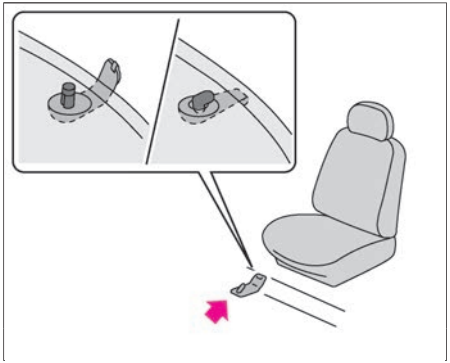
エアコン、ヘッドランプ、リヤウインドーデフォッガーなどを同時に使用しないでください。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ･ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。



⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**
  フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬ速度が出る、またはブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**
  - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない
  - フロアカーペットでペダルを覆わない
  - フロアカーペットを重ねて敷かない
  - 運転席専用のフロアカーペットを使用する
  - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない
- **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**
  運転する前、キースイッチ（電源ポジ

次ページに続く

⚠ 警告

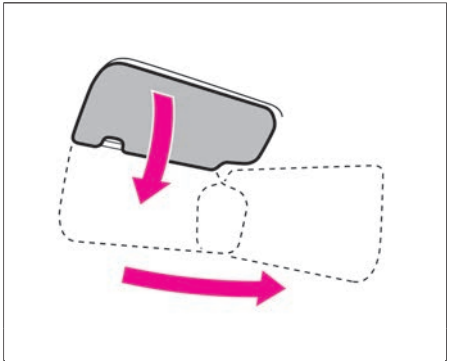
ション）がOFFの状態でセレクトレバーがPのとき、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

- **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**
  火災につながるおそれがあります。

サンバイザー／バニティミラー（照明付き★）

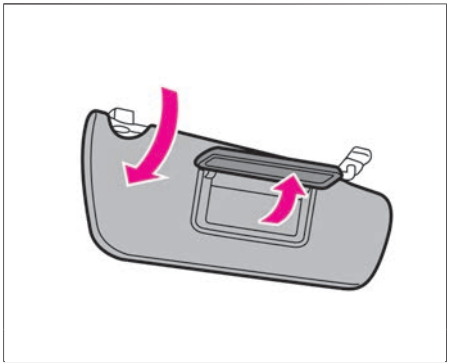
サンバイザーの使いかた

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げて、フックから外し、横にして使います。



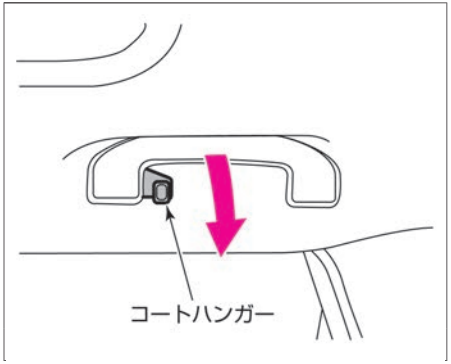
バニティミラー（照明付き）の使いかた

- サンバイザー裏側に照明付きのバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。



アシストグリップ／コートハンガーの使いかた

- アシストグリップは、助手席およびセカンドシート左右にあります。
- セカンドシート右側にはコートハンガーが付いています。



⚠ 注意

- **コートハンガーにハンガーなど先のとがった物をかけない。**
  SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

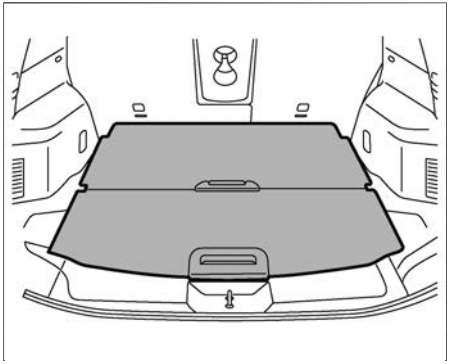
- コートハンガーには1kg以上の物をかけないでください。

フレキシブルラゲッジ★

2枚のラゲッジボードを開閉、脱着することにより、3種類のモードで使えます。

フレキシブルラゲッジボードについて

- フレキシブルラゲッジボードは、状況に応じて次のように使い分けできます。
  - 長さのある荷物を収納するとき
    ➔ フルフラットモード (P.456)
  - ラゲッジボードの上下に荷物を分けて収納するとき
    ➔ 2段収納モード (P.457)
  - ラゲッジを前後に仕切り、後方に高さのあるものを収納するとき
    ➔ バーチカルモード (P.458)
- ボードの位置を変えるときは、グリップに手をかけて持ち上げます。



⚠ 注意

- **ラゲッジボードの前端部に強い力をかけない。**
  ボードが開き、手を挟むなど思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを前方に倒して走行するときは、ラゲッジボードを通常位置に置いた状態で使用する。**
  急ブレーキや衝突時などにボードの上に置いたものが飛び出し、ケガをするおそれがあります。

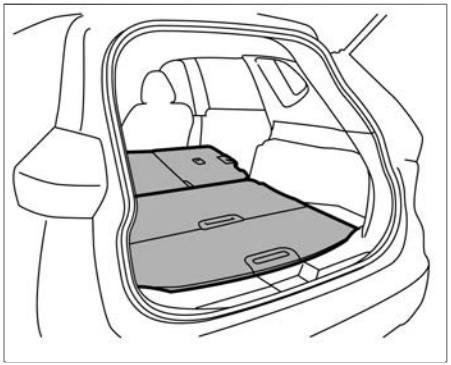
アドバイス

- 部品が破損･変形するおそれがあります。操作中に挟まっても無理に押し込まないでください。

次ページに続く

フルフラットモード

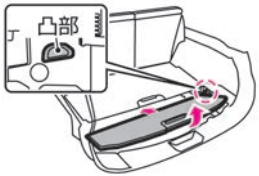
- セカンドシートの背もたれを倒して使います。
  シートの調節のしかた (P.141)



警告

- **長尺物を積んだときは、走行中に動かないように確実に固定する。**
  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

2段収納モード

1	手前のボードを30°引き上げ、手前にボードを引いてからラゲッジルーム底面に差し込みます。	
2	ボードを奥まで差し込んで、底面に置きます。	

アドバイス

- ラゲッジ底部に入れるときは、ボードがサイドの凸部に当たらないように入れてください。
- 部品が破損するおそれがあるため、重いもの（約10kg以上）を置かないでください。

次ページに続く

バーチカルモード

1	手前のボードを90°開きます。	
2	そのまま下に差し込みます。	

アドバイス

- ボードを立てるときは、サイドの凸部に当たらないように入れてください。

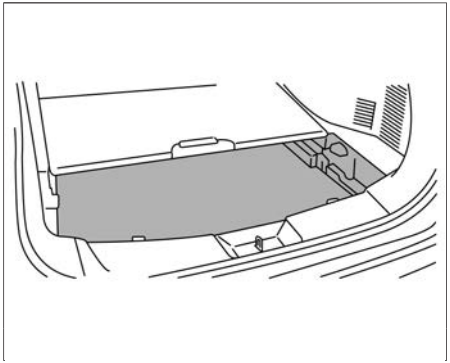
ラゲッジアンダースペース

収納スペースとしてお使いください。

ラゲッジアンダースペースについて

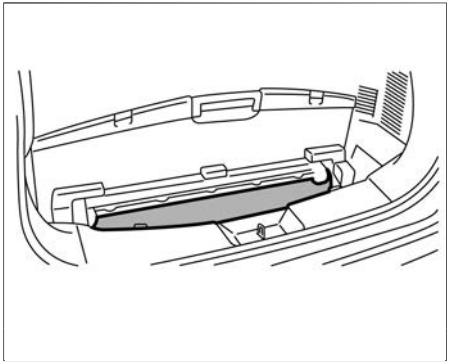
2列車

- 手前のボードを外して使います。



3列車

- ボードを外して使います。

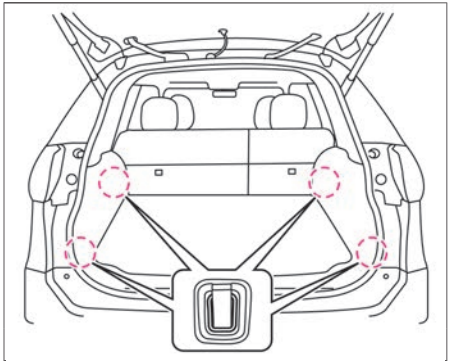


知識

- 3列車のボードは、サードシート後部に立てかけて使えます。

ラゲッジフックの使いかた

荷物の固定用としてロープなどをかけるときに使います。



アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

まずはじめに

故障したときは	P.462
発炎筒	P.463
けん引について	P.464

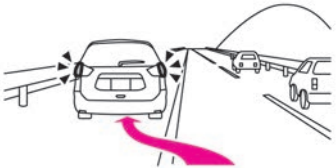
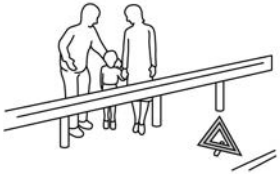
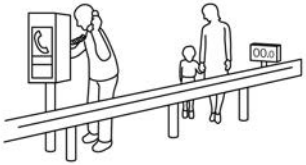
緊急時の対処方法

パンクしたときは	P.469
ドアが開かないときは	P.484
インテリジェントキー★で始動できないときは	P.486
ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは	P.487
バッテリーがあがったときは	P.488
警告灯がついたときは	P.492
表示灯がついたときは	P.500
警告メッセージが表示されたときは	P.502
警報音（ブザー）が鳴ったときは	P.515
窓ガラスがくもったときは	P.517
オーバーヒートしたときは	P.519
セレクトレバーが動かないときは	P.521
雪道やぬかるみにはまったときは	P.522
水没したときは	P.523
ヒューズが切れたときは	P.525
電球（バルブ）が切れたときは	P.531

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

1	非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。 路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。	
2	同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。 ➔ 発炎筒 (P.463)	
3	運転者もガードレールの外側などに避難します。 避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。	
4	非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。	

⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

⚠ 注意

- **走行中、エンジンが停止してしまったときは慎重に運転する。**
  故障によりエンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなるので慎重に運転してください。

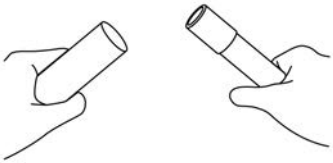
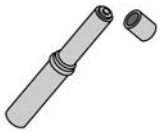
アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障･事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。	
2	本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。	
3	先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。	

⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **トンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。このときは非常点滅表示灯をご使用ください。

アドバイス

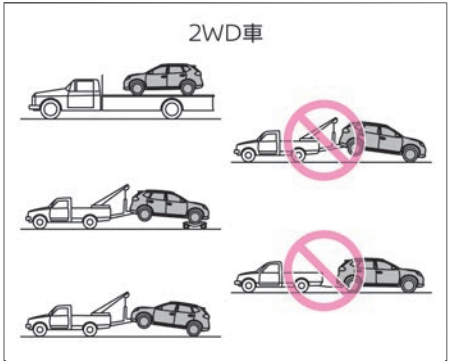
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

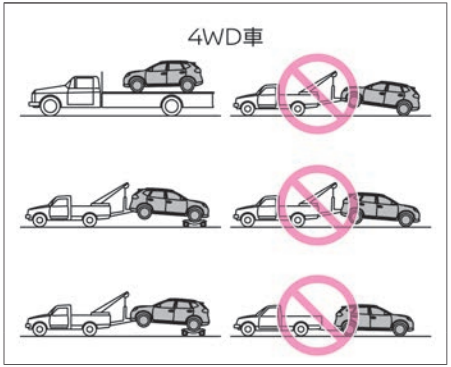
けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。
やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、セレクトレバーを**N**に入れて行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。



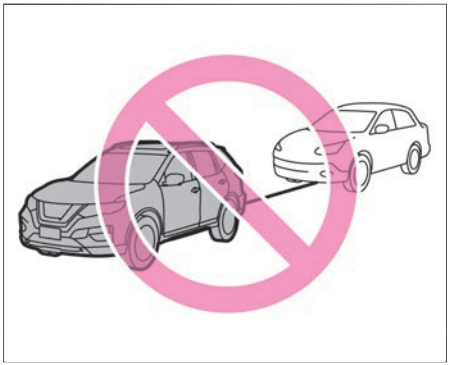


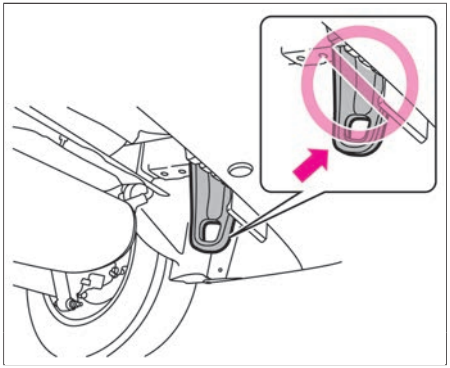
⚠ 注意

- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにしない。**
  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

リヤフックについて

この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶輸送時の固定専用です。
けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。



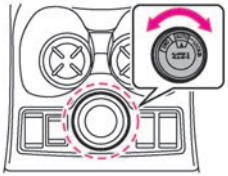
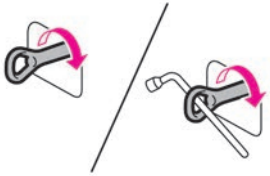
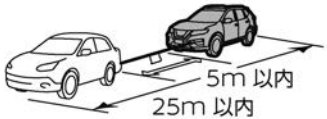


アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

次ページに続く

やむをえず4輪接地でけん引されるときは

1	4WD車は2WDに切り替えます。 4WD MODEスイッチ（➔P.275）	
2	先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。	
3	ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを取り付けます。 ➔ 工具、ジャッキ、スペアタイヤの格納場所(P.470)	
4	自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm 以上の白い布を取り付けます。 ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。	

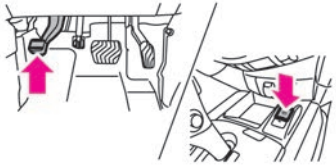
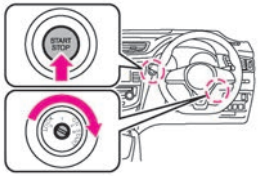
⚠ 警告

インテリジェントキー付車

- **4輪接地でけん引されるときは、電源ポジションをOFFにしない。**
  電源ポジションがOFFでバッテリーがあがると、ハンドルロック（ステアリングロック）の解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

リモートコントロールエントリーシステム付車

- **4輪接地でけん引されるときは、キースイッチをLOCKにしない。**
  ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

5	エンジンを始動しセレクトレバーを N に入れ、パーキングブレーキを解除します。	
6	エンジンを始動できないときはキースイッチ（電源ポジション）をONにし、セレクトレバーを N に入れてください。	

⚠ 注意

- **エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなるので注意する。**
- **4WD車で2WDに切り替わらないときは、4輪車載をする。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**
  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- **4WD車は、けん引してもらう場合、必ず4WD MODEスイッチを2WDに切り替える。**
  LOCKモードのままけん引すると、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- **4WD車はトレーラーに車載するか、4輪接地の状態でけん引してもらう。**

次ページに続く

けん引について

⚠ 注意

2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤが搭載されています。
タイヤがパンクしたときは、ジャッキアップしてスペアタイヤに交換し、走行することができます。

スペアタイヤに交換する前に

スペアタイヤに交換するときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する
- パーキングブレーキをかける
- セレクトレバーをPに入れる
- キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする
- 必要に応じて、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板（または停止表示灯）を置く
  ➔ 故障したときは (P.462)
- 人や荷物を降ろす
- 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出す
  ➔ 工具、ジャッキ、スペアタイヤの格納場所 (P.470)

⚠ 注意

- **タイヤ交換をするときは、軍手などを着用して作業する。**
- **走行直後はホイールナットを直接触らない。**
  走行直後はホイールナットが熱いため、やけどやケガをするおそれがあります。

次ページに続く

工具、ジャッキ、スペアタイヤの格納場所

- 工具、ジャッキ、スペアタイヤは、ラゲッジルームに格納されています。
  ➔ ジャッキの取り出しかた (P.475)
  ➔ スペアタイヤの取り出しかた（2列車）(P.471)
  ➔ スペアタイヤの取り出しかた（3列車）(P.473)

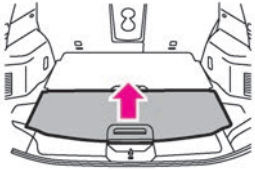
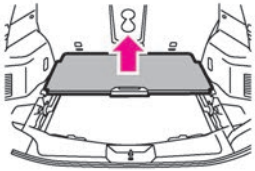
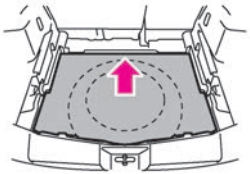
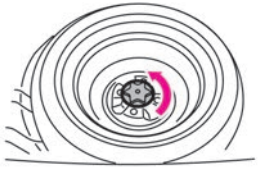
⚠ 注意

- **工具、ジャッキ、スペアタイヤを使ったあとは、元の場所に格納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類やジャッキ、発炎筒（➔ P.463）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。

スペアタイヤの取り出しかた（2列車）

1	手前のボードを取り外します。	
2	奥のボードを取り外します。	
3	カバーを取り外します。	
4	タイヤを固定しているクランプをゆるめてタイヤを取り出します。 ※スペアタイヤを格納するときは、 取り外したときと逆の手順で行ってください。	

⚠ 注意

- **スペアタイヤを取り付けたときは、タイヤ接地部のたわみを確認する。**
  たわみが大きいときは空気圧が不足しています。すみやかに空気圧を調整してください。
  空気圧が不足したまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  スペアタイヤの指定空気圧は420kPa（4.2kgf/cm^2）です。
- **スペアタイヤに交換するときは、次のことを必ず守る。**
  間違った使いかたをすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  – スペアタイヤおよびホイールはこの車専用です。他車のスペアタイヤを使用したり、他車に使用しないでください。
  – スペアタイヤに交換したときは、80km/h以下で走行してください。
  – スペアタイヤには、タイヤチェーンは取り付けられません。雪道、凍結路で前輪がパンクしたとき

次ページに続く

⚠ 注意

は、スペアタイヤを前輪に使わず、後輪に付け、外した後輪を前輪に取り付けてください。

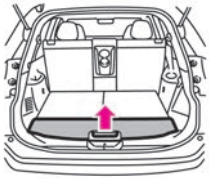
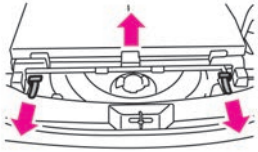
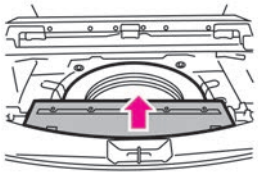
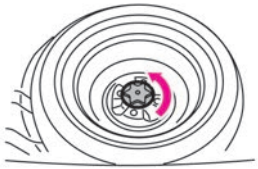
– スペアタイヤに交換したときは、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。

– 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください。

アドバイス

- スペアタイヤはクランプでしっかりと固定してください。ゆるんでいると、走行の妨げになります。

スペアタイヤの取り出しかた（3列車）

1	サードシートを折りたたんだ状態で、ボードを取り外します。 ➔ シートの折りたたみかた (P.156)	
2	サードシート後ろ側のストラップを引いて、サードシートを持ち上げます。	
3	カバーを取り外します。	
4	タイヤを固定しているクランプをゆるめてタイヤを取り出します。 ※スペアタイヤを格納するときは、 取り外したときと逆の手順で行ってください。	

⚠ 注意

- **サードシートを持ち上げた状態で重いものを乗せない。**
- **スペアタイヤを取り付けたときは、タイヤ接地部のたわみを確認する。**
  たわみが大きいときは空気圧が不足しています。すみやかに空気圧を調整してください。
  空気圧が不足したまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  スペアタイヤの指定空気圧は420kPa（4.2kgf/cm^2）です。
- **スペアタイヤに交換するときは、次のことを守る。**
  間違った使いかたをすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  – スペアタイヤおよびホイールはこの車専用です。他車のスペアタイヤを使用したり、他車に使用しないでください。
  – スペアタイヤに交換したときは、80km/h以下で走行してください。
  – スペアタイヤには、タイヤチェーンは取り付けられません。雪道、凍結路で前輪がパンクしたとき

次ページに続く

⚠ 注意

は、スペアタイヤを前輪に使わず、後輪に付け、外した後輪を前輪に取り付けてください。

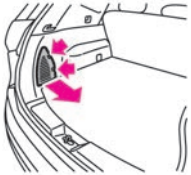
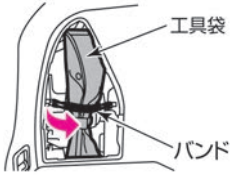
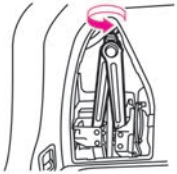
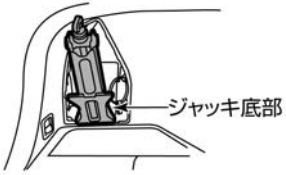
– スペアタイヤに交換したときは、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。

– 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください。

アドバイス

- スペアタイヤはクランプでしっかりと固定してください。ゆるんでいると、走行の妨げになります。

ジャッキの取り出しかた

1	ラゲッジルーム左側のふたを取り外します。	
2	工具袋を固定しているバンドを外し工具袋を取り出します。	
3	ジャッキを緩めます。	
4	ジャッキの底部を取り出し口側に90度回し、上部からゆっくりと抜き取ります。 ※格納するときは、取り出したときと逆の手順で行い、ガタツキがなくなるまでしっかりと締め付けます。	

⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**
  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

アドバイス

- ジャッキを格納するときは、ドライバーなどで無理に締め付けないでください。ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。
- ジャッキが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

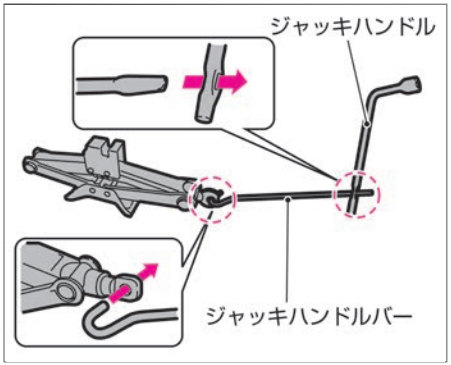
知識

- 工具袋を格納するときは、工具袋に付いているバンドできつく締めてから格納してください。工具がぶつかり合って音がでることがあります。

次ページに続く

ジャッキの使いかた

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。



⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回す。**
  ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込む。**
  ジャッキハンドルバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はエンジンを始動しない。**

パンクしたときは

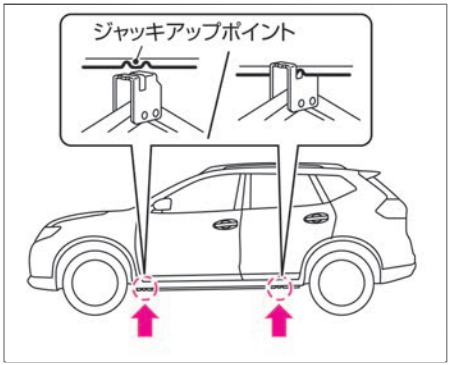
⚠ 注意

車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページに続く

ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



⚠ 注意

- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使わないでください。
  - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを**P**にしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。
  - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
  - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

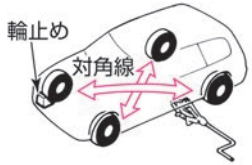
- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

次ページに続く

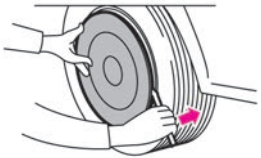
タイヤ交換のしかた

1 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
停車･駐車のしかた (P.236)

2 ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。



3 フルホイールカバー付車は、工具に布などを当てて、ホイールカバーを傷つけないように外します。



4 スペアタイヤをジャッキ近くの車体の下に置きます。

⚠ 注意

- **やわらかい地面の上ではジャッキアップしない。**
  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

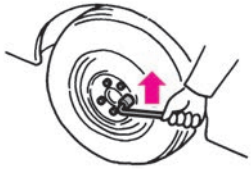
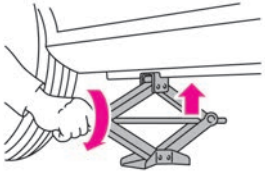
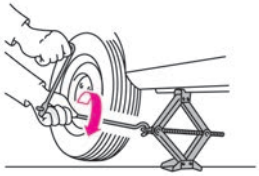
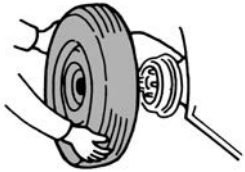
アドバイス

- ホイールナットレンチでナットを反時計回りに約1回転緩めるときは、タイヤを接地状態にして行います。

知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。
- スペアタイヤを置くときは、ラベル貼付側を上にしてください。

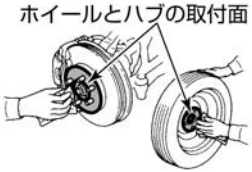
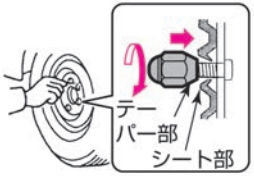
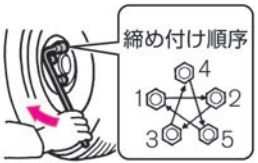
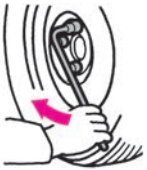
パンクしたときは

5	ホイールナットレンチで、すべてのナットを反時計回りに約1回転ゆるめます。	
6	ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。 ➔ ジャッキアップポイント (P.478)	
7	ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。	
8	ナットを外し、パンクしたタイヤを外して車体の下に置きます。	

⚠ 注意

- **応急用タイヤは、ラベル貼付側が外側になるように取り付ける。**
  逆に付けると他の部品と当たり、思わぬ故障につながるおそれがあります。
- **ナットを取り付けるときは、ナットやボルトにオイルやグリースなどを塗らない。**
  走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。
- **ジャッキを下げるときは、ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを両手でしっかり握って回す。**
  回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **タイヤを取り付けたあとは、必ず異常が無いか確認する。**
  しばらく走行したあと、ナットのゆるみや車体の振動などの異常がないか確認してください。

次ページに続く

9	ハブの取付面とホイール裏側の取付面を布でよくふき、スペアタイヤを取り付けます。	
10	ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるくらいまで、時計回りに回して締め付けます。	
11	ナットを、図の順序で2～3回に分けて締め付けます。	
12	ジャッキを下げます。 さらにナットを手順11の締め付け順序で十分に締め付けます。 **ホイールナット締め付けトルク** **108N·m（11kg·m）**	

⚠ 注意

- **取り付け面が汚れたまま取り付けない。**
  取り付け面が汚れたまま取り付けると、走行中にナットがゆるみタイヤが外れるおそれがあります。

アドバイス

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
- ホイールナットレンチを足で踏んで回したり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。ボルトが折れるおそれがあります。
- 応急用タイヤには、ホイールカバーは取り付けられません。
- パンクしたタイヤをスペアタイヤ格納部に入れると、クランプは取り付けられません。また、ラゲッジルームのボードが持ち上がった状態となります。

13	パンクしたタイヤや使用した工具、ジャッキなどをラゲッジルームに格納します。 ※応急用タイヤは、すぐに標準タイヤに戻してください。

アドバイス

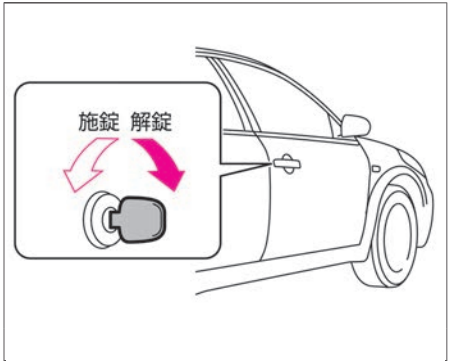
- 標準タイヤにホイールカバーを取り付けるときは、エアバルブの位置を合わせてください。

ドアが開かないときは

キーの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、
次の方法で施錠･解錠してください。

キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

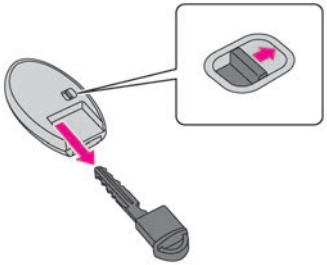
運転席ドアにある鍵穴にキー（メカニカルキー）を差し込んで車両前方にキー（メカニカルキー）を回すと解錠します。施錠するときは、車両後方にキー（メカニカルキー）を回します。



知識

インテリジェントキー付車

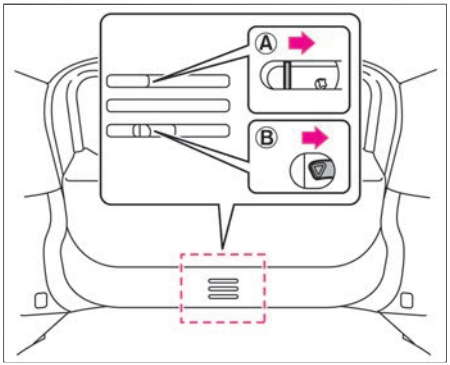
- メカニカルキーはインテリジェントキーに内蔵されています。



緊急時のバックドアの開けかた

バッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- バックドアの車室内側にあるカバーの穴に、お手持ちのマイナスドライバーなどを差し込みます。
- レバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。
  Ⓐ：リモコンオートバックドア付車
  Ⓑ：リモコンオートバックドア無車



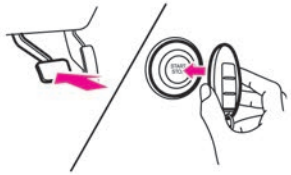
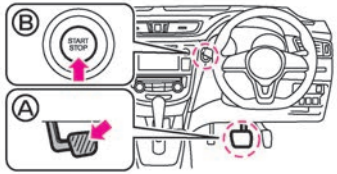
アドバイス

- バックドアオープナースイッチなどに故障を与えるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェントキー★で始動できないときは

キー（インテリジェントキー）の電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でエンジンを始動してください。

エンジンの始動のしかた

1	ブレーキペダルを踏み、キー（インテリジェントキー）の裏面をエンジンスイッチに接触させます。 （ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）	
2	ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチⒷを押します。	

アドバイス

- 左記の手順でエンジンを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。

知識

- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠･解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.484）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
  ➔キー（インテリジェントキー）★の電池交換 (P.569)

ハンドルがロックし、エンジンの始動ができないときは

ハンドルがロックされているときはキーが回せなかったり（リモートコントロールエントリーシステム付車）、エンジンスイッチを押しても電源ポジションが切り替わらない場合があります（インテリジェントキー付車）。次の手順でハンドルロック（ステアリングロック）を解除してください。

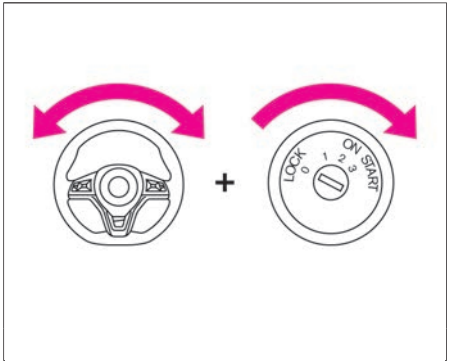
ハンドルロック（ステアリングロック）の解除のしかた

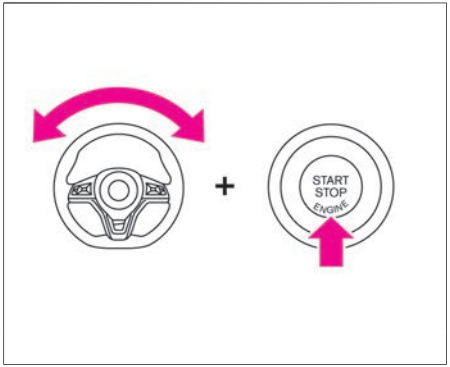
リモートコントロールエントリーシステム付車

- ハンドルを左右に回しながらキーを回します。ロックが解除できないときは、繰り返し行ってください。
  エンジンの始動のしかた（➔P.210）

インテリジェントキー付車

- ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押します。ロックが解除できないときは、繰り返し行ってください。
  エンジンの始動のしかた（➔P.205）



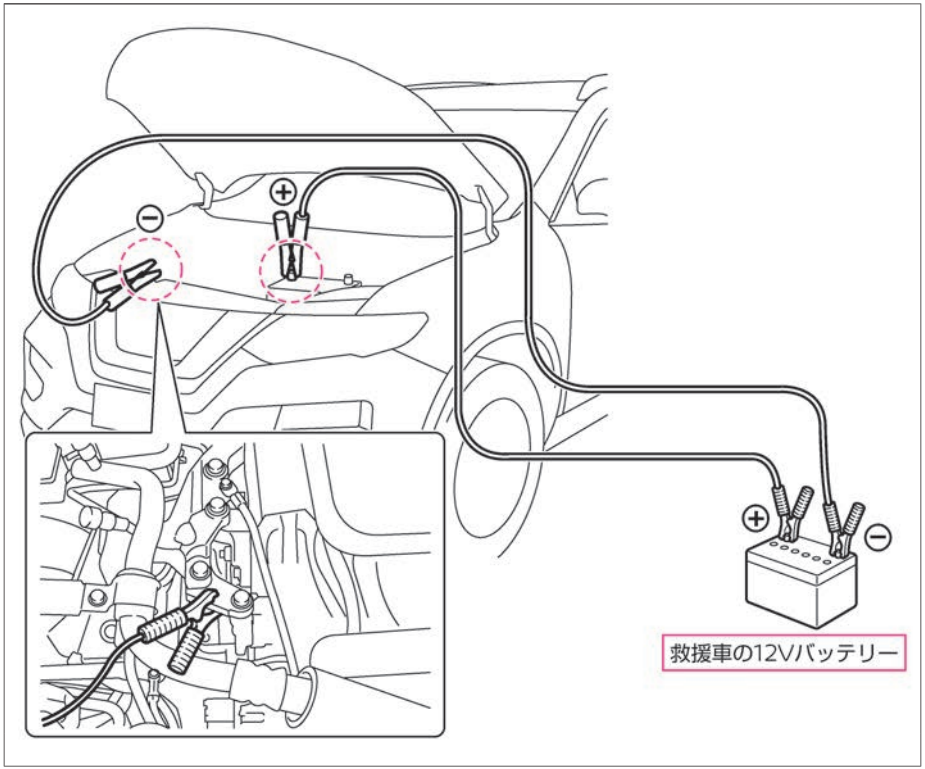


アドバイス

- ハンドルがロックされていても、数mm～数cmだけ動かすことができます。その範囲内でハンドルを左右にゆっくり回しながらキーを回す（リモートコントロールエントリーシステム付車）、またはエンジンスイッチを押して（インテリジェントキー付車）ください。
- ハンドルがロックされているときはハンドルが重く、力を入れないと回すことができないことがあります。
- インテリジェントキー付車は、バッテリーがあがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなったときは、救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。



⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
  火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、

バッテリーがあがったときは

⚠ 警告

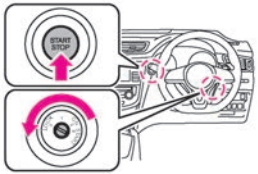
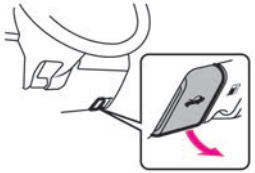
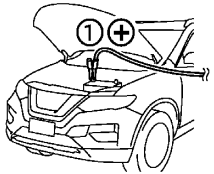
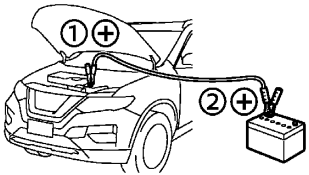
バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

バッテリーがあがったときは

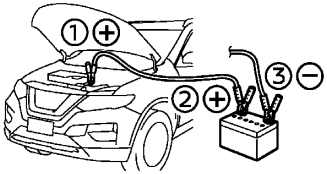
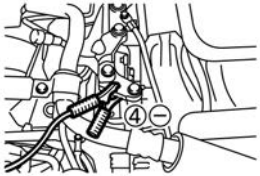
ジャンプスタートのしかた

1	自車と救援車のキースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。 インテリジェントキー付車（➔P.208） リモートコントロールエントリーシステム付車（➔P.213）	
2	運転席の右下にあるボンネットオープナーを引いて、ボンネットを開けます。 ➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.551)	
3	ブースターケーブル①を自車のバッテリーの⊕端子に接続します。	
4	手順3で接続したケーブルの反対側②を救援車のバッテリーの⊕端子に接続します。	

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**
  エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

バッテリーがあがったときは

5	もう1本のブースターケーブル③を救援車のバッテリーの⊖端子に接続します。	
6	手順5で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順3で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。	
7	救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。	
8	自車のエンジンを始動します。 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。 インテリジェントキー付車の始動のしかた（➔P.205） リモートコントロールエントリーシステム付車の始動のしかた（➔P.210）	

アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- インテリジェントキー付車は、エンジンが始動できない場合には、一旦電源ポジションをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。
- インテリジェントキー付車は、バッテリーがあがるとハンドルロック（ステアリングロック）の解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。
- エンジンをかけるときは、ヘッドランプやエアコンなどはOFFにしてください。
- エンジンが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。
警告灯が点灯･点滅したときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
	充電警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション） をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 ● **充電警告灯が点灯したまま走行しない。** バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	ABS警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電動パーキングブレーキ警告灯★	● 正常なときは、電源ポジションがONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● 電源ポジションがONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 アドバイス ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、ブザーが鳴ります。

次ページに続く

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
 電動パーキングブレーキ無車	ブレーキ警告灯 （赤色表示）	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 （パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – パーキングブレーキをかけているとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社にご連絡ください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液量が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ⚠ 警告 ● **パーキングブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯し続けるときは、点灯したまま走行しない。** ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。 アドバイス ● パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行（約7ｋｍ/ｈ以上）すると、ブザーが鳴ります。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
 電動パーキングブレーキ付車	ブレーキ警告灯 （赤色表示）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色表示）が点灯した場合は、車両を停止し、以下の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯（黄色表示）と同時にVDC警告灯も点灯します。）日産販売会社で点検を受けてください。 – ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。 – ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、日産販売会社で点検を受けてください。
	ブレーキシステム警告灯★ （黄色表示）	● 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯し続けたときは、電動パーキングブレーキ機能が故障しているおそれがあります。	● 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯した場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
	SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	⚠ 警告 ● **キースイッチ（電源ポジション）をONにしても点灯しないとき、または点灯や点滅を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	シートベルト警告灯	● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、運転者がシートベルトを着用していないと点灯します。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** ● 運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約90秒間ブザーが鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● **走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。
	VDC警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● エンジン回転中、VDC、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★、ヒルスタートアシストの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDC、アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）、ヒルスタートアシストの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.279） ➔ アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★（P.287） ➔ ヒルスタートアシスト（P.290）

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	インテリジェントエマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 – アドバンスドドライブアシストディスプレイで、インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているとき – VDCをOFFにしているとき – インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、またはインテリジェントFCW（前方衝突予測警報）のシステムに異常が発生しているとき – 周辺の電波源の影響を受けているとき – センサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき	● アドバンスドドライブアシストディスプレイでインテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCをOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔ VDCの停止のしかた (P.280) ● エンジン再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
		● 次の場合は点滅します。 – 踏み間違い衝突防止アシストが作動したとき ●次の場合はゆっくり点滅します。 – フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき – 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき – 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき – フロントガラスの結露や曇りなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき	● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● フロントガラスに結露や曇りなどがある場合は結露や曇りを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ➔ フロントガラスのくもりの取りかた(P.517) ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると作動を復帰します。 各システムについては、インテリジェントエマージェンシーブレーキ(➔P.332)、踏み間違い衝突防止アシスト(➔P.343)、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.383）をお読みください。

警告灯がついたときは

警告灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 **アドバイス** ● ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 **知識** ● すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	マスターウォーニング	● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔ 警告メッセージが表示されたときは (P.502)

表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。
点灯している理由は、次の説明をお読みください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	方向指示表示灯	● 非常点滅表示灯スイッチを押すと左右同時に点滅します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 ➔ 方向指示器の使いかた (P.246) ➔ 電球（バルブ）が切れたときは (P.531)
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.245)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ ライトスイッチの使いかた (P.238)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔ フォグランプの使いかた (P.250)
	ハイビームアシスト表示灯	● ハイビームアシストがONのときヘッドランプが点灯していると、ヘッドランプの上向き、下向きにかかわらず点灯します。	➔ ハイビームアシストについて (P.242)
OFF	VDC OFF表示灯	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● キースイッチ（電源ポジション）がONのとき、VDC OFFスイッチを押すと点灯します。	➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.279)

表示灯がついたときは

表示灯	名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
	セキュリティーインジケーター	● キースイッチ（電源ポジション）がON以外のときに点滅します。 ➔ イモビライザー（盗難防止装置） (P.51)	● キースイッチ（電源ポジション）をONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
HOLD	オートブレーキホールド表示灯（白色）★	● オートブレーキホールドが待機状態のとき白色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド★ (P.228)
HOLD	オートブレーキホールド表示灯（緑色）★	● オートブレーキホールドが作動しているとき緑色に点灯します。	➔ オートブレーキホールド★ (P.228)
4WD LOCK	駆動モード表示灯（LOCK）★	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン回転中は4WD MODEスイッチをLOCKに切り替えると駆動モード表示灯（AUTO）と合わせて点灯します。	➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
4WD	駆動モード表示灯（AUTO）★	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン回転中は4WD MODEスイッチをAUTOに切り替えると点灯します。	➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
	アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯★	● キースイッチ（電源ポジション）をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチを押し、作動が可能なとき点灯します。	● アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチを押したとき、表示灯が点滅している場合は作動しません。作動条件が満たされているか確認してください。 ➔ アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付）★ (P.287)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。
表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
BRAKE	エンジン始動操作表示	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押し、エンジンを始動することを表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。エンジンが始動します。 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – エンジンを始動したとき – 約15秒経過したとき – リモコン機能、またドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき – セレクトレバーをP以外に入れたとき
	インテリジェントキー非作動時エンジン始動表示	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、インテリジェントキーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、インテリジェントキーの裏面をエンジンスイッチに接触させてください。 ➔ インテリジェントキー★で始動できないときは (P.486)
キー電池残量が低下しています	インテリジェントキー電池切れ表示	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔ キー（インテリジェントキー）★の電池交換 (P.569) 知識 ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 – 表示から約30秒経過したとき – 電源ポジションをON以外にしたとき

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠警告 キーが 見つかりません	インテリジェントキー持ち出し警告	● 電源ポジションがONのとき、インテリジェントキーが車外に持ち出されると表示します。	● インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか確認してください。
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 知識 ● 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
⚠警告 キーシステム故障 取扱説明書を見てください	キーシステム警告	● ハンドルロック（ステアリングロック）やキーシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。エンジンが始動できないことやキースイッチ（電源ポジション）が切り替わらないことがあります。
⚠警告 Pレンジに 入れてください	P戻し忘れ警告	● セレクトレバーがP以外のとき、キースイッチ（電源ポジション）をONからOFFにすると表示します。	● セレクトレバーをPに入れてください。 ● キースイッチ（電源ポジション）をONにしたときも表示が消えます。
⚠警告 キーIDが 正しくありません	キーID警告	● 次のときに電源ポジションを切り替えようとすると表示します。 – インテリジェントキーを携帯していないとき – 携帯しているインテリジェントキーの電池が切れているとき – 登録されていないインテリジェントキーを携帯しているとき	● インテリジェントキーを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 ➔ キー（インテリジェントキー）★の電池交換 (P.569) ● 自車のインテリジェントキーであることを確認してください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠警告 パーキングブレーキを 解除してください	パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると（約7km/h以上）表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 ➔ パーキングブレーキ★ (P.222) アドバイス ● 走行するときは、必ずパーキングブレーキを解除してください。
	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔ 電動パーキングブレーキ★ (P.223) ● 運転するときは必ずシートベルトを着用してください。
⚠警告 停車を維持できません ブレーキを 踏んでください	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから電動パーキングブレーキスイッチを押し下げてください。 ➔ 電動パーキングブレーキ★ (P.223)
	オートブレーキホールド警告	● オートブレーキホールドが作動中に車両が動いたときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。 知識 ● オートブレーキホールドについては、（➔P.228）をお読みください。
	ハンドルロック（ステアリングロック）未解除表示	● ハンドルロック（ステアリングロック）を解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。ハンドルロック（ステアリングロック）を解除すると表示が消えます。

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
給油してください	燃料残量警告	● 燃料が少なくなると表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約11ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
警告 油圧低下 車両を安全なところに止めてください	油圧警告	● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示します。	● ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して日産販売会社にご連絡ください。 注意 ● **表示したまま走行しない。** エンジンが破損し発火するおそれがあります。
警告 シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
警告 4WD 4WDシステム異常 取扱説明書を見てください	4WD警告	● エンジン回転中、4WDシステムに異常があると表示します。	● 4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 表示したときは、駆動モード表示灯は消灯します。 ➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠ 警告 4WD 4WDシステム高油温 車両を安全なところに 止めてください	4WD高油温警告	● 走行中、前後輪の回転数の差が大きい状態が続き、駆動系部品の油温が異常に高くなると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、アイドリング状態にしてください。メッセージが表示されている間は駆動系部品の保護のため、2WD状態になっています。しばらくして表示が消えると、4WDに復帰し、通常どおり走行できます。 ● 表示したときは、駆動モード表示灯は消灯します。 ➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
⚠ 警告 4WD タイヤサイズ異常 取扱説明書を見てください	タイヤサイズ警告	● 前後輪のタイヤ径差が大きすぎると表示します。	● 装着タイヤの種類とサイズ、およびタイヤ空気圧などを点検してください。タイヤの種類やサイズが異なるときは同一銘柄、同一サイズのタイヤを装着してください。また、タイヤ空気圧が不足しているときは空気を入れてください。 それでも表示が消えないときは、4WD MODEスイッチを2WDに切り替え、高速走行をせず、最寄りの日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)
⚠ 警告 踏み間違い 衝突防止アシストが 作動しました。	踏み間違い衝突防止アシスト作動警告	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.343)

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
⚠警告 ヘッドランプ システム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください	システム故障警告	● プロパイロット、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ プロパイロット★ (P.294) ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332) ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.343) ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.365) ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375) ➔ RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.389) ➔ インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.383)
⚠警告 DAA システム故障	インテリジェント DA（ふらつき警報）システム異常警告	● インテリジェント DA（ふらつき警報）に異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ インテリジェント DA（ふらつき警報）★ (P.398)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
警告 ソナー故障 取扱説明書を見てください	ソナーシステム異常警告	● ソナーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
アイドリングストップ アイドリングストップ システム異常 取扱説明書を見てください	アイドリングストップシステム異常警告	● アイドリングストップシステムに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。 通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ アイドリングストップ (P.260)
休憩しませんか？	インテリジェント DA（ふらつき警報）表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示･非表示の設定ができます。 ➔ インテリジェント DA（ふらつき警報）★ (P.398)
警告 前方進入禁止有り	進入禁止標識検知表示	● 一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示･非表示の設定ができます。 ➔ 進入禁止標識検知 (P.401)

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
省電源のため自動的に 電源OFFします	自動電源OFF表示A	● エンジンが停止している状態で、電源ポジションをONにしたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えないと、省エネのため電源ポジションがOFFになります。
省電源のため自動的に 電源OFFしました	自動電源OFF表示B	● エンジンが停止している状態で、電源ポジションをONにしたまま時間が経過し、電源ポジションが自動でOFFになったときに表示します。	
ライト消灯して ください	ライト消し忘れ警告	● キースイッチ（電源ポジション）がOFFで運転席ドアを開けたとき、ライトスイッチがAUTO以外の位置にあると表示し、ブザーが鳴ります。	● ライトスイッチをAUTO位置にしてください。
メンテナンス オイル/オイルフィルター 交換してください	オイル/オイルフィルター交換表示	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ➔ メンテナンス (P.82)
メンテナンス タイヤ	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ➔ メンテナンス (P.82)
メンテナンス ユーザー	メンテナンス距離表示	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ➔ メンテナンス (P.82)
アラーム 休憩しませんか？	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示･非表示の設定ができます。 ➔ アラーム (P.83)

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – プロパイロット★ (P.294) – インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332) – インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.383) ●次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 – 長い橋を走行しているとき – 砂地や雪原を走行しているとき – 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、エンジンを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。
サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	サイドレーダーシステム停止警告	● 車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – BSW（後側方車両検知警報）★ (P.365) – RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.389)	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。

警告メッセージが表示されたときは

画面表示	名称	表示する条件	説明･対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 – プロパイロット（➔P.294） – インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.375） ●VDCをOFFにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
カメラが高温のため 現在使用できません	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 – ➔ プロパイロット★ (P.294) – ➔ インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.332) – ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.365) – ➔ LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）★ (P.375) – ➔ 進入禁止標識検知 (P.401)	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再びONにしてください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ プロパイロット（インテリジェント クルーズコントロール）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● VDC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき ● VDCをOFFにしたとき	● VDC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではインテリジェント クルーズコントロールは使用できません。 ● VDCがOFFの場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
⚠ 警告 停車を維持できません ブレーキを 踏んでください	● インテリジェント クルーズコントロールにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。

警告メッセージが表示されたときは

■ プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。　表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
ハンドル支援は 一時的に作動できません	● 両側の車線を検出しなくなったとき ● 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき	● 作動条件を再度満たすとハンドル支援機能は再開されます。
⚠警告	● ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がないとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、ハンドル支援機能が復帰します。
レーンを認識できません ハンドル支援を 解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再びハンドル支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを解除し、再度セットしてください。
悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速作動を解除して再度セットしてください。
カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● 状況が改善すると、プロパイロット（ハンドル支援）を使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、エンジンを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。

次ページに続く

警告メッセージが表示されたときは

警告表示	表示する条件	説明･対処方法
カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとプロパイロット（ハンドル支援）を使用することができます。

警報音（ブザー）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外で警報音（ブザー）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…（数秒間） （インテリジェントキー付車）	ドアハンドルのスイッチを押したとき	電源ポジションはOFFになっているか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		キーのドア施錠スイッチを押したとき	いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回） （インテリジェントキー付車）	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
	ピー（継続） （インテリジェントキー付車）	ドアを閉めたとき	セレクトレバーがP以外のままキーが車外に持ち出されていないか

次ページに続く

警報音（ブザー）が鳴ったときは

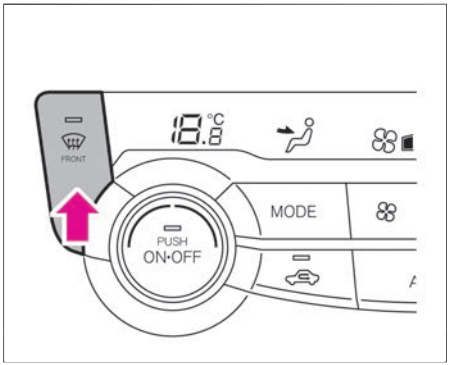
どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ピピピピッ、 ピピピピッ…（繰り返し） （インテリジェントキー付車）	電源ポジションをOFFにしたとき	運転席ドアが開いていないか
	ピピッピピッピピッ（3回） （インテリジェントキー付車）	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
		エンジンスイッチを押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ピピピピピピッ（約1秒間） （インテリジェントキー付車）	電源ポジションをOFFにしたとき	セレクトレバーをPに入れているか
	ピーピーピーピー…（繰り返し） （メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）	運転席ドアを開けたとき	ETCカードを抜き忘れていないか

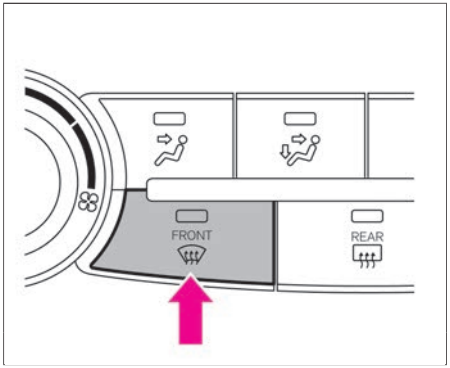
窓ガラスがくもったときは

キースイッチ（電源ポジション）がONのとき使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

- デフロスタースイッチを押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。
（スイッチの表示灯が点灯）
- オートエアコン付車は、もう一度スイッチを押すと止まります。
（スイッチの表示灯が消灯）
マニュアルエアコン付車は、吹き出し口を切り替えるか、エアコンを止めると止まります。
（スイッチの表示灯が消灯）





⚠ 注意

- **デフロスタースイッチをONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

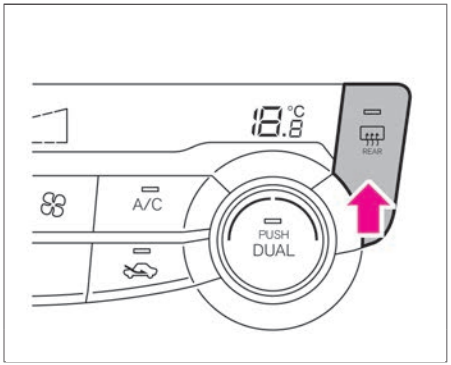
知識

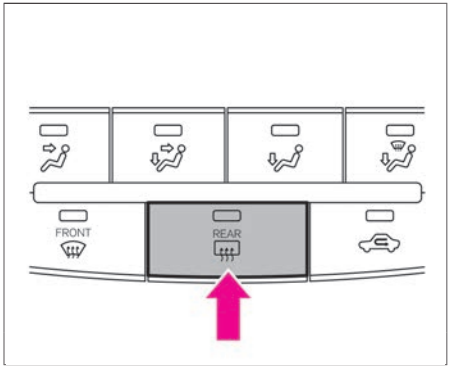
- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも作動します。

次ページに続く

リヤガラスのくもりの取りかた

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。
（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が消灯）





アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因になります。

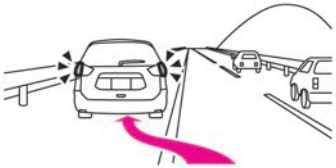
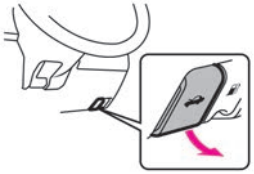
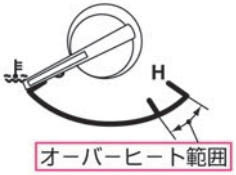
知識

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときは

水温計がオーバーヒート範囲（➔P.54）を示したときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

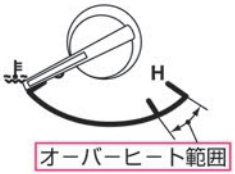
1	ただちに安全な場所に停車します。 ➔ 故障したときの対処のしかた (P.462)	
2	エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。 万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにエンジンを止め、自然冷却してください。	
3	水温計がオーバーヒートの範囲より下がったら、エンジンを止めしばらく待ちます。 エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。	
4	冷却水が不足しているときは、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。 ➔ エンジンルーム内の配置図 (P.550) 補充後は、しっかりキャップを閉めてください。	

⚠ 警告

- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**
  エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。エンジンを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- **エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。**
  蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

次ページに続く

オーバーヒートしたときは

5	走行中、再度水温計がオーバーヒートの範囲を示したときは、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。	
6	早めに日産販売会社で点検を受けてください。	

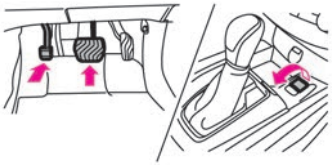
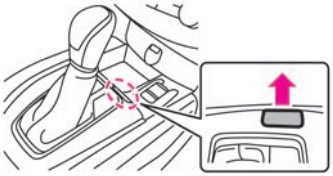
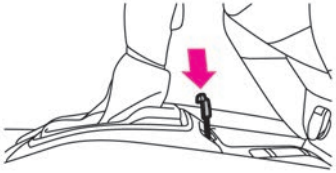
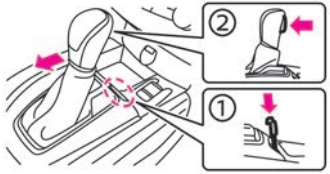
アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

セレクトレバーが動かないときは

万一バッテリーあがりなどでセレクトレバーをPから動かせないときは、次の方法で動かすことができます。

セレクトレバーの動かしかた

1	安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。	
2	セレクトレバー前側のふたを外します。	
3	キー（メカニカルキー）または、お手持ちのマイナスドライバーなどを、挿入口に対して垂直方向に差し込みます。	
4	キー（メカニカルキー）または、お手持ちのマイナスドライバーなどを差し込んだまま矢印の方向に押し①、ロックを解除してからセレクトレバーのボタン②を押して動かします。	

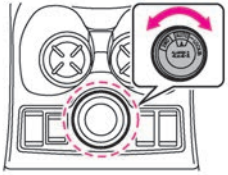
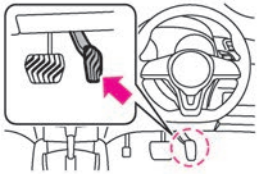
アドバイス

- セレクトレバーをPから動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

1	VDC OFF スイッチを押して、VDC をOFF にします。 ➔ VDCの停止のしかた (P.280)	
2	4WD車は、4WD MODEスイッチをAUTOモードまたはLOCKモードに切り替えます。 4WD MODEスイッチ（➔P.275）	
3	車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。 必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。	
4	ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。 周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。	

⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、パワーウインドーのスイッチを押し窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- パワーウインドースイッチを押しても窓ガラスが開かない場合、以下の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
    （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます。）

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤドアガラス、バックドアガラスを割って脱出してください。**
- **フロントドアガラスについては車種によって、合わせガラスを使用しております。ただしドアガラスについては、車両の仕様変更により、合わせガラスの位置が異なる場合があります。**
  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

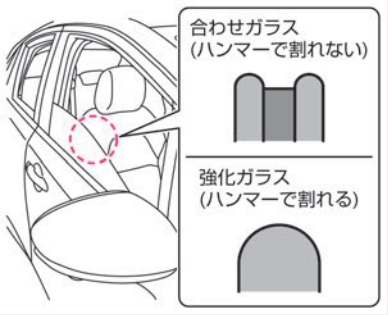
次ページに続く

水没したときは

⚠ 警告

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには下記のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

⚠ 警告

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない場合があります。

ヒューズが切れたときは

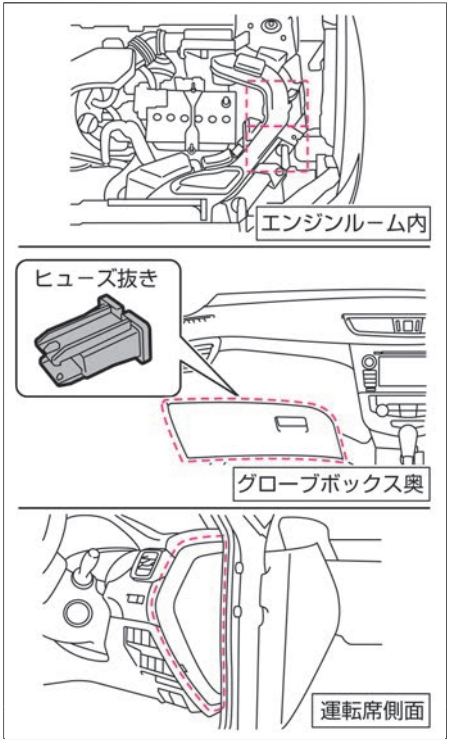
ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズボックスの位置

- ヒューズボックスは、次の位置にあります。
  - エンジンルーム内
  - グローブボックス奥
  - 運転席側面
- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

ヒューズ抜きについて

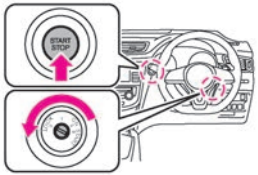
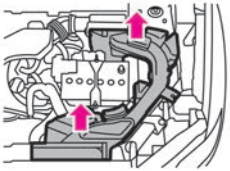
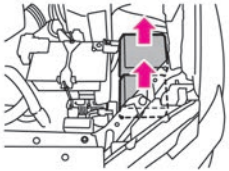
- グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。



次ページに続く

ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検・交換のしかた（エンジンルーム内）

1	キースイッチ（電源ポジション）をOFFにし、ボンネットを開けます。 ➔ ボンネットの開けかた、閉めかた (P.551)	
2	エアダクト（外気導入）を外します。 ➔ エアダクトの外しかた (P.553)	
3	ヒューズボックスのふたを外します。	
4	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズボックスの位置 (P.525)	

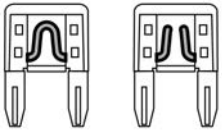
⚠ 警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

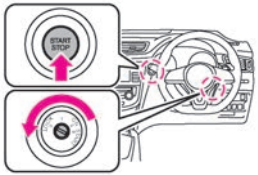
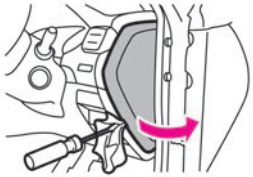
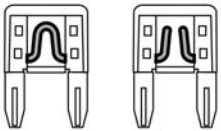
ヒューズが切れたときは

5	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

次ページに続く

ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検・交換のしかた（運転席側面）

1	キースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。	
2	お手持ちの工具（マイナスドライバーなど）をスリットに差し込み、ヒューズボックスカバーを外します。	
3	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズボックスの位置 (P.525)	
4	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

⚠ 警告

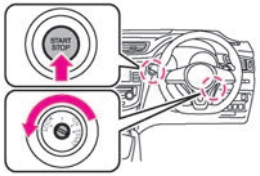
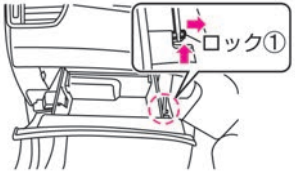
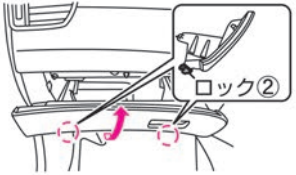
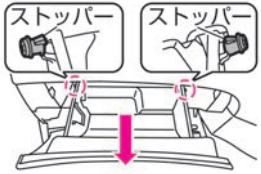
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- お手持ちの工具を布などで覆い、傷をつけないように注意してください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ヒューズが切れたときは

ヒューズの点検・交換のしかた（グローブボックス奥）

1	キースイッチ（電源ポジション）をOFFにします。	
2	グローブボックスを開け、ダンパーのロック①を外します。	
3	グローブボックスを5cm程度開けた状態で矢印の方向に引き上げ、下側のロック②を外します。	
4	左右のストッパーを片方ずつ外し、グローブボックスを取り外します。	

⚠ 警告

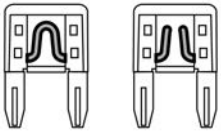
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- お手持ちの工具を布などで覆い、傷をつけないように注意してください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- グローブボックスを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

次ページに続く

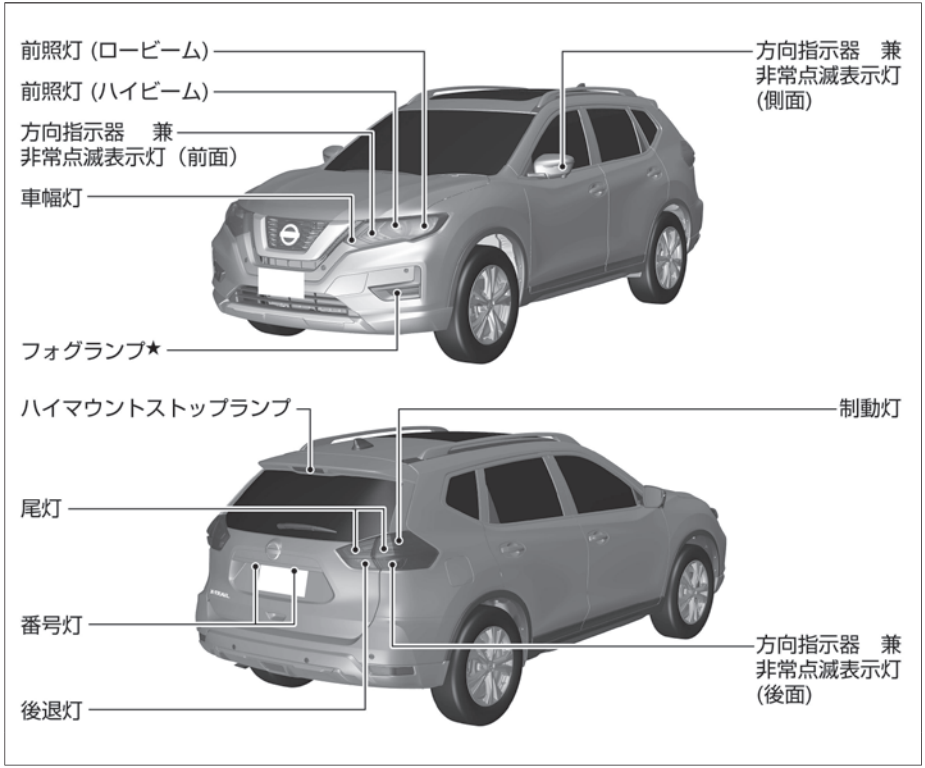
ヒューズが切れたときは

5	ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズボックスの位置 (P.525)	
6	ヒューズが切れていないか点検します。 切れているときは新しいヒューズと交換します。	ヒューズの参考画像 

電球（バルブ）が切れたときは

外装ランプが点灯しないときは、電球の球切れが考えられます。
電球の交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置



⚠ 注意

- **電球交換は、ボンネットや電球が冷えた状態で行う。**
  やけどをするおそれがあります。
- **ステーなどの端で指や腕をケガしないように注意する。**
- **電球は確実に取り付ける。**
  電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。
- 電球交換をするときは、軍手などを着用してください。

次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

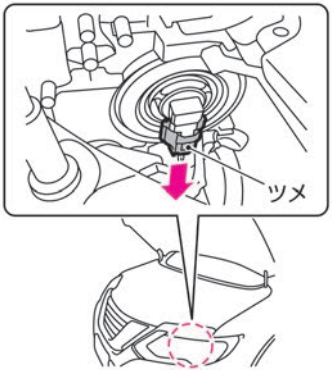
知識

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

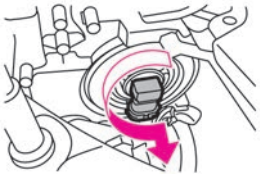
電球（バルブ）が切れたときは

ロービーム（ハロゲンヘッドランプ付車）

1 ボンネットを開け、コネクターを取り外します。
（ツメを押しながら外します。）
➔ ボンネットの開けかた、閉めかた (P.551)
➔ エアダクトの外しかた (P.553)



2 ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。



3 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

⚠ 注意

- **電球の取り扱いには注意する。**
  ロービームに使用している電球は、電球内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

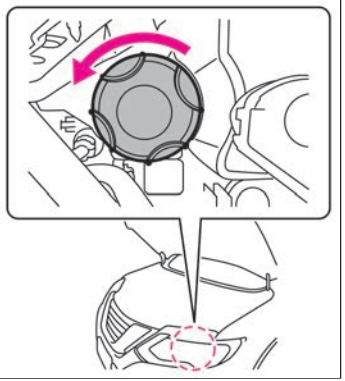
知識

- ロービームヘッドランプ：12V-55W

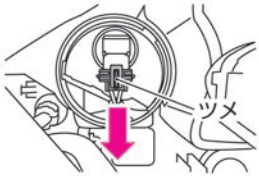
次ページに続く

ハイビーム（ハロゲンヘッドランプ付車）

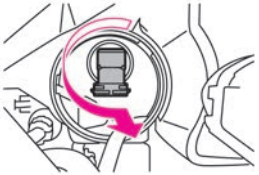
1 ボンネットを開け、カバーを取り外します。
➔ ボンネットの開けかた、閉めかた (P.551)
➔ エアダクトの外しかた (P.553)



2 コネクターを取り外します。
（ツメを押しながら外します。）



3 ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。



⚠ 注意

- **電球の取り扱いには注意する。**
  ハイビームに使用している電球は、電球内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- ハイビームヘッドランプ：12V-65W

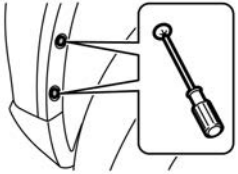
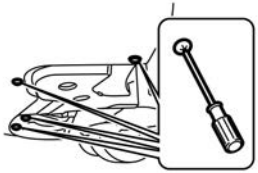
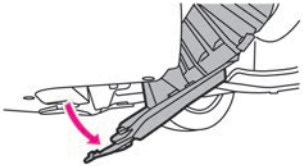
電球（バルブ）が切れたときは

4	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

次ページに続く

電球（バルブ）が切れたときは

フォグランプ★

1	ハンドルを切って、タイヤを傾けます。	
2	お手持ちの工具（トルクス）でネジを外します。	
3	下側のネジを外します。	
4	カバーをめくり、作業スペースを確保します。	

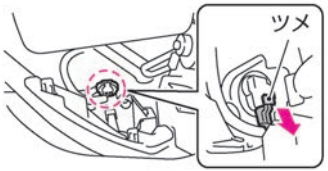
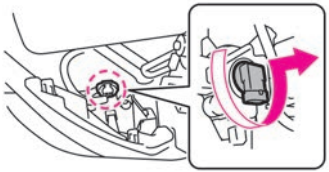
アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- フォグランプ：12V-35W

電球（バルブ）が切れたときは

5	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
6	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、電球を交換します。	
7	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

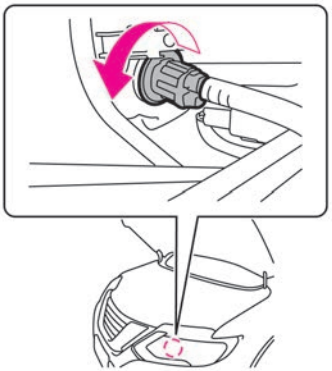
次ページに続く

電球（バルブ）が切れたときは

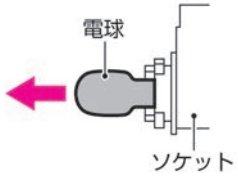
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）

1 ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

➔ ボンネットの開けかた、閉めかた (P.551)
➔ エアダクトの外しかた (P.553)



2 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



3 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

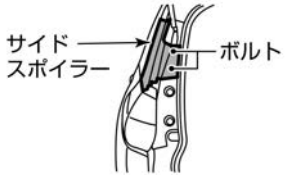
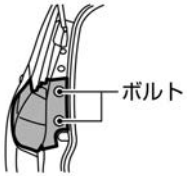
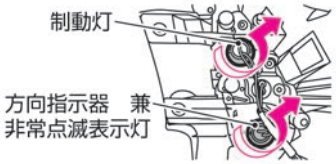
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）

電球（バルブ）が切れたときは

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）／制動灯

1	バックドアを開けます。	
2	お手持ちの工具でリヤコンビランプ上部にあるサイドスポイラーのボルトを外し、サイドスポイラー本体を取り外します。	
3	リヤコンビランプのボルトを外し、ランプをまっすぐ後方に引いて取り外します。	
4	交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	

アドバイス

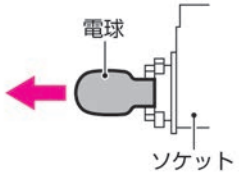
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 方向指示器　兼　非常点滅表示灯（後面）：12V-21W（アンバー）
- 制動灯：12V-21W

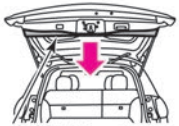
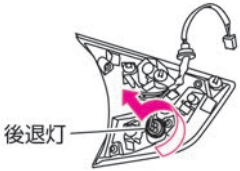
次ページに続く

電球（バルブ）が切れたときは

5	古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。	
6	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

電球（バルブ）が切れたときは

後退灯

1	バックドアを開けます。	
2	バックドアフィニッシャーインナーを取り外します。	
3	お手持ちの工具でナット3箇所とコネクターを取り外し、リヤコンビネーションランプを引いて取り外します。	
4	交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	

アドバイス

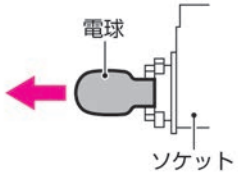
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 後退灯：12V-16W

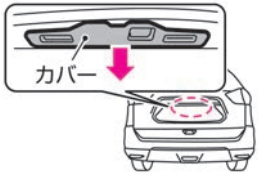
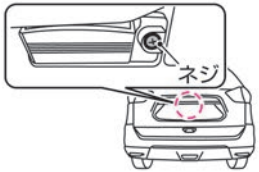
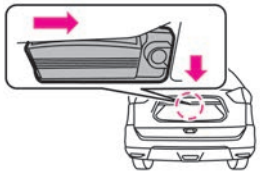
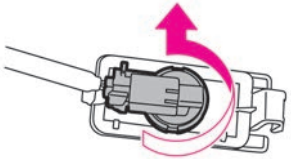
次ページに続く

電球（バルブ）が切れたときは

5	古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。	
6	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

電球（バルブ）が切れたときは

番号灯

1	カバーを取り外します。	
2	番号灯のネジを外します。	
3	番号灯を右側に押しながら下に抜き取って外します。	
4	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	

アドバイス

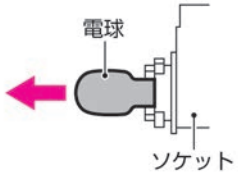
- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 番号灯：12V-5W

次ページに続く

電球（バルブ）が切れたときは

5	古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。	
6	取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。	

その他の電球

次の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- **ハイビーム／ロービーム（LEDヘッドランプ付車）**
- **車幅灯（LED）**
- **ハイマウントストップランプ（LED）**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（LED）**
- **尾灯（LED）**

MEMO

メンテナンスの前に

点検整備について P.548

工具・ジャッキ・スペアタイヤ

工具・ジャッキ・スペアタイヤについて P.549

点検と整備

エンジンルーム P.550
ウォッシャー液の補給 P.555
寒冷時の取り扱い P.556
タイヤ P.560
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.566
ワイパー P.567
キー（インテリジェントキー）★の電池交換 P.569
キー（リモートコントロールエントリーシステム）★の電池交換 P.570
バッテリー P.571
エンジンオイル P.573

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.574
内装のお手入れ P.585

サービスデータ

点検値／交換油脂類 P.589
車両仕様 P.592
イベントデータレコーダ（EDR） P.594

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
  新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

知識

- 点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

■ 検査標章（ステッカー）の貼り付け位置について

- フロントガラスにあるマルチセンシングフロントカメラを避け、車室内から貼り付けます。車外から見やすい位置に貼り付けてください。
  マルチセンシングフロントカメラ（➔P.581）

工具・ジャッキ・スペアタイヤについて

工具、ジャッキ、スペアタイヤの使用方法、交換方法

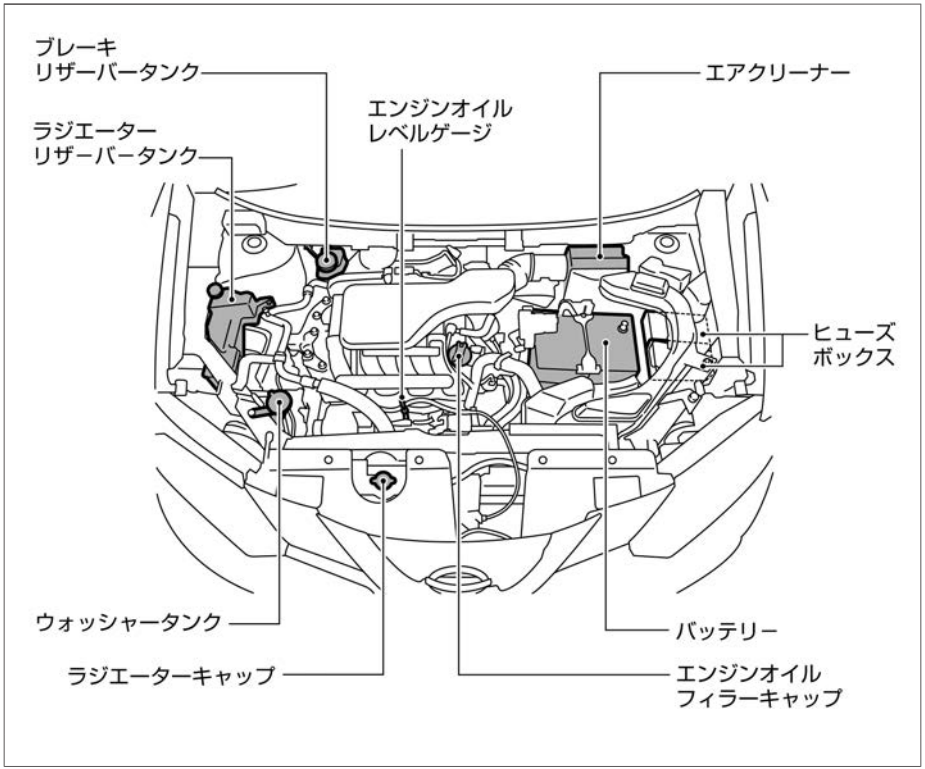
- 工具、ジャッキ、スペアタイヤの使用方法、交換方法については、以下をお読みください。

➔ 工具、ジャッキ、スペアタイヤの格納場所 (P.470)
➔ ジャッキの取り出しかた (P.475)
➔ ジャッキの使いかた (P.476)
➔ ジャッキアップポイント (P.478)
➔ スペアタイヤに交換する前に (P.469)
➔ スペアタイヤの取り出しかた（2列車） (P.471)
➔ スペアタイヤの取り出しかた（3列車） (P.473)
➔ タイヤ交換のしかた (P.480)

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**
  故障や車両火災につながるおそれがあります。

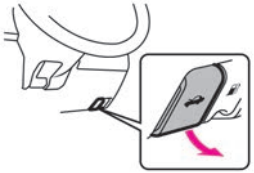
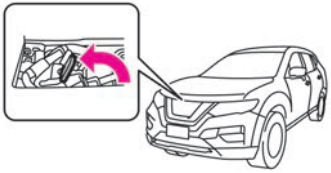
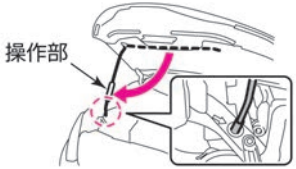
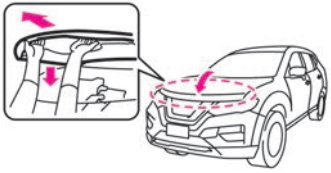
⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにする。**
  エンジン回転中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーが損傷します。
- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

1	運転席の右下にあるボンネットオープナーを引きます。 ボンネットが少し浮き上がります。	
2	ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。	
3	ボンネット裏側に付いているステーの操作部を持ってフックから外し、車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。	
4	閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。	

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**
  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

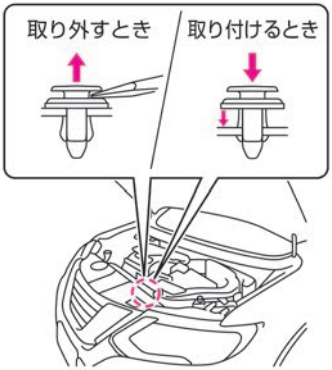
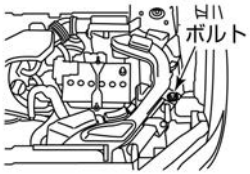
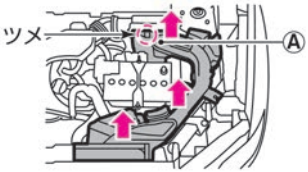
- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。**
  エンジン停止直後はステーが高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

次ページに続く

アドバイス

- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

エアダクトの外しかた

1	クリップを2つ外します。 切り欠きにお手持ちの工具（マイナスドライバーなど）を差し込み、ロックを解除してから引き抜きます。 ※取り付けるときは、ロックが解除された状態で取り付け、指でロックを押し込みます。	
2	ボルトを緩めます。	
3	ツメを車両前方に押しながらⒶ部を上方向に取り外してから、エアダクト全体を取り外します。	

次ページに続く

4	外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

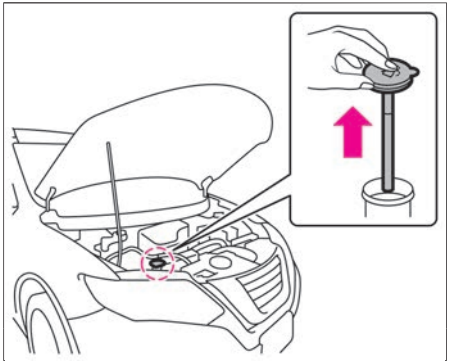
- エアダクトを取り外すときは、接続部のツメなどを破損しないように注意してください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。
- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。



⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。
  ウォッシャータンク容量（➔P.591）

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
50%	約-35°C

- 冷却水を補充･交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
  サービスデータ（冷却水）（➔P.591）

■ バッテリーの液量、比重の点検

- 別冊のメンテナンスノート「簡単な整備のしかた」をお読みください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

アドバイス

- 冷却水の点検･補充･交換は日産販売会社にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使用して、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足回り（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品が破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
  窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- アンテナに雪が積もっている場合は、雪を落としてください。受信感度が低下し、雑音が入るおそれがあります。
- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

次ページに続く

知識

- 外気温が低く、エンジン冷却水温が低いときは、暖房性能を確保するためエンジン回転数が上昇することがあります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて (P.566)
- 雪道を走行するときは、4WD車は4WD MODEスイッチをAUTOモードまたはLOCKモードに切り替えます。
  ➔ インテリジェント 4×4★ (P.274)

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗･損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。
詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

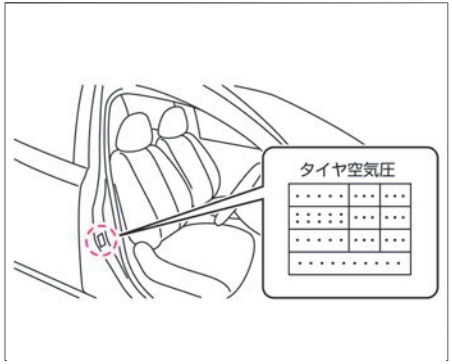
- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。

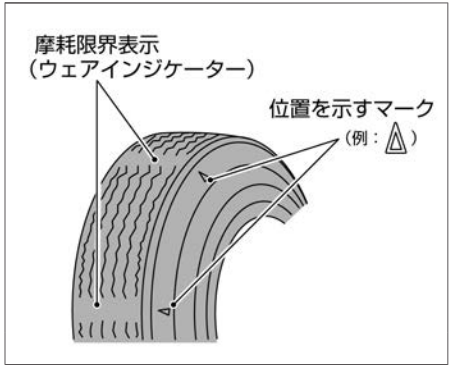
タイヤの亀裂･損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。





⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**
  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **使用開始後5～7年を目安に必ず点検する。**
  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

知識

- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検･調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、

知識

空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割程度上がることがあります。

次ページに続く

タイヤ･ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

⚠ 注意

- **指定サイズ以外のタイヤ･ロードホイールは絶対に取り付けない。**
  不適合なタイヤ･ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**
  特に4WD車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
  - 摩耗差の大きいタイヤの装着
  - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。

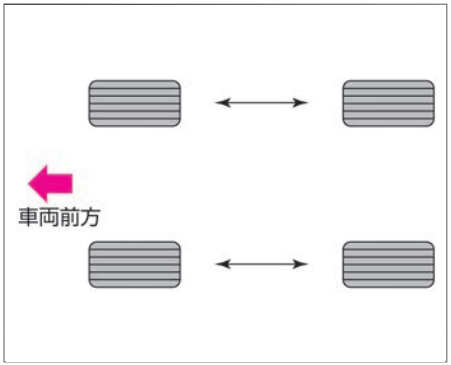
アドバイス

- バルブキャップを工具などを使用して締め付けると、バルブキャップが破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N·m（11kg·m）です。

次ページに続く

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏磨耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



⚠ 注意

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**
  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

知識

- 車載のジャッキを使用してタイヤの交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

スペアタイヤについて

- スペアタイヤは応急用タイヤを搭載しています。
- タイヤがパンクしたときに、応急用として一時的に使うタイヤです。
➔ パンクしたときは (P.469)

アドバイス

- スペアタイヤの空気圧はときどき点検してください。
長期間放置すると空気圧が減り、万一のとき使用できないことがあります。
また、年に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
スペアタイヤの指定空気圧は420kPa（4.2kgf/cm^2）です。
- 5～7年を目安に必ず点検してください。
タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。点検については日産販売会社にご相談ください。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**
  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、キースイッチ（電源ポジション）をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。4WD車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客様の車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

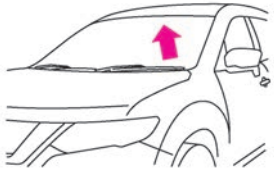
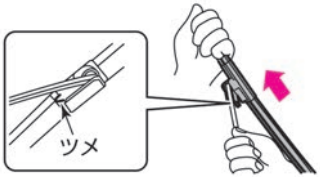
アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーやアルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、4WD車は機構に無理がかかり故障の原因となります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

1	ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。 ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能）（➔P.254）	
2	ワイパーブレードのツメを押したままにします。	
3	ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。	
4	新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。	

アドバイス

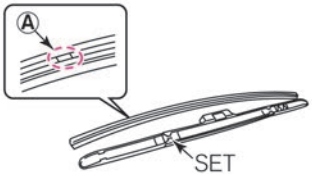
- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

知識

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。
- ワイパーゴムの交換のしかたは、別冊のメンテナンスノートの「簡単なお手入れのしかた」をお読みください。

次ページに続く

ワイパーゴムの交換のしかた

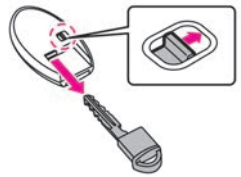
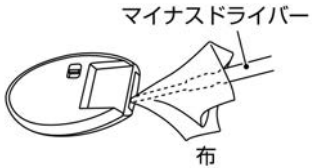
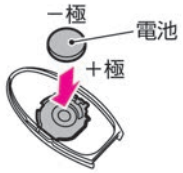
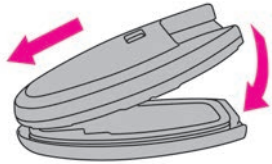
1	ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。	
2	ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。	
3	取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。 ● ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。 ● ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。	

知識

● ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

キー（インテリジェントキー）★の電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

1	キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。	
2	すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）	
3	消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。） 使用電池：CR2032	
4	カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。	

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

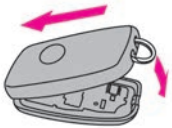
アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キー（リモートコントロールエントリーシステム）★の電池交換

リモコンのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

1	スリットにマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）	
2	消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。） 使用電池：CR2032	
3	カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。	

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

バッテリー

バッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

バッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- **バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

アドバイス

- 充放電能力と寿命性能を強化したアイドリングストップ付車専用バッテリーをご使用ください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。 詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

知識

- バッテリー交換したあとや長期間バッテリー端子を外したあとは、アイドリングストップのシステムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期はメンテナンスノートをお読みください。
また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（➔P.590）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**
  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**
  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 洗車やふき取りなどでワイパーアームを持ち上げるときは、ボンネットに当たらないようにしてください。
  ➔ ワイパーアームの起こしかた（ライズアップ機能の使いかた） (P.254)
- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルーム内に水をかけない。**
  エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。
- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、オートドアメインスイッチをOFFにする。（リモコンオートバックドア付車）**
  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
  ➔ リモコンオートバックドア★ (P.117)

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤

アドバイス

や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。

- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

次ページに続く

水洗いするときは

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

アドバイス

- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
  ➔ ドアミラー (P.170)
- 高圧洗浄機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 高圧洗車機を使用するときは、アンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラ★のレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイール★のお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）

次ページに続く

アドバイス

- 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
- 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

軽い補修のしかた

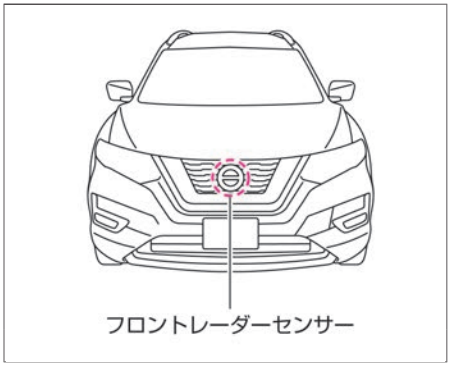
- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

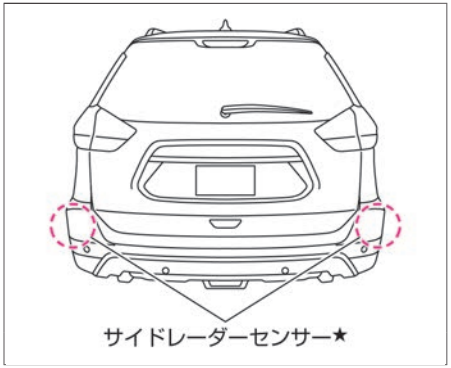
次ページに続く

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- レーダーセンサー周辺部はいつもきれいにしておいてください。
- 強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。レーダーセンサーを損傷するおそれがあります。
- レーダーセンサー周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- レーダーセンサー周辺にステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたり、塗料を塗ったりしないでください。誤作動の原因になります。
- バンパーを改造、脱着したり、塗装しないでください。バンパーを改造したり塗装する場合は、日産販売会社にご相談ください。

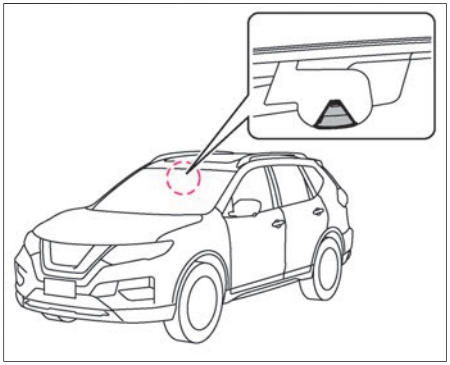


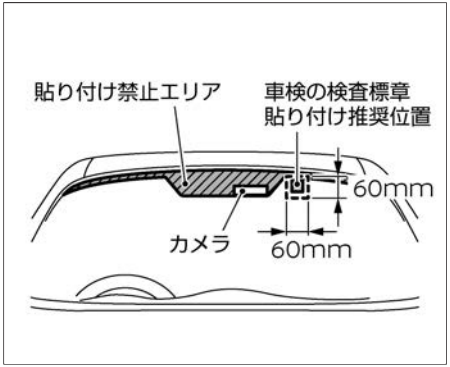


マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- フロントガラスに車検の検査標章（ステッカー）を貼り付ける場合は、貼り付け禁止エリアを避けて貼り付けてください。貼り付け推奨位置は、フロントガラスのプリント上側コーナー部を起点とした範囲です。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
  事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。



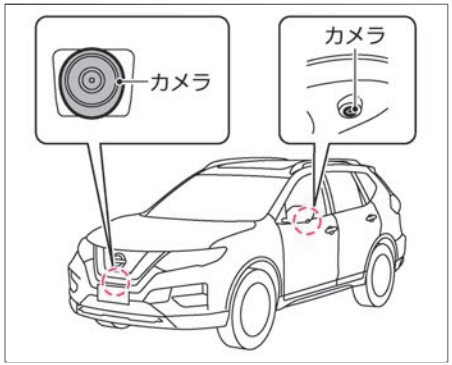


次ページに続く

フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ周辺部に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

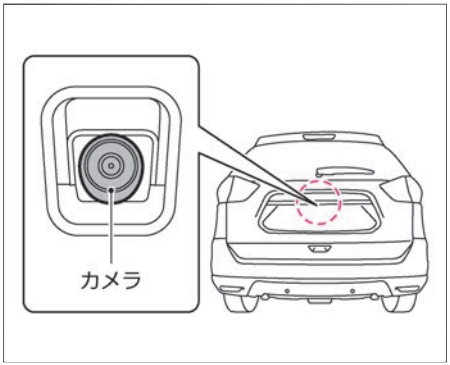
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。

リヤビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- 光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



警告

- **カメラ部に強い衝撃を与えない。**
  カメラ部は精密機械のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災または感電のおそれがあります。

アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、ぬれた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

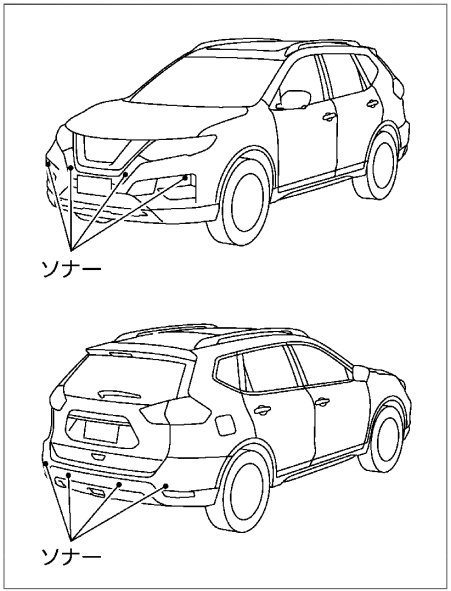
次ページに続く

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- 強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、ソナーから十分に離して使用してください。ソナーを損傷するおそれがあります。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- 消臭剤･芳香剤、化粧品･日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤･芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

次ページに続く

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
➔ フロアカーペット (P.451)

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

本革シート★のお手入れ

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
  硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

- バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
- ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

次ページに続く

インテリジェント ルームミラーのお手入れ★

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
  油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
  ➔ 外観リヤ (P.3)

点検値

項目		点検値
補機ベルト		調整不要※1
ブレーキペダル※2	遊び	3～11mm
	床板とのすき間 エンジン回転中、踏力約490N（50kg）で踏んだとき	85mm以上
パーキングブレーキ★ （足踏み式）	踏みしろ 約196N（20kg）で踏んだとき	6～7ノッチ

※1: 補機ベルトは、ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）を採用しており、ベルト張力調整は不要です。また、パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

※2: ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

次ページに続く

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
下記は、おおよその規定量です。実際の量は、わずかに異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

項目	適用		規定量（ ℓ ）	指定銘柄
エンジンオイル	MR20DD	オイルのみ交換	3.6	日産純正SNストロングセーブ·X 0W-20（API: SN、SAE: 0W-20）
		オイルとオイルフィルター交換	3.8	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SNをお使いください。ILSACマークのついたものをお勧めします。

APIマーク

ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-20をご使用ください。

項目	適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
CVTフルード	全車	7.9	日産純正CVTフルードNS-3※1
リヤディファレンシャルオイル	4WD	0.55	日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API: GL-5、SAE: 80W-90）
トランスファーオイル	4WD	0.31	
ブレーキフルード	全車	–	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）
冷却水	全車	8.6※2	日産純正スーパーロングライフクーラント ※3
ウォッシャー液	全車	5.0	日産純正ウインドウォッシャー液※4

※1： CVTフルードは、専用のCVTフルードNS-3を必ずご使用ください。それ以外のフルードを使用するとCVTが破損するおそれがあります。
※2： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.85ℓ）を含みます。
※3： 市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。
※4： 外気温に応じて濃度を調節してください。

電球（バルブ）の容量

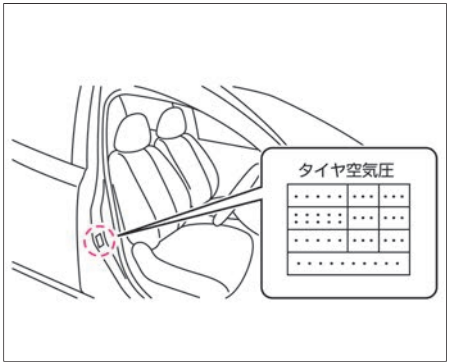
電球			容量（V-W）	電球のタイプ
前照灯（ヘッドランプ）	LEDヘッドランプ付車	ロービーム	–	LED※
		ハイビーム	–	LED※
	ハロゲンヘッドランプ付車	ロービーム	12-55	H11
		ハイビーム	12-65	H9
前部霧灯（フォグランプ）★			12-35	H8
車幅灯			–	LED※
番号灯			12-5	W5W
制動灯			12-21	W21W
尾灯			–	LED※
ハイマウントストップランプ			–	LED※
後退灯			12-16	W16W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯		前面、後面	12-21（アンバー）	WY21W
		側面	–	LED※

※：　電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット
225/65R17	17×7J	114.3mm（5穴）	45mm
225/60R18	18×7J		
T155/90D17※	17×4T		30mm

※：　応急用タイヤです。
タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録･蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

■ プロパイロットシステム★

プロパイロットシステムは下記車両データを記録･蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロットの作動に関する情報
- プロパイロットの故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

知識

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

4

4WD
- 4WD MODEスイッチ P.275
- 4WD（4輪駆動）車の扱いかた P.271
- 4WDシステム高油温（警告メッセージ） P.502
- インテリジェント 4×4 ..... P.274
- タイヤサイズ異常（警告メッセージ） P.502

A

A/C（エアコン） P.187
ABS
- ABS P.278
- ABS警告灯 P.61

AUX（外部入力端子） ..... N

B

BSW（後側方車両検知警報）
- BSW（後側方車両検知警報） P.365
- BSW（後側方車両検知警報）表示 P.70

C

CVTフルード（規定量） P.590

D

DAA（警告メッセージ） P.502

E

ECOモード
- ECOインジケーター P.59
- ECOモードスイッチ P.256
- エコドライブナビゲーター P.257
- エコマネージメント P.259
- 瞬間燃費計 P.258

EDR（イベントデータレコーダ） P.594
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト P.19
ETC ..... N
ETCユニット ..... N

F

FCW（前方衝突予測警報）
- FCW（前方衝突予測警報） P.383
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示 P.71

I

ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー P.49

L

LDW（車線逸脱警報）
- LDW（車線逸脱警報） P.375
- LDW（車線逸脱警報）表示 P.69

O

ODO（オドメーター） P.57

P

Pレンジに入れてください（警告メッセージ） P.502

R

RCTA（後退時車両検知警報） P.389

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

S

SRSエアバッグ P.24
SRSエアバッグ警告灯 P.61

T

TRIP（トリップメーター） P.57

U

USB ..... N

V

VDC P.279
VDC OFFスイッチ P.280
VDC OFF表示灯 P.63
VDC警告灯 P.61

W

W数（電球の容量） P.592

ア

アームレスト
セカンドシート（2列車） P.146
セカンドシート（3列車） P.153
アイドリングストップ P.260
アイドリングストップOFFスイッチ P.261
アイドリングストップシステム異常（警告メッセージ） P.502
アイドリングストップ表示 P.60
アウターミラー（ドアミラー） P.170
アシストグリップ P.454
アダプティブシフトコントロール P.219
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.65
警告メッセージ P.88
アドバンスドヒルディセントコントロール
アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチ P.289
アドバンスドヒルディセントコントロール表示灯 P.63
アドバンスドヒルディセントコントロール（速度設定機能付） P.287
アラーム
インテリジェントキー P.515
メーター（警告メッセージ） P.502
アルミホイールのお手入れ P.577
アンサーバック機能 P.95, P.101

イ

移動物 検知機能 P.415
移動物検知 P.77
イベントデータレコーダ（EDR） P.594
イモビライザー（盗難防止装置） P.51
イルミネーションコントロール P.91
インテリジェント 4×4 ..... P.274
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.398
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.383
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示 P.71
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.375
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示 P.69
インテリジェント アラウンドビューモニター
インテリジェント アラウンドビューモニター P.407
インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項 P.422
ソナー機能について P.417

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付） N
インテリジェント エマージェンシーブレーキ
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.332
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ／踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 P.61
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示 P.68
インテリジェント エンジンブレーキ P.285
インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付） P.239
インテリジェント クルーズコントロール
　インテリジェント クルーズコントロール P.301
　インテリジェント クルーズコントロールの解除のしかた P.308
　ステアリングスイッチ P.297
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） P.282
インテリジェント ライドコントロール（車体振動抑制システム） P.284
インテリジェント ルームミラー P.160
　インテリジェント ルームミラーのお手入れ P.588
インテリジェントキー
　機能･使いかた P.94
　電池交換のしかた P.569
　メカニカルキー P.484
インナーミラー（ルームミラー） P.159

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.246
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.175
ウェルカムライト P.95, P.101
ウォーニング（警告灯） P.61
ウォッシャー
　ウォッシャー液（規定量） P.590
　ウォッシャー液の補給 P.555
　ウォッシャースイッチ P.253
ウォッシャーの噴霧状態点検 M
運転するときに注意すること P.14
運転席スイッチ（バックドア） P.120
運転前の準備 P.12

エ

エアコン P.187, P.191
　エアコンを使うときの注意事項 P.196
　吹き出し口 P.195
エアダクト P.553
エアバッグシステム
　SRSエアバッグ P.24
　SRSエアバッグ（運転席･助手席） P.28
　SRSエアバッグ警告灯 P.61
　SRSカーテンエアバッグ P.35
　SRSサイドエアバッグ（運転席･助手席） P.33
ABS
　ABS P.278
　ABS警告灯 P.61
ECOモード
　ECOモードスイッチ P.256
　ECOインジケーター P.59
　エコドライブナビゲーター P.257
　エコマネージメント P.259
　瞬間燃費計 P.258
エンジン
　エンジンオイル P.573, P.590
　エンジンオイル量の点検･補給 M
　エンジンスイッチ P.205
　エンジンルーム P.550

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

エンジンルームから蒸気が出ているとき P.519
エンジンを始動できないときは P.486
キースイッチ P.210
フード（ボンネット） P.551
エンジン型式 ..... S
エンジンのかかり具合、異音点検 ..... M
エンジンの低速、加速の状態点検 ..... M

オ

オイル P.590
オーディオ ..... P.200, N
オートACC機能 P.215
オートエアコン P.187
オートクロージャー P.125
オートドアメインスイッチ P.119
オートバックドア P.117
オートブレーキホールド
オートブレーキホールド P.228
オートブレーキホールド表示灯 P.63
オートロック機能 P.95, P.101
オーバーヒート P.519
オーバーヘッドコンソール P.447
お子さまを乗せるときに注意すること P.37
オドメーター（積算距離計） P.57
音声操作表示 P.90

カ

外気温表示 P.60
外装のお手入れ P.574
カップホルダー P.442
カメラ
フロントビュー／サイドビューカメラ P.582
マルチセンシングフロントカメラ P.581
リヤビューカメラ P.583
カメラシステム P.407
ガラスアンテナ P.201
ガラスルーフ P.178
ガレージモード P.127
解除 P.129
設定 P.128
寒冷時の取り扱い P.556

キ

キー
インテリジェントキー P.94
キー（インテリジェントキー）の電池交換 P.569
キー（リモートコントロールエントリーシステム）の電池交換 P.570
キーが見つかりません（警告メッセージ） P.502
キーシステム故障（警告メッセージ） P.502
キー電池残量が低下しています（警告メッセージ） P.502
メカニカルキー P.484
リモートコントロールエントリーシステム P.100
キースイッチ P.210
キックダウン P.234
休憩しませんか？（警告メッセージ） P.502
給油してください（警告メッセージ） P.502

ク

空気圧（タイヤ） P.593
駆動モード表示灯 P.63
くもり取り
デフロスタースイッチ P.517
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.518
クラクション（ホーン） P.158
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ P.238
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
クルーズコントロール
クルーズコントロール P.266
クルーズコントロール表示 P.71

グローブボックス P.440

ケ

警告灯 P.61
警告灯がついたときは P.492
警告表示 P.502
警告メッセージ P.88, P.502
警報音（ブザー）が鳴ったときは P.515
けん引について P.464
検査標章 P.581

コ

工具 P.470
後席読書灯 P.438
航続可能距離 P.56
後退灯
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
コートハンガー P.454
故障警告灯（MIL） P.61
故障したときは P.462
コンソールボックス P.441

サ

サードシート P.154
サービスデータ（車両仕様） P.592
サイドアンダーミラー P.174
サイドビューカメラ ..... N
サイドミラー（ドアミラー） P.170
サイドレーダー P.580
サンシェード P.178
サンバイザー P.453
サンルーフ（パノラミックガラスルーフ） P.178

シ

シート
　お手入れ P.585, P.586
　サードシート P.154
　セカンドシート（2列車） P.141
　セカンドシート（3列車） P.147
　チャイルドシート P.40
　ヒーターシート P.448
　フロントシート（パワーシート） P.136
　フロントシート（マニュアルシート） P.138
シートベルト
　シートベルト警告灯 P.61
　シートベルトの着用のしかた P.21
　シートベルトの注意事項 P.22
システム故障（警告メッセージ） P.502
始動しない P.486
始動のしかた
　インテリジェントキー付車 P.205
　リモートコントロールエントリーシステム付車 P.210
自動ブレーキ P.332
シフトロック
　シフトロック解除ボタン P.521
　シフトロックシステム P.521
シャシー制御 P.282
　シャシー制御（警告メッセージ） P.502
車線逸脱警報(LDW) P.375
車線逸脱防止支援システム(インテリジェント LI) P.375
ジャッキ P.470
車幅灯
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
車両型式 ..... S
車両重量 ..... S
車両仕様 P.592
車両寸法 ..... S
ジャンプスタートのしかた P.490
充電警告灯 P.61
瞬間燃費計 P.258
乗車定員 ..... S

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

進入禁止標識検知 P.401
進入禁止標識検知機能
　進入禁止標識検知機能に関する注意事項 P.405

ス

水温計 P.55
スイッチの操作
　4WD MODEスイッチ P.275
　ECOモードスイッチ P.256
　VDC OFFスイッチ P.280
　アイドリングストップOFFスイッチ P.261
　アドバンスドヒルディセントコントロールスイッチ P.289
　イルミネーションコントロールスイッチ P.91
　運転席スイッチ（バックドア） P.120
　エアコンスイッチ P.187, P.191
　エンジンスイッチ P.205
　オートドアメインスイッチ P.119
　ガラスルーフスイッチ P.178
　キースイッチ P.210
　ステアリングスイッチ（オーディオ） P.202
　ステアリングスイッチ（クルーズコントロール） P.266
　ステアリングスイッチ（プロパイロット） P.297
　ステアリングスイッチ（メーター） P.66
　デフロスタースイッチ P.517
　ドアスイッチ P.103
　ドアミラースイッチ P.170
　ドアロックスイッチ P.107
　トリップ切り替えスイッチ P.57
　バックドアインナースイッチ P.123
　バックドアオープナースイッチ P.112, P.121
　パワーウインドースイッチ P.175
　ヒーターシートスイッチ P.448
　フォグランプスイッチ P.250
　ヘッドランプレベライザースイッチ P.248
　方向指示器スイッチ P.246
　ライトスイッチ P.238
　リヤウインドーデフォッガースイッチ P.518
　ワイパー･ウォッシャースイッチ P.251
水没したときは P.523
ステアリング（ハンドル） P.158
ステアリングスイッチ
　ステアリングスイッチ ..... N
　プロパイロット P.297
ステアリングロック（ハンドルロック）
　ハンドルがロックしエンジンの始動ができないときは P.487
スピードメーター（速度計） P.55
スペアタイヤ P.470
スモールランプ（車幅灯）
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592

セ

制動灯
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
セカンドシート
　2列車 P.141
　3列車 P.147
セキュリティーインジケーター P.63
セレクトレバー P.216
　アダプティブシフトコントロール P.219
　セレクトレバーが動かない P.521
　マニュアルモード P.219
センサー（ハンズフリーセンサー） P.122
洗車のしかた P.574
前照灯（ヘッドランプ）
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531

電球（バルブ）容量 P.592
センターコンソールボックス P.441
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ P.250
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
前方衝突予測警報（インテリジェントFCW） P.383
前方進入禁止有り（警告メッセージ） P.502

ソ

走行支援機能画面 P.67
走行のしかた P.234
速度計（スピードメーター） P.55
ソナー P.89
ソナー P.417, N
ソナー故障（警告メッセージ） P.502
ソナー設定 P.66, P.77
ソナーの取り扱い P.584

タ

タイヤ
アルミホイールのお手入れ P.577
スペアタイヤ P.469
タイヤ･ホイールを交換するとき P.562
タイヤ･ロードホイールサイズ P.593
タイヤチェーン P.566
タイヤの位置交換（ローテーション） P.564
タイヤの空気圧 P.560, P.593
タイヤの点検項目 P.560
パンク P.469
冬用タイヤ P.566
タコメーター（エンジン回転計） P.55
正しい運転姿勢について P.12

チ

チャイルドシート P.40
チャイルドシート適合表 P.41
チャイルドセーフティドアロック P.110
着信表示 P.90
駐車のしかた P.236
チルトアップ P.180

テ

定期点検 M
停止のしかた
インテリジェントキー付車 P.207
リモートコントロールエントリーシステム付車 P.212
停車のしかた P.236
低速加速抑制機能 P.344
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.344
定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール） P.326
テールランプ（尾灯）
スイッチ P.238
テールランプ表示灯 P.63
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
デフロスタースイッチ P.517
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
点検整備について P.548
電源ソケット P.449
点検値／交換油脂類 P.589
電池交換のしかた P.569, P.570
電動パーキングブレーキ
電動パーキングブレーキ P.223
電動パーキングブレーキ警告灯 P.61
電動パーキングブレーキ注意事項 P.226

ト

ドア P.103
ドアが開かないときは P.484
ドアミラー P.170
ドアミラーヒーター P.173
ドアロックスイッチ P.107

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

ドアを室内から開けられないとき
（チャイルドセーフティドアロック） P.110
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、
汚れ、損傷点検 M
盗難防止装置（イモビライザー） P.51
時計 P.59
トラブルがおきたときは
インテリジェントキーで始動できない
ときは P.486
オーバーヒートしたときは P.519
警告灯がついたときは P.492
警報音（ブザー）が鳴ったときは P.515
水没したときは P.523
セレクトレバーが動かないときは P.521
ドアが開かないときは P.484
バッテリーがあがったときは P.488
パンクしたときは P.469
ハンドルがロックしエンジンの始動が
できないときは P.487
表示灯がついたときは P.500
窓ガラスがくもったときは P.517
雪道やぬかるみにはまったときは P.522
トランスファーオイル（規定量） P.590
トリップメーター（区間距離計） P.57

ナ

内装のお手入れ P.585
ナビゲーションシステム N
ナンバー灯（番号灯）
スイッチ P.238
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592

ニ

日常点検 M

ネ

燃料
燃料計 P.56
燃料タンク容量 P.184
燃料補給口 P.184

ハ

パーキングブレーキ P.222
パーキングブレーキ（電動パーキング
ブレーキ） P.223
パーキングブレーキの踏みしろ点検 P.589, M
パーキングブレーキを解除してください
（警告メッセージ） P.502
排気量 S
ハイビームアシスト P.242
ハイビームアシスト表示灯 P.63
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯） P.6
挟み込み防止機構
パノラミックガラスルーフ P.182
パワーウインドー P.177
発炎筒 P.463
バックドア P.112
オートクロージャー P.125
ガレージモードの解除 P.129
ガレージモードの設定 P.128
正常に作動しないとき P.130
バックドアインナースイッチ P.123
バックドアオープナースイッチ P.121
ハンズフリーセンサー P.122
バックミラー（ルームミラー） P.159
発進 P.233
バッテリー P.571
バッテリー液量の点検･補給 M
バニティミラー P.453
パノラミックガラスルーフ P.178
ガラスルーフの開閉 P.181
サンシェード P.178
チルトアップ P.180

バルブ（電球）交換 P.531
バルブ（電球）容量 P.592
パワーウインドー P.175
パワーウインドーが正常に作動しないとき P.177
パワーシート P.136
パワーステアリング警告灯 P.61
パンクしたときは P.469
番号灯
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
ハンズフリーセンサー P.122
ハンドル P.158
ハンドルロック（ステアリングロック）
　ハンドルがロックしエンジンの始動ができないときは P.487

ヒ

ヒーターシート P.448
ヒーター付ドアミラー P.173
非常停止のしかた P.209
非常点滅表示灯
　スイッチ P.6
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
尾灯
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
ヒューズが切れたときは P.525
表示灯 P.63
表示灯がついたときは P.500
ヒルスタートアシスト P.290

フ

VDC P.279
　VDC OFFスイッチ P.280
　VDC OFF表示灯 P.63
　VDC警告灯 P.61
フード（ボンネット） P.551
フォグランプ
　スイッチ P.250
　電球（バルブ）が切れたときは P.531
　電球（バルブ）容量 P.592
　フォグランプ表示灯 P.63
踏み間違い衝突防止アシスト
　低速加速抑制機能 P.344
　低速衝突軽減ブレーキ機能 P.344
　踏み間違い衝突防止アシスト P.343
フューエルフィラーリッド（燃料補給口） P.184
フューエルメーター（燃料計） P.56
冬用タイヤ·タイヤチェーン P.566
ふらつき警報
　インテリジェント DA（ふらつき警報）（警告メッセージ） P.502
ブレーキ液量の点検·補給 M
ブレーキ警告灯 P.61
ブレーキシステム警告灯 P.61
ブレーキの効き点検 M
ブレーキペダルの踏みしろ P.589, M
フレキシブルラゲッジ P.455
フロアカーペット P.451
プロパイロット
　ステアリングスイッチ P.297
　プロパイロット P.294
　プロパイロット表示 P.70
フロントガラスのくもりの取りかた P.517
フロントシート P.136
フロントビューカメラ N
フロントレーダー P.580

ヘ

ヘッドランプ
　自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時） P.241
　スイッチ P.238
　電球（バルブ）が切れたときは P.531

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

電球（バルブ）容量 P.592
ヘッドランプ上向き表示灯 P.63
ヘッドランプシステム異常
（警告メッセージ） P.502
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、
損傷点検 M
ヘッドランプレベライザースイッチ P.248
ヘッドレスト
サードシート P.157
セカンドシート（2列車） P.145
セカンドシート（3列車） P.152
フロントシート P.140

ホ

ホイールサイズ P.593
方向指示器
スイッチ P.246
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
方向指示表示灯 P.63
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、
損傷点検 M
ホーンの鳴らしかた P.158
補機ベルト P.589
ポジションインジケーター P.58
ポジションランプ（車幅灯）
スイッチ P.238
電球（バルブ）が切れたときは P.531
電球（バルブ）容量 P.592
ボトルホルダー P.444
ボンネット（フード） P.551

マ

マスターウォーニング P.61
マップランプ P.434
窓ガラスがくもったときは P.517
マニュアルエアコン P.191
マニュアルシート P.138
マニュアルモード P.219
マルチセンシングフロントカメラ P.581

ミ

ミラー
インテリジェント ルームミラー P.160
サイドアンダーミラー P.174
ドアミラー P.170
バニティミラー P.453
ルームミラー P.159

メ

メーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.65
警告灯 P.61
警告メッセージ P.88, P.502
表示灯 P.63
メーターの明るさの調節のしかた P.91
メンテナンス設定 P.77
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.589

ユ

油圧低下（警告メッセージ） P.502
雪道の走行のしかた P.559
雪道やぬかるみにはまったときは P.522

ラ

ライトスイッチ P.238
ラゲッジアンダースペース P.459
ラゲッジフック P.460
ランプ（室内照明）
後席読書灯 P.438
マップランプ P.434
ラゲッジルームランプ P.436
ルームランプ P.436
ランプが点灯しないとき（バルブの交換） P.531

リ

リモートコントロールエントリーシステム
　機能･使いかた P.100
　電池交換のしかた P.570
リモコンオートバックドア P.117
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.518
リヤガラスのくもりの取りかた P.518
リヤデファレンシャルオイル（規定量） P.590
リヤビューカメラ ..... P.583, N
リヤワイパースイッチ P.252

ル

ルームミラー P.159
ルームランプ
　後席読書灯 P.438
　マップランプ P.434
　ラゲッジルームランプ P.436
　ルームランプ P.436

レ

冷却水
　寒冷地の取り扱い P.556
　規定量 P.590
　冷却水量の点検･補給 ..... M
レーダーセンサー P.580

ロ

ロードホイール
　お手入れ P.577
　交換 P.562
　サイズ P.593
路上で故障したときは P.462

ワ

ワイパー P.567
　ワイパーアームを起こす P.254
　ワイパーゴムの交換 P.568
ワイパー･ウォッシャースイッチ P.251
ワックスをかけるときは P.577

M 「メンテナンスノート」をお読みください。
S 「自動車検査証」をご参照ください。
N 「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

MEMO